



昭和会誌

2017



ロゴマークは昭和会の「S」と今給黎の「I」をモチーフに、「S」を表す円と繋がり、働く人・総合力・コミュニケーションを意味し、患者様に見立てた「I」という1人に対して、積極的に立ち向かう姿勢を表現したものです。また黄緑は優しさ・温かさ、水色は誠実さ・清潔感をイメージしたものです。

ごあいさつ



公益財団法人昭和会 今給黎総合病院
理事長 今給黎 尚典

今給黎総合病院は、昭和 13 年に診療所として開院され、創立 80 周年を迎えています。創立者の今給黎 満幸会長 17 年忌となります。

会長は 70 年前、高度病院を夢見て 60 年という本を上梓していますが、現在のはるか高見にある高度病院を目標に日々活動しています。

病院の基本は、病理診断、画像診断、そして麻酔科の充実という考えをベースに 27 診療科となっています。本年度は救急車 3,047 台、常勤医 92 名、研修医 5 名 年間手術 4,463 件 となります。

チーム医療として病理、放射線科の医師を含めた各科での合同カンファレンスを行い専門医、指導医の有すべく勉強会を開催しています。

県下約 980 病院からの患者紹介を頂きます。

また、急性期総合病院として、鹿児島大学、昭和大学、福岡大学より医師の派遣を頂いています。これまでご指導ご鞭撻を頂いた各大学の先生方、ご紹介を頂いた全県下の各病院の方々に御礼申し上げます。

現在の総合病院体制のために病院が当面する緊急の課題は病院の移転新築問題であります。

現在の狭隘化、老朽化を解消し、特に耐震化を強化して、安全性の確保と医療の効率化のために新病院の建築が必要となります。そのため鹿児島市交通局跡地を購入し 30 年度末に新病院建築を開始予定しています。

今後、皆様の御指導ご協力を重ねてお願い申し上げます。

目次

■ 基本理念・基本方針・運営方針	02
■ I. 病院概要	03
■ II. 病院統計	15
■ III. 部門報告	
各診療科報告	27
各部署報告	75
■ IV. 会議・委員会活動報告	131
■ V. 研究実績	177
■ VI. 昭和会クリニックの現況	193
■ 巻末資料 公益財団法人昭和会事業実施概要書	

昭和会の理念

「協力・貢献・向上」

1. 全職員の協力体制
2. 地域社会への貢献
3. 自己研鑽と向上心

昭和会の基本方針

1. 質の高い医療の提供を目指し、全職員一致協力して努力します。
2. 生命の尊さを認識し、地域社会に貢献します。
3. 常に向上心を持って、自己研鑽に励みます。

昭和会の運営方針

1. 地域のセンター病院として、最新・最高の医療を提供すべく、高度の医療機器を充実し、全職員の医学研修を推進する。そのために、各分野関連の大学各教室・各研究機関との交流に努め、また夫々の学会参加を助成する。
2. 高度医療機器の公開利用に努め、最新で効率的且つ倫理的医療の充実を図る。
3. 救急医療24時間受け入れ体制の充実。
当病院全職員(全科オンコール体制)の協力のもとに24時間体制で全県下・離島の救急患者を積極的に受け入れ救急医療の使命を達成する。
4. 21世紀の少子高齢化社会の医療に対応すべく、地域の保健・医療・福祉施設と密な連携に努め、有効的な医療の提供を図る。
5. 地域に開かれた病院を目指し、健康増進活動に積極的に取り組み、活動の充実・発展を図る。

地域がん診療連携拠点病院

地域医療支援病院

県へき地医療拠点病院（遠隔医療支援） 洋上救急業務支援協力医療機関

県指定地域周産期母子医療センター 基幹型医師臨床研修病院

●●● 病院概要

I

- 病院概要
- 昭和会の沿革
- 昭和会の組織図
- 今給黎総合病院の現況
- 病院施設概要
- 医師研修施設指定の現況
- 諸制度の指定状況
- 会議・委員会組織図
- 医療設備概要

病院概要

(平成30年3月現在)

名称	公益財団法人昭和会 今給黎総合病院(いまきいれそうごうびょういん) Imakiire General Hospital
創設者	今給黎 満幸 (いまきいれ みつゆき)
開設者	代表理事 今給黎 尚典 (いまきいれ たかのり)
管理者	院長 昇 卓夫 (のぼり たくお)
所在地	〒892-8502 鹿児島市下竜尾町4番16号(かごしまししもたつおちょう)
代表電話	099-226-2211
代表FAX	099-222-7906
URL	http://imakiire.jp
病院開設日	1938年(昭和13年)7月 1964年(昭和39年)5月「医療法人昭和会」設立 1965年(昭和40年)7月「財団法人昭和会」設立 2009年(平成21年)12月「公益財団法人昭和会」法人名変更
病床数	450床 (うちICU8床 GCU10床、NICU9床 回復期リハビリテーション病棟33床)
看護基準	7:1
認定施設	厚生労働省地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 県へき地医療拠点病院(遠隔医療支援) 県指定地域周産期母子医療センター 基幹型医師臨床研修病院 洋上救急業務支援協力医療機関 厚生労働省 医薬品・医療器具安全性情報協力施設 厚生労働省 DPC 対象病院 県脳卒中情報システム推進事業の情報提供協力医療機関 県町村会指定離島緊急医療対策支援協力医療機関 県エイズ治療拠点病院 県地域周産期医療支援病院 県重症難病医療協力病院(短期入所施設) 痛風治療協力医療機関 鹿児島市高規格救急車指示病院 県救急・災害医療情報システム参加登録病院 県消防・防災ヘリコプター急患搬送(医師搭乗)システム輪番病院 県指定 かごしま子育て応援企業 産科医療補償制度加入医療機関 県女性医師復職研修事業指定病院 各種健診(検診)・予防接種等受託医療機関
関連施設	昭和会クリニック

(平成30年3月現在)

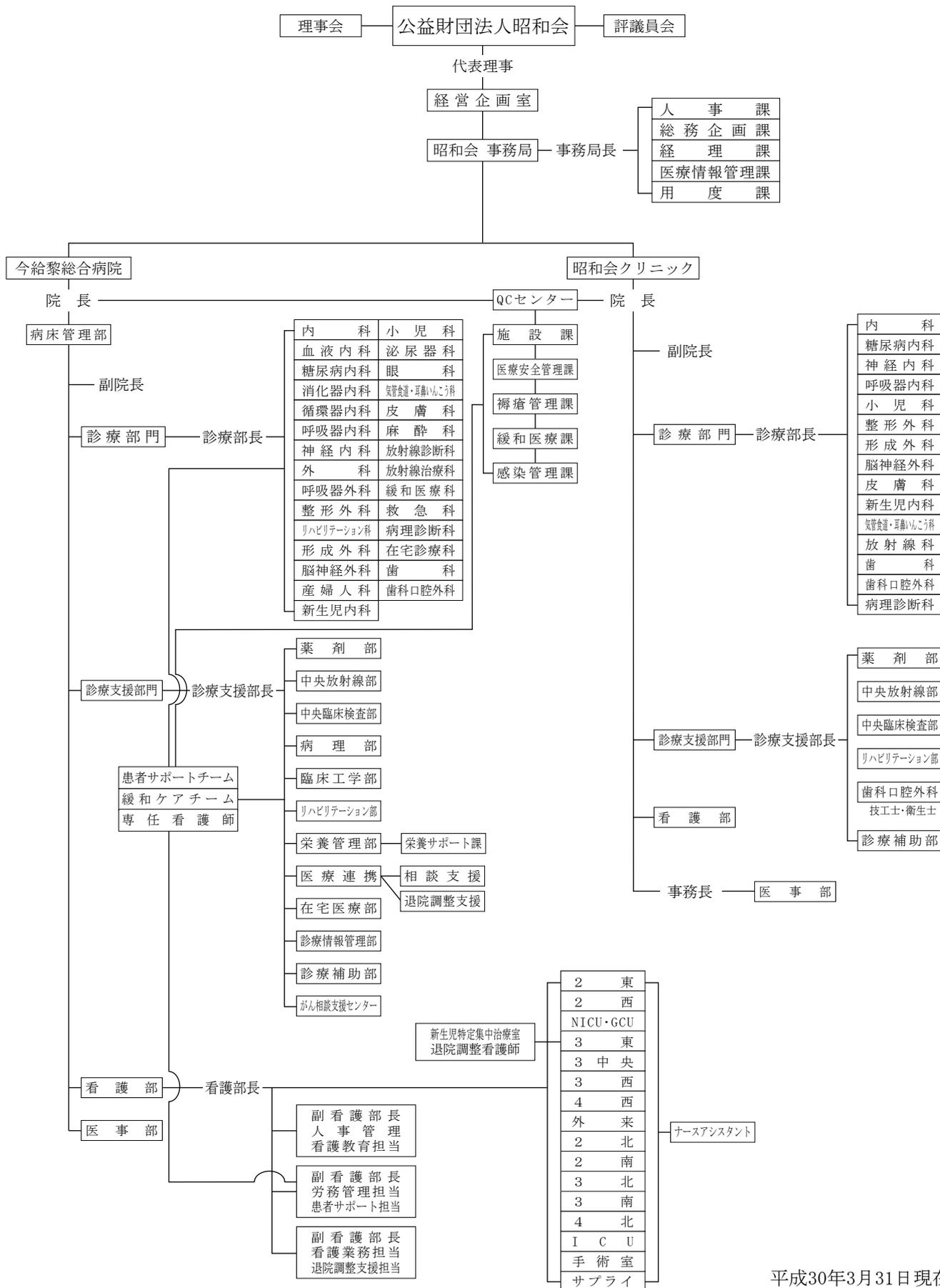
職員数	1,012名（非常勤45名含）	
有資格者	常 勤	非常勤
	92名	20名
医師	25名	
薬剤師	22名	
診療放射線技師	29名	
臨床検査技士	8名	
臨床工学技士	44名	
理学療法士	17名	
作業療法士	9名	
言語聴覚士	11名	
管理栄養士	4名	
視能訓練士	4名	
社会福祉士	451名	4名
看護師	24名	
助産師	5名	
保健師	7名	
准看護師	11名	
診療情報管理士		

標榜科目	27診療科 内科、糖尿病内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科(肝臓・消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門)、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、新生児内科、眼科、気管食道・耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科
診療受付時間	平日 午前：午前8時00分～午前11時30分 午後：午後1時30分～午後5時00分 土曜（午前のみ） 午前8時00分～午前11時30分
休診日	土曜午後・日曜・祝日・年末年始（12月31日～1月3日）

昭和会の沿革

- 昭和13年 7月 現在地に今給黎医院開設
- 昭和22年 11月 今給黎病院開設(24床)
- 昭和30年 2月 鉄筋コンクリート2階建 病棟増築(41床)
- 昭和32年 6月 65床認可
- 昭和35年 2月 看護婦寮新築
- 昭和35年 5月 80床認可
- 昭和32年 7月 医師住宅新築
- 昭和39年 5月 「医療法人昭和会」設立(120床)
- 昭和39年 7月 救急告示病院指定
- 昭和40年 7月 民法第34条による「財団法人昭和会」設立
- 昭和42年 1月 160床認可
- 昭和44年 4月 鉄筋コンクリート3階建病院新築
- 昭和44年 8月 鉄筋5階建第1看護婦寮・4階建医師住宅2棟新築
- 昭和45年 10月 220床認可
- 昭和47年 10月 鉄筋5階建職員住宅(20世帯)新築
- 昭和50年 12月 鉄筋コンクリート2階建第3女子寮・院内託児所新築
- 昭和53年 10月 鉄筋コンクリート7階建本館新築(300床)
- 昭和54年 3月 325床認可
- 昭和54年 8月 鉄筋コンクリート4階建第2女子寮新築
- 昭和58年 2月 医師住宅4階建新築
- 昭和62年 1月 第4看護婦寮3階建新築
- 昭和62年 9月 別館4階建新築
本館・別館の連絡路として地下道(巾3m)完成
- 昭和63年 1月 450床認可、本館全面改装、総合医療各診療科整備
- 昭和63年 8月 第5看護婦寮4階建新築、男子独身寮2階建新築
- 平成元年 1月 医師研修等3階建新築
- 平成元年 12月 今給黎総合病院認可
- 平成9年 7月 周産母子センター開設
- 平成9年 9月 外来患者専用自動管理式駐車場完成
- 平成10年 3月 医局棟3階建新築
- 平成13年 3月 (財)日本医療機能評価機構「認定証」(一般病院種別B)取得
- 平成14年 1月 民間ビル(3階建)、研修棟として購入
- 平成15年 10月 「基幹型臨床研修病院」指定
- 平成17年 5月 昭和会クリニック開院(診療録の電子化開始)
- 平成17年 12月 今給黎総合病院(外来診療録の電子化開始)
- 平成18年 8月 歯科・歯科口腔外科開設
- 平成19年 10月 リニアック棟造築(稼働開始)
- 平成21年 3月 鹿児島県「地域周産期母子医療センター」指定
- 平成21年 12月 「公益財団法人昭和会」へ法人名称変更
- 平成22年 2月 今給黎総合病院(入院診療録の電子化開始)
- 平成24年 4月 厚労省「地域がん診療連携拠点病院」指定
- 平成25年 3月 地域医療支援病院認定

昭和会の組織図



平成30年3月31日現在

今給黎総合病院の現況

(1) 標榜科目(27 診療科)

内科, 糖尿病内科, 血液内科, 神経内科, 呼吸器内科, 消化器内科, 循環器内科, 小児科, 外科 (肝臓・消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門), 整形外科, 形成外科, 脳神経外科, 呼吸器外科, 皮膚科, 泌尿器科, 産婦人科, 新生児内科, 眼科, 気管食道・耳鼻いんこう科, リハビリテーション科, 放射線診断科, 放射線治療科, 歯科, 歯科口腔外科, 麻酔科, 救急科, 病理診断科

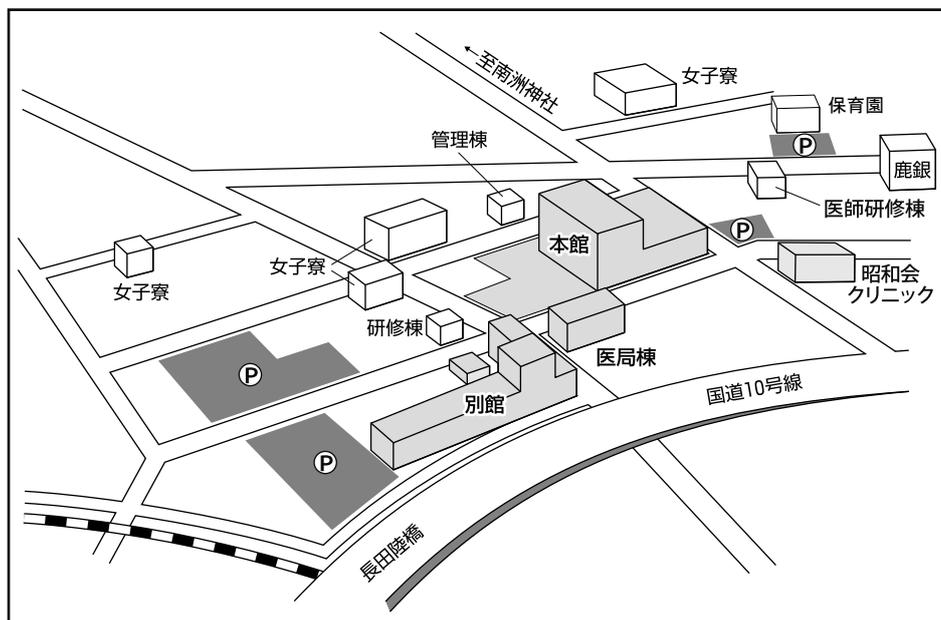
(2) 許可病床数 一般病床 450床

病棟	病室数	病床数	主な診療科	
本館	2 F 西	12	19	産婦人科
	NICU-GCU	2	19	新生児内科
	2 F 東	18	61	外科, 消内, 形成
	3 F 西	19	43	呼内, 呼外, 緩和
	3 F 中	7	37	循内, 糖内, 整形
	3 F 東	12	37	脳外, 泌尿
	4 F 西	10	31	眼科, 形成
別館	I C U	1	8	外科, 麻酔科
	2 F 北	13	45	放射線科, 総内
	2 F 南	10	43	神経内科, 皮膚科
	3 F 北	11	33	整形外科
	3 F 南	10	50	整形外科
4 F 北	9	24	小児科, 歯科口腔外科 気管食道・耳鼻いんこう科	
合計	134	450		

(3) 施設の概要

		敷地	建物
病院	本館	3,407.3 m ²	10,542.6 m ²
	別館	3,656.2	5,531.5
	医局棟	290.1	546.8
福利厚生施設	研修棟	156.6	280.1
	医師研修等	224.2	523.9
	第1女子寮	616.8	1,329.7
	第2 "	987.8	2,243.0
	第3 "	1,000.2	521.2
	第4 "	286.6	535.8
	第5 "	200.6	409.9
保育園	(第3寮と同敷地)	157.1	
管理棟	179.0	411.8	
患者専用駐車場	2,632.5	—	
医療関連施設建設予定地	81,642.0	—	
患者用駐車場	170台収容可		

(4) 病院及び関連施設配置図



H30.3.31 現在

病院施設概要

本館

7 F	・会議室・和温療法室・患者図書室 ・高気圧酸素治療室・臨床工学部・理事長室
6 F	・中央手術室6室(手術台8台)
5 F	・ICU室(8床)・サブライセンター
4 F	・病理部・看護部長室・言語聴覚室・当直室 ・病棟(眼、形)・ナースステーション(4F 西) ・病床管理部
3 F	・病棟(呼内、呼外、緩医、循内、糖内、整、脳外、泌) ・ナースステーション(3F 西、3F 中、3F 東)
2 F	・病棟(産婦、周産母子、外、消内、形) ・ナースステーション(2F 西、2F 東、NICU・GCU) ・薬剤部薬剤管理室
1 F	・総合案内・患者サポート相談室 ・総合受付・薬剤部・医事部 ・救急室・総合処置室・外来化学療法室 ・各科外来診療室・薬品情報室 ・内視鏡室(消化器)・がん相談支援センター ・外来検査室・心電図室・栄養相談室 ・新入院患者様待合室・家族控室(ICU・手術)
B 1	・放射線科外来診察室・中央放射線部 ・画像診断室・診療情報管理部 ・中央監視センター・自家発電装置室 ・高圧変電室・空調機械室・売店
B 2	・前立腺シード室

医局棟

3 F	カンファレンスルーム・医局
2 F	医局・院長室
1 F	医局・当直室

管理棟

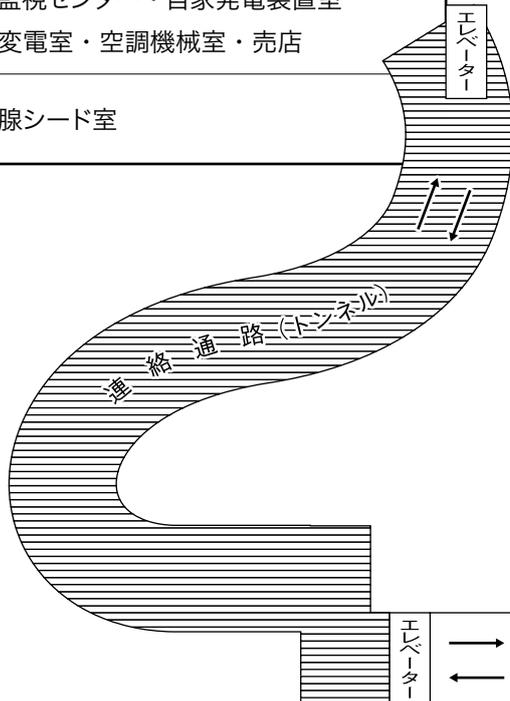
3 F	医療相談室・地域医療連携室・感染管理課 医療安全管理課・褥瘡管理課・緩和医療課
2 F	在宅医療部・看護師控室
1 F	公益財団法人昭和会 事務局

研修棟

3 F	研修室
2 F	研修室
1 F	テナント

別館

4 F	・病棟(小、気・耳、歯口外) ・ナースステーション(4F 北)
3 F	・病棟(整) ・ナースステーション(3F 北、3F 南)
2 F	・病棟(放、総内、神内、皮) ・ナースステーション(2F 北、2F 南)
1 F	・中央臨床検査部・リニアクセンター ・生理検査室(心エコー・脳波・筋電図) ・栄養管理室・調理室・浴場
B 1	・講義室(大ホール) ・機能訓練室(理学・作業・言語) ・ハーバードタンク室 ・洗濯室・リハビリテーション部
B 2	・気管支鏡準備室 ・病理解剖室・霊安室



医師研修施設指定の現状

S58.	4.	11	日本整形外科学会・専門医研修施設
S63.	1.	1	日本泌尿器科学会・専門医教育施設
S63.	9.	1	日本眼科学会・専門医研修施設
H2.	5.	18	日本麻酔科学会・麻酔科標榜研修施設
H2.	12.	19	日本内科学会・認定医教育関連病院
H3.	4.	1	日本医学放射線学会・専門医修練機関
H3.	4.	1	日本耳鼻咽喉科学会・専門医研修施設
H4.	7.	13	日本脳神経外科学会・専門医指定訓練場所
H7.	3.	22	日本形成外科学会・認定医研修施設
H7.	5.	10	日本呼吸器外科学会・専門医認定制度施設
H7.	11.	21	日本外科学会・専門医制度修練施設
H8.	4.	1	日本病理学会・認定病理制度登録施設
H13.	7.	30	日本胸部外科学会・認定医認定制度関連施設
H14.	4.	1	日本皮膚科学会・専門医研修施設
H15.	4.	1	日本神経学会・専門医制度教育関連施設
H15.	4.	1	日本臨床細胞学会・認定施設
H16.	4.	1	日本周産期新生児医学会・周産期(新生児)専門医暫定研修施設
H17.	2.	11	日本脳卒中学会 専門医研修教育施設
H17.	12.	1	日本消化器内視鏡学会・専門医指導施設
H18.	4.	1	日本周産期・新生児医学会 周産期(母胎・胎児)専門医暫定研修施設
H19.	10.	24	日本放射線腫瘍学会 認定施設
H19.	11.	1	日本がん治療認定医機構 認定研修施設
H20.	4.	1	呼吸器外科専門医合同委員会・基幹施設
H20.	4.	1	日本泌尿器科学会・基幹教育施設
H20.	12.	20	日本呼吸器学会・専門医制度関連施設
H21.	4.	1	日本血液学会・認定研修施設
H21.	10.	1	日本産婦人科学会・専門医制度卒後臨床研修指導施設
H21.	10.	1	日本口腔外科学会・専門医制度研修施設
H22.	1.	1	日本救急医学会・専門医指定施設
H23.	1.	1	日本消化器外科学会・専門医研修施設
H23.	7.	1	日本胆道学会・指導医制度指導施設
H24.	1.	1	日本消化器病学会・専門医制度認定施設
H25.	1.	13	日本手外科学会研修施設
H26.	1.	1	日本IVR学会専門医修練施設
H27.	11.	1	日本消化器学会 胃腸科指導施設
H28.	1.	1	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡関連認定施設
H29.	4.	1	日本脊髄病学会脊髄外科専門医基幹研修施設

その他の施設認定

H16.	8.	1	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 認定施設
H17.	4.	1	日本栄養療法推進協議会NST稼動施設
H17.	11.	1	日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設
H23.	2.	17	日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士取得 実施修練施設
H23.	4.	1	日本臨床衛生検査技師会・精度管理保証施設

H30.3現在

諸制度の指定状況

● 各種法による当院の取扱指定状況

1. 保険医療機関
2. 国民健康保険医療取扱機関
3. 労災保険指定病院
4. 労災保険二次健診等給付病院
5. 生活保護法指定病院
6. 介護保険法「居宅介護支援事業所」指定病院
7. 生活保護法「居宅介護支援事業所」指定病院
8. 障害者自立支援法「更生医療」「育成医療」指定病院（整形外科・形成外科・耳鼻咽喉科・腎臓・免疫・口腔に関する医療）
9. 障害者自立支援法「精神通院医療」指定病院（神経内科に関する医療）
10. 感染症法（第37条の2）指定病院
11. 原子爆弾被爆者医療法一般疾病医療取扱病院
12. 母子保護法指定病院「不妊手術」
13. 特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院
14. 小児慢性特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院
15. 先天性血液凝固因子障害等治療研究事業に係る医療指定病院
16. 母子保健法指定病院「養育医療」
17. 出入国管理及び難民認定法指定病院
18. 救急告示病院

● 九州厚生局による当院の許認可事項

○ 基本診療料の施設基準等

- 一般病棟入院基本料(7対1)
- 総合入院体制加算
- 超急性期脳卒中加算
- 診療録管理体制加算
- 医師事務作業補助体制加算20:1
- 急性期看護補助体制加算25:1
- 急性期看護補助体制加算の注3に掲げる看護職員夜間配置加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 緩和ケア診療加算
- 医療安全対策加算
- 感染防止対策加算1
- 感染防止対策地域連携加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク分娩管理加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- 退院支援加算1:3
- 精神疾患診療体制加算
- データ提出加算2
- 特定集中治療室管理料4
- 新生児特定集中治療室管理料1
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料5
- 患者サポート体制充実加算
- 栄養サポートチーム加算
- 回復期リハビリテーション入院料2

○特掲診療料の施設基準等

がん性疼痛緩和指導管理料
 がん患者指導管理料1, 2, 3
 外来緩和ケア管理料
 院内トリアージ実施料
 外来放射線照射診療料
 ニコチン依存管理料
 開放型病院共同指導料
 がん治療連携計画策定料
 薬剤管理指導料
 医療機器安全管理料1, 2
 在宅訪問看護・指導料
 持続血糖測定器加算
 H P V核酸固定検査
 検体検査管理加算 (IV)
 時間内歩行試験
 神経学的検査
 C T透視下気管支鏡検査加算
 画像診断管理加算1
 画像診断管理加算2
 CT撮影及びMRI撮影
 冠動脈CT撮影加算
 心臓MRI撮影加算
 放射線治療専任加算
 高エネルギー放射線治療
 1回線量増加加算
 病理診断管理加算1
 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料
 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
 運動器リハビリテーション料 (I)
 呼吸器リハビリテーション料 (I)
 がん患者リハビリテーション料
 透析液水質確保加算1
 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
 組織拡張器による再建手術
 乳がんセンチネルリンパ節加算1
 緑内障手術
 網膜再建術
 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術
 腹腔鏡下肝切除術
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
 腹腔鏡下仙骨腔固定術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 輸血管管理料 I
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 麻酔管理料 (I)
 外来放射線治療加算
 定位放射線治療

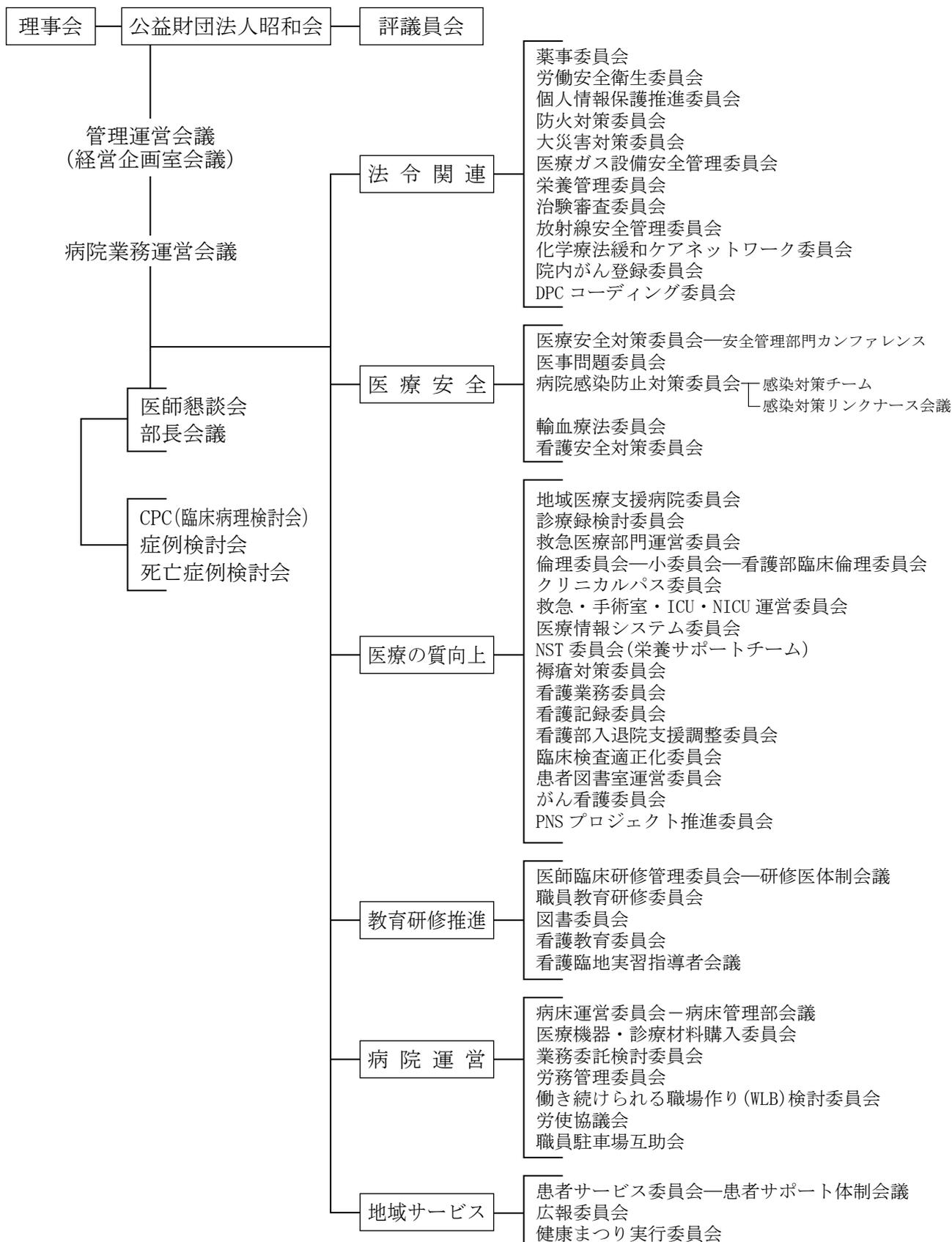
●その他の取扱指定状況

H14. 7. 1 県へき地医療拠点病院 (遠隔医療支援)
 H15. 10 基幹型臨床研修病院
 H20. 4. 1 厚生労働省 D P C対象病院
 H20. 9. 1 県指定 かがしま子育て応援企業
 H20. 10. 1 産科医療補償制度加入医療機関
 H20. 11. 26 県女性医師復職研修事業指定病院
 H21. 3. 27 県指定 地域周産期母子医療センター
 H21. 10. 1 県消防・防災ヘリコプター救急搬送医師搭乗システム輪番病院
 H24. 4. 1 厚生労働省指定 地域がん診療連携拠点病院
 H24. 4. 11 歯科医師臨床研修病院 (協力型)
 H24. 6. 7 県エイズ治療拠点病院
 H25. 3. 22 県指定 地域医療支援病院

- ・ 洋上救急業務支援協力医療機関
- ・ 厚生労働省 医薬品・医療器具安全性情報協力施設
- ・ 県脳卒中情報システム推進事業の
 情報提供協力医療機関
- ・ 県町村会指定離島緊急医療対策支援協力医療機関
- ・ 県重症難病医療協力病院 (短期入所施設)
- ・ 痛風治療協力医療機関
- ・ 鹿児島市高規格救急車指示病院
- ・ 県救急・災害医療情報システム登録病院
- ・ 県広域災害医療情報システム (EMIS) 登録病院
- ・ 市指定 にこにこ子育て応援隊認定企業
- ・ 県地域周産期医療支援病院
- ・ 各種健診 (検診) ・予防接種等受託医療機関

H30. 3現在

会議・委員会組織図



平成30年3月31日 現在

医療設備概要

【放射線部門】

検査室名等		メーカー	機種名	台数
1	一般撮影室(I)	島津 キャノン	(1)UD-150L-30	1
			(2)CM-100(超音波骨密度測定)	1
2	一般撮影室(II)	島津	UD-150L-30	1
第1 操作通路	DR (CXDIシステム)	キャノン	立・臥位X線デジタルラジオグラフィ	2
5	FPD式X線テレビ室(Cアーム)	日立	SF-VA2000FP(Versi Flex)	1
6	FPD式X線テレビ室	日立	EXAVISTA	1
7	X線CT室(II)	日立	SCENARIA(64列MDCT)	1
8	アンギオ・DSA室	フィリップス	Allura Xper FD20	1
A9	X線C T室(I)	フィリップス	Brilliance64 (64列MDCT)	1
10	MR I 室	日立	ECHOLON Vega(1.5テスラ)	1
11	R I 室	フィリップス	BRIGHTVIEW(特)	1
13	乳房専用室	ローラッド	(1)M-IV	1
			(2)マルチケア・マンモトーム(組織生検)	1
14	前立腺シード室	バリアン 東芝	(1)バリシード	1
			(2)クリアスコープ9000	1
第2 操作通路	レーザーイメージャー	ケアストリーム	ドライビュー8900	1 1
受付・画像処理		NOBORI 富士	画像ネットワークシステム(PACSクラウド化・検像システム) VINCENT(3Dワークステーション)	1式 1式
手術室 ・外科用イメージ ・ポータブル		東芝 GE ケアストリーム	(1)SXT-1000A (2)Brivo OEC 850 (3)DRX-レボリビューション	1 1 1
本館病棟(ポータブル)		富士	ACROS	1
別館病棟(ポータブル)		シーメンス	モビレットXP Hibrid	1
リニアックセンター		エレクタ フィリップス	(1)プリサイズ トリートメント システム (2)ピナクル	1 1

【その他医療機器】

高気圧酸素治療装置	超音波凝固切開装置
個人用人工透析装置	超音波検査装置
急性血液浄化装置	睡眠時無呼吸症候群検査装置
人工呼吸器	精密肺機能検査装置
手術中誘発電位測定装置	ホルター心電計／解析装置
体温維持装置	磁気刺激装置
内視鏡ビデオスコープ	心電計
3D内視鏡装置	脳波計
分娩監視装置	誘発電位・筋電図測定装置
定置・閉鎖型保育器	聴力検査装置
搬送用保育器	多項目自動血球装置
光線治療器	生化学自動分析装置
眼底カメラ検査装置	全自動血液凝固測定装置
眼球運動検査装置	自動免疫組織化学染色装置
無反射視力検査装置	除細動装置
マイクロ波治療装置	オートパルス人工蘇生システム
高周波手術装置	新生児専用救急搬送車

病院統計

- (1) 科別外来患者数
- (2) 科別在院患者延べ数
- (3) 年度別手術症例数
- (4) 科別手術症例数
- (5) 年度別入院患者死亡数及び病理解剖数
- (6) 外来患者市町村別分類図
- (7) 退院患者市町村別分布図
- (8) 市町村別紹介施設数・患者数
- (9) 市町村別逆紹介施設数・患者数
- (10) 紹介率
- (11) 逆紹介率
- (12) 外来患者初再診
- (13) 外来患者時間外・深夜・休日患者数
- (14) 入院患者に関する実績比較
- (15) 年度別救急車受入台数(患者数)
- (16) 救急患者受入時間帯・年齢別分類
- (17) 市町村別救急患者数
- (18) 退院患者ICD大分類(主傷病名大分類)
- (19) ICD大分類(科別、性別退院患者数)



(1) H29年度 科別外来患者数(複数診療科受診を各々1とした場合)

・○印:時間内診療はクリニックで実施 ・在宅医療含む
 ・1日平均:患者数÷平日・土曜日数(祝日除く)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計	1月 平均	1日 平均
○ 総合内科	153	176	139	176	171	150	166	142	187	386	215	170	2,231	185.9	8.3
○ 糖尿病内科	158	159	168	155	174	146	161	159	156	154	145	149	1,884	157.0	7.0
○ 呼吸器内科	64	60	76	90	91	78	87	80	79	89	77	86	957	79.8	3.5
○ 神経内科	40	41	56	50	58	58	49	49	59	56	41	65	622	51.8	2.3
○ 消化器内科	524	515	607	582	651	567	635	534	582	506	532	573	6,808	567.3	25.2
○ 循環器内科	494	500	535	452	537	474	521	530	505	487	457	524	6,016	501.3	22.3
○ 外科(肝・膵・乳・甲・小・肛)	324	310	374	297	362	299	355	348	369	349	299	345	4,031	335.9	14.9
○ 呼吸器外科	188	155	208	169	180	169	193	195	174	194	186	179	2,190	182.5	8.1
○ 整形外科	239	270	227	235	158	238	175	191	206	259	210	190	2,598	216.5	9.6
○ 形成外科	103	119	139	174	172	171	131	116	127	121	112	122	1,607	133.9	6.0
○ 脳神経外科	23	15	30	27	32	24	18	19	29	30	24	26	297	24.8	1.1
○ 産婦人科	316	298	342	326	330	340	397	364	338	340	325	292	4,008	334.0	14.8
○ 小児科	3	4	4	4	4	2	2	2	3	5	7	5	45	3.8	0.2
○ 泌尿器科	656	692	771	707	754	730	805	695	752	732	699	716	8,709	725.8	32.3
○ 眼科	887	897	864	946	1,041	884	885	936	809	747	848	913	10,657	888.1	39.5
○ 気管食道・耳鼻いんこう科	6	5	6	5	8	3	14	7	7	9	4	13	87	7.3	0.3
○ 皮膚科	6	122	7	18	16	16	45	6	7	10	29	7	289	24.1	1.1
○ 麻酔科	12	13	15	19	24	12	12	9	13	26	11	15	181	15.1	0.7
○ (一部)放射線科(診断・治療)	139	152	167	128	183	172	167	127	123	135	163	147	1,803	150.3	6.7
○ 緩和医療科	31	26	32	31	32	30	21	22	23	17	16	9	290	24.2	1.1
○ 病理診断科	4	5	6	4	2	4	2	3	0	0	0	0	30	2.5	0.1
○ 歯科口腔外科	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	4	0.3	0.0
合計	4,370	4,534	4,773	4,597	4,981	4,567	4,841	4,534	4,548	4,653	4,400	4,546	55,344	4,612.0	-
1日平均	199	206	199	204	208	208	210	206	198	222	210	193	-	-	205.0



(2) H29年度 科別在院患者延数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計	1月平均	1日平均
総合内科	676	754	818	883	991	663	661	629	606	665	658	718	8,722	727	24
糖尿病科	70	28	107	79	100	109	42	34	75	46	107	101	898	75	2
呼吸器内科	590	733	708	841	740	634	751	697	732	759	677	748	8,610	718	24
神経内科	1,116	1,092	1,153	1,152	1,118	1,048	1,148	1,145	1,165	1,205	1,039	981	13,362	1114	37
消化器内科	503	676	721	876	611	662	566	457	741	544	520	541	7,418	618	20
循環器内科	397	340	291	332	214	242	286	228	408	440	292	272	3,742	312	10
外科(肝・消・乳・甲・小・肛)	608	722	765	717	827	899	846	655	516	617	624	735	8,531	711	23
呼吸器外科	253	247	367	509	415	354	375	326	366	340	387	466	4,405	367	12
整形外科	3,427	3,926	3,421	3,521	3,247	3,354	3,301	3,595	3,813	4,272	4,198	4,449	44,524	3710	122
形成外科	845	716	691	720	613	647	481	535	640	572	586	641	7,687	641	21
脳神経外科	485	465	480	576	526	347	337	493	536	579	364	526	5,714	476	16
産婦人科	228	380	334	273	522	541	446	435	476	536	415	432	5,018	418	14
小児科	378	494	368	502	524	522	555	544	498	475	460	502	5,822	485	16
泌尿器科	155	113	105	113	147	55	79	79	93	86	47	104	1,176	98	3
眼科	454	524	611	532	596	558	689	557	556	551	603	632	6,863	572	19
気管食道・耳鼻いんこう科	266	261	248	266	236	293	288	280	241	213	265	294	3,151	263	9
皮膚科	225	140	230	206	271	201	276	190	183	179	198	245	2,544	212	7
麻酔科	89	111	76	97	72	113	129	133	80	73	42	11	1,026	86	3
放射線科(診断・治療)	28	0	0	0	0	5	1	21	13	12	6	0	86	7	0
緩和医療科	75	59	136	39	36	62	52	137	74	76	122	44	912	76	2
病理診断科	6	24	8	52	49	28	73	37	18	49	59	59	462	39	1
歯科口腔外科	80	89	52	90	136	73	57	60	79	68	53	88	925	77	3
合計	10,954	11,894	11,690	12,376	11,991	11,410	11,439	11,267	11,909	12,357	11,722	12,589	141,598	11,800	-
1日平均	365	384	390	399	387	380	369	376	384	399	419	406	-	-	388

(3) 年度別手術症例数 (病院手術室実施手術)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
4 月	391	375	388	343	329
5 月	352	344	319	301	356
6 月	325	373	415	394	366
7 月	415	399	385	335	386
8 月	394	406	298	347	398
9 月	353	341	312	330	373
10月	397	400	373	364	382
11月	379	340	364	388	392
12月	353	369	315	378	381
1 月	361	344	304	339	346
2 月	371	382	341	355	348
3 月	387	399	383	383	406
合計	4,478	4,472	4,197	4,257	4,463
月平均	373	373	350	355	372

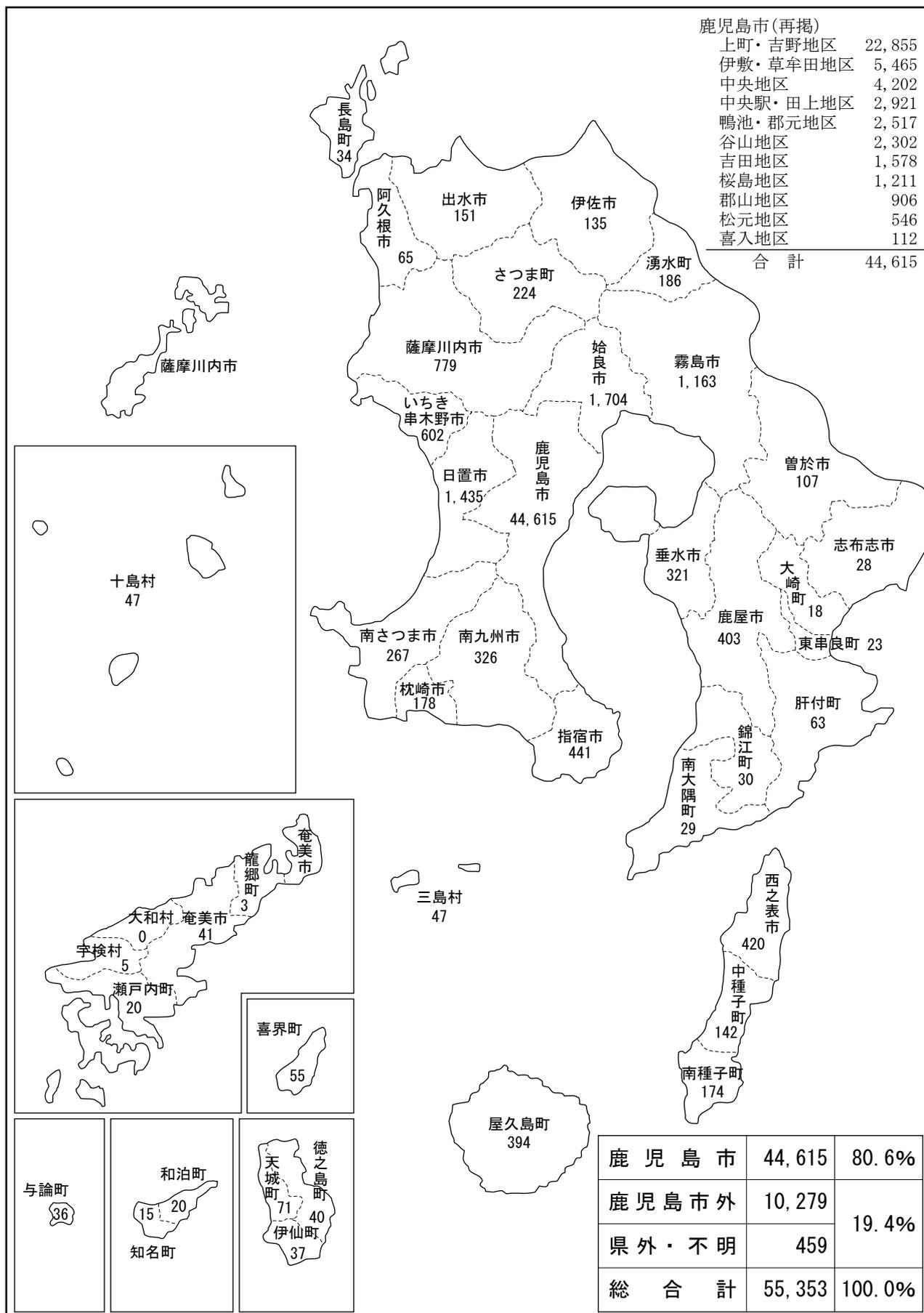
(4) 科別手術症例数 (病院手術室実施手術)

	眼 科	整形外科	形成外科	泌尿器科	外 科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	産婦人科	呼吸器外科	脳神経外科	消化器内科	総 計
4 月	109	72	37	23	22	20	14	14	9	9		329
5 月	120	89	41	17	29	14	13	9	16	8		356
6 月	120	81	39	26	21	18	15	20	17	9		366
7 月	125	80	39	35	28	20	16	13	20	10		386
8 月	126	70	52	29	29	32	18	16	19	6	1	398
9 月	138	77	36	21	31	17	16	20	14	3		373
10月	153	67	31	35	26	24	11	14	14	7		382
11月	145	87	37	31	22	17	13	15	16	9		392
12月	125	87	36	28	30	18	18	11	19	9		381
1 月	110	88	33	26	25	18	15	11	18	2		346
2 月	125	88	27	20	14	16	13	19	19	7		348
3 月	150	93	43	20	22	23	16	10	21	8		406
総 計	1,546	979	451	311	299	237	178	172	202	87	1	4,463

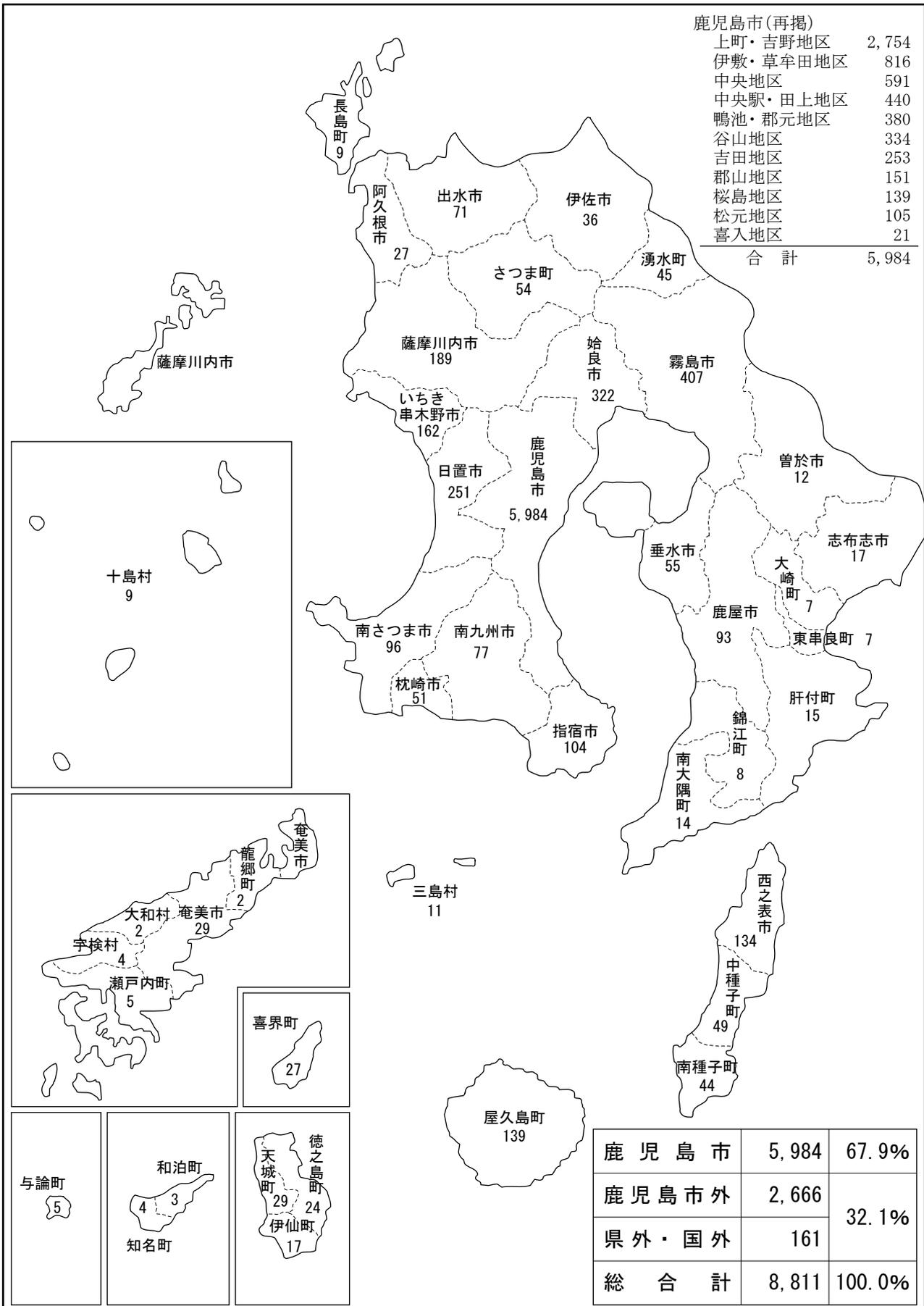
(5) 年度別入院患者死亡数及び病理解剖数

	平成25年		平成26年		平成27年		平成28年		平成29年	
	死亡数	解剖数								
4 月	17	0	18	0	21	0	18	0	13	1
5 月	19	0	18	0	23	0	9	0	15	1
6 月	13	0	10	0	10	0	11	0	10	0
7 月	16	0	13	0	13	0	12	0	16	1
8 月	11	0	17	0	17	0	18	0	14	0
9 月	13	0	16	0	13	0	14	0	13	0
10月	20	0	4	0	12	0	19	0	10	0
11月	21	0	19	0	12	1	10	0	15	1
12月	19	0	20	0	15	0	11	0	14	0
1 月	19	0	19	0	16	0	18	0	16	0
2 月	12	0	12	1	8	0	14	0	17	0
3 月	13	0	20	0	16	0	15	0	10	0
合計	193	0	186	1	176	1	169	0	163	4
剖検率	-		0.53%		0.56%		-		2.45%	

(6) 平成29年度 外来患者市町村別分布図(複数診療科受診を各々1とした場合)



(7) 平成29年度 退院患者市町村別分布図



(8) 平成29年度 市町村別紹介施設数・患者数(他院より当院への紹介)

市 町 村 名			施設件数	患者数	市 町 村 名			施設件数	患者数
鹿児島	鹿児島郡	鹿児島市	502	7,227	肝属	肝属郡	大崎町	1	4
		三島村	7	21			南大隅町	0	0
		十島村	4	19	曾於	曾於市		3	4
始良	始良郡	霧島市	59	427		志布志市	2	2	
		始良市	52	329	伊佐	伊佐市		13	70
日置	日置市	湧水町	2	11		熊毛郡	西之表市		5
		薩摩川内市	36	296	中種子町		2	4	
川薩	薩摩郡	いちき串木野市	23	138	南種子町		2	16	
		さつま町	9	38	屋久島町	8	115		
川辺	南さつま市	枕崎市	11	58	奄美市	奄美市		6	53
		枕崎市	8	39		喜界町	4	17	
		南九州市	5	27	大島郡	徳之島町	5	40	
指宿	指宿市	指宿市	16	109		和泊町	2	4	
		出水市	11	49		知名町	6	6	
出水	出水郡	阿久根市	3	29	与論町	与論町		3	4
		長島町	1	2		県内	870	9,782	
肝属	肝属郡	鹿屋市	19	97	県外	130	204		
		垂水市	6	26	総合計	1,000	9,986		
肝属	肝属郡	肝付町	3	4					
		錦江町	1	4					

※病院・クリニック合算の数です

(9) 平成29年度 市町村別逆紹介施設数・患者数(当院より他院への紹介)

市 町 村 名			施設件数	患者数	市 町 村 名			施設件数	患者数
鹿児島	鹿児島郡	鹿児島市	452	4,996	肝属	肝属郡	大崎町	1	3
		三島村	3	7			南大隅町	2	2
		十島村	1	1	曾於	曾於市		3	4
始良	始良郡	霧島市	56	342		志布志市	8	13	
		始良市	45	266	伊佐	伊佐市		12	45
日置	日置市	湧水町	1	2		熊毛郡	西之表市		9
		薩摩川内市	40	125	中種子町		4	7	
川薩	薩摩郡	いちき串木野市	26	126	南種子町		3	20	
		さつま町	7	33	屋久島町	5	75		
川辺	南さつま市	枕崎市	14	53	奄美市	奄美市		11	41
		枕崎市	13	45		喜界町	1	17	
		南九州市	8	51	大島郡	瀬戸内町	1	1	
指宿	指宿市	指宿市	18	111		徳之島町	6	37	
		出水市	12	47		和泊町	1	3	
出水	出水郡	阿久根市	5	15	知名町	1	7		
		長島町	2	3	天城町	2	3		
肝属	肝属郡	鹿屋市	24	141	与論町	3	3		
		垂水市	5	26	県内	836	7,023		
肝属	肝属郡	肝付町	3	10	県外	95	266		
		錦江町	2	9	紹介先不明	0	336		
				総合計	931	7,625			

※病院・クリニック合算の数です

(10) 今給黎総合病院 紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	287	317	315	305	285	330	343	278	297	306	314	316
紹介率 (%)	73.0	65.6	63.6	57.8	55.1	67.3	71.5	67.0	71.4	72.0	77.1	72.3

※地域医療支援病院計算式に準ずる(紹介率50%が当院の基準)

(11) 今給黎総合病院 逆紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
逆紹介患者数	456	468	522	459	449	448	483	432	492	443	466	542
逆紹介率 (%)	116.0	96.9	105.5	86.9	86.8	91.4	100.6	104.1	118.3	104.2	114.5	124.0

※地域医療支援病院計算式に準ずる(逆紹介率70%が当院の基準)

(12) 平成29年度 外来患者初再診数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均	1日平均
初診	653	786	732	850	849	791	874	654	690	890	696	715	9,180	765.0	34.0
再診	3,717	3,748	4,041	3,747	4,132	3,776	3,967	3,880	3,858	3,763	3,704	3,831	46,164	3,847.0	171.0
合計	4,370	4,534	4,773	4,597	4,981	4,567	4,841	4,534	4,548	4,653	4,400	4,546	55,344	4,612.0	205.0
初診率(%)	14.9	17.3	15.3	18.5	17.0	17.3	18.1	14.4	15.2	19.1	15.8	15.7	-	-	-
再診率(%)	85.1	82.7	84.7	81.5	83.0	82.7	81.9	85.6	84.8	80.9	84.2	84.3	-	-	-

(13) 平成29年度 外来患者時間外・深夜・休日患者数 (診療報酬加算をもとに集計)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均	1日平均
時間外	128	106	115	113	142	114	111	106	83	149	133	122	1,422	118.5	4.8
深夜	56	42	43	55	50	35	44	42	50	58	60	57	592	49.3	2.0
休日	112	234	44	161	80	157	208	72	180	324	158	79	1,809	150.8	25.8
合計	296	382	202	329	272	306	363	220	313	531	351	258	3,823	318.6	13.0

休日：休日在宅医(当番日)含む

(14) 入院患者に関する実績比較

1. 年度別

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
定 床	450	450	450	450	450
新 入 院 数	8,136	8,060	8,179	8,167	8,793
退 院 数	8,112	8,038	8,180	8,158	8,811
在院患者延数	136,860	136,106	134,367	138,525	141,598
1日平均 在院患者数	375.0	372.9	367.1	379.5	387.9
平 在 院 日 数	15.3	17.2	16.0	16.4	15.9
病 利 用 率	83.3%	82.9%	81.6%	84.3%	86.2%

2. 平成29年度 月別

* 平均在院日数は3ヶ月平均の値

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年 計	月平均
定 床	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	-	450
新 入 院 患 者 数	633	750	695	789	755	712	780	747	766	744	670	752	8,793	733
退 院 患 者 数	674	673	750	743	769	753	751	738	845	644	674	797	8,811	734
在院患者延数	10,954	11,894	11,690	12,376	11,991	11,410	11,439	11,267	11,909	12,357	11,722	12,589	141,598	11,800
1日平均 在院患者数	365.1	383.7	389.7	399.2	386.8	380.3	369.0	375.6	384.2	398.6	418.6	406.1	-	387.9
平 均 在 院 日 数	16.7	16.6	16.2	15.9	15.6	15.6	15.5	15.5	15.2	15.7	16.2	16.8	-	15.9
病 利 用 率 (%)	81.1	85.3	86.6	88.7	86.0	84.5	82.0	83.5	85.4	88.6	93.0	90.2	-	86.2

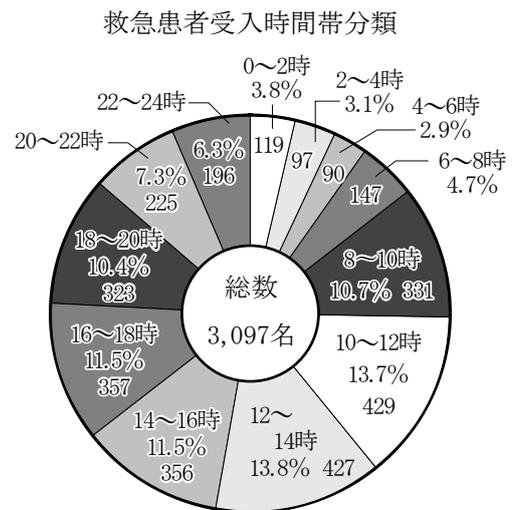
3. 平成29年度 科別

	総 内	血 内	糖 内	消 内	循 内	呼 内	神 内	外	呼 外	整 形	形 成	脳 外
新 入 院 患 者 数	316	10	60	685	135	540	570	518	426	1,316	455	251
退 院 患 者 数	350	1	45	659	137	552	565	547	380	1,348	464	257
在院患者延数	8,701	21	898	7,418	3,742	8,610	13,362	8,531	4,405	44,524	7,687	5,714
1日平均 在院患者数	23.8	0.1	2.5	20.3	10.3	23.6	36.6	23.4	12.1	122.0	21.1	15.7
	産 婦	新 生 児	小 児	泌	眼	耳 鼻	皮	麻	放	緩 和	歯 口 外	総 計
新 入 院 患 者 数	414	209	205	653	1,267	402	58	5	59	18	221	8,793
退 院 患 者 数	413	202	207	636	1,272	410	63	7	42	27	227	8,811
在院患者延数	5,018	5,822	1,176	6,863	3,151	2,544	1,026	86	912	462	925	141,598
1日平均 在院患者数	13.7	16.0	3.2	18.8	8.6	7.0	2.8	0.2	2.5	1.3	2.5	-

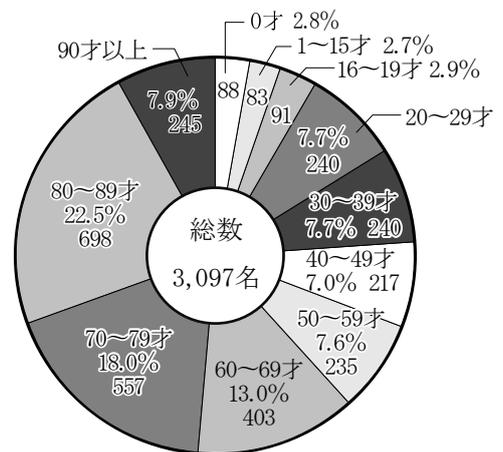
(15) 年度別救急車受入台数(患者数)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
4月	214 (220)	199 (202)	221 (224)	219 (223)	218 (221)
5月	228 (235)	213 (217)	219 (226)	205 (211)	238 (240)
6月	208 (213)	206 (209)	210 (215)	206 (206)	218 (220)
7月	247 (251)	225 (229)	209 (215)	208 (212)	286 (289)
8月	249 (253)	212 (216)	259 (264)	251 (253)	270 (276)
9月	197 (201)	224 (226)	205 (213)	224 (226)	233 (239)
10月	230 (233)	202 (205)	248 (252)	211 (211)	232 (239)
11月	224 (226)	222 (224)	213 (215)	235 (237)	268 (270)
12月	218 (223)	227 (232)	249 (253)	291 (293)	279 (282)
1月	201 (208)	244 (243)	243 (248)	259 (259)	286 (295)
2月	212 (221)	204 (209)	228 (232)	208 (209)	256 (259)
3月	209 (217)	227 (230)	251 (257)	214 (214)	263 (267)
合計	2,637 (2,701)	2,605 (2,642)	2,755 (2,814)	2,731 (2,754)	3,047 (3,097)
月平均	219.8 (225.1)	217.1 (220.2)	229.6 (234.5)	227.7 (229.5)	253.9 (258.0)
日平均	7.2 (7.4)	7.1 (7.2)	7.5 (7.7)	7.5 (7.5)	8.3 (8.5)
ドクターカー (再掲)	-	20	41	57	53
ドクターヘリ (再掲)	-	51	21	53	34

(16) 平成29年度
救急患者受入時間帯・年令別分類



救急患者年令別分類



(17) 平成29年度 市町村別救急患者数

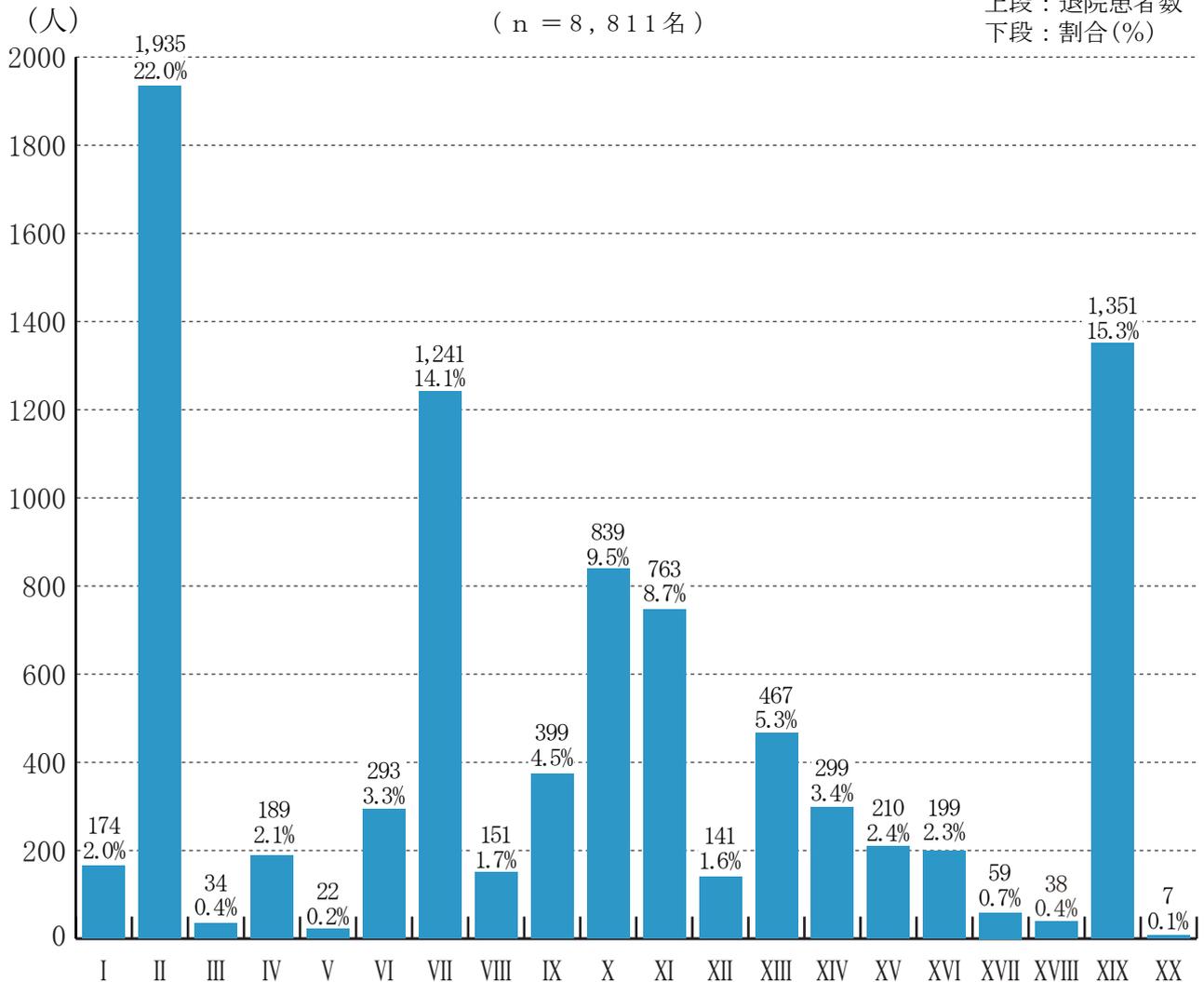
市町村名		救急患者数	市町村名		救急患者数	市町村名		救急患者数
鹿鹿児島	上町・吉野	1,124	川薩	薩摩川内市	11	伊佐熊毛大島	伊佐市	2
	伊敷・草牟田	560		いちき串木野市	11		西之表市	2
	中央・田上	297	さつま町	2	屋久島町		2	
	中央駅・田上	338	川辺	南さつま市	2	鹿屋	奄美市	9
	鴨池・郡元	76		枕崎市	5		県内	3,094
	谷山	72	南九州市	11	県外	3		
	桜島	71	指宿	指宿市	15	総合計	3,097	
	吉田	126	出水	出水市	4			
松元	21	阿久根市		2				
喜入	1	肝属	鹿屋市	12				
郡山	70		垂水市	13				
霧島市	46		肝付町	1				
始良市	123		南大隅町	2				
湧水町	1	曾於	曾於市	3				
日置市	57		志布志市	2				

(18) 平成29年度 退院患者 ICD大分類

主 傷 病 名 大 分 類

(n = 8, 8 1 1 名)

上段：退院患者数
下段：割合(%)



- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| I 感染症及び寄生虫症 | XII 皮膚及び皮下組織の疾患 |
| II 新生物 | XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患 |
| III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | XIV 腎尿路生殖器系の疾患 |
| IV 内分泌、栄養及び代謝疾患 | XV 妊娠、分娩及び産褥 |
| V 精神及び行動の障害 | XVI 周産期に発生した病態 |
| VI 神経系の疾患 | XVII 先天奇形、変形及び染色体異常 |
| VII 眼及び付属器の疾患 | XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| VIII 耳及び乳様突起の疾患 | XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 |
| IX 循環器系の疾患 | XX 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 |
| X 呼吸器系の疾患 | |
| XI 消化器系の疾患 | |

(19) 平成29年度 ICD大分類・診療科別・性別・退院患者数

ICD大分類	男女計	総数	総内	神内	呼内	消内	循内	糖	小	外科	呼外	皮	整形	脳	泌	産	新生児	婦	眼	耳	放	麻	口腔	緩和	
総数	8,811	男 4,613 女 4,198	175	271	364	388	69	27	113	326	257	24	584	246	125	508	-	115	-	648	243	30	4	84	12
I 感染症及び寄生虫症	174	男 78 女 96	10	7	17	10	-	-	17	3	1	6	-	-	-	3	-	-	-	4	-	-	-	-	
II 新生物	1,935	男 1,206 女 729	30	6	189	171	2	-	-	172	148	-	9	51	3	379	-	-	-	3	29	-	3	11	
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	34	男 12 女 22	3	1	3	-	-	-	2	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	189	男 112 女 77	6	16	2	1	4	25	9	1	1	-	1	2	-	1	-	-	43	-	-	-	-	-	
V 精神及び行動の障害	22	男 9 女 13	3	4	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
VI 神経系の疾患	293	男 134 女 159	17	94	1	-	2	-	1	-	2	-	7	3	5	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
VII 眼及び付属器の疾患	1,241	男 602 女 639	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	592	-	-	-	-	-	
VIII 耳及び乳様突起の疾患	151	男 67 女 84	2	9	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	53	-	-	-	-	
IX 循環器系の疾患	399	男 206 女 193	4	72	-	5	48	-	-	1	2	-	-	4	67	-	-	-	-	-	-	3	-	-	
X 呼吸器系の疾患	839	男 524 女 315	69	22	137	7	2	1	74	1	52	-	1	1	3	1	-	-	-	152	-	-	1	-	
XI 消化器系の疾患	763	男 405 女 358	4	1	-	185	1	-	1	130	1	-	1	-	-	-	-	-	-	6	-	-	75	-	
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	141	男 78 女 63	5	1	1	-	-	-	3	-	1	16	4	42	-	-	-	-	-	2	-	-	3	-	
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	467	男 256 女 211	6	12	2	1	1	-	-	-	2	-	202	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
XIV 腎尿路生殖系系の疾患	299	男 145 女 154	7	9	-	2	5	-	1	3	2	-	-	3	-	113	-	-	-	-	-	-	-	-	
XV 妊娠、分娩及び産褥	210	男 - 女 210	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	200	-	10	-	-	-	-	-	
XVI 周産期に発生した病態	199	男 114 女 85	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	114	-	-	-	-	-	-	
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	59	男 27 女 32	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	19	1	-	-	1	-	1	3	-	-	-	
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	38	男 21 女 17	1	3	2	2	-	-	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,351	男 612 女 739	8	12	9	4	3	1	2	11	40	1	358	81	46	9	-	-	-	12	10	1	1	2	
XX 健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	7	男 5 女 2	-	1	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	

部門報告

Ⅲ-1

各診療科報告

- 内科(総合内科)
- 血液内科
- 糖尿病内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 神経内科
- 外科(消化器・乳腺・甲状腺・小児・肛門)
- 呼吸器外科
- 整形外科・リハビリテーション科
- 形成外科
- 脳神経外科
- 産婦人科
- 新生児内科
- 小児科
- 泌尿器科
- 眼科
- 気管食道・耳鼻いんこう科
- 皮膚科
- 麻酔科
- 放射線診断科
- 放射線治療科
- 緩和医療科
- 病理診断科
- 在宅診療科
- 歯科
- 歯科口腔外科
- 救急科



総合内科

部長 二木真琴

総合内科の業務は、感染症の診断治療、健康診断、ワクチン接種、などです。

当科は当初生野、二木医師の二人で担当していましたが、色々な科の研修を続けて消化器疾患、内科全般に詳しい大磯医師に加えて外科出身の三宅医師にも参加していただき更に総合的な治療を行う体制となってきています。

ワクチン接種に関して昨年はインフルエンザを含めて588件行いました。日本はワクチンに関しては後進国と言われていましたが、ここ数年で方針が変わり種類、接種などが増加しています。

肺炎球菌ワクチンが平成26(2014)年7月に予防接種法政省令の改正により、同年10月1日から定期接種に導入されました。各年度に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳または100歳となる者および平成26年10月1日～平成27(2015)年3月31日までの間においては100歳以上の者も接種対象とする事となっています。高齢者のインフルエンザに合併する肺炎は肺炎球菌が原因として多いと言われていたので両方のワクチンを接種するのが効果的です。

2009年から2010年はメキシコより感染が広がったブタ由来A型インフルエンザ(H1N1)の流行が日本にもおしよせ、当科へも多く患者様が来院されました。当院は発熱外来を設けて患者様に受診していただきましたが、集団発生する感染症への対応の困難さを痛感しました。この感染症により世界中で1万4千人以上(WHOの報告より)が亡くなっています。日本でも200人程度(厚生労働省報告より)が亡くなりました。インフルエンザ病原体サーベイランスにおいて、2016/17シーズン(2017年5月12日現在報告)は、2シーズンぶりにAH3亜型が主流となりました。2017年第9週(2/27～3/5)からはB型の検出割合が増加し、5シーズンぶりにビクトリア系統が山形系統を上回り優勢となっています。季節性インフルエンザに対する抗インフルエンザ薬の有効性に関する知見は、有熱期間の短縮のほか、抗インフルエンザ薬の早期投与による重症化予防効果が示されています。治療対象については幼児や基礎疾患があり、インフルエンザの重症化リスクが高い患者様や呼吸器症状が強い患者様には投与が推奨されています。選択薬について オセルタミビル(タミフル®)、ザナミビル(リレンザ®)、ラニナミビル(イナビル®)、ペラミビル(ラピアクタ®)があります。ワクチン接種と合わ

せて、当科に受診されたインフルエンザ患者様の初期および合併症治療を行っています。

2008年4月より特定健診が開始されました。これは話題となったメタボリックシンドロームを診断し治療、指導するのを目的としています。脳出血、脳梗塞、心筋梗塞の原因となる動脈硬化には以前より高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病などの危険因子があるとされていました。メタボリックシンドロームとは腹部に内臓脂肪の蓄積がある場合、程度の軽い危険因子の組み合わせによっても動脈硬化が非常に進行しやすいという概念です。自覚症状のある前に早期に動脈硬化の危険因子を発見し治療するためには、健康診断は重要と思われま

す。当科の入院は高齢者の患者様が特に多く、病気の治療は当然ですが、治癒した後の退院先でのfollow upが大変重要と思われま

す。専門性が利用できる場所は生かし、MSW(メディカルソーシャルワーカー)、在宅医療部との連携を保ち、より良いquality of lifeを目指した治療を考えていきたいと思

います。2005年よりNST(nutrition support team)の活動も行っています。これは患者様の栄養状態を把握して、栄養補給を補助する多種職種を含めた委員会活動です。主治医が希望する低栄養状態の患者様を栄養士、PT、ST、薬剤師、看護師などの多職種と共に回診を行い、主治医への助言、補助を行っています。また、ここ数年来当科では「睡眠時無呼吸症候群(SAS)」の診察を行っています。睡眠時無呼吸症候群は高血圧や糖尿病などの生活習慣病と密接な関わりを持ち、その有病率は3～4%ともいわれ、極めて多い病気であることが明らかになってきました。また、放置された重症な無呼吸では、7～8年後の死亡率が37%との報告もあります。このように睡眠時無呼吸症候群は、医学的にも社会的にも放置できない重要な病気であり、その対応が急がれます。診断・治療には健康保険が適応になっており、鼻づまりやのどの構造上の問題がないかを確認する(耳鼻科)とともに夜間睡眠時ポリグラフィを用いた検査(PSG)や自宅でのCPAP(持続性気道内陽圧呼吸)導入など積極的に行っています。

微力ではありますが、これからも地道に診療、委員会活動を継続していきます。

【スタッフ】

部長 生野 博久

NST認定医
 インфекションコントロールドクター(ICD)
 医学博士(鹿児島大学)

大磯 陽子

日本内科学会認定医
 日本消化器病学会消化器病専門医
 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
 マンモグラフィ読影認定医
 日本人間ドック学会認定医
 日本人間ドック健診専門医
 日本医師会認定産業医

部長 二木 真琴

日本血液学会 専門医
 日本内科学会総合内科専門医
 医学博士(日本医科大学)

三宅 健治

日本外科学会認定医
 日本医師会認定産業医
 日本体育協会スポーツドクター

【診療実績】

クリニック外来患者数(2017年1月1日~12月31日)

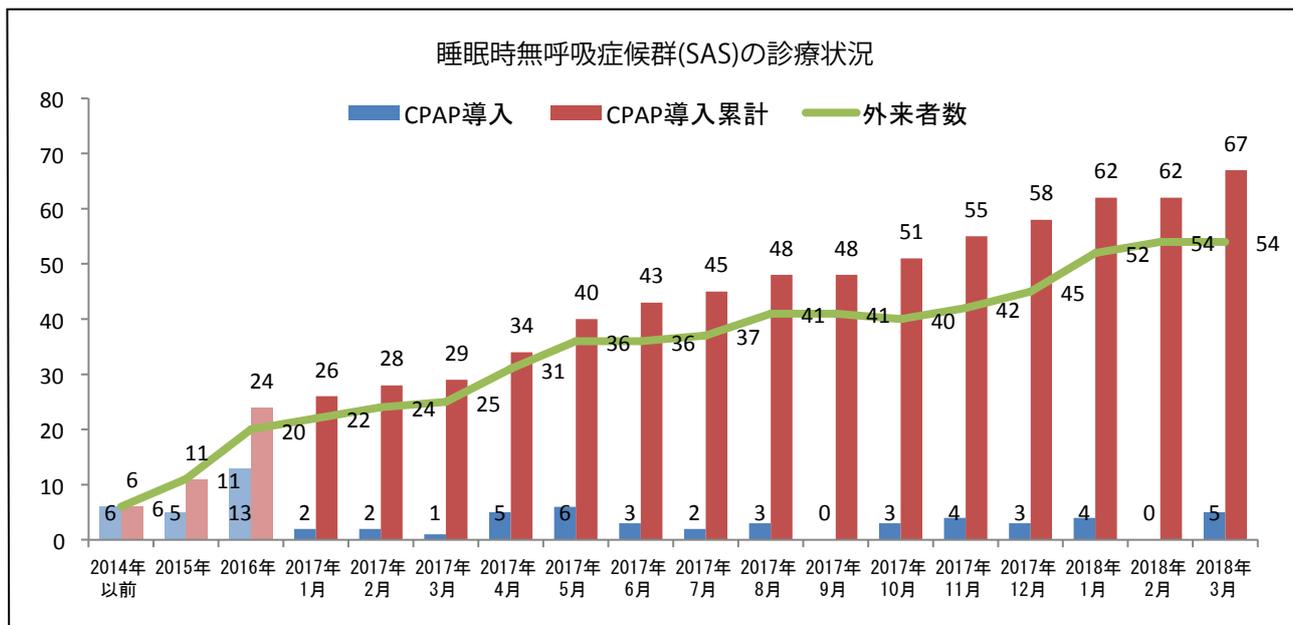
初診	再診	患者延べ数	1日平均(稼働日数270.0日)			初診率
			合計	初診	再診	
2,996	5,984	8,980	33.1	11.1	22.1	33.4%

今給黎総合病院外来患者数(2017年1月1日~12月31日)

初診	再診	患者延べ数	1日平均(稼働日数270.0日)			初診率
			合計	初診	再診	
622	421	1,043	3.8	2.3	1.6	59.6%

【予防接種件数】(2017年1月1日~12月31日)

	肺炎球菌	麻疹	インフルエンザ	おたふく	麻疹風疹	B型肝炎	水痘	二種混合	風疹	日本脳炎	A型肝炎	破傷風	合計
1月	6	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
2月	5	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	9
3月	21	0	0	3	0	1	0	0	0	7	0	0	32
4月	15	0	0	1	2	0	0	0	0	2	0	0	20
5月	12	0	0	4	4	1	2	1	1	5	0	0	30
6月	10	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	14
7月	2	0	0	0	1	1	2	0	2	0	0	0	8
8月	3	1	0	1	2	0	0	0	0	2	0	0	9
9月	5	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	8
10月	13	0	43	0	0	1	0	0	0	1	0	1	59
11月	8	0	267	0	1	0	0	0	0	0	0	0	276
12月	4	1	86	0	0	1	0	0	0	0	0	1	93
総合計	104	2	423	10	11	6	4	1	5	19	1	2	588





血液内科

部長 小 濱 浩 介

【診療内容、特色】

当院血液内科は現在常勤医師1名（総合内科兼任）で運用されており、白血病、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液の悪性疾患から、各種貧血、出血傾向をきたす疾患（紫斑病等）の診療を行っています。当院は血液学会認定研修施設となっており、県内最大級の総合病院として放射線治療をはじめとしたスムーズな多科連携を伴う集学的治療が可能であることが特徴です。

なお、平成30年4月よりスタッフが増員となり、外来は毎日2名体制で行う予定です。

【スタッフ】

小濱 浩介 血液内科部長、医学博士

略歴 鹿児島大学病院、九州がんセンター、東京大学医科学研究所付属病院、鹿児島市立病院、今村病院分院などで血液内科医として勤務。

資格 血液学会専門医、同指導医、内科学会認定医、がん治療認定医

【診療実績】

平成29年度に入院となった患者延べ数は、悪性リンパ腫/成人T細胞白血病41例、多発性骨髄腫24例、骨髄異形成症候群7例、膠原病6例等であり、総合内科との連携で診療を行っています。

※学会関連は[研究実績]に掲載



糖尿病内科

部長 盛満 慎吾

【診療内容、特色】

鹿児島県内最大の民間の総合病院であることの人的および設備的なメリットを生かして、あらゆる病期の糖尿病患者様につきまして、血糖コントロールおよび慢性透析を除く糖尿病に伴う全ての合併症の管理ができます。ただ、平成28年度までは担当医師が常勤医1名のみであったため、既に管理できる患者数の限界に達しており、十分な診療を提供できなくなっておりましたが、平成29年度は4月より濱崎 秀崇医師が非常勤として週3回診療に加わってくれるという嬉しいニュースもあり、多少は患者様を受け入れことができるようになったものと考えております。しかしながら、450床という病院規模に対して、担当医の数は全く不十分と考えられ、やはり、治療を希望して来られた患者様に対して、十分な診療を提供できない状態は続いているものと思っております。また、当院が地域連携支援病院に指定されていることもあり、入院患者様を積極的に受け入れるようにとの当院の経営方針もあり、入院患者様につきましては、概ね、いつでも受け入れ可能ですが、現状では外来患者様の受け入れにつきましては、基本的には困難な状態が続いているものと思っております。そのため、初診で来られた糖尿病患者様につきましては、掛かり付け医があるようならば、引き続き、掛かり付け医での治療の継続をお願いし、もし、掛かり付け医より入院の必要があると言われ、紹介状をお持ち頂いた患者様につきましては、当科で入院治療をさせて頂き、退院後は、再び、掛かり付け医での治療を継続して頂くこととしております。また、全くの無治療で掛かり付け医をお持ちでない糖尿病患者様につきましては、当科外来もしくは入院で治療をさせて頂き、血糖コントロールが改善傾向となり、安定してきたところ、概ね、治療開始後3~6ヶ月を目処として、お住まいや職場の近くの医療機関にご紹介させて頂くことと致しております。そのため、継続的な外来治療を希望される患者様の受け入れは、現在のところ、困難となっております。

【スタッフ紹介】

部長 盛満 慎吾

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会

資格：日本内科学会総合内科専門医
日本糖尿病学会専門医

【外来診察担当（今給黎総合病院）】

	月	火	水	木	金	土
AM	盛満*	盛満	盛満	盛満	盛満*	休診
PM	休診	休診	休診	休診	休診	休診

* 予約再診のみ

非常勤医 濱崎 秀崇

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会

日本内分泌学会

資格：日本内科学会総合内科専門医

日本糖尿病学会専門医、医学博士

【外来診察担当（昭和会クリニック）】

	月	火	水	木	金	土
AM	濱崎	休診	休診	濱崎	休診	休診
PM	濱崎	休診	休診	濱崎	休診	休診

* 予約再診のみ

【平成30年度の計画】

前述のように平成29年度は常勤医1名＋非常勤医1名と平成28年度の診療体制よりは、多少、診療体制は改善されておりますが、450床という病床数に対して、担当医の圧倒的な不足状態は続いております。また、患者様の増加、特に無治療や合併症をお持ちの重症な患者様の増加は著しく、現在の当科の診療体制では質および量の面において、すでに限界に達しております。また、当院が地域連携支援病院に指定されたこともあり、積極的に入院患者様を受け入れるようにとの当院の経営方針もあり、入院患者様につきましては受け入れ可能ですが、外来患者様につきましては、全ての患者様を受け入れることは困難となっております。そのため、外来での治療のご依頼はお受けすることはできませんが、もし、入院治療を必要とされる患者様がおられましたら、ご紹介頂ければ積極的に入院の上で治療をさせて頂きたいと考えております。また、その際の入院スケジュールおよび入院目標を明らかにするため、昨年度のこの紙面で書かせて頂いておりましたクリニカルパスの運用

につきましては、まだ、準備中で開始には至っておりません。クリニカルパスが完成しましたら、改めて、ご連絡を差し上げたいと思いますので、その際は、治療でお困りの患者様をご紹介頂ければと思います。この場をお借りしてお願いする次第です。

また、糖尿病性細小血管障害の評価につきましては、現在も入院下で十分に行なえておりますが、以前は、入院下で行ってございました動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックが、DPC（診断群分類包括評価）といわれる包括医療制度上、入院下では十分に行ない難くなってきております。そのために、末梢血管の動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックは外来で行なえるようにシステムを構築し、通院中の全患者様に検査を受けて頂くようにしているところであります。他方、生命予後に係わる心血管疾患および脳血管疾患等の動脈硬化性疾患の評価は、まだ、不十分かと思っておりますので、今年度は、上記疾患に対する動脈硬化性疾患の評価システムを、順次、構築してまいりたいと考えております。また、糖尿病の新たな合併症としての認知症につきましても、定期的にチェックできる体制を構築したいと考えております。

最後に、糖尿病患者様方に対して、一病息災という理念の下に、QOLを維持しつつ健康な方々とかかわらない寿命を可能な限り保障できるように、今後とも努力してまいりたいと思います。今後ともかわらぬご支援の程をお願い申し上げます。



消化器内科

部長 吉永英希

消化器内科は、月曜日から土曜日まで外来患者様の検査・治療、入院患者様の診療・加療を行っており、消化器外科や放射線科との共同で集学的な治療をご提供しています。

当院は日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会認定指導施設、日本胆道学会指導医制度指導施設で有り、当科には日本消化器内視鏡学会認定指導医2名、専門医3名が常勤し高度の内視鏡検査治療が可能となっています。また、内視鏡室には6名の専属スタッフ（日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師：3名）が常勤し、当科の安全性と質の高い医療を提供する要となっております。

検査に関しましては腹部超音波検査、上・下部内視鏡検査、超音波内視鏡検査、EUS-FNA：超音波内視鏡下生検～穿刺吸引細胞診、ERCP：内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査、IDUS、食道胃透視撮影検査、注腸透視撮影検査、肝生検、肝炎ウイルス検査等を行っております。

治療に関しましてはほぼ全ての消化器疾患の内科的治療をはじめとし、上部・下部内視鏡的止血術、イレウスチューブ留置術、内視鏡的異物除去術、内視鏡的消化管拡張術、消化管ステント留置術、内視鏡的静脈瘤結紮術・硬化療法、EMR：内視鏡的粘膜切除術、ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的ポリープ切除術、超音波ガイド下穿刺～ドレナージ術、内視鏡的胆道ドレナージ術、内視鏡下乳頭切開術～拡張術、内視鏡下胆道拡張術、内視鏡下胆管結石碎石～採石術、内視鏡下胆管～膵管ステント留置術、内視鏡下胃瘻造設術、消化器癌に対する化学療法など多岐にわたっております。

当科の特徴としましては消化器内視鏡に関するほとんど全ての検査～治療をまんべんなく取り扱っており、放射線科、病理診断科、外科と連携し、診断から治療まで一貫して行っています。当院が急性期の総合病院である特色から他科疾患合併症を有するリスクの高い患者様、緊急処置を必要とする患者様の救急搬送が多いこと等です。外来は離島を含め県内各地の多数の医療機関と病診連携をとっております。

また、当院は地域がん診療連携拠点病院であり、質の高いがん医療の提供に努めています。当科でも専門医が超音波内視鏡検査等高度の画像診断技術を用い、がんの早期発見治療に積極的に取り組んでいます。

【スタッフ紹介】

常勤医師

吉永 英希

部長

日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医

日本消化管学会胃腸科暫定専門医

今給黎 和幸

理事・副院長

日本内科学会認定医

日本消化器病学会消化器病専門医・指導医

日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医

日本消化管学会胃腸科専門医・指導医

日本人間ドック学会認定医

日本胆道学会認定専門医・指導医

水流 弘文

日本外科学会専門医

日本消化器内視鏡学会認定専門医

日本消化管学会胃腸科専門医・指導医

医学博士（福岡大学）

奈良 博文

日本内科学会認定医

日本消化器病学会消化器病専門医

日本消化器内視鏡学会認定専門医

山崎 晃裕

日本内科学会認定医

日本消化器病学会消化器病専門医

倉田 智幸

日本内科学会認定医

非常勤医師

松元 淳 税所篤郎 松本美由紀 丸尾周三

小牧露子

内視鏡室 看護師

梅北裕司 山元真貴子 江口万美 有菌佳那

小橋口直美 隈元美幸

【外来診療日】 月曜～土曜日 午前（完全予約制）

月	火	水	木	金	土
山崎 税所	吉永 奈良	今給黎 水流	吉永 奈良	水流 山崎	交代制

診療、検査、投薬などは全て完全予約制です。

午後からは検査のみとなっております。

【診療状況】(2017年1月～12月)

外来患者数 初診 1,087名、再診 5,720名

入院患者数 706名

【活動】

- ・久木田学園看護専門学校
非常勤講師として講義開講 吉永 英希

【内視鏡検査件数】(2017年1月～12月)

検査名	件数
胃・十二指腸内視鏡検査	1,958
食道内視鏡検査	4
下部消化管内視鏡検査	900
小腸内視鏡検査	11
内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)	138
超音波内視鏡検査(EUS)	119
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(FNA)	8
IDUS	22

【多施設共同研究】

- ・Bilio-Pancreatic Stenting 研究会より
「非切除肝門部悪性胆道閉塞に対するメタリックステントの留置方法を比較検討する多施設共同無作為比較試験(片葉ドレナージ VS 両葉ドレナージ)」
「切除不能悪性腫瘍による胃通過障害に対する消化管ステント留置の有用性をカバーの有無により比較検討する多施設共同無作為比較試験」
「ERCP 後膵炎に関する多施設共同前向き観察研究」
- ・埼玉医科大学との共同研究、難治性疾患克服事業
「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」
- ・青少年における「疼痛又は運動障害を中心とする多様な症状」の受療状況に関する全国疫学調査

【内視鏡治療・処置件数】(2017年1月～12月)

治療・処置名	件数
上部消化管内視鏡的止血術	24
下部消化管内視鏡的止血術	11
経口イレウス管留置術	20
経肛門のイレウス管留置術	10
内視鏡的消化管異物除去(上部・下部)	10
内視鏡的静脈瘤硬化療法・結紮術(EIS・EVL)	6
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ粘膜切除術(EMR)	2
内視鏡的早期食道癌粘膜下層剥離術(ESD)	7
内視鏡的早期胃癌粘膜下層剥離術(ESD)	12
内視鏡的大腸ポリープ粘膜切除術(EMR)	187
内視鏡的早期大腸癌粘膜下層剥離術(ESD)	9
内視鏡下食道狭窄拡張術	11
食道ステント留置術	2
内視鏡下胃・十二指腸狭窄拡張術	11
胃・十二指腸ステント留置術	3
内視鏡的乳頭切開術(EST)	33
内視鏡的乳頭拡張術(EPBD)	2
内視鏡的胆道結石碎石術(EML)	14
内視鏡的胆道結石採石術	14
内視鏡的胆道ドレナージ(ENBD・ERBD)	74
内視鏡的胆道ステント留置術	12
内視鏡的膵管ステント留置術	2
内視鏡下胃瘻造設術(PEG)	26
胃瘻交換	41
内視鏡下軸捻転整復術	3
胃瘻閉鎖術	2
内視鏡的小腸結腸狭窄部拡張術	7
内視鏡下大腸ステント留置術	3

※学会関連は[研究実績]に掲載



循環器内科

部長 大場 一郎

【特色】

当科は鹿児島大学大学院医師学総合研究所心臓血管・高血圧内科学教室(大石充教授)から循環器内科スタッフとして派遣された三名の常勤医で構成されています。循環器疾患の外来・入院診療、他科から依頼の術前および心疾患精査、救急患者の対応を経胸壁・経食道心エコー、頸動脈エコー、下肢動静脈エコーなど超音波検査、運動・薬物負荷検査心筋シンチ、冠動脈CTを駆使し生理検査室、放射線科と連携のもと多様に診療をこなしています。

【人事・スタッフ】

平成30年度の循環器内科の診療実績について御紹介申し上げます。現在は部長大場一郎と、鹿児島大学医学部心臓血管・高血圧内科から派遣の志岐健三郎と下舞浩二が常勤医として勤務しています。その他に毎年院内または鹿児島大学研修ローテーションによる研修医を加えて外来・病棟の診療を行っています。超音波検査は主に生理検査技師の富吉裕児、森田修康他が行います。院内や外来、他院からの問い合わせを外来受付・看護師が対応し、患者様への治療が円滑に行えるよう皆が心を一つに協力しています。

【診療状況】

1) 外来診療

外来診察は三人の医師で新患、再来、術前他科依頼などを曜日変わりで担当しています。外来患者数は再来・新患併せて一日あたり30-50名程度で、再来患者様については待ち時間の解消のための予約制をとっています。鹿児島県下の病院やクリニックから心疾患の精査依頼や鹿児島医療センターなどから診療の依頼などで紹介され受診される患者様が最近増加している印象です。一方で病状が安定している患者様については自宅近くの施設への逆紹介を増やし病診連携を図っています。

高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病、狭心症・心筋梗塞など虚血性心疾患、陳旧性心筋梗塞後や拡張型心筋症など心筋疾患による慢性心不全、心房細動、上室性頻拍、症候性徐脈などの不整脈および弁膜疾患、下肢閉塞性動脈硬化症(PAD)や深部静脈血栓症(DVT)など下肢血管疾患、大動脈解離などの救急対応と循環器疾患全般の診察や治療を行っています。

当院における当科の特徴としては術前心機能評価および入院中の胸部症状出現などによる診察依頼などでの院内他科からの紹介の多さです。

冠動脈疾患の精査については冠動脈造影MDCT診断が放射線部のレベルアップによる解析の迅速化

で従来より大量かつ詳細な画像診断が可能になりました。併せて心筋シンチなど核医学検査による画像診断を放射線科医師と行うことで診断の精度向上を常に心がけています。当院では心臓カテーテル検査およびカテーテル治療は行いませんので、鹿児島大学病院・鹿児島医療センター・鹿児島市立病院・天陽会中央病院といった心臓カテーテル施設との緊密な連携によりスピーディな診断・加療を実現しています。また、上記の鹿児島市における循環器基幹病院と合同でカンファレンスや研究発表を行う機会も多く、先進医療の動向にも充分対応出来ます。

最近心房細動へのカテーテルアブレーション術を鹿児島医療センター、鹿児島大学病院心臓血管内科と連携してフォローすることが増えております。

2) 入院診療

最も多い症例は高齢者の慢性心不全の増悪により救急搬送されるケースです。循環・呼吸状態を改善させ内科病棟へ転棟し全身状態の改善をみて退院となります。ペースメーカー植え込み術はほぼ毎月1-2件のペースで行っています。整形外科など長期臥床化する症例が多いことから下肢静脈血栓症例は増加がみられ、放射線科と留置型下大静脈フィルターによる肺塞栓予防を積極的に行っています。

【平成30年度に向けて】

現在の診療内容をさらに充実させながら、鹿児島市立病院や大学病院、鹿児島医療センターといった最新機器や情報の豊富な施設との人的・物的交流をいっそう深めていきます。総合病院である当院の特色から循環器科に限らず幅広い疾患を経験する機会が多く、研修医の対応にも力を入れています。

【超音波検査件数】(平成29年度)

- ・心エコー : 約3,000件
- ・頸動脈エコー 経胸壁心エコー実施時にルーティンに行っています。
- ・下肢血管エコー 約300件

【冠動脈MDCT】

約150件



呼吸器内科

部長 岩川 純

今給黎呼吸器内科は平成28年度、川島先生を始め、新村、砂永先生、岡元先生と年度後半に産休から復帰した里村の5人体制でした。平成29年度4月からは人員が大きく変わりました。長年、部長として頑張っておられた川島先生は大学に転任され、砂永先生は鹿児島厚生連病院に異動となり、代わりに大学病院から岩川と亀之原が着任いたしました。岡元先生はご実家にお戻りになりました。留任した新村、里村とともに4人体制で業務にあたっております。平成30年2月から里村が産休にはいり、一時3人体制でしたが平成30年4月から新村先生が大学に転任となり代わりに萩原と南九州病院から大脇が加わり4人の医師で業務を担当しております。

私、岩川は2006年から5年間今給黎総合病院呼吸器内科部長として勤務しておりました。今回が2回目です。こちらに再任するにあたり下記のような当科の目標を設定いたしました。

「専門医としての自覚とサービスを提供し、患者様から、周囲の医療者から選ばれる呼吸器内科を目指す」です。

【当科の主な診療疾患】

- ・ 肺癌、胸部悪性疾患
- ・ 肺炎、呼吸器感染症
- ・ 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）
- ・ 間質性肺炎、びまん性肺疾患

呼吸器診療は主に上記の疾患の治療を行っております。肺癌の予後は依然として満足いくものではありませんが、近年の治療進歩は著しく、何とんでもトピックは免疫チェックポイント阻害薬です。二次治療だけでなく一次治療にも有効性が報告され、使用機会は確実に増えています。平成30年4月には3剤目の薬剤が上市され、更に続々と発売されていく予定です。ただし、決してすべての肺癌が治る夢の新薬ではなく、効果が高いとされる患者の選定が重要であり、適正に使用することが重要です。また抗癌剤とは異なる免疫関連の特殊な有害事象への対応も重要で、各科との密な連携が必要となります。

平成25年度から肺炎は日本人の死因第3位となりました。高齢化に伴い、肺炎に罹患する患者数は当面増加の一途をたどると思われまます。高齢者の肺炎に対しては予防も重要であり当科では積極的に肺炎球菌ワクチンの投与を行っております。しかし繰り返す嚥下性肺炎等、人生の終末期における治らない肺炎があるという認識は必要だと思います。

【外来・入院診療】

外来患者数および入院患者疾患内訳は、表に示す通りです。肺癌患者数が年々増加していましたが昨年度、入院患者数は減少しました。肺癌化学療法については繰り返し入院での治療を行わず、可能な限り外来化学療法を行うように努めた結果です。そのかわり特発性間質性肺炎を中心としたびまん性肺疾患が増多しました。間質性肺炎は先の細菌性肺炎とは全く異なり、肺が硬くなることで呼吸状態が悪化し、様々な呼吸管理や治療が必要になります。呼吸器内科でも治療は困難ですが他科では治療や診断も困難なため当科が治療に当たるべきものだと考えています。

外来患者数は新患者、特に紹介患者数が増多しましたが外来の延べ患者数は減少しています。軽症で呼吸器内科以外の内科でも対応できる疾患については逆紹介を行い地域で診ていただくようにした結果と考えています。

表1) 外来患者数

	延べ患者数	新患者数
平成26年	6,398	522
平成27年	5,548	553
平成28年	6,049	618
平成29年	5,306	665

表2) 入院患者疾患内訳

	26年	27年	28年	29年
肺癌・胸部悪性疾患	356	337	369	200
肺炎	43	51	44	54
びまん性肺疾患	25	28	24	78
気管支喘息	9	5	4	18
慢性閉塞性肺疾患	12	9	11	12
肺結核	5	13	4	5
その他	65	49	71	174
合計	515	492	527	566

表3) 気管支鏡数(呼吸器外科・内科合算)

	件数
平成26年	91
平成27年	105
平成28年	101
平成29年	170

※学会関連は[研究実績]に掲載



神経内科

部長 長堂 竜 維

当院神経内科は鹿児島大学神経内科・老年病学講座を母体とした医局で、丸山・長堂・林・湯地・小田は同科の出身または同科在籍中の医師です。この5人と鳥取大学脳神経内科出身の甲斐を含めた6人が当科の常勤医師で、この6人のうち丸山・長堂・林・甲斐の4人が日本神経学会神経内科専門医で、湯地・小田も今後同資格を取得予定です。加えて鹿児島大学から6人の非常勤医師にも応援をいただき、頭痛・めまい・しびれ等の症状や脳卒中・パーキンソン病・アルツハイマー型認知症等の一般神経内科外来から急性期神経疾患の救命救急医療・急性期リハビリテーションまでの神経内科診療をこなしています。鹿児島大学の神経内科・老年病学講座が日本においても最も規模が大きく且つ歴史のある神経内科教室のひとつであることもあり、鹿児島県は他の県に比べ神経内科医の非常に多い県です。しかし、神経内科医6人を常勤として抱え神経救急を行っている私立病院は全国的にもそう多くはなく、鹿児島県における神経内科診療に多少なりとも貢献できているものと私どもは自負しております。

次に今年度の診療実績について書かせていただきます。まず入院患者様ですが、594名（2017年1月1日～12月31日）が一年間で入院されました。その中では脳血管障害・感染症・パーキンソン病の3疾患が大きな割合を占めています。神経内科という科の性格上、予定入院に比べ圧倒的に緊急入院が多いことを考えると、ほぼ毎日1.5人の入院患者様を平均的に受け入れてくれる病棟スタッフには頭の下がる思いがします。外来患者数は、一年間の初診患者数が約1,300人、外来患者総数が約1万人で、一日平均外来患者数は約35人でした。病棟は別館2階南病棟42床で神経内科と皮膚科の混合病棟となっており、皮膚科の三好先生には時間を問わず的確なご指導をいただき、神経内科一同感謝の気持ちでいっぱいです。

病棟スタッフは稲森師長以下26名の看護師が激務をこなしながらも、笑顔を絶やさず日夜仕事に励んでいます。神経内科は他科に比べ、ご高齢の患者様やADLの低下した患者様も多い中でクオリティの高い看護・介護を実践し

てもらい、医師にとって本当に働きやすい病棟です。

外来は有能で気配りのできる医療クラークの片山が、6人の常勤医師と6人の非常勤医師を上手におだてながら、神経内科外来のすべてを取り仕切っています。

日常診療以外の業務としては、丸山は副院長としての多くの院内・院外激務に加え、各種研究会の世話人、血液凝固・神経関連の講演を行い、長堂は鹿児島大学医学部非常勤講師として医学部学生講義と久木田学園看護専門学校での授業、臨床研修医対応、各種講演会などを行っています。また林・甲斐・小田の3名は訪問診療も行っています。このように全員が医療以外にも多くの雑多な用事を両手いっぱい抱えながらコマネズミのように毎日走り回っています。

以上、簡単ではありますが今給黎総合病院神経内科の日常をご紹介します。ありがとうございました。

【スタッフ】

丸山 芳一 副院長

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、日本神経学会評議員
愛媛大学医学部卒

長堂 竜維 神経内科部長

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、鹿児島大学臨床教授、
鹿児島大学医学部非常勤講師、
日本神経学会評議員・代議員、
日本神経学会九州地方会世話人、
久木田学園非常勤講師、鹿児島大学医学部卒

林 茂昭 在宅医療部部長

日本神経学会専門医、日本内科学会認定医、
日本内科学会総合内科専門医
鹿児島大学医学部卒

甲斐 太 在宅医療部部長

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、鳥取大学医学部卒

湯地 美佳：鹿児島大学医学部卒

小田 健太郎：鹿児島大学医学部卒

非常勤医師

丸山 征郎 (血管病) 有村 由美子 (電気生理検査) 橋口 照人 (神経内科、糖尿病)
 荒田 仁 (神経内科) 橋口 良也 (頸部血管超音波検査) 吉村 道由 (電気生理検査)

【診療状況】(2017年1月1日～12月31日)

【外来患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初診	94	102	122	116	97	104	129	113	100	109	109	98	1,293
再診	749	709	805	788	752	775	745	789	787	776	803	782	9,260
合計	843	811	927	904	849	879	874	902	887	885	912	880	10,553
1日平均初診患者数	4.5	4.7	5.1	5.3	4.4	4.3	5.7	4.7	4.5	4.7	5.0	4.3	-
1日平均再診患者数	35.7	33.0	33.5	35.8	34.2	32.3	33.1	32.9	35.8	33.7	36.5	34.0	-
1日平均患者数	40.1	37.7	38.6	41.1	38.6	36.6	38.8	37.6	40.3	38.5	41.5	38.3	-
診療実日数	21.0	21.5	24.0	22.0	22.0	24.0	22.5	24.0	22.0	23.0	22.0	23.0	271.0

(昭和会クリニック含)

【入院患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
入院	47	29	46	46	45	46	59	47	44	50	58	44	46.8
退院	36	36	41	42	42	49	49	52	42	48	54	53	45.3
在院	1,062	966	1,160	1,004	911	954	831	861	964	1,157	892	1,003	980
平均病床数	34.3	34.5	37.4	37.2	35.2	38.4	37.2	36.1	34.9	37	38.2	37.6	36.5
平均在院日数	25.6	29.7	26.7	25.4	25.1	24.3	21.3	22.6	24.4	23.4	20.4	24.0	24.4

【入院患者内訳】(2017年1月1日～12月31日)

脳血管障害	132	熱中症	4	貧血	2
感染症	64	末梢性顔面神経麻痺	4	薬物中毒	2
パーキンソン病	59	パーキンソン症候群	3	その他	26
てんかん	24	亜急性連合性脊髄変性症	3	総計	477
めまい	24	一過性全健忘	3		
筋無力症	16	筋萎縮性側索硬化症	3		
多発性硬化症	16	腰部脊柱管狭窄症	3		
脱水症	9	周期性四肢麻痺	3		
ギラン・バレー症候群	8	多系統萎縮症	3		
良性発作性頭位変換性めまい	8	脳炎	3		
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	7	腰椎圧迫骨折	2		
リウマチ性多発筋痛症	5	進行性核上性麻痺	2		
意識消失発作	5	脊髄小脳変性症	2		
視神経脊髄炎	5	全身性エリテマトーデス	2		
正常圧水頭症	5	低カリウム性ミオパチー	2		
レビー小体型認知症	4	低血圧発作	2		
頭痛	4	低血糖発作	2		
頭部打撲	4	糖尿病	2		

感染症の内訳

呼吸器感染症	33
中枢神経感染症	14
尿路感染症	12
消化器感染症	2
その他感染症	3

脳血管障害の内訳

脳梗塞	100
TIA	17
脳出血	5
脊髄梗塞	2
外傷性くも膜下出血	1
海綿静脈洞血栓症	1
脳出血後遺症	1
脊髄梗塞疑い	1
中脳梗塞	1
めまい	1
脳梗塞疑い	1
右中大脳動脈狭窄症	1

【対外活動】

丸山芳一

鹿児島県エイズ対策委員
鹿児島市医師会勤務医会役員

長堂竜維

鹿児島大学医学部臨床教授・非常勤講師
久木田学園非常勤講師
日本神経学会評議員・代議員
日本神経学会九州地方会世話人

【業績報告】

※学会関連は[研究実績]に掲載

【教育関連講義】

2017年1月5日～1月6日

鹿児島大学医学部 3年生
「内分泌系構造と機能」合計4回
長堂竜維

2017年4月11日～5月30日

久木田学園看護専門学校
系統看護学講義 脳・神経系 講義 合計7回
長堂竜維



外科 (肝臓・消化器・乳線・内分泌・小児・肛門)

部長 瀨之上雅博

今年度、外科の人員構成は、高取寛之郎先生が6月で転出され實 操次先生が着任されました。また下之園将喜先生のと1月～6月まで和田真澄先生が赴任され7月より櫻井俊秀先生が着任されました。野口智弘先生は変わらず外科の切り込み隊長を務めてくれています。

当科の守備範囲として救急も含めた一般外科と専門性がもとめられる腫瘍外科があります。また、消化器・甲状腺・乳腺外科という広い範囲の臓器を受け持っています。特に病院が“地域がん診療拠点病院”を標榜する限りは、診断から手術さらに術後の補助療法がシームレスに行われる必要があります。このため週一回の消化器カンファレンスを中心に消化器内科・放射線科・麻酔科・病理診断科との垣根のない症例検討を行っています。看護師・paramedical staffの参加もあり、情報共有に寄与しています。

また2か月に一回 cancer boardも行っており治療方針が複雑となった現在に多方面の考え方より治療を考える偏りのない治療を目指しています。

さらに牟禮 洋先生を中心に研修医の増員と研修の充実が図られており、このためにもカンファレンスは症例発表など研修のためにも重要なものとなっています。当科は、大学よりの病院実習生（ポリクリ）も週2～4名受け入れており、実際の患者様に接してもらいまた手術への参加もあり病院スタッフおよび患者様にお世話になっています。また最近、県外・県内の医学生の見学者が増加しており、当院に対する関心も増しているものと感じています。さらに新専門医制度が2017年より動き出しました。当院は外科・呼吸器外科が鹿児島大学病院外科領域専門研修プログラムに所属し、鹿児島において外科専門医育成に参加することとなりました。2018年度より新専門医制度は開始され鹿児島大学病院外科領域専門研修プログラムにおいて10名の外科専門医を目指す外科医が研修を受ける予定です。当院も専門医研修の場としてより良い環境を整えて行きたいと思っております。

また新病院移転については、あと二年を待たない時期となり具体的な新病院も見えてくるものと思われ期待は大きいものがあります。新病院に向けての実質的なシステム構築も必要と思っております。ロボット手術を含め外科の進歩をふまえた計画ができればと思っております。

近年、がんの治療法として今までの手術・放射線治療・化学療法という3つの柱に加え免疫療法とくに免疫チェックポイント阻害剤が大きなインパクトを示し4本目の柱となりつつあります。免疫療法の特徴は臓器特異性なくすべての癌腫に効果を示す可能性があること、作用機序より根治に近い

効果が得られる可能性があることと考えます。免疫療法の副作用は、化学療法の副作用と違い自己免疫疾患を誘導する特殊な副作用を発症します。このため当院でも免疫療法を行う領域の科と自己免疫疾患を担当する科で免疫療法関連会議を立ち上げ今後、多数導入されるであろう免疫療法を安全に行うため関連する科・コメディカルを含め横断的に対策を行っているところです。さらに国は新たにゲノム医療をがん治療の重要な手段として今後進めてゆく方針を示しています。ゲノム医療は、現在の臓器別治療から遺伝子の異常を癌の本質としてとらえ遺伝子パネルを用い個々の癌の遺伝子異常を解析し、その異常に対する抗がん剤・免疫療法などを探索する究極の個別化医療です。遺伝子解析技術は、驚異的な速さで進歩し、保険診療のなかでゲノム医療を実践できる時代がここ数年で来ると思っています。

全国手術症例登録システム（NCD）は、今後導入される新専門医制度において必須となり当院の症例もすべて登録されています。最近、化学療法の多様化に伴い様々な全国規模の臨床治験が行われています。当科も院内の倫理委員会の承認をえながら参加できるものへは手を挙げていこうと考えています。臨床治験は、その参加することによる病院評価の上昇もありますが、患者様への治療説明の徹底、経過観察の精度の向上など診療の質の向上も期待できます。当院が地域がん診療拠点病院である要件として患者様に十分な情報提供と患者様の意思の尊重が重要視されています。手術という治療を行う外科は、患者様の意思の尊重が難しいと感じることが多くあります。そのときコメディカルスタッフが患者様の思いを丁寧に拾ってくれていることに感謝しています。

また近年、高齢者の手術が増加し家族関係の問題・術後に行き先が決まらないなど社会的な問題に対応が求められことも多くなりました。地域連携室・事務の方々の協力なくしては手術をすることさえ難しいのが現実です。この場を借りて御礼申し上げます。

【人事】

勤務者

＜医師＞

継続・今給黎 和典、牟禮 洋、濱之上 雅博、野口 智弘

(転入)

和田 真澄 : 平成 29 年 1 月～ 6 月
 高取 寛之 : 平成 29 年 1 月～ 6 月
 櫻井 俊秀 : 平成 29 年 7 月～
 實 操次 : 平成 29 年 7 月～

＜診療アシスタント＞

手塚 あゆみ、上鶴 智美、福 和佳子

＜看護師＞

中村 唯子、村崎 まこと

【診療状況】

＜外来患者状況＞

平成 29 年の外来受診者総数（延べ）は 4,070 名であった。

その内訳は

初診患者：414 名、再診患者：3,656 名

＜入院患者＞ 525 名 / 年

【手術症例内訳】

全身麻酔症例 272 例
 脊椎麻酔症例 2 例

全麻症例 疾患部位	例数	悪性	良性	鏡視下
甲状腺	2	2		
乳	10	10		
食道	2	2		
胃	16	15	1	10
十二指腸・小腸	13	5	8	
結腸	30	30		20
直腸	8	8		
肝	16	15	1	3
胆	50	2	48	
膵	3	3		
ソケイヘルニア	59			57
大腿・内ヘルニア	4			
腹壁ヘルニア	6			
虫垂	23	1		20

※学会関連は[研究実績]に掲載

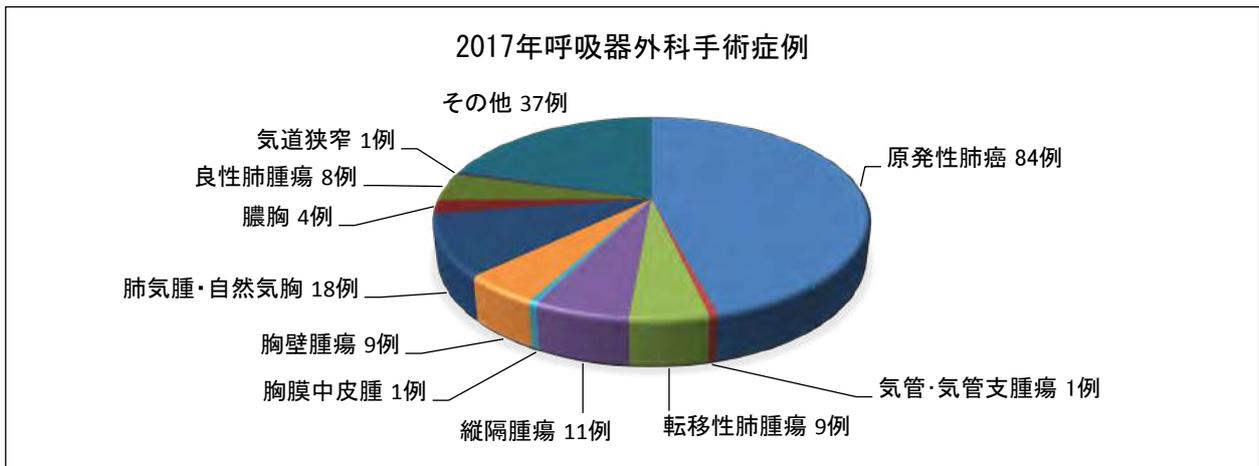


呼吸器外科

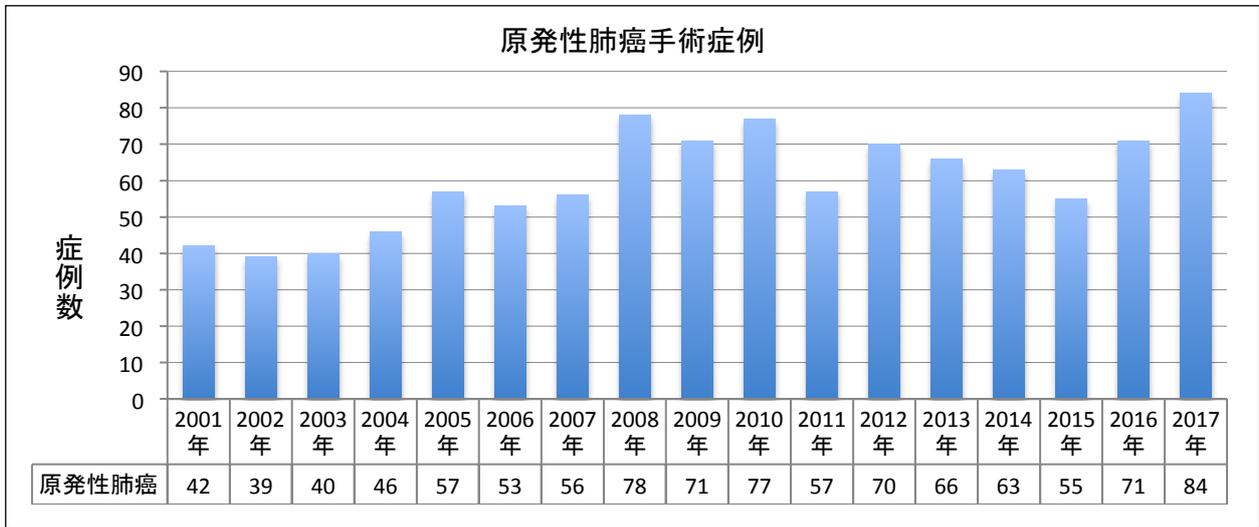
部長 米田 敏

日本呼吸器外科専門医合同委員会基幹施設
日本呼吸器内視鏡学会関連施設

今年度の年間手術症例は183例で、その内訳は肺癌84例、気管・気管支関連1例、転移性肺腫瘍9例、縦隔腫瘍11例、胸膜中皮腫1例、胸壁腫瘍9例、肺気腫・自然気胸18例、膿胸4例、良性肺腫瘍8例、気道狭窄1例、その他37例でありました。



肺癌のみを年次推移で見ると以下ようになります。



呼吸器外科部長・診療部長
米田 敏
日本外科学会専門医・指導医
日本呼吸器外科学会指導医
日本呼吸器外科専門医認定機構専門医
日本胸部外科学会認定医・正会員
日本呼吸器外科学会評議員
九州外科学会評議員
日本胸部外科学会九州地方会評議員
日本肺癌学会九州支部会評議員
鹿児島大学医学部臨床教授

呼吸器外科科長・副院長
今給黎尚幸
日本外科学会専門医・指導医
日本呼吸器外科専門医認定機構専門医
日本胸部外科学会認定医
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
日本がん治療認定医機構専門医
日本呼吸器外科学会評議員
日本胸部外科学会九州地方会評議員
日本肺癌学会九州支部会評議員

呼吸器外科医員
緑川健介
日本外科学会専門医

※学会関連は[研究実績]に掲載



整形外科・リハビリテーション科

部長 松 永 俊 二

整形外科の平成29年の活動状況を報告します。平成29年の整形外科の手術総数は1,062件と前年より150件増加しました。勤務医が1名減少したにもかかわらず手術件数が増加しとても忙しい1年でした。手術内容では上肢の手術と人工関節置換術などの関節手術が前年に比べ増加しました。高齢化に伴い骨粗鬆症関連の骨折手術も年々増加しています。脊椎外科では内視鏡を使用した小侵襲の手術が増えました。クリニックの患者数は平均約102名/日であり昨年度と変化はほとんどありませんでした。しかし、救急外来の対応件数は整形外科が圧倒的に多く、病院の過去最高数の救急車受け入れに貢献しています。入院患者総数は1,276名で平均稼働率は97.6%で常に満床状態でした。平均在院日数が33.1日と先年度より約10日増加しましたがより重症の患者が増えたことによります。学術活動は日本の主要学会はもちろん海外の学会でも発表を行い今給黎総合病院の学術的評価を高めることができました。当科は現在新専門医制度における指導医が4名勤務しており、新専門医制度における臨床研修医の受け入れも多数可能な状態であります。日本整形外科学会認定の臨床専門研修施設として今後益々臨床実地教育にも力を注いでいきたいと考えています。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉8名

今給黎尚典 (理事長)
松永俊二 (整形外科部長・クリニック副院長)
宮口文宏 (整形外科主任部長)
石田育男 (整形外科部長)
川畑直也 (整形外科科長)
南 周作 (整形外科科長)
土持 亨 (整形外科専門医)
岡田拓巳 (整形外科専門医)

渡邊真治 鹿児島大学医学部
平成29年8月8日

【主催セミナー】

静脈血栓塞栓症カンファレンス
平成29年2月8日 今給黎総合病院講義室
骨粗鬆症地域連携の会
平成29年11月16日 今給黎総合病院講義室
鹿児島外傷セミナー
平成29年12月18日 今給黎総合病院講義室

【人事異動】

入職 1名
南 周作 平成29年4月1日入職
土持 亨 平成29年4月1日入職

【症例検討会】

レ線カンファレンス 毎日
鹿児島脊椎症例検討会 1回/月

【整形外科初期研修医】

黒島知樹 平成29年1月1日～29年3月31日
瀧寄創平 平成29年4月1日～29年6月30日
川野ゆき子 平成29年7月1日～29年7月31日
太田 篤 平成29年1月1日～29年1月31日
佐保 卓 平成29年12月1日～30年1月31日

【診療実績】

昭和会クリニック
外来総数 27,438名 初診 4,010名 1日平均101.6名
今給黎総合病院
外来総数 2,727名 初診 942名 1日平均7.5名
入院総数 1,276名 平均稼働率 97.6%
平均在院日数33.1日
手術総数1,062件

【他病院、他大学からの研修】

前野孝明 産業医科大学
平成29年3月22日～22日
鬼丸 悠 金沢医科大学
平成29年3月29日～29日
塚脇崇充 弘前大学医学部
平成29年5月1日～1日
山下真弘 昭和大学医学部
平成29年5月2日～2日
吉村晃政 九州大学医学部
平成29年7月11日

※学会関連は[研究実績]に掲載

【手術内訳】(2017年1月1日～2017年12月31日)

<u>脊椎 (312件)</u>		踵骨骨折手術	8
後頭頸椎固定術	2	踵骨骨折偽関節後骨移植術	1
環軸椎関節固定術	2	足趾骨折手術	4
頸椎椎弓形成術	17	足趾骨折偽関節手術	1
内視鏡的頸椎椎間孔拡大術	1	<u>切断術 (8件)</u>	
頸椎後方固定術	28	下肢	8
頸椎前方固定術	3	関節手術 (149件)	
軸椎骨折骨接合術	3	肩鎖関節固定術	1
胸椎後方固定術	29	肩関節観血的整復術	1
胸椎椎弓切除術	2	人工股関節置換術	21
胸椎前方固定術	7	人工股関節再置換術	6
胸椎黄色靱帯骨化症手術	2	人工肩関節置換術	2
腰椎後方固定術	118	人工指関節置換術	1
腰椎前方固定術	4	股関節脱臼観血的整復術	1
内視鏡的脊椎固定術	3	人工骨頭置換術	73
化膿性脊椎炎手術	6	骨盤骨切り術	1
椎体骨搔爬術	2	膝関節視鏡下滑膜切除術	6
腰椎拡大開窓術	8	膝関節視鏡下半月板切除術	7
腰椎椎間板ヘルニア摘出術	59	脛骨高位骨切り術	1
腰椎椎間板骨嚢腫摘出術	1	人工膝関節置換術	16
経皮的髓核摘出術	3	単側人工膝関節置換術	1
椎体形成術(BKP)	7	人工膝関節再置換術	2
体外式脊椎固定術(ハローベスト装着術)	2	膝前十字靱帯再建術	7
転移性脊椎腫瘍手術	5	膝蓋靱帯修復術	1
<u>骨折 (406件)</u>		膝関節形成術	1
鎖骨骨折手術	30	<u>腱・神経手術 (46件)</u>	
鎖骨骨折偽関節手術	1	アキレス腱縫合術	1
上腕骨近位部骨折手術	30	腱縫合術(手)	3
上腕骨偽関節手術	1	腱鞘切開術	17
上腕骨外顆骨折手術	2	腱剥離術	2
上腕骨内顆骨折手術	1	腱移行術	3
上腕骨顆上骨折(含経皮的ピンニング)	6	神経移行術	1
上腕骨骨幹部骨折手術	3	肘部管症候群手術	1
上腕骨通顆骨折手術	7	手根管開放術	15
肩甲骨骨折骨接合術	1	神経縫合術	1
肘関節内骨折手術	4	四肢再接合術	2
肘頭骨折手術	9	<u>腫瘍手術 (3件)</u>	
橈骨遠位端骨折手術	64	骨軟部腫瘍手術	2
橈骨頭骨折手術	1	生検術	1
前腕骨骨折手術	6	<u>抜釘術 (119件)</u>	
手舟状骨骨折手術	1	<u>その他 (17件)</u>	
手指骨折手術	22	開放創デブリードマン・創傷処理	5
手指骨開放性脱臼整復術	1	滑膜切除術	2
骨盤骨折手術	11	複合組織移植術	1
股関節脱臼骨折手術	1	筋膜減張切開術	2
大腿骨頸部骨折手術	119	筋皮弁形成術	2
大腿骨骨幹部骨折手術	5	外反母趾手術	5
人工関節置換術後骨折手術	4	<u>感染症手術 (2件)</u>	
大腿骨顆部骨折	9	関節搔把術	2
膝蓋骨骨折手術	4		
脛骨開放骨折骨接合術	4		
脛骨近位部骨折手術	8		
膝関節内骨折骨接合術	2		
下腿骨骨折手術	14		
下腿開放骨折手術	1		
足関節脱臼骨折手術	18		
足根骨骨折骨接合術	1		
足舟状骨骨折手術	1		



形成外科

部長 高木 信介

【当科の歴史】

1983年(昭和58年)、当院に鹿児島県で初めて形成外科が設立され、初代部長に宇田川晃一先生が赴任されました。以来、昭和大学形成外科の関連施設として、鹿児島県の医療に携わってまいりました。

【診療内容】

形成外科とは

先天性および後天性の身体外表の醜状(形、色の異常)を対象とし、これを外科手技により機能はもとより形態(美容)解剖学的に正常(美形)にすることを手技とし、その目的は個人を社会に適応させるものである(鬼塚、1964)と定義されています。

形成外科は、体表を治す外科であり、他の外科には無い特徴があります。そして、日常生活に復帰(整容的、機能的)できることを最大の目的としております。

当科の主な仕事内容は、

1. Hand and Microsurgery(手とマイクロサージャリー)
2. Oculoplastic Surgery(眼形成)
3. Breast Surgery(乳房再建)
4. Vascular anomalies(血管腫・血管奇形)
5. Cleft Lip and Palate(口唇口蓋裂)
6. Maxillofacial Surgery(顎顔面外科)
7. Oncoplastic Skin Surgery(皮膚腫瘍外科)

1は日本手外科学会認定基幹病院で、整形外科の手外科医とともにチームで手術、専門外来、週1回ハンドセラピストとカンファレンスを行っています。

2は、顕微鏡下に眼瞼下垂、眼窩骨折、内反症、外反症、眼瞼悪性腫瘍・良性腫瘍、霰粒腫等を行っております。

3は、自家組織、インプラントによる乳房再建、乳輪乳頭再建、脂肪移植、健側乳房吊り上げ・縮小をニーズに合わせて行っています。

4は、放射線科と協力しDSA下に硬化療法(もしくは塞栓療法)、外科的治療(摘出術など)、内服治療、レーザー治療を組み合わせで行っております。

5は、術前顎矯正、口唇鼻形成術、口蓋形成術、歯肉骨膜形成術、顎裂部骨移植、2次修正、骨切り、言語治療等、総合的な治療を行っております。

6は、先天異常から顎変形症に対する骨切り・骨延長から小耳症、顔面裂などの治療まで幅広く行っております。

7は、良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍、悪性軟部腫瘍まで幅広く治療を行っております。

Aesthetic and Functional Surgery(整容機能外科)として日々治療を行っております。

【スタッフ紹介】

高木 信介(たかぎ しんすけ)

2002年 昭和大学医学部卒業

2002年 昭和大学形成外科学教室入局
昭和大学病院、毛山病院(高知)、
荏原病院(東京)、藤枝市立総合病院(静岡)、
埼玉県立小児医療センター、
昭和大学横浜市北部病院勤務

2008年～今給黎総合病院形成外科勤務

2010年4月～現職

形成外科専門医 手外科専門医
日本創傷外科学会専門医 皮膚腫瘍外科分野指導医
小児形成外科分野指導医 日本褥瘡学会認定師
医学博士

日本形成外科学会評議員
日本マイクロサージャリー学会評議員
日本血管腫血管奇形学会評議員
九州マイクロサージャリー研究会世話人
鹿児島手外科研究会世話人
九州重度四肢外傷 peer review 会議世話人

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会
日本手外科学会、日本マイクロサージャリー学会
日本血管腫血管奇形学会、日本口蓋裂学会
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
日本頭蓋顎顔面外科学会、日本褥瘡学会
日本皮膚悪性腫瘍学会、日本臨床皮膚外科学会
日本創傷外科学会、日本美容外科学会
日本美容医療協会

小坂 健太朗(こさか けんたろう)

2010年 千葉大学医学部卒業

2012年4月 千葉大学形成外科学教室入局

2017年10月～2018年3月今給黎総合病院勤務

日本創傷外科学会、
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会

藍 嵐(らん らん)

2014年 鹿児島大学医学部卒業

2016年4月 昭和大学形成外科入局

2017年10月～今給黎総合病院勤務

所属学会

日本形成外科学会

蓑原 沙和 (みのほら さわ)
 2015年 神戸大学医学部卒業
 2017年4月 昭和大学形成外科入局
 2017年4月～2018年3月 今給黎総合病院勤務

非常勤医師
 門松 香一(かどまつ こういち)
 昭和大学形成外科 主任教授
 春山 勝紀(はるやま かつのり)
 春山クリニック院長
 有村 和子(ありむら かずこ)
 日高病院形成外科
 泉 朝望(いずみ あさみ)
 歯ならびの歯医者さん 院長
 三浦 真弓(みうら まゆみ)
 言語聴覚士

【講義】

九州形成外科顔面骨折セミナー講師 高木信介
 原田学園言語聴覚療法科 形成外科 高木信介

※学会関連は[研究実績]に掲載

【診療状況 (2017年1月～12月)】

外来診療 外来初診患者数 1,747名
 入院診療 入院患者数 296名
 手術件数
 入院手術件数 518件
 外来手術件数 358件

手術内容区分	入院手術件数			外来手術件数			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	80	42	21	1		5	149
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で全身管理を要する非手術例							
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	3		1				4
顔面軟部組織損傷	1		2			1	4
顔面骨折	46			1			47
頭部・頸部・体幹の外傷	1		1				2
上肢の外傷	8	29	9			3	49
下肢の外傷	10	4	4			1	19
外傷後の組織欠損(2次再建)	11	9	4				24
II. 先天異常	25		6			5	36
唇裂・口蓋裂	6						6
頭蓋・顎・顔面の先天異常	9		5			5	19
頸部の先天異常			1				1
四肢の先天異常	3						3
体幹(その他)の先天異常	7						7
III. 腫瘍	84	13	77	1	2	291	468
良性腫瘍(レーザー治療を除く)	52	12	57		2	276	399
悪性腫瘍	7	1	12	1		8	29
腫瘍の続発症	1						1
腫瘍切除後の組織欠損(一次再建)	15		6			3	24
腫瘍切除後の組織欠損(二次再建)	9		2			4	15
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	21	1	16	1		12	51
V. 難治性潰瘍	20	7	23		1	2	53
褥瘡	6		14			1	21
その他の潰瘍	14	7	9		1	1	32
VI. 炎症・変性疾患	18	3	48		3	25	97
VII. 美容(手術)	2		1		1	4	8
VIII. その他	6	1	3		1	3	14
Extra. レーザー治療							0
良性腫瘍でのレーザー治療例							0
美容処置でのレーザー治療例							0
大分類計	256	67	195	3	8	347	876



脳神経外科

部長 西澤輝彦

【特色】

脳神経外科は当院の総合病院化に伴って平成元年に開設されました。平成の時代と共に四半世紀を越える歴史を刻み、微力ながら脳血管障害の外科的治療頭部外傷治療を中心に地域医療に貢献してきました。特に鹿児島で最も早くからカテーテルを用いた脳神経血管内治療を手がけ、脳動脈瘤の瘤内塞栓術や頸動脈狭窄症に対するステント留置術、頭蓋内脳血管の拡張術など虚血性脳疾患に対する血行再建術などを鹿児島の主導的施設として積極的に取り組んで来ました。

この数年は開業医の先生との連携が進み、未破裂脳動脈瘤や診断が難しい脳血管障害症例の確定診断や根治術の適応判定に関して、脳血管造影や脳血流検査などによる精査、治療の紹介が急激に増えています。

当院は年間3000台近くの救急車を受け入れる救急病院でありその中で外傷系疾患、特に複数の領域に亘る高エネルギー外傷や多発外傷などの重症の患者様が多いのも特徴です。多発外傷は複数科による迅速なチーム医療が必要で整形外科、形成外科、胸部外科、麻酔科などと良好な関係のもと治療に当たっています。市立病院の新築移転や米盛病院の外傷センター創設により重症例は減った印象にありますが、依然として多くの外傷症例の受け入れを行っています。

急性期の脳血管障害に関しては減少傾向ですが、今後は脳梗塞に対する血栓回収療法の体制作りも行っていく予定です。病院規模や救急車の搬入台数、手術件数から言って3～4名体制は必要な状況でありますので、今後も大学からの増員を要請して行きたいと思っています。

また医学教育の面からは初期研修医の受け入れのみならず鹿児島大学の医学生の実習受け入れも行っています。大学からは有田教授に月一回来院いただき神経内科、放射線科との脳神経カンファレンスを行い、脳神経外科のみならず脳神経全般の画像診断を中心にレベルアップを図る努力を行っています。

【人事・スタッフ】

平成28年10月からは貞村祐子先生が大学病院の救急部から赴任されました。鹿児島の女性脳外科医の先駆けで救急、手術に十分な経験を積んでいますが、さらに脳血管内治療専門医も目指しており、血管内治療にも積極的に取り組んでいる俊英です。

また4月からは元鹿児島市立病院副院長、脳神経外科部長の平原一穂先生に週一回、火曜日に外来と手術指導をお願いしています。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉

【部長（副院長、医療情報システム管理者兼任）】

西澤 輝彦（平成3年10月～）

1979年 鹿児島大学医学部卒業

1983年 鹿児島大学大学院単位取得退学

2013年 鹿児島大学医学部臨床教授

〈取得資格〉

医学博士

日本脳神経外科学会指導医

日本脳神経血管内治療専門医

日本脳卒中学会治療専門医

鹿児島市立病院非常勤医師

PNSL インストラクター

(Primary Neurosurgical Life Support)

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、

脳卒中の外科学会、日本脳神経血管内治療学会、

日本小児脳神経外科学会、

日本脳神経外科コンGRESS、脳ドック学会他

【脳神経外科 医長】

貞村 裕子（平成28年10月～）

2004年 鹿児島大学卒業

〈取得資格〉

日本脳神経外科学会専門医

〈非常勤医師〉

有田 和徳 鹿児島大学脳神経外科教授

平原 一穂 元鹿児島市立病院副院長、
脳神経外科部長

寺田 耕作 串木野脳神経外科センター

【診療実績】入院患者疾患別分類（2017年1～12月）

脳腫瘍	グリオーマ	1
	髄膜腫	1
	頭蓋咽頭腫	1
	転移性脳腫瘍	4
	合計	7
血管病変	クモ膜下出血（破裂脳動脈瘤）	8
	クモ膜下出血（原因不明）	1
	未破裂脳動脈瘤	32
	AVM / AVF	8
	高血圧性脳出血	21
	脳梗塞	9
	動脈狭窄（閉塞）	38
	モヤモヤ病	6
	合計	123
慢性硬膜下血腫	合計	30
頭部外傷	頭蓋骨骨折	1
	急性硬膜外血腫	1
	急性硬膜下血腫	9
	脳挫傷	20
	その他	18
	合計	49

小児神経外科	水頭症	5
機能的脳神経外科	てんかん	2
	不随意運動	1
	その他	3
	合計	6
感染症	その他	1
その他	合計	17

合計 243人

【手術症例】（2017年1～12月）

開頭術	腫瘍 摘出術	3	
	動脈瘤	クリッピング(破裂)	2
		クリッピング(未破裂)	2
		合計	4
	血管吻合術	直接的血管吻合術	1
	開頭血腫除去術	脳内血腫	2
		硬膜下血腫	2
合計		4	
合計	合計	12	
穿頭術	硬膜下血(水)腫洗浄術	50	

短絡術	L-P シヤント	7
	その他	1
	合計	8
頭蓋骨形成術		3
血管内手術	動脈瘤 coiling	10
	血管形成術 (PTA)	6
	血管形成術 (STENT)	12
	その他	6
	合計	34
その他		2

合計 109件



産婦人科

部長 加藤明彦

【診療内容・特色】

当院の産婦人科は、産科・婦人科一般診療を行っています。

産科領域では、通常の産科外来に加え、当院に新生児内科があることから地域周産期母子医療センターとしてリスクのある妊婦さんの妊娠・分娩管理や一次施設からの母体搬送の受け入れを行っています。

婦人科領域では、子宮癌検診や月経困難症・更年期障害などの一般外来診療、良悪性の婦人科腫瘍の治療（内服・手術療法）ならびに女性の下腹部痛などの婦人科救急疾患の対応も行ってまいります。

【人事・スタッフ紹介】

今年度は4月1日から兒島信子医師を常勤医師として迎え、常勤医師4名となっております。また、2月1日から中間恵美子医師が鹿児島市立病院へ異動となり、2月1日から2月28日まで鹿児島市立病院より小齊平千世佳医師に、3月1日から3月31日まで戸田薫医師に非常勤医師として勤務頂きました。平成30年度は寺原医師、兒島医師、加藤医師、中間医師の四人体制で診療を行っていく予定です。

【診療状況】（2017年1月1日～12月31日）

産科

入院総数 219件
分娩件数 159件
（うち帝王切開 82件、その他産科手術 5件）
母体搬送125件（非緊急を含む）

婦人科

入院総数 202件
手術件数 85件

卵巣腫瘍摘出術	10件
付属器切除術	30件
円錐切除術	8件
筋腫核手術	6件
腔式子宮全摘術	7件
腹式子宮全摘術	19件
腹腔鏡下子宮全摘術	7件
拡大子宮全摘術（開腹）	1件
その他	14件
腹腔鏡下手術	26件

（上記子宮全摘術、卵巣・付属器手術を含む）

【院外教育活動】

加藤 明彦

- 久木田学園看護専門学校 看護科
母性看護学・女性生殖器 40時間

【資格取得】

ALSO(プロバイダーコース)
寿島 恭子

プラクティカルCTG判読スペシャリスト
1st認定者：根元 すがえ
2nd認定者：胡摩窪 さやか、平田 恵美

NCPRインストラクター
松本 千恵美

【平成30年度の計画】

平成28年4月から非常勤医師として、平成29年4月からは常勤として兒島医師に勤務いただき、さらに婦人科腹腔鏡手術の件数も徐々に増えてきています。今後も、婦人科手術に取り組むと共に、癌治療も引き続き行って参ります。

産科は、今後も地域周産期母子医療センターとして、院外は鹿児島市立病院・鹿児島大学病院ならびに地域の医療機関の先生方と連携し、また院内では新生児内科はもちろん、他科とも協力しつつ、合併症妊娠などのハイリスク妊娠の管理を行っていかれると思います。



新生児内科

部長 丸山 有子

当院 NICU は平成 9 年に開設されました。平成 29 年は 20 周年となります。

【診療内容】

当院の NICU・GCU は、NICU：9 床、GCU：10 床の合計 19 床の、県内では鹿児島市立病院 NICU に次ぐ規模の新生児医療施設であり、当院出生の低出生体重児に対して急性期管理から Growing Care および Family Care を行いつつ、鹿児島市立病院などの三次施設で急性期管理を受けた超低出生体重児に対しても、Growing Care、Family Care を提供しています。

新生児フォローアップ外来は、当院などの NICU を退院した Baby 達の発育発達をフォローしてゆく外来です。キーエイジでの発達・知能テストもを行い、発達支援の要否について家族と話し合う場となっています。

【診療の担当】

医師 3 名、看護師 36 名（認定看護師 1 名）、助産師 3 名、保健師 4 名、作業療法士 0 名、理学療法士 1 名、メディカルクラーク 1 名、ナースアシスタント 1 名で日々の業務を行なっています。

NICU・GCU 及びフォローアップ外来業務は、新生児内科部長の丸山有子と徳久琢也と緒方知佳の 3 人体制で行なっていましたが、緒方先生が 5 月に産前の休暇に入られるにあたり、熊本市の福田病院に勤務されていた鹿児島市立病院新生児内科所属の佐藤恭子先生に異動していただき、6 月以降も 3 人体制となりました。

フォローアップ外来には、鹿屋医療センターの井之上寿美先生も来てくださり、4 人で週 5 日を担当しています。

また、夜間当直業務は、当院と鹿児島市立病院新生児科の医師で担当しています。

ハイリスク児の発達知能検査（新版 K 式発達検査・WISC-IV）は、吉永明美臨床心理士により行なわれています。

月 1 回の療育指導外来には、埼玉医科大学総合医療センター カルガモの家から奈須康子先生に来ていただいています。

毎月 1 回、鹿児島大学小児科河野嘉文教授に NICU、GCU の回診をお願いしています。

【入院状況】（グラフと表を参照）

総入院数児数と体重別入院児数の経年推移をグラフ・表 1 に、入院経路別入院児数を表 2 に、人工呼吸管理患者数を表 3 に示しました。

【外来状況】

➤ フォローアップ外来・シナジス外来

平成 19 年より開始した新生児内科の外来業務ですが、フォローアップ外来とシナジス外来の総受診者数は増え続けてきましたが、平成 24 年からはほぼ安定してきました。（表 4）。

➤ 発達検査

平成 29 年は 221 名が受けました。

➤ 療育相談外来

月 1 から 2 人ずつ行い、平成 29 年は 24 名が受けました。

➤ PIPC（早産児の両親学級）

今年は 24 回開催し、196 人の方が聴講していただきました。

【退院支援】

➤ 地域保健師と家族の面談を setting

NICU 入院中から保健師と家族の面談を企画し、その後の良好な関係作りを図っています。平成 29 年は 77 件のご家族と地域保健師との面談が当センターで行なわれました。

➤ ハイリスク新生児が退院する家庭への NICU からの退院前訪問

29 年は 2 件でした。

➤ ハイリスク児の家庭生活を支援するためのケース会議

複雑な事情をもつ家庭が増えています。そのような家庭へハイリスク新生児が退院する際には、福祉課や保健所、保健センター、児童相談所、訪問看護師を始め、民生委員や子育て支援 NPO の方などとの会議を主催し相互の情報交換をはかっています。今年は 5 件（5 回）行なわれました。

【教育活動】

➤ 看護学生の実習受け入れ

久木田学園看護専門学校	40 名
神村学園専修学校看護学科	36 名
タラ看護専門学校	34 名
鹿児島中央看護専門学校	16 名

➤ スタッフのための勉強会

週レクチャー：30 回開催	
鹿児島市立病院新生児内科部長 茨 聡先生のレクチャー	：12 回

【研修会の開催】

➢ 第4回NCPD講習会 9月
 インストラクター：徳久琢也、井上寿美、
 有村こずえ、吉川香奈

【研修受け入れ】

長崎みなとメディカルセンターより(看護師8名
 理学療法士1名)

【鹿児島県委託事業】

➢ 小児在宅療養ナビ「そよかぜ」への情報提供

※学会関連は[研究実績]に掲載

【入院児総数】

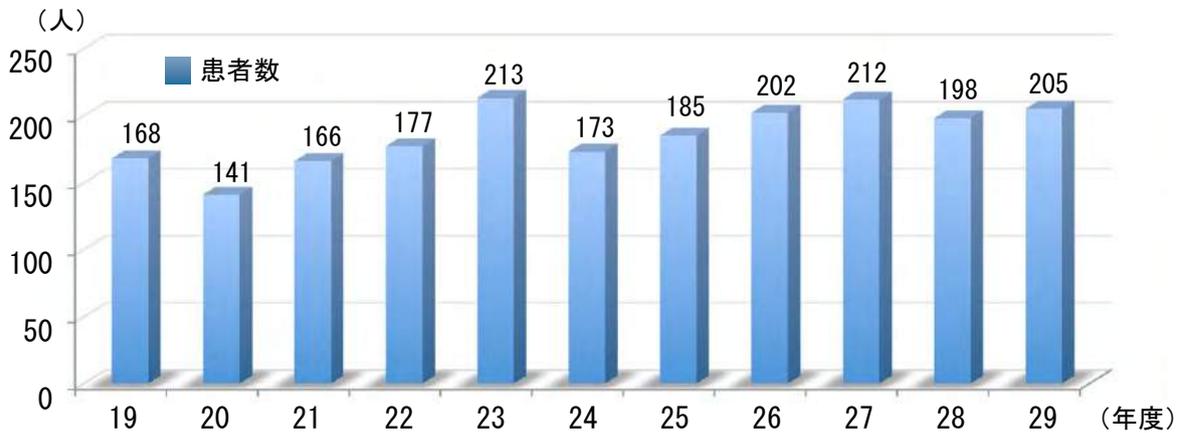


表 1：【出生体重別患者数内訳】

年(平成)	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
～999g	1	3	3	2	8	19	20	13	9	6	12
1000g～1499g	32	35	26	40	34	43	35	42	41	35	42
1500g～1999g	61	43	46	49	68	53	64	72	85	76	62
2000g～2499g	31	35	52	46	59	42	35	47	47	51	53
2500g～	43	25	37	40	44	15	31	28	30	29	36

表 2：【入院経路別患者数および院内出生率】

年(平成)	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
当院外来管理後の院内出生	26	9	29	28	36	17	22	32	42	41	38
母体搬送後の院内出生	51	42	39	47	43	20	48	49	38	51	61
市立病院より新生児搬送	75	66	66	80	105	118	100	109	123	91	90
大学よりgrowing care入院	3	3	6	1	9	9	10	0	0	6	8
他院よりの新生児搬送	13	23	24	21	20	9	5	12	9	8	8
院内出生率(%)	45.8	36.2	41.4	42.3	37	10	37	40	38	47	48

表 3：【人工呼吸管理施行患者数】

年(平成)	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
人工呼吸管理施行数(nasal CPAP)	15	19	12	44	33	49	46	55	55	66	64
人工呼吸管理施行数(挿管症例)	21	19	13	13	11	4	16	15	15	11	14
人工呼吸管理施行数	36	38	25	57	44	53	62	70	70	77	78

表 4：【フォローアップ外来+シナジス外来のべ受診者数】

年(平成)	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
のべ人数(人)	307	684	770	890	1219	1641	1365	1651	1316	1613	1541

※平成23までは年度で表示



小児科

部長 玉田 泉

【診療内容・特徴】

銚之原昌医師、堀之内兼一医師、堀之内泉医師、上野さやか医師、玉田泉で診療いたしました。

一般外来のほか、堀之内兼一先生は小児腎疾患患者のfollow、また玉田は小児内分泌疾患の専門外来を実施しています。市県からの委託による乳幼児健診、予防接種業務を行っており、また新生児マススクリーニング、学校健診・学校検尿や生活習慣病予防健診での精密受診者の受け入れや精密検査後のfollowも行っています。内分泌疾患の負荷試験も外来で年間20～30件ほど実施しています。在宅自己注射管理に対する療養指導を看護師さんが担ってくれるようになり、成長ホルモンや1型糖尿病治療もチーム医療として取り組めるようになってきました。より良い医療環境を提供できるように、小児科チームで頑張っていきたいと思えます。

入院実数については、昨年に比し若干の減少。例年とあまり大きな変化はありませんでした。糖尿病初発やコントロール目的、ほか内分泌疾患の精査での入院、急性糸球体腎炎や紫斑病性腎炎など腎疾患での専門性を求められる入院等があります。当院の特徴を生かし、役割を果たしていけたらと考えます。

職員の子供さん対象の病児保育室も設置後9年が経過し、年間のべ約700名の子どもさんを受け入れています。子育て世代の職員のバックアップのため、今後も貢献できたらと思えます。

【スタッフ紹介・講義 / 院外活動】

銚之原昌：小児科専門医、小児リウマチ専門医
鹿児島県小児科医会監事
鹿児島子どもの虐待問題研究会 会長
鹿児島県膠原病研究会 代表世話人
鹿児島小児保健学会役員
日本小児リウマチ学会役員
鹿児島文化サロン委員
鹿児島小児膠原病父母の会ひまわりの会委員
鹿児島市すこやか子ども元気プラン地域協議会委員

堀之内兼一：小児科専門医
日本補完代替医療学会学識医 学会理事
鹿児島市医師会学校腎臓病健診 委員
久木田看護専門学校 非常勤講師
European Univ. Vandrina 非常勤講師(漢方の講義)

玉田 泉：小児科専門医
日本糖尿病協会療養指導医
鹿児島大学小児科 非常勤講師

【診療状況】

外来診療 外来患者数延べ 10,080 人
入院診療 入院患者数延べ 1,250 人
(平均在院日数 5.8 日)

【診療実績】

入院疾患 (実数) 計 209 人
急性気管支炎・肺炎 (喘息増悪含む) 123 人
内分泌疾患
(成長ホルモン検査・糖尿病を含む) 20 人
急性胃腸炎 (ロタ腸炎他) 17 人
髄膜炎・けいれん 11 人
腎・尿路疾患 (IgA 血管炎含む) 5 人
その他 (膿痂疹・リンパ節炎他) 33 人

【院外活動など】

※学会、講演関連は[研究実績]に掲載

銚之原 昌

健康相談会

- ・2017年9月6日 南日本子ども健康セミナー
(鹿児島県小児保健協会・山形屋主催)
育児相談

そのほか

- ・鹿児島子どもの虐待問題研究会
会長として年4回開催
- ・鹿児島県小児科医会 監査として監査
- ・鹿児島文化サロン 委員として年3回開催 参加
- ・鹿児島市子ども子育て会議 委員として参加
- ・保育園 風のことり検診 (年2回)

堀之内 兼一

- ・鹿児島市医師会学校腎臓病検診 3次検診の受け入れ
- ・鹿児島市医師会学校腎臓病検診 委員、年1回委員会出席

【予防接種件数】（平成29年1月1日～12月31日）

	ロ タ ウ イ ル ス	B C G	ヒ ブ	イ ン フ ル エ ン ザ	お た ふ く	麻 し ん 風 し ん	B 型 肝 炎	日 本 脳 炎	四 種 混 合	水 痘	二 種 混 合	肺 炎 球 菌	ポ リ オ	合 計
1月	11	4	17	62	4	2	12	16	20	9	1	17	0	175
2月	12	1	22	4	5	7	11	9	15	6	0	21	1	114
3月	12	1	21	0	2	10	17	18	24	7	5	23	2	142
4月	12	8	23	0	4	7	12	18	20	6	0	23	1	134
5月	11	2	20	0	2	4	21	10	23	6	1	20	0	120
6月	10	10	23	0	3	16	15	17	22	11	2	23	0	152
7月	10	3	14	0	2	13	14	14	13	4	6	14	1	108
8月	14	5	21	0	1	5	22	18	22	4	5	21	1	139
9月	10	4	26	0	5	12	18	17	25	11	1	26	0	155
10月	7	6	15	60	0	5	11	14	14	5	0	15	0	152
11月	5	5	9	202	3	9	16	20	18	9	4	9	0	309
12月	5	5	15	174	14	11	7	21	18	9	1	15	0	295
総合計	119	54	226	502	45	101	176	192	234	87	26	227	6	1,995

玉田 泉

- ・ 鹿児島市医師会学校糖尿病検診 精査症例受け入れ
- ・ 鹿児島市小児生活習慣病予防検診 精査症例受け入れ
- ・ 新生児マススクリーニング（鹿児島県）クレチン症・副腎皮質過形成症疑い精査症例受け入れ
- ・ 1型糖尿病家族会「さくらんぼの会昭和会支部」指導医、年に2回定例会
- ・ 1型糖尿病サマーキャンプ指導医として参加
- ・ ターナー症候群家族会「MIRAIの会」、年に2回定例会参加
- ・ 鹿児島県小児慢性特定疾患対策協議会委員、年12回審査会、年一回委員会
- ・ 鹿児島県先天性代謝異常等検査連絡協議会委員、年1回協議会

・ その他

3月、8月には医師会主催のこども予防接種週間に参加して予防接種業務を行いました。

【平成30年度計画】

長年当院小児科で診療していただいていた銚之原昌先生が、6月いっぱいまで退職されます。7月からは銚之原先生は非常勤医師として勤務され、鹿児島大学小児科から島子敦史先生が着任される予定です。



泌尿器科

部長 立和田 得志

平成29年は、常勤医5名（中目、立和田、恒吉、米澤、上村）及び非常勤医（西山：前鹿児島大学泌尿器科准教授）にて診療を行いました。

診療する領域は、副腎、尿路（腎、尿管、膀胱、尿道）及び男性生殖器（前立腺、陰茎、精巣）の悪性腫瘍を中心に、良性疾患である前立腺肥大症や尿路感染症、尿路結石、女性の骨盤臓器脱（膀胱脱、子宮脱など）まで、内科的治療、外科的治療、放射線治療などを単独もしくは組み合わせて治療しています。

（急性腎不全、慢性腎不全に対する血液透析は入院患者様のみに行っており、外来維持透析は行っていません。）

当院ではCT検査まですぐに行える体制ですので、可能な限りその日のうちに診断、治療をたてるようにしています。

手術は腹腔鏡手術に力をいれており、腹腔鏡技術認定医が3名在籍し、平成29年4月からは鹿児島県内では最多となる4名体制となりました。3D内視鏡システムを導入しており、精度の高い手術が可能となり、早期腎癌に対する腎部分切除や筋層浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘術もほぼすべて腹腔鏡下に行っています。

前立腺癌に対しては、腹腔鏡手術から密封小線源治療（ブラキセラピー）を含む放射線治療まで行っており、個々の患者様にあった治療の選択が可能です。

【スタッフ紹介】

部長 中目 康彦

日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本透析医学会 認定医

科長 米澤 智一

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医
日本泌尿器内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医

部長 立和田 得志

日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
医学博士（鹿児島大学）

医長 上村 康介

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医

非常勤医師 西山 賢龍

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本泌尿器内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医
前鹿児島大学医学部泌尿器科准教授
医学博士（鹿児島大学）

部長 恒吉 研吾

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本泌尿器内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医
医学博士（鹿児島大学）

【2017年主な主要手術】

分類	手術	例数
前立腺	腹腔鏡下前立腺全摘術	53
	経尿道的前立腺切除術	35
	密封小線源治療	12
腎 副腎 尿管	腹腔鏡下副腎摘出術	1
	腹腔鏡下腎摘出術	9
	腹腔鏡下腎部分切除術	11
	腹腔鏡下尿管全摘術	16

分類	手術	例数
膀胱	腹腔鏡下膀胱全摘術+代用膀胱造設術	3
	腹腔鏡下膀胱全摘術+回腸導管造設術	1
骨盤臓器脱	腹腔鏡下仙骨脛固定術	3



眼科

部長 高橋 範雅

当科では白内障、網膜硝子体疾患、緑内障、加齢黄斑変性症など眼にかかわる様々な疾患の患者様へ、最新の医療機器やシステムを用いた高度かつ安全な治療を提供することを使命としております。

当院が総合病院である特色を生かし、糖尿病や心疾患など全身状態に不安のある患者様や高度な技術を要する難症例手術、また緊急を要する眼疾患にも入院での治療が可能です。

このため、県内全域の医療機関様からのご紹介患者様や離島地域からの患者様も多数来院されています。

当科年間手術数1500件の9割が、これら地域からのご紹介患者様です。

そのため術後は御自宅近くの紹介元の医療機関様へ速やかにお戻り頂く方針をとっており、患者様やその家族の皆様の通院に伴う負担を軽くするように努めております。

なお当院では毎日手術を実施しているため、白内障手術の順番待ち期間はほとんどありませんので、お急ぎの方はご相談下さい。また遠隔地からの患者様は術前検査のために何度も通院することが難しいため、初診日当日に手術をお受けになることも可能です。

また、紹介状をお持ちでない初診患者様でも診察が可能ですので、気になる症状がある場合はお気軽に受診して下さい。

【スタッフ紹介】

高橋 範雅 (たかはし のりまさ)
2005年昭和大学医学部卒業
(取得資格)
日本眼科学会認定眼科専門医
(所属学会)
日本眼科学会

塚越 美奈 (つかごし みな)
2012年旭川医科大学医学部卒業
(所属学会)
日本眼科学会

[外来]
看護師：青山・有村・稲森・窪田・笠置・川崎・中原・
中村・丸山

[検査]
視能訓練士：川畑(真)・川畑(直)・今吉・並松
眼科検査員：秋山

[事務]
受付：泊・赤塚・北原
秘書：日高・横手・木之下・岩元

【診療状況】

外来新患者数	889名
外来再診数	8,675名
入院患者数	1,052名

【手術件数】

白内障手術	931件
眼内レンズ縫着術	38件
硝子体手術	122件
増殖硝子体網膜症手術	17件
緑内障手術	24件
硝子体内注射	197件
その他手術	211件
合計	1540件

【講義】

久木田学園看護専門学校
病態学Ⅳ 眼科系 2016年9月 毎週金曜日
吉田 健也



気管食道・耳鼻いんこう科

部長 昇 卓 夫

【スタッフ】

福田勝則 部長

医学博士、日本耳鼻咽喉科学会専門医
鹿児島大学医学部卒

昇 卓夫 院長

医学博士、日本気管食道科学会専門医
耳鼻咽喉科専門研修指導医、補聴器相談医
鹿児島大学臨床教授、久木田学園非常勤講師
鹿児島大学医学部卒

鎌田知子 医師

日本耳鼻咽喉科学会専門医、信州大学医学部卒

非常勤医師：

宮崎康弘医師 今村洋子医師

【手術実績】 (2017年1月1日～12月31日)

手術総件数 610件

1) 耳科領域 77件

鼓膜チューブ留置術	16件
先天性耳瘻孔手術	7件
鼓膜形成術	4件
鼓室形成術	3件
鼓膜切開術	39件
その他	8件

2) 鼻科領域 387件

鼻内副鼻腔手術	155件
(内ナビゲーション手術137件)	
下鼻甲介切除術	119件
鼻中隔矯正術	75件
鼻粘膜電気焼灼術	30件
その他	8件

3) 口腔・上中咽頭領域 113件

口蓋扁桃摘出術	80件
扁桃周囲膿瘍切開術	13件
アデノイド切除術	11件
口蓋扁桃切除術	2件
その他	7件

4) 喉頭・気管(支)・下咽頭・食道領域 23件

声帯ポリープ・結節切除術	14件
気管切開	2件
その他	7件

5) 顔面・頸部等領域 10件

唾石(含顎下腺)摘出術	5件
唾液腺腫瘍	2件
その他	3件

【入院患者内訳(非手術例)】

(2017年1月1日～12月31日)

突発性難聴	62例
(治療効果判定)	
治癒 7例 11.3%	著明回復 8例 11.1%
回復 17例 27.4%	不変 27例 43.5%
; 1984年厚生省特定疾患突発性難聴研究班による判定	
めまい(メニエル等)	15例
その他疾患	10例
扁桃周囲膿瘍(炎)	22例
急性咽喉頭炎、扁桃炎等	21例
急性喉頭蓋炎	7例
その他疾患	4例
鼻出血	7例
その他疾患	12例
非手術例の入院総症例数	160例



皮膚科

部長 三好逸男

平成29年4月から三好 逸男（みよし はやお）、と瀬戸山 充（せとやま みつる）が担当しました。

【診療内容・特徴】

入院施設を有する総合病院皮膚科として、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、帯状疱疹、水虫、自己免疫性皮膚疾患、皮膚癌など、クリニックレベルから専門性の高度なレベルまで診療しております。

総合病院の皮膚科であるメリットを活かす院内他科紹介（特に形成外科）、周囲の医療機関との連携をスムーズに行い、滞りのない、より良い医療のご提供ができるよう努めております。

【今後の目標】

レーザーやケミカルピーリングなど美容皮膚科診療を立ち上げて、収益に寄与したいと考えています。また、爪の異常を訴える方、爪切りのみを希望される方、足のたこ・魚の目の治療希望の方の来院が当院は他院よりもかなり多いのですが、期待に応えているとは言えないため、今後整備が必要です（人、器具）。

【スタッフ紹介】

部長 三好 逸男

日本皮膚科学会専門医・指導医
医学博士

専門分野：アトピー性皮膚炎、
蕁麻疹などのアレルギー性皮膚
疾患、漢方

顧問 瀬戸山 充

日本皮膚科学会専門医・指導医
医学博士

宮崎大学医学部名誉教授
専門分野：皮膚病理、皮膚悪性
腫瘍特に悪性リンパ腫

非常勤医師 児浦 純生

日本皮膚科学会専門医・指導医
医学博士

非常勤医師 矢後 紗葵子

非常勤医師 吉福 明日香

日本皮膚科学会専門医・指導医
医学博士

【昭和会クリニック 外来診療体制】（2017年4月～2018年3月）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM	瀬戸山・三好	矢後・三好	瀬戸山・三好	矢後・吉福	児浦・三好	三好・非常勤医 (交代制)
PM	瀬戸山	瀬戸山	瀬戸山	瀬戸山	休診	

【外来患者・紹介患者数：最近5年間の動態】（病院・クリニック）

	平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成28年度		
	初診	再診	計												
4月	241	755	996	234	733	967	180	676	856	174	559	733	196	593	789
5月	235	736	971	219	727	946	285	647	932	195	639	834	357	732	1,089
6月	287	717	1004	230	721	951	214	718	932	221	694	915	237	699	936
7月	336	878	1214	256	819	1075	259	725	984	230	721	951	329	841	1,170
8月	371	775	1146	286	835	1121	258	741	999	319	715	1,034	292	920	1,212
9月	242	696	938	272	809	1081	172	641	813	198	677	875	231	777	1,008
10月	226	764	990	203	797	1000	237	703	940	226	635	861	266	821	1,087
11月	225	675	900	172	685	857	153	545	698	152	630	782	183	809	992
12月	239	728	967	158	689	847	160	628	788	173	650	823	198	815	1,013
1月	196	619	815	143	621	764	129	543	672	154	557	711	180	736	916
2月	178	635	813	173	607	780	176	566	742	157	555	712	191	717	908
3月	209	666	875	180	682	862	179	642	821	157	646	803	182	798	980
計	2,985	8,644	11,629	2,526	8,725	11,251	2,402	7,775	10,177	2,356	7,678	10,034	2,842	9,258	12,100
紹介患者数	227			262			285			297			376		

【入院患者数：最近5年間の動態】

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	新入院	延入院								
4月	5	187	6	56	7	92	3	64	3	89
5月	1	62	5	32	5	51	9	145	7	111
6月	10	110	10	97	3	57	6	98	4	76
7月	13	134	7	84	10	113	11	83	10	97
8月	10	211	6	147	4	76	5	109	7	72
9月	7	134	7	143	8	111	9	132	6	113
10月	8	94	7	111	8	143	2	47	3	129
11月	4	106	8	200	7	148	9	79	6	133
12月	10	98	3	74	9	157	4	127	5	80
1月	5	92	3	43	6	139	7	111	5	73
2月	1	89	9	93	3	171	2	99	1	42
3月	5	84	5	89	5	86	7	104	1	11
計	79	1,401	76	1,169	75	1,344	74	1,198	58	1,026

【手術件数】(2017年)

138件 (外来と入院)

【他科への貢献】

他科入院患者様の皮膚科診察依頼（ほとんど往診）はかなり多く、院内でトップの数です。具体的に申し上げますと、他科入院中の患者様の診察依頼（ほとんど往診）の件数は、2017年5月は初診36人、再診40人の計76人、6月は初診48人、再診48人の計96人、7月は初診43人、再診24人の計67人。1日あたりの最多紹介人数は16人で、当科では午後診療の主な時間をこれにあてています（往診→検査など実施→電カルに病歴、所見、診断、治療方針等を記入→処方や処置の指示→返書作成）。しばしば緊急依頼もあります。内容は薬疹（特に抗がん剤）、蕁麻疹、感染症、膠原病、金属アレルギー、アトピー性皮膚炎、褥瘡、熱傷、おむつ皮膚炎、足白癬、爪白癬、長期寝たきり患者様のスキンケアなど多岐にわたります。しかしこれほど時間と労力をかけた診療ですが、1年間に800件を超す診療患者数は病院の公式統計では皮膚科診察患者数に反映されず0であり、社保国保診療報酬0点と併せ、皮膚科の診療実績にはなりません。勿論、当院のどの科も同じように他科入院患者の診察依頼はありますが、当科は特にその数が多いこと、慢性の経過のため長期の繰り返し再診が必要になることが特徴です。

院内他科入院紹介

月	紹介数(人)
4	73
5	70
6	96
7	74
8	58
9	57
10	53
11	65
12	91
1	67
2	50
3	78
計	832

【講義】

久木田学園看護専門学校（皮膚科学総論・各論）

【皮膚科の現状と将来展望】

1. 皮膚科常勤1名体制であり、マンパワーの点からこれまでの診療を踏襲せざるを得ません。また、皮膚エコーやレーザーなど皮膚科医療機器が未整備の現状では、より高度な診療や美容の領域への参入は困難です。フットケアやケミカルピーリングなど可能なところから手をつけたいところです。特に皮膚科というしっかりした学問に裏付けられた上で行う美容は、皮膚科専門医がやるべき高度で深いものです。その上、万一、治療による予期しない皮膚障害、副作用への対処も皮膚科ならば十分可能です。以上は皮膚科専門医でなければ実施不可能な領域であり、他の多くの美容診療は真似できません。
2. 当院皮膚科として十分な診療を行うためには最低常勤2名が必要です。鹿児島大学皮膚科医局のマンパワーが充足された後は、関連病院としての当科への医師派遣も増員が可能と考えます。



麻酔科

部長 池田 耕 自

当院における麻酔科の診療内容は手術麻酔、集中治療室等における重症患者管理等です。

今年度における麻酔科の陣容は、5～6名の麻酔科常勤医と非常勤医7～9名（週4回1名、週3回1名、週1回5～7名）体制でした。さらに卒後研修医4名の研修を行いました。

平成29年度の当院における麻酔科管理症例数は2,442件でした（患者様の平均年齢は57.1歳 最高齢は101歳）。この内、緊急手術は183件（時間外104件）であり全体の7.5%（4.3%）程度を占めます。手術室は6室有り、最大で7件の同時並行手術が可能です。

各科別の麻酔件数は、整形外科 897 件（37%）、形成外科 228 件（9.4%）、泌尿器科 276 件（11.4%）、耳鼻咽喉科 227 件（9.4%）、外科 254 件（10.5%）、産科婦人科 172 件（7.1%）、歯科口腔外科 144 件（5.9%）、呼吸器外科 172 件（7.1%）、脳神経外科 34 件（1.4%）、眼科 17 件（0.7%）といった現状でした。

麻酔症例内訳	
総症例数（緊急）	2,422（183）
全身麻酔	1,665
全麻＋硬麻等	263
脊麻・硬麻等	488
伝達麻酔	0
その他	6

【各科別麻酔依頼件数】

	件数（%）	緊急
整形外科	897（37.0）	51
形成外科	228（9.4）	4
泌尿器科	276（11.4）	5
耳鼻咽喉科	227（9.4）	7
外科	254（10.5）	35
産科婦人科	172（7.1）	72
歯科口腔外科	144（5.9）	0
呼吸器外科	172（7.1）	2
脳神経外科	34（1.4）	7
眼科	17（0.7）	0
その他	1（0.1）	0

【ICU】

平成29年のICU入室件数は649件です。各科の内訳は以下の通りです。

【各科別 ICU 入室者数】

科名	入室者数
外科	125
呼吸器外科	144
整形外科	133
泌尿器科	109
脳神経外科	66
神経内科	7
産婦人科	9
麻酔科	6
循環器内科	9
呼吸器内科	15
形成外科	19
消化器内科	5
総合内科	2
耳鼻咽喉科	0
小児科	0
合計	649

麻酔科管理患者は6名で内訳は心肺停止蘇生後3名、急性薬物中毒1名、急性膵炎1名、敗血症性ショック1名でした。

【麻酔科医名】

池田 耕自（平成12年4月～）
 西山 淳（平成17年10月～）
 山下 順正（平成23年7月～）
 今給黎 南香（平成28年9月～）
 岡山 奈穂子（平成28年4月～）
 大平 直子（平成29年4月～平成29年6月）
 河村 翠（平成29年7月～平成30年2月）

研修医

寫寄 薫（平成29年4月）
 佐保 卓（平成29年5月）
 廣畑 ゆき子（平成29年6月）
 大田 篤（平成29年8月）



放射線診断科

部長 銚立博文

【診療内容・特色】

当院では画像診断機器として CT (64 列：2機、16 列：1 機械)・MRI (1.5T：2 機)、RI・血管造影装置 (Cone-beam CT)・透視装置 2 機・乳房 X 線装置・マンモトームなどを備えています。平成 23 年度に CT・MRI・RI 装置を更新し、PACS・フィルムレス運用にて画像診断を実施しています。救急患者に対する緊急 CT などの読影も on call 対応しています。また、院内で定期的に行われる整形外科・呼吸器・消化器・循環器・脳神経・泌尿器科系のカンファレンスに積極的に参加して画像診断・日常診療の質の向上に務めています。

画像診断情報を元にして低侵襲的な治療法を行う IVR (Interventional radiology：画像下治療) の手技を必要に応じて実施しています。主に原発性肝癌や転移性肝癌に対する肝動注化学 (塞栓) 療法 TA(C)E や膀胱癌などへの動注化学療法、外傷に伴う肝臓・脾臓・腎臓などの臓器損傷や咯血・血胸・腫瘍性病変からの出血に対するカテーテルを用いた動脈塞栓術、US/CT ガイド下生検・膿瘍ドレナージなどに取り組んでいます。その他、各診療科と協力して IVC フィルター留置・消化管ステント・四肢などの血管奇形に対する血管内治療なども行なっています。

【人事・スタッフ紹介】

部長 銚立博文

(資格) 日本医学放射線学会 放射線診断専門医
日本 IVR 学会 専門医・代議員
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
緩和ケア研修会修了医
医師臨床研修指導医養成講習修了医
医学博士(鹿児島大学)

医師 中村信哉 (平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月)

桑水流絵梨奈(平成 29 年 7 月～平成 30 年 3 月)

クリニック院長 大久保幸一

(資格) 日本医学放射線学会 放射線診断専門医
検診マンモグラフィ読影認定医
医学博士(鹿児島大学)

非常勤医師 中條正典(鹿児島大学)

瀬之口輝寿(鹿児島大学)

【検査件数】(2017 年 1 月～ 12 月)

	件数
一般撮影	41,495
X線CT	14,603
MRI	5,957
RI	420
DSA/AG	275
骨塩定量	551
透視・造影撮影	1,169

【主病名別入院患者数】

転移性骨腫瘍	12
肝細胞癌	8
食道癌	6
膵臓癌	3
肛門管癌	2
肺癌	2
転移性脳腫瘍	2
多部位のリンパ節転移	2
胸腔内リンパ節転移	1
結腸癌	1
骨盤部挫傷	1
混合型肝癌	1
鎖骨上リンパ節転移	1
膝蓋骨骨折	1
食物によるアナフィラキシーショック	1
仙骨骨折	1
前立腺癌	1
胆管癌	1
直腸癌	1
乳癌	1
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	1
腹腔内リンパ節転移	1
総計	51

【悪性新生物原発巣別患者数】

肝細胞癌	13
肺癌	7
食道癌	6
膵臓癌	3
直腸癌	3
結腸癌	2
胃癌	2
肛門管癌	2
前立腺癌	2
肝内胆管癌	1
混合型肝癌	1
子宮体癌	1
胆管癌	1
胆嚢癌	1
乳癌	1
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	1
総計	45

【IVR 症例内訳】

胆道 (PTCD, PTGBD, ステンツなど)	10
CT/USガイドドレナージ	20
CT/USガイド生検	15
動注化学療法	12
消化管 (ステント, PTEG)	10
IVCフィルター留置・抜去	2
CVポート留置・CV挿入	6
その他	31
緊急止血術 (TAE)	6
総計	121

【平成 30 年の計画】

平成29年度は、それまでの一人減員の状況から大学派遣が一人復活となり縮小していた業務内容を従来通りの入院病棟管理をやりながらの画像診断・IVRの体制整備をしてきました。全国的には画像診断機器の発達で読影業務の増加によりbed freeの施設が主流となっていますが、当院での診療スタイルを継承しながら日々努力しているところです。

最近は初期研修医の増加で当科へのローテート希望者も多く基本症例のティーチングファイルなどの体制整備を引き続き進めていく予定です。画像診断に関する業務においてはあいかわらず非常勤医師の応援を頂きながらの報告書作成となっておりますが、平成30年度は非常勤医減員となる予定であり新病院への移転も踏まえ常勤医増員を待ちたいところです。

平成29年度より日本専門医機構の新たなる施設認定も始まり更なる読影体制の整備・IVR症例の増加が必須となります。また、本年も初期研修医のローテーターが当科を選択しており引き続き放射線診断学・IVRの魅力を発信していきたいと思ます。

※学会関連は[研究実績]に掲載



放射線治療科

部長 中禮久彦

平成19年10月に当院での本格的な放射線治療のための「リニアックセンター」が開設されて、既に11年が経過いたしました。

開設当初年間300名目前であった放射線治療患者数は漸減し、最近では年間200名弱で推移しております。近隣施設での高性能治療装置の新規導入及び更新、当院診断医を含む放射線科常勤医の減少、それに新規化学療法への治療法移行等、様々な要因が関連しているのではないかと推察しております。私自身の力量不足も加わっていると感じ、最近では眼前の患者様のために自分ができる最善のことを心掛けながら奮闘しております。

当院の長年の懸案であった新築移転が2年後に交通局跡地に現実のものとなります。近年他院に比べて遅れをとっていた当院リニアックのハードウェアが3年後は時流に合わせて一気に最新のものにアップデートされるものと期待しております。現在のSRT(定位集光放射線治療)に加えて、新病院ではIGRT(画像誘導放射線治療)及びIMRT(強度変調放射線治療)が多くの患者様に適用されることが必須と考えます。

当院はコバルト60の時代からの実績では30年を超え、放射線治療認定医1名に加えて放射線治療認定技師3名及び放射線治療認定看護師1名を擁する鹿児島県地域がん拠点病院です。関係皆様方のご協力が実りまして、当県では大学病院に次いでJASTRO(日本放射線腫瘍学会)の施設認定を先日いただきました。

微力ながら鹿児島のがん患者様のお役に立てるべく、初診を忘れず、謙虚に日々精進していきたいと考えております。

【スタッフ紹介】

放射線治療科 部長 中禮久彦

〈経歴・資格〉

- 平成元年 宮崎医科大学卒業
鹿児島大学医学部放射線科入局 研修医
- 同 3年 国立がんセンター中央病院
放射線治療部レジデント(国内留学)
- 同 6年 一誠会 三宅病院
- 同 7年 今給黎総合病院放射線科
- 同 8年 鹿児島大学医学部放射線科 医員
- 同 9年 同上 助手
- 同 17年 同上 講師
- 同 18年 同上 退局
今給黎総合病院放射線科 治療部長
- 平成 9年 日本医学放射線学会 専門医(第 2999号)
- 同 12年 博士学位(鹿児島大学 医論第 1267号)
- 同 13年 日本放射線腫瘍学会 認定医(第 336号)
- 同 25年 研修指導者認定
(日本医学放射線学会 第 R07590R0号)

【平成29年 診療状況】

○主な原発巣別

リニアック照射新患数(全:171名) 内訳

呼吸器系(肺・気管・縦隔)	41名(内 肺:41名)
泌尿器系	32名(内 前立腺:20名)
消化管系(食道・胃・腸)	29名(内 食道:10名)
肝・胆・膵系良性(ケロイド)	28名
血液・リンパ系	17名
良性(ケロイド)	12名

○リニアック照射新患及び再患数 主な転移 内訳

骨	36名
脳	4名

○定位集光照射(SRT)新患数 内訳

肺:6名	脳:6名	肝:1名
------	------	------

○緊急照射新患数 内訳

精髓圧迫症候群:9名	上大静脈症候群:2名
------------	------------

○前立腺シード【全12名】

※学会関連は[研究実績]に掲載



緩和医療科

部長 松添大助、小玉哲史

【身体症状担当；松添大助】

《緩和ケアチームメンバー》

身体症状担当医師：松添大助

精神腫瘍担当医師：小玉哲史

専従看護師：早崎玲子、岩山友紀

保健師：植屋明代

MSW：吉國久子

薬剤部：財間富士子、前嶋一友

リハビリテーション部：木原智美、重水智子、

古市寿子、宮之原俊一

栄養管理部：田中美帆

2017年3月4日	鹿児島大学病院 コミュニケーション担当
2017年5月27-28日	県立薩南病院 気持ちのつらさ・せん妄・不眠担当
2017年6月10-11日	鹿児島大学病院 コミュニケーション担当
2017年7月17日	国立病院機構 南九州病院 コミュニケーション担当
2017年8月20日	済生会川内病院 コミュニケーション担当
2017年9月9-10日	県民健康プラザ鹿屋医療センター コミュニケーション担当

《講義》

鳳凰高等学校看護学科専門課程

2017年5月～6月

呼吸器疾患：10時間、緩和ケア概論：2時間

鹿児島医療センター緩和ケア研修会

2017年1月8日 呼吸困難

鹿児島大学緩和ケア研修会

2017年3月5日、6月13日 地域連携

南風病院緩和ケア研修会

2017年11月18日 呼吸困難

【緩和ケア依頼のべ件数（2017年1月～12月）】

	外来	入院
呼吸器内科	2	91
外科	10	71
呼吸器外科	1	37
整形外科		4
泌尿器科		8
婦人科	5	23
血液内科		5
消化器内科	4	23
放射線科		5
耳鼻科	1	
形成外科		2
循環器内科		1
他院	1	1
計	24	271

【精神腫瘍担当；小玉哲史】

2017年度の精神科診察のコンサルトは143件であり、診断・症状としては例年と同様せん妄が最も多く、うつ病や統合失調症などの既存の精神疾患によるコンサルトも多岐にわたっていました。認知症を合併している例が年々増える傾向にありますが、これは当科に限らず全診療科に共通する傾向と推測され、認知症への対応は当科のみの問題でなく病院全体で取り組むことが患者様の利益にもつながるものと考えます。精神疾患診療体制加算2の算定件数は26件で目標の年間20件以上は達成されていますが、達成継続には救急受け入れ数の維持もしくは増加が必要であり、他科との連携を密にしていける必要があります。

《講義》

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会

2017年1月9日

鹿児島医療センター

コミュニケーション担当

2017年2月12日

県立大島病院

コミュニケーション担当

【依頼内容】（複数重複あり）

	外来	入院
疼痛コントロール	19 79.2%	94 41.4%
疼痛以外の身体症状	11 45.8%	79 18.6%
メンタルケア	7 29.2%	226 68.2%
家族ケア		88 20.9%
倫理		4 1.5%
退院・転院支援	2 8.3%	51 18.8%

※学会関連は[研究実績]に掲載



病理診断科

部長 白 濱 浩

本年もスタッフの異動があり、新村の退職に伴い新人技師として瀬川が、また病理部の医療クラークとして西村が採用されました。瀬川は細胞検査士取得に向け勉強中で、また西村は医療クラーク以外に前職での免疫染色の知識を活かし貢献してくれています。

近年肺癌を中心として診断・治療に様々な変化が起こっていますが、今年度は免疫チェックポイント阻害薬の登場に伴うPD-L1検査が大きな変更点でした。進行癌の患者様から得られた「限られた検体でいかに必要な検査全てを迅速に行うか」が課題となりましたが、有村を中心に検体を管理し、ほとんどの症例では1週間程度で全ての結果を報告できるようになりました。今後はNGSの臨床応用に伴う検査体制の変化にむけて知識の習得・当院でどのようなことができるのか検討が必要です。

ここ数年にわたり行ってきた病理業務支援コンピューターシステムの構築も最終段階に入り、来年度からテスト運用開始までこぎつけました。当院で蓄積したノウハウを皆様に活用いただけるようになると嬉しい限りです。

【病理部スタッフ】

医師

白濱 浩

日本病理学会病理専門医

日本病理学会病理専門医研修指導医

鹿児島大学医学部臨床教授

日本臨床細胞学会細胞診専門医

臨床検査管理医

技師

徳永 敬之 (臨床病理技術士)

肥後 真 (臨床検査技師、国際細胞検査士)

田辺 尚子 (臨床検査技師、国際細胞検査士、鹿児島県臨床細胞学会理事)

有村 郷司 (臨床検査技師、細胞検査士)

瀬川 千春 (臨床検査技師)

西村 ゆかり (医療クラーク)

【院外活動】

1) 子宮の日キャンペーン活動 (実行委員: 田邊) H29. 4. 9

【病院施設の公開利用】

1) 6月20日 第140回鹿児島病理集談会 22名

2) 11月7日 第96回鹿児島県臨床細胞学会定例会 59名

【施設認定】

1) 日本病理学会研修登録施設

2) 日本臨床細胞学会教育研修施設

※学会関連は[研究実績]に掲載

組織診および細胞診検体数

	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年
組織件数	4,039	3,727	3,042	2,787	3,034
細胞診件数	2,689	2,453	2,461	2,521	2,744

組織診断統計(2017年1月1日～12月31日)

	生検		内視鏡切除など		切除		合計
	全件	悪性	全件	悪性	全件	悪性	
心血管	0	0	0	0	0	0	0
血液・骨髄・脾	12	2	1	0	4	1	17
リンパ節	15	9	2	2	162	43	179
鼻・咽頭・喉頭	94	2	35	0	3	0	132
肺	128	54	2	1	108	90	238
胸膜・縦隔・腹膜	13	8	1	0	16	2	30
口腔・唾液腺	11	0	1	0	51	1	63
食道	42	12	7	4	1	1	50
胃・十二指腸	321	28	12	8	18	13	351
小腸	4	1	1	0	12	3	17
大腸・肛門	190	43	240	15	81	34	511
肝・胆・膵	7	2	1	0	92	19	100
腎・尿路男性	138	72	121	71	188	110	447
女性器	73	11	22	5	105	13	200
乳腺	13	6	2	0	10	9	25
内分泌	0	0	0	0	5	1	5
中枢末梢神経	0	0	0	0	3	0	3
耳・眼	1	1	0	0	4	0	5
皮膚	133	19	1	0	488	32	622
骨・関節	34	11	0	0	8	0	42
軟部	18	8	0	0	109	4	127
その他	20	9	9	0	75	0	104
合計	1,267	298	458	106	1,543	376	3,268

細胞診診断統計(2017年1月1日～12月31日)

	陰性	擬陽性	陽性	材料不適	合計
婦人科(内膜)	103	7	3	0	113
呼吸器	218	40	176	13	447
消化器	45	6	9	1	61
泌尿器	509	128	88	0	725
乳腺	17	17	10	12	56
甲状腺	26	7	2	3	38
体腔液	205	16	63	1	285
リンパ節	3	2	9	0	14
その他	75	13	17	0	105
総件数	1,201	236	377	30	1,844

NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	AGC
748	54	9	40	24	7
SCC	Adeno. Ca.	AIS	その他悪性	検体不適	合計
10	5	1	1	1	900

総件数 2,744

- ・術中迅速診断：164件
(H25年：218件、H26年：193件、H27年：164件、H28年：139件)
- ・院外からの免疫染色依頼(パラフィン切片による)：1,710件
(H25年：1,639件、H26年：1,787件、H27年：1,942件、H28年：1,587件)



在宅診療科

部長 林 茂 昭

【診療科紹介】

平成29年12月現在、在宅診療科は常勤医師は2名在籍しており、通院が困難で自宅療養を希望されている方を対象に訪問診察を行っています。訪問診察には当科2名の医師が中心となり、他科医師の協力も頂き、また理学・作業療法士及び在宅医療部の保健師・看護師と連携を図りつつ訪問診察を行っています。基本的に、臨時往診は行わず、2回/月の定期訪問診察を行っています。

当科以外に、神経内科1名、総合内科3人の先生に御協力を頂き、日々の診療を行っています。

【スタッフ紹介】

常勤医

林 茂昭 日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医

甲斐 太 日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医

訪問診察医師

甲斐医師、林医師、生野医師(総合内科)、二木医師(総合内科)、三宅医師(総合内科)、白元医師(神経内科)、小田医師(神経内科)

【診療状況】

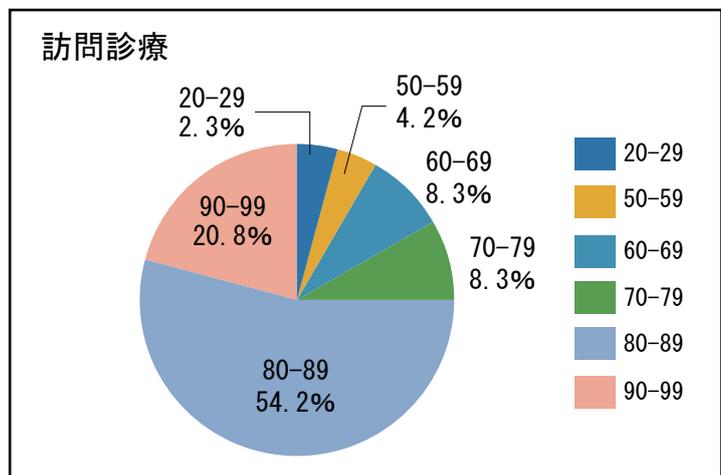
平成29年12月31日において当院在宅医療部の訪問診療を受けられた方は44名となっています。全身状態が悪化した場合は、在宅でそのまま対応する場合もあれば、入院での治療を行う場合もあります。高齢の方が多く、入院回数が多くなるとともにご本人の活動性が低下し介護度が高くなっていきます。このため介護者の負担が増大し自宅での介護が困難となり、療養型病院に入院または施設入所となる方、あるいは亡くなられた方もおられます。平成29年の診療実績は下記のような状況であります。

【年間訪問診察患者数】

年間訪問診察患者総数 44名（男性 20名 女性24名）（訪問診察：29名 男性 13名 女性 16名）

【患者年齢】

年代	人数	(訪問診察)
20-29	1	1
30-39	1	0
40-49	0	0
50-59	2	1
60-69	9	2
70-79	6	2
80-89	20	13
90-99	5	5
合計	44	29



【平成 29 年 月別訪問診察人数（緩和医療科分は含めず）】（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	23	23	22	20	22	23	24	22	23	23	23	22
入院数	1	2	3	1	3	3	3	0	5	6	4	3
終了：死亡	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
終了：その他	0	0	0	3	0	0	1	0	0	1	2	1

【平成 28 年 月別訪問診察人数（緩和医療科分は含めず）】（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	18	18	17	17	16	17	18	19	21	21	22	23
入院数	3	1	4	3	3	1	1	2	3	3	1	1
終了：死亡	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
終了：その他	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0

【平成 27 年 月別訪問診察人数（緩和医療科分は含めず）】（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

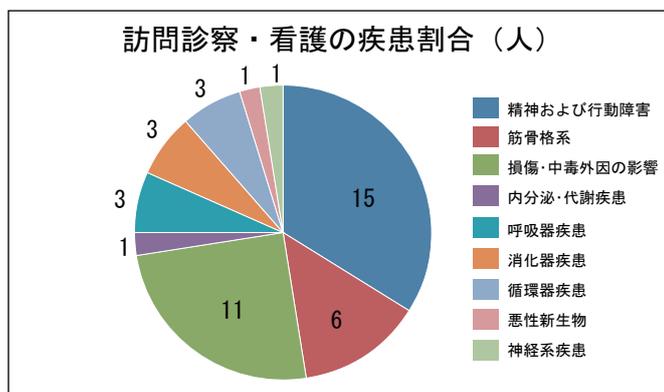
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	13	14	14	13	14	15	16	16	16	15	15	16
入院数	2	0	3	4	3	0	0	1	4	2	6	5
終了：死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
終了：その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0

【平成 26 年 月別訪問診察人数（緩和医療科分は含めず）】（平成26年1月1日～平成26年12月31日）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	19	18	18	18	19	20	18	16	16	15	13	13
入院数	3	1	2	1	4	5	3	5	3	3	3	3
終了：死亡	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
終了：その他	1	0	1	0	0	2	1	0	1	2	0	0

【平成 29 年度 主疾患名（訪問診察、訪問看護）】

疾患名	(人)
神経系疾患	15
悪性新生物	6
循環器疾患	11
消化器疾患	1
呼吸器疾患	3
内分泌・代謝疾患	3
損傷・中毒外因の影響	3
筋骨格系	1
精神および行動障害	1



【平成 29 年 月別訪問看護件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察 (緩和診察)	42 (0)	40 (0)	38 (0)	39 (0)	39 (0)	41 (0)	40 (0)	41 (0)	39 (1)	36 (2)	39 (0)	37 (0)	471 (3)
訪問看護	108	97	91	71	78	103	81	91	93	98	95	89	1,100
訪問リハビリ	1	4	3	3	5	4	3	3	3	4	4	4	42
合計 (件)	151	141	132	113	122	148	125	135	135	138	138	130	1,608

【平成 28 年 月別訪問看護件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察 (緩和診察)	33 (0)	33 (0)	29 (0)	32 (1)	30 (1)	30 (0)	31 (0)	34 (2)	37 (3)	35 (1)	42 (2)	43 (0)	409 (10)
訪問看護	77	108	109	101	91	115	116	126	103	95	97	97	1,235
訪問リハビリ	2	5	3	3	4	4	3	4	3	3	4	4	42
合計 (件)	112	146	141	136	125	149	150	164	143	133	143	144	1,686

【平成 27 年 月別訪問看護件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察 (緩和診察)	27 (4)	27 (0)	23 (0)	19 (0)	28 (3)	29 (0)	32 (1)	31 (0)	26 (0)	28 (0)	28 (0)	30 (0)	328 (8)
訪問看護	113	106	101	103	88	124	119	100	86	95	89	107	1,231
訪問リハビリ	3	4	5	4	3	5	3	5	3	3	4	3	45
合計 (件)	143	137	129	126	119	158	154	136	115	126	121	140	1,604

【平成 26 年 月別訪問看護件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察 (緩和診察)	31 (0)	34 (3)	37 (3)	38 (4)	33 (0)	33 (0)	35 (4)	35 (8)	38 (8)	31 (5)	25 (1)	24 (3)	394 (39)
訪問看護	81	83	96	103	101	96	103	97	104	126	109	109	1,208
訪問リハビリ	4	5	7	7	3	5	3	4	4	3	2	4	51
合計 (件)	116	122	140	148	137	134	141	136	146	160	136	137	1,653



歯科

部長 鎌田 ユミ子

【診療内容・特色】

平成18年8月に歯科口腔外科が開設され、当初は歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、受付各1名のスタッフと非常勤歯科医師でスタートしました。その後、一般の歯科治療や口腔ケアを必要とする患者様の増加に伴い、平成24年4月に新たに歯科を開設しました。

診療は、主に今給黎総合病院入院中の患者様や他科からの紹介患者様、本院職員の歯科治療や口腔ケアを昭和会クリニック歯科外来にて行っています。また、入院患者様で外来受診できない方には、随時、病室へ往診して診療しています。

診療内容は、う蝕・根管治療、歯周治療、冠やブリッジ、義歯などの補綴治療です。

一般の歯科診療に加え、病院歯科でもあることから、入院患者様の口腔ケアにも取り組んでいます。高齢者や寝たきりの患者様は、ご自身で口腔ケアをできないことが多く、口腔内汚染が進んだり、飲み込む力が低下したりするなど誤嚥性肺炎を発症するリスクが高くなります。この予防には、口腔ケアが有効であり、平成22年6月に院内の多職種が集まり、口腔ケアチームを立ち上げ、定期的に勉強会や研修会を開催したり、口腔ケアの病棟ラウンドを行ったりして、入院患者様の口腔ケアの質の向上を図り、誤嚥性肺炎予に寄与できるように努めています。また、口腔ケアチームメンバーは、多職種の集まりであるため、口腔ケア学会参加や学会認定資格を取得するなどして口腔ケアに関する知識やスキルの向上に努めており、平成29年4月からは口腔ケア学会の口腔ケア認定施設になりました。

また、院内のNST（栄養サポートチーム）にも参加しており、NST対象患者様の口腔アセスメントを行い、栄養状態がよくない患者様の口腔内や入れ歯の問題の早期発見に努めています。NST対象の患者様はご高齢の方も多く、入れ歯の調子や口腔衛生状態がよくない方も多く見られます。そういう患者様に速やかに歯科医師や歯科衛生士が、義歯調整や口腔ケアなどを行い、口腔衛生状態の改善を図り、食べるためのお口作りの準備をサポートしています。

本院は地域がん診療連携拠点病院であり、がん治療を受ける患者様も多くいらっしゃいます。がん治療の中でも抗がん剤治療や放射線治療では、その副作用でひどい痛みを伴う口腔粘膜炎になる

場合があり、食事などに支障をきたすこともあります。この口腔粘膜炎は、がん治療前から、歯科で専門的な口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つことで、軽症化を図ることができると言われていきます。この専門的な口腔ケアを行う主体となる歯科衛生士は現在3名おり、がん治療を受ける患者様が口腔トラブルに悩まされることなく、がん治療を遂行できるようサポートしています。

さらに本院は年間2000件以上の全身麻酔下手術を行う急性期病院でもあり、平成30年3月からは予定手術を受ける患者様を対象に術前からの口腔機能管理を開始しました。この目的としては、全身麻酔挿管時の前歯の損傷防止（ぐらつく歯の抜歯や固定）や口腔ケアによる術後の誤嚥性肺炎・人工呼吸器関連肺炎予防、手術創の感染防止。術後に食事に支障がないように歯や歯茎、入れ歯の状態を整える等が挙げられます。この取り組みにより、術中や入院中の口腔トラブルを防止し、口腔機能の回復を図り、安心して入院生活を送れるよう歯科的なサポートを行っています。

【スタッフ紹介】

部長 鎌田 ユミ子（歯科医師）

資格：日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

所属学会：日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本口腔ケア学会

【病院指定】

平成25年～

鹿児島大学病院 歯科医師臨床研修プログラム
研修協力施設

鹿児島大学病院 歯科医師臨床研修 研修歯科
医受け入れ

【講義】

専門学校講師：鹿児島歯科学院専門学校
歯科技工士科 非常勤講師

外来患者数・手術件数は歯科口腔外科に掲載



歯科口腔外科

部長 吉田 雅 司

【診療内容】

歯科口腔外科は、平成18年8月1日に開設されました。現在、歯科と歯科口腔外科を標榜して日常診療を行っています。歯科は一般歯科を常勤歯科医師1名が担当し、歯科口腔外科外来診療は、常勤歯科医師2名が主に担当しています。歯科衛生士3名、歯科技工士1名、および受付1名の常勤スタッフが歯科と歯科口腔外科を兼務し、当院の入院患者やスタッフ、さらにご紹介いただいた患者様の治療を主に行っています。

診療は、主に昭和会クリニックで外来診療を、今給黎総合病院で入院診療を行っています。

1. 外来治療

- 1) 埋伏智歯抜歯を中心とした抜歯、歯の破折や歯槽骨骨折、歯根のう胞や粘液のう胞などの摘出術、顎関節症、および外傷治療
- 2) ポーツ選手に対するマウスガード（マウスピース）の作成や咬み合わせのチェックなどを行うスポーツ歯科：特に、2020年東京オリンピックパラリンピックや鹿児島国体に向けて準備活動を行っています。
- 3) 顎矯正手術患者の術前・術後管理

2. 入院治療

- 1) 顎矯正手術：さまざまな顎変形症に対応した手術が行われています。最近の傾向としては、小下顎による睡眠時無呼吸症候群患者の顎骨形成術が増加しています。
- 2) 有病者の抜歯や外科治療
- 3) さまざまな口腔外科の疾患の手術や治療に対応しております。

本院は、他科との連携が非常にスムーズで、有病者の患者様はもちろんのこと、常に安心できる歯科医療を提供できる環境が整っております。その一環として、歯科と歯科口腔外科との役割分担化を図り、歯科部長の鎌田先生が院内の核として口腔ケアチームを立ち上げ、総合的に入院患者様や外科手術前患者様の口腔清掃に努め、嚥下性肺炎の防止、外科手術後の創感染可能性の減少に努めています。

看護師やその他のスタッフの方々の献身的な支えがあって、充実した診療が行えていると思います。さらに、努力し、今給黎総合病院・昭和会クリニックから情報発信ができるよう、頑張っていきたいと思います。

【スタッフ紹介】

吉田雅司（歯科医師）昭和会今給黎総合病院常勤、専門分野：歯科口腔外科、スポーツ歯科
日本口腔外科学会 代議員、指導医、専門医、日本顎顔面インプラント学会 指導医
日本スポーツ歯科医学会 理事、評議員、日本スポーツ協会公認 スポーツデンティスト
鹿児島県体育協会 評議員、鹿児島県トライアスロン協会 理事、長崎大学 非常勤講師

河井 洋祐（歯科医師）昭和会今給黎総合病院常勤、専門分野：歯科口腔外科、一般歯科

瀬戸山智香（歯科衛生士）

満尾裕子（歯科衛生士）

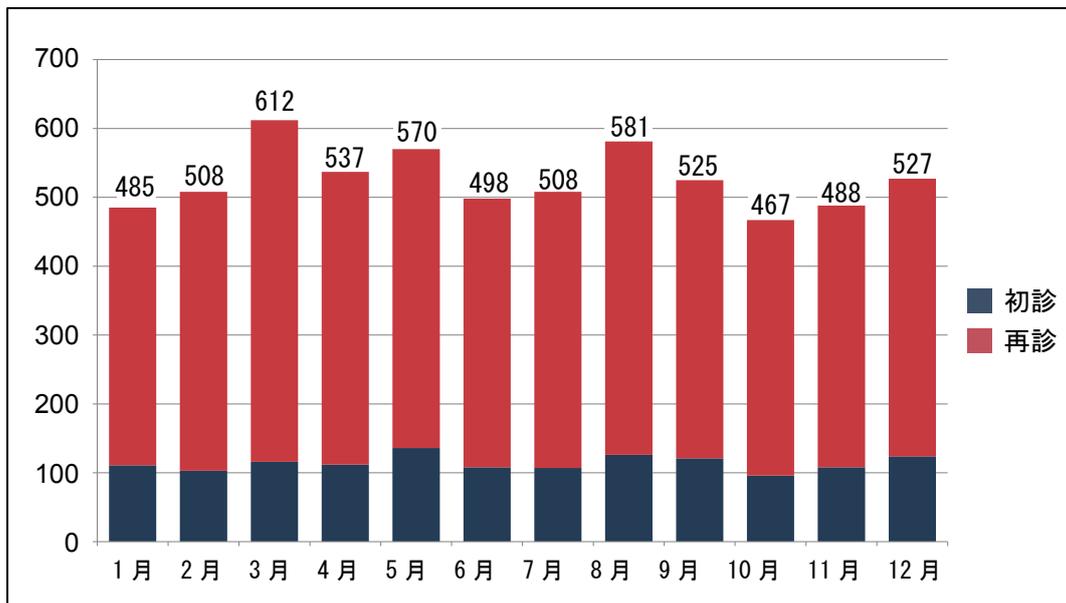
宮路貴子（歯科衛生士）

前田まどか（歯科技工士）

【2017年統計】(2017年1月1日～2017年12月31日)

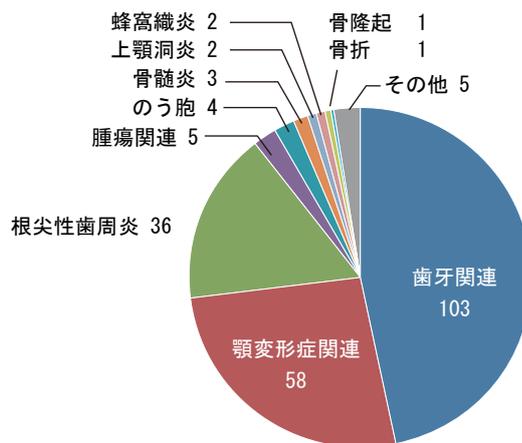
- ・ 外来患者数 6,306人 (新患1,368人) (歯科・歯科口腔科 / 病院・クリニックの合計)
- ・ 入院患者 220人

【月別外来患者数】



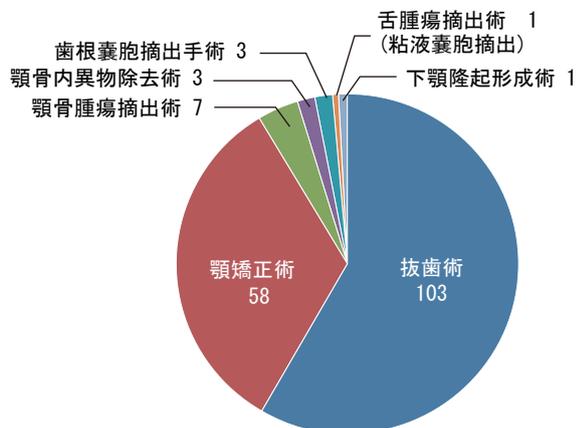
【症例別 入院患者 220人】

病名	症例数
歯牙関係	103
顎変形症関連	58
根尖性歯周炎	36
腫瘍関係	5
のう胞	4
骨髄炎	3
上顎洞炎	2
蜂窩織炎	2
骨隆起	1
骨折	1
その他	5
計	220



【手術症例(全身麻酔)176件】

手術名	症例数
拔牙術	103
顎矯正術	58
顎骨腫瘍摘出術	7
顎骨内異物除去	3
歯根嚢胞摘出手術	3
舌腫瘍摘出術 (粘液嚢胞摘出)	1
下顎隆起形成術	1
計	176



□離島診療

□永良部島離島歯科診療隊に参加
7月11日～14日



□歯科口腔外科・スポーツ歯科外来は格闘家菊野克紀さんをサポートしています。

世界で活躍する鹿児島市の出身で格闘家菊野克紀さんは、当科で作製したマウスピースで戦っています。

<http://kikunokatsunori.com/>

□歯科口腔外科・スポーツ歯科外来は鹿児島レブナイズをサポートしています。

平成20年12月1日付けで、鹿児島レブナイズのチームデンティストになり、選手の歯や口の問題に対する相談や口腔ケアを担当します。また、試合や練習時に口のケガを防止するために、マウスガードを提供しています。さらに、マウスガードの体のバランスに対する効果なども検討しています。また、試合会場で歯科の無料相談も行っています。

注) 国際バスケットボール協会の規約により、現在は無色透明のマウスガードが使用可能となった。



救急科

部長 西山 淳

【スタッフ】

救急科部長 西山 淳

【資格・活動】

日本救急医学会 救急科専門医	ICLSディレクター
日本麻酔科学会 麻酔科専門医	エマルゴトレインシステムシニアインストラクター
日本救急医学会九州地方会評議員	鹿児島県DMAT隊員登録医
鹿児島集中治療研究会世話人	AMAT隊員登録医
薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会指導医	医師臨床研修指導医養成講習修了医
鹿児島県ドクターヘリ医療作業部会検証医	医学博士（鹿児島大学大学院）

【活動】

1月20日、30日	鹿児島県消防学校救急科	講義	西山
2月10日	第41回今給黎総合病院BLSコース	コースディレクター	西山
3月5日	鹿児島マラソン2017	医療救護班	西山、橋口、熊迫、松田、有村、尾堂
3月11日	エマルゴベーシックインストラクターコース	シニアインストラクター	西山
3月15日	平成28年度第4回 薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	座長	西山
3月18日	第9回今給黎総合病院ICLSコース	コースディレクター	西山
5月19日、29日	鹿児島県消防学校救急科	講義	西山
5月25日、30日	平成29年度第1回 鹿児島市消防局三署合同症例検討会	アドバイザー	西山
6月24日	第42、43回今給黎総合病院BLSコース	コースディレクター	西山
6月30日	平成29年度第1回 薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	指導医	西山
8月18日	第44回今給黎総合病院BLSコース	コースディレクター	西山
8月26日	エマルゴトレインシステム演習コース	シニアインストラクター	西山
9月25日	平成29年度第2回 薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	指導医	西山
10月7日	第10回今給黎総合病院ICLSコース	コースディレクター	西山
9月27日	平成28年度第2回 薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	座長	西山
10月13日	三地域（薩摩・北薩・霧島）MC協議会合同訓練	指導医	西山
10月20日	第45回今給黎総合病院BLSコース	コースディレクター	西山
12月7日、8日	平成29年度第3回 鹿児島市消防局三署合同症例検討会	アドバイザー	西山
12月15日	平成29年度第3回 薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	指導医	西山
12月16日	第11回今給黎総合病院ICLSコース	コースディレクター	西山

【研修・実習受け入れ】

1月25日～2月2日	救急救命士研修所	4名	臨床実習
2月9日	鹿児島市消防局	1名	病院実習
2月10日	鹿児島市消防局	1名	病院実習
2月13日～20日	鹿児島県消防学校	1名	救急救命士再教育
4月17日～28日	鹿児島市消防局救急救命士	1名	就業前病院実習
5月2日～18日	鹿児島市消防局救急救命士	1名	就業前病院実習
11月6日～13日	鹿児島市消防局	1名	救急救命士再教育
11月27～12月4日	鹿児島市消防局	1名	救急救命士再教育

救急の診療状況に関しては病院統計を参照して下さい。

部門報告

Ⅲ-2

各部署報告

- 看護部
- 薬剤部
- 中央放射線部
- 中央臨床検査部
- リハビリテーション部
- 臨床工学部
- 在宅医療部
- 相談支援センター 医療相談室
- 相談支援センター 地域連携室
- がん相談支援センター
- QCセンター
 - ・医療安全管理課
 - ・褥瘡管理課
 - ・緩和医療課
 - ・感染管理課
 - ・施設課
- 栄養管理部
- 診療情報管理部
- 病床管理部
- 患者サポートチーム
- 事務部



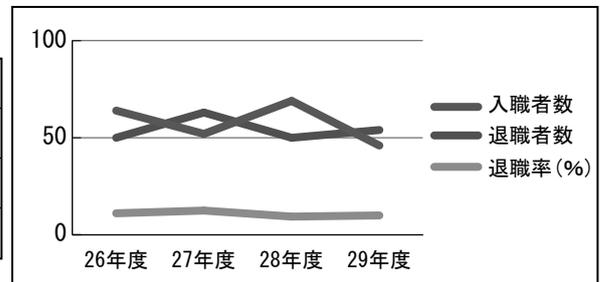
看護部

看護部長 近藤ひとみ

今年度は、看護部主体の委員会の各委員長らと昨年度の現状をSWOT・クロスSWOT分析を行い、課題を抽出し、『看護部理念・方針をもとに、急性期病院としての役割を理解した行動を実践する』『院内外の多様な専門職と協働し、切れ目のない看護を提供する』の二つの看護部目標を立てた。また、BSCにおける4つの視点でさらに成果目標を立て、各部署でも目標・計画を立案し取り組んだ。成果としては概ね目標達成となった。しかし、地域の高齢化や認知症患者の増加に伴う、社会的背景および家族背景が複雑な多様化する患者・家族への対応が課題となった。そこで、来年度もSWOT分析や目標ごとのBSCを立て業務評価を可視化し、より良い看護の提供を目指していきたい。

平成29年度の主な看護部の動き・活動は下記にまとめた。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入職者数(名)	64	52	69	46
退職者数(名)	50	63	50	54
退職率 (%)	11.1	12.5	9.4	10.0



項目	数値	備考
入職者数	46名	(新卒者 36名 既卒者 10名) / 年
退職者数	54名	(新卒者 2名 既卒者 52名) / 年
退職率	10.0%	
平均年齢	35.5歳	平成 29 年 9 月 31 日現在
平均在勤年数	8.5年	常勤平均勤続 8.5 年 非常勤平均勤続 6.4 年
平均年休所得率	44.3%	一人平均 8.8 日 / 年
時間外	3.7時間	一人平均 / 月
部署異動	59名	看護師 53 名 看護補助者 6 名
出産者数	23名	看護師 19 名 看護補助者 4 名 育休取得者 24 名 / 年
研修状況	241回 802名	院外研修
	122回 3380名	院内研修 (看護補助者研修 328 名 / 14 回を含む)
	163回 2459名	単位別学習会
院外研究発表	2名	第 27 回 日本新生児看護学会学術集会
雑誌他投稿・執筆	1名	第 4 章重症化を回避する ICU 患者管理のワザ「6. ドレーン管理中の患者管理」
院外講義・講演活動	36名	看護学校・看護協会・各学会等
ボランティア活動	33名	NHK 大河ドラマ撮影看護師派遣、鹿児島マラソン救護派遣
ふれあい看護体験受入れ	11名	鹿児島女子高等学校 1 名 鹿児島東高等学校 4 名 錦江湾高校 3 名 松陽高校 2 名 甲南高校 1 名
インターンシップ受入れ	9名	看護学校 7 校
災害救護・訓練参加	3名 看護部	消防消火協議会 3 名 鹿児島県看護協会災害訓練
看護学生実習受入れ	9校	述べ実習日数 7538 日 延べ実習人数 934 名
学校訪問	30校	2 回 / 年 (5 月・1 月)



薬剤部

薬剤部長 高橋 真理

【平成 29 年度の概要】

平成29年度は新入職員8名を迎えたが2名退職し、1名が産休後育児休暇中で、年度末の薬剤師数は22名となった。昨年度よりは薬剤師数が増えたため、薬剤管理指導件数は昨年より3割程増えた。

経験年数に関わらず業務内容を一定のレベルに保つために、目的に応じたテンプレートを作成して電子カルテへの記録時に活用している。今年度はDOAC(直接経口抗凝固薬)の処方監査、薬剤管理指導記録、B型肝炎スクリーニングチェック時にもテンプレートを活用するよう改めた。

鹿児島県病院薬剤師会学術大会が昨年度より開催されているが、今年度初めて一般演題を2題発表した。この演題にさらにデータを追加して、来年度は6月の医療薬学フォーラムにおいてポスター発表を行う予定である。

【スタッフ】

薬剤師	神門優子	久津輪久世	財間富士子	前畠一友	古賀亜希子	壽 明伸	山之内樹里
	肥田香織	西岡帆菜未	中山恵美	吉永咲紀	宮田麗佳	淵村佳奈	築地辰典
	釜付百合絵	福永 碧	脇元弘喜	岡崎直樹	鈴木秀平	六田湧紀	餅越 茜
	水流瑞稀	守屋佑紀	高橋真理				
薬剤部助手	竹之内清美	田中由梨	田中美保	澤村智美			

【部門実績】

■ 薬剤管理指導実施状況と化学療法患者数 平成28年度と平成29年度の比較

	平成28年度 月平均	平成29年度 月平均
退院患者数	680	734
薬剤師数	20	24
薬剤管理指導 患者数	231	303
薬剤管理指導 1～3 件数	291	388
薬剤管理指導実施率 (薬剤管理指導患者数/退院患者数)	31.4%	41.4%
退院時薬剤情報管理指導料 算定件数	109	121
退院時薬剤情報管理指導算定率 (算定患者数/退院患者数)	16.1%	16.4%
薬剤管理指導 退院時指導 件数/薬剤師数	20	21.2
薬剤管理指導料 計 (円)	1,057,570	1,431,992
持参薬 鑑別件数	438	483
外来化学療法患者数	56	70
入院化学療法患者数	74	82
化学療法 計 (円)	444,810	487,471

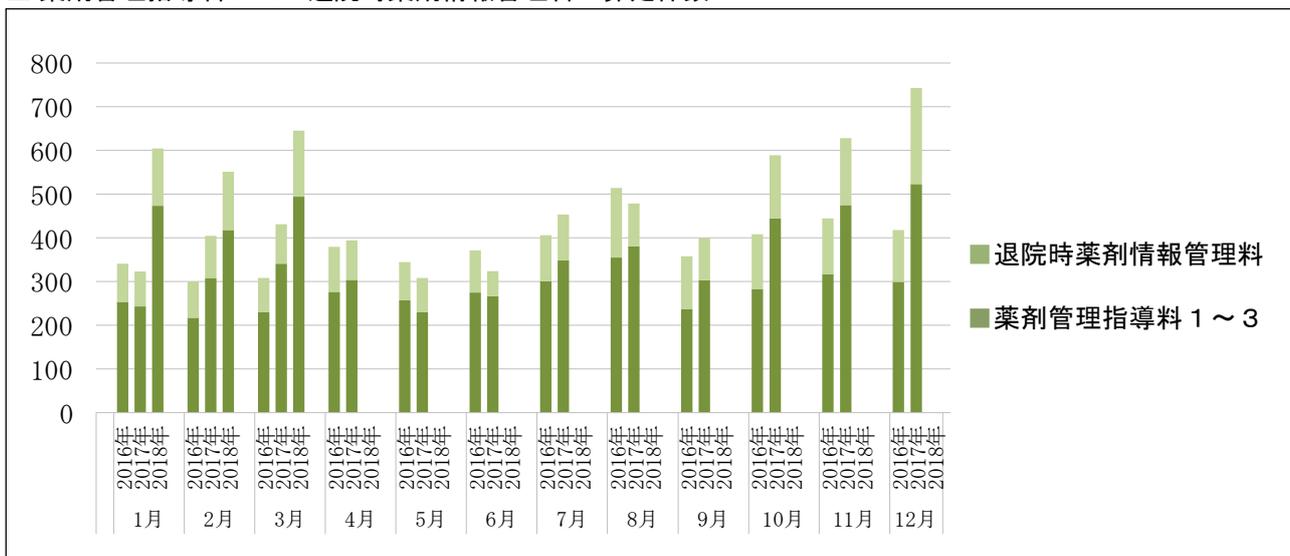
1. 薬剤管理指導

薬剤管理指導患者数は昨年度より3割ほど増え、薬剤管理指導実施率（＝薬剤管理指導患者数／退院患者数）は41.4%であった。退院時薬剤情報管理指導患者数は昨年度より1割ほど増えた。10月以降は、薬剤管理指導実施率40%以上、退院時薬剤情報管理指導実施率20%以上を保つことができた。

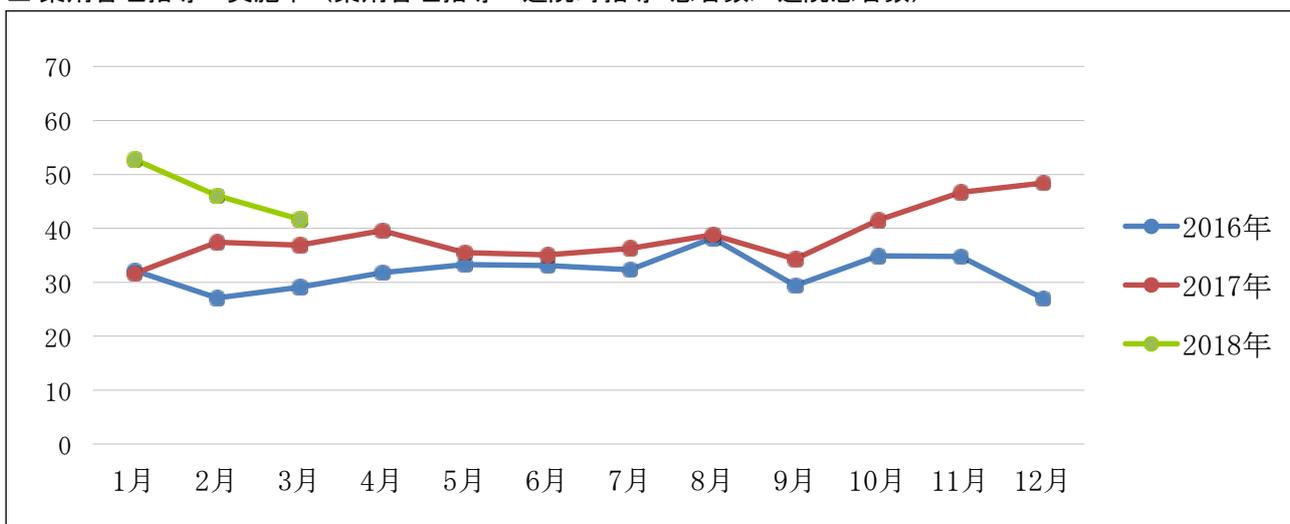
薬剤管理指導業務において、調剤に必要な服薬の状況及び投薬上の工夫に関する情報や指導の要点についてお薬手帳に記載することが、退院後の療養を担う保険医療機関や保険薬局との連携において不可欠である。しかし、お薬手帳の記載事項に個人差があり必要な情報を記載していない事例もあった。そこで10月以降、薬剤管理指導記録と退院時薬剤情報管理指導記録のためのテンプレートを見直した。

今後、必要時には薬剤適正使用のための施設間情報連絡書も活用し、他医療機関の薬剤師との連携を図り、患者様に充実した薬学的ケアを継続して提供できるよう努めたい。

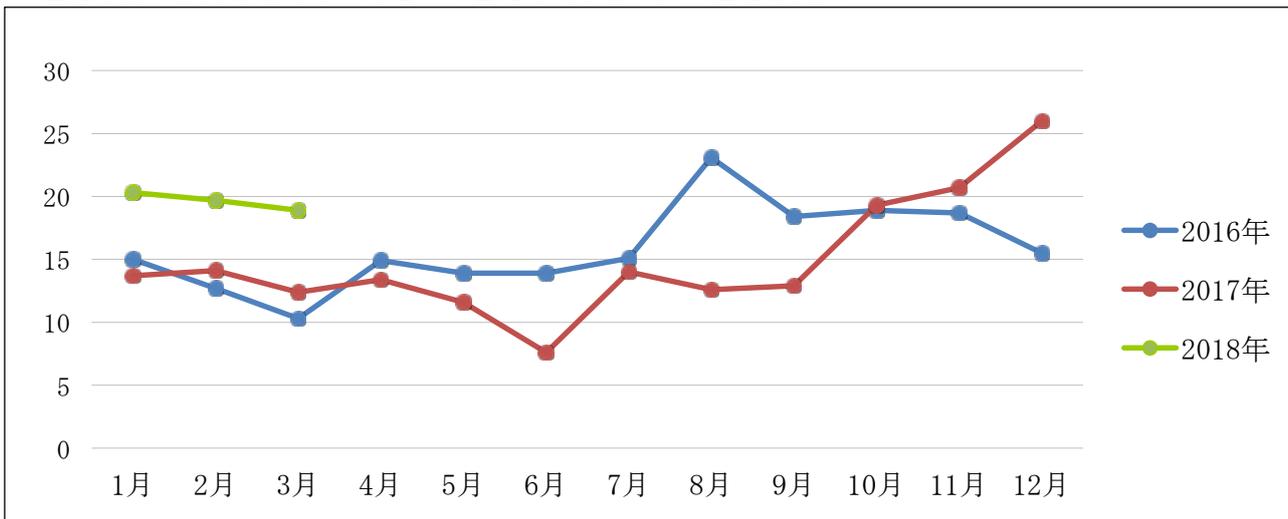
■ 薬剤管理指導料1～3・退院時薬剤情報管理料 算定件数



■ 薬剤管理指導 実施率（薬剤管理指導・退院時指導 患者数／退院患者数）



■ 退院時薬剤情報管理指導 実施率（退院時指導患者数／退院患者数）



2. 持参薬に関する業務

持参薬鑑別件数は月平均483件と、入院患者数の増加に伴い昨年より1割程増えた。

全ての病棟で持参薬鑑別システムを運用することが望まれているが、入院期間が短い患者様が多い2病棟（4階西・4階北病棟）では昨年同様、持参薬鑑別システムの運用はできていない。8月以降これらの病棟でも、持参薬の種類が多い患者様または入院期間が長くなることが予想される患者様については持参薬鑑別システムで対応するように改めた。

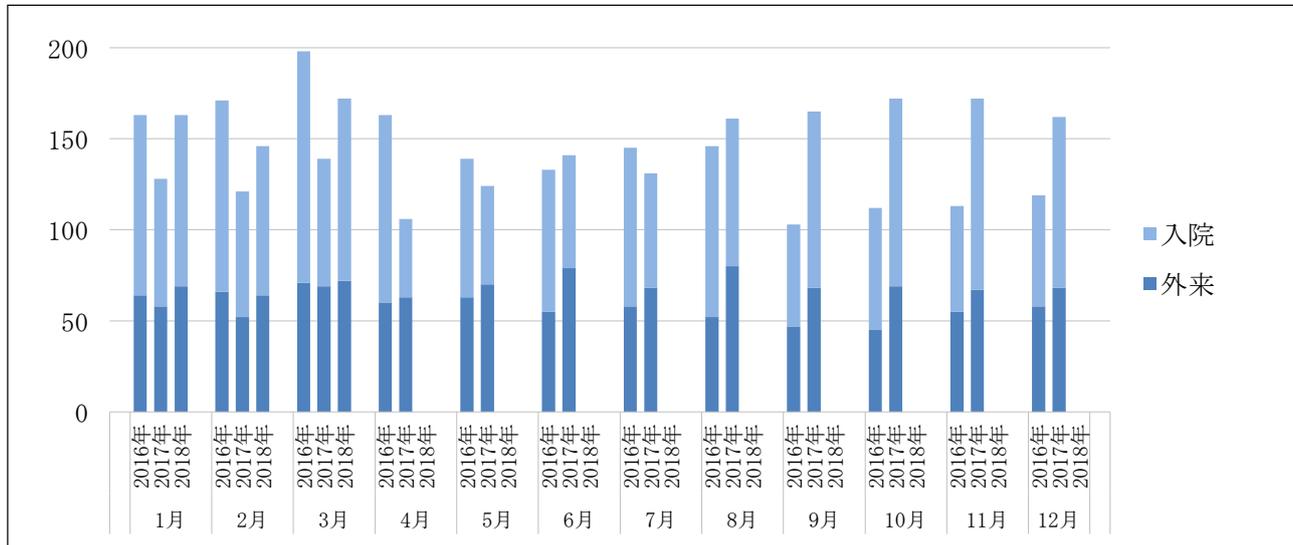
3. 化学療法

入院と外来を合わせた化学療法の件数は昨年度より1割程増え、年度別の化学療法患者数は1,815名であった。

化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドラインに従ってHB抗原・HB抗体の定期的なスクリーニングを実施できるよう以前より薬剤部でチェックしている。B型肝炎スクリーニングチェックは、レジメン管理されている注射用抗がん薬による化学療法患者では実施率は100%だが、外来で経口抗がん薬による治療を受ける患者については十分に実施できてはいなかった。そこで、B型肝炎スクリーニングをすべき薬剤が一目で分かるように電子カルテ上薬剤名の後ろに<注！B肝>と表記されるようにして、診療科クラークも含めた多職種で連携し、薬剤部でのB型肝炎スクリーニングチェックの実施率が100%となるよう改めた。

添付文書上B型肝炎ウイルス再活性化について注意喚起のある薬剤は、抗がん薬の他に免疫抑制薬や副腎皮質ステロイド薬、抗リウマチ薬などがある。これらの薬剤についても、B型肝炎スクリーニングにもれがない体制を作ることも今後の課題の一つである。

■ 化学療法 件数



4. 薬薬連携（保険薬局との連携）

院外処方に関する問題点の解決や、外来化学療法をより安全に行うために、病院薬剤部と保険薬局の連携は不可欠である。今年度も例年通り、薬薬連携会議とがん化学療法に関する薬薬連携研修会をそれぞれ3ヶ月毎に4回ずつ開催した。

■平成29年度 がん化学療法薬薬連携研修会

5月17日(水)	「遺伝子変異による抗がん剤の選択」	釜付百合絵
8月16日(水)	「医療用麻薬について」	築地辰典
11月17日(金)	第16回鹿児島薬剤師フォーラム 「鹿児島大学病院でのがん専門薬剤師研修報告」	前島一友
2月21日(水)	「乳がんにおけるホルモン療法について」	中山恵美

院外処方箋における疑義照会について処方医師と保険薬局の負担軽減を図ることを目的に、薬剤師法第24条にある疑義照会の運用に関して、病院と保険薬局とで合意書を交わす医療機関が見られるようになっている。医師懇談会・保険薬局との連携会議においてこの件を提案したところ同意が得られたので、当院でも保険薬局との合意書を交わす予定である。

5. 病院指定

日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師研修事業の研修施設

認定期間：2017年4月1日～2022年3月31日

6. 専門・認定薬剤師など（今年度更新分）

福永碧	鹿児島県地域糖尿病療養指導士	認定取得
湊村佳奈	スポーツファーマシスト	認定取得
宮田麗佳	スポーツファーマシスト	認定取得

学術実績は「研究実績」の頁へ



中央放射線部

技師長 新村 栄次

【はじめに】

平成 29 年度スタッフは、放射線科専門医 6 名、技師 22 名、看護師 9 名、医療クラーク 5 名の総計 42 名の陣容となっています。

業務実績としては、前年度と比べて 8 項目中 6 項目は増加しました(一般撮影、CT、透視、MRI、DSA、治療の件数が 2,299 件増加しましたが、RI、前立腺シードで 52 件の減となりました)。

全体では 2,351 件の増加となりました(表 1)。

前半期は厳しい状況が続きましたが、後半期は入院数の増加で盛り返したように思います。これからも、運用面の改善と広報等で使用効率を高め、創意工夫で精度の高い画像作りを目指して参ります。

学術・各種イベント・資格取得に於いては、ボランティア活動(災害支援)や院内・外のセミナー、学術発表、また専門性を活かした認定資格取得に務めスキルアップを引き続き図ってまいります。

今後も、チーム医療の下、スタッフのレベルアップを図り患者様やスタッフ等から信頼頂ける安全・安心の検査に励んで参ります。

【放射線部組織(陣容)】

1. 放射線科(6名)

クリニック院長	大久保 幸一(放射線科専門医会認定医)
放射線治療科部長	中 禮 久彦(放射線科専門医会認定医・放射線治療認定医)
放射線診断科部長	銚 立 博文(放射線科専門医会認定医)
	篠 原 哲也(放射線科専門医会認定医)
	中村 信哉
	桑水流 絵梨奈

2. 中央放射線部

<技術部門担当>(22名)

技 師 長	新 村 栄 次	副技師長	飯 伏 順 一
●本院	四 本 齊(主任)	篠 原 なつき(主任)	丸 尾 美由紀
	稲 留 久 恵	池 田 真 一	加 治 屋 博 一
	小 屋 俊 彰	小 谷 祐 樹	中 村 圭 太
	宮ヶ谷 瑠	尾 堂 聡	中 村 亮 也
	○林 幸志郎		
リニアックセンター	松 下 芳 正(主任)	田 川 伸 夫(主任)	
●クリニック	永 山 照 明(副技師長)	浮 田 啓一郎(主任)	
	濱 田 智太郎	川 畑 朋 之	川 原 美 咲
<事務部門担当>(5名)			
医療クラーク	四 本 春 香(主任)	武 田 美 里	奥 ひとみ
	時 任 八千代	西 村 さおり	
<看護部門担当>(9名)			
看護師	中 馬 たまみ	小 園 浩 子	佐々木 まゆみ
	岩 川 る み	松 田 めぐみ	丸 山 恵 美
	○有 村 拓 真	坂 元 美 和(3月退職)	武 田 きみこ(3月退職)

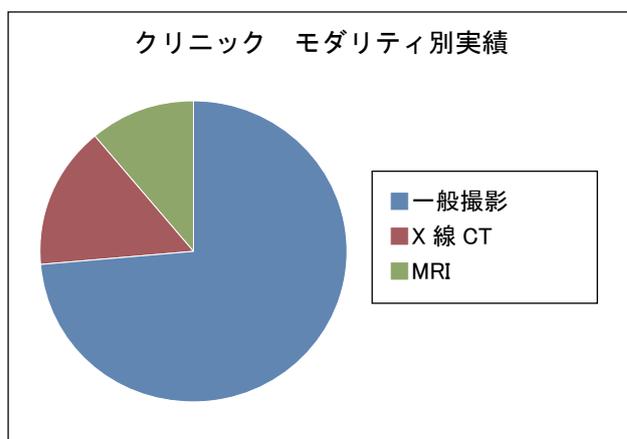
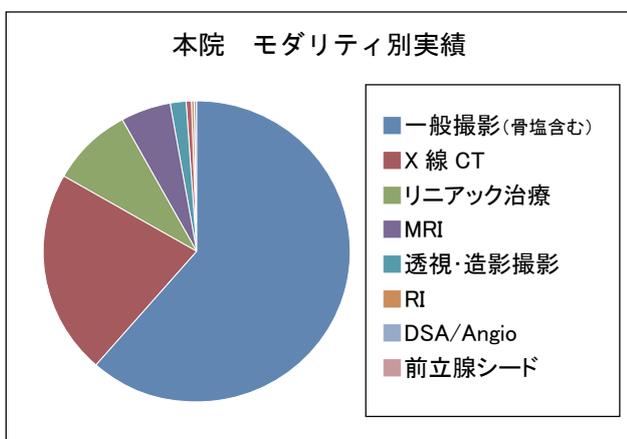
○は、新入職、配属者を示す。

合計 42 名

【検査業務実績】(表1)

業務実績は、下記の通りです。全体として対前年度比0.1%の減少でした。
前年度比↑は増、↓は減

検査・治療		29年度			
		依頼件数等			
		本院	クリニック	計	増減
1	一般撮影(骨塩含む)	22,787	18,784	41,571	↑
2	X線CT	10,852	3,827	14,679	↑
3	M R I	3,130	2,815	5,945	↑
4	透視・造影撮影	1,140	—	1,140	↑
5	R I	411	—	411	↓
6	DSA/Angio	276	—	276	↑
7	リニアク治療	3,430	—	3,430	↑
8	前立腺シード	4	—	4	↓
合計		42,030	25,426	67,456	↑



【学会発表・著述】は 研究実績の項目を参照

【認定資格取得・更新者等】

新規取得 2017年4月	Ai 認定放射線技師	小屋 俊彰
新規取得 2017年4月	X線CT 認定技師更新	新村 栄次
新規取得 2017年4月	X線CT 認定技師更新	濱田 智太郎
新規取得 2017年3月	肺がんCT検診認定技師更新	新村 栄次
新規取得 2018年1月	第1種衛生管理者	小屋 俊彰
新規取得 2018年2月	第1種衛生管理者	川畑 朋之

【その他の活動】平成29年度の放射線部の受け入れ学術活動(参加)は、次の通りです。

【研修・視察受け入れ】

平成29年			
毎月第1火曜日	大海クリニック	放射線部	2名
11月8日	東高校インターンシップ研修	放射線部	4名
平成30年			
2月15日	樟南高校インターンシップ研修	放射線部	1名
2月16日	鈴鹿医療科学大学診療放射線学科	放射線部	1名

【実習生受け入れ】

平成29年			
6月5日～7月28日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	2名
9月4日～9月29日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	2名
10月2日～10月27日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科3年	2名

【ボランティア】

平成 29 年			
5 月 13 日	第 12 回つながる思い in かごしま	かんまちあ	2 名
10 月 2 日	ピンクリボンツリー設置	鹿児島市役所	1 名
10 月 19 日	KYT レディースゴルフ 2017	知覧カントリークラブ	1 名
10 月 22 日	ピンクリボン in かごしま	ベルク広場	5 名
平成 30 年			
2 月 3 日	鹿児島県原子力防災訓練	森林技術総合センター	1 名

【院外の会議・研修会等への参加】

平成 29 年			
7 月 29 日	第 4 回 FRT 九州講演会	第一三共九州支社ビル(福岡)	1 名
8 月 5 日	第 3 回肺がん検診均てん化研修会	鹿児島県医師会館	5 名
8 月 19 日	第 22 回乳がん検診研修会	県民交流センター	4 名
8 月 31 日	第 21 回乳がん検診従事者研修会	鹿児島県医師会館	1 名
10 月 3, 4 日	九州 GYRO ミーティング	JR 博多シティ	1 名
11 月 24 日	低線量 CT 肺がん検診研修会	鹿児島県医師会館	6 名
平成 30 年			
12 月 19 日・1 月 16 日・23 日	鹿児島医療技術専門学校	診療画像技術学 I (MR I 検査講師)	1 名
1 月 12 日	第 23 回乳がん検診研究会	鹿児島県医師会館	3 名
3 月 17 日	乳がん検診従事者研修会	鹿児島県医師会館	4 名

※学会関連は[研究実績]に掲載



中央臨床検査部

部長 佐藤 榮一 技師長 村中 利也(報告)

平成29年度は総勢25名の検査体制で当院の救急医療に対応しました。また、輸血検査の装置(カード用全自動輸血検査装置 IH-500)を更新しました。この装置の特徴は、6軸ロボットアームテクノロジーを輸血検査領域に応用し、このテクノロジーをベースに、輸血検査の安全性・信頼性の更なる向上に貢献できます。具体的には試薬が測定結果に影響を与えるリスクを排除し測定結果の精度の向上、日当直者も安心して操作が可能になり24時間体制に柔軟に対応、試薬ロスの軽減・省力化による業務の生産性向上(労働力コストの軽減)が可能になりコストの抑制ができるようになりました。中央臨床検査部実績は、生化学検査が543,507件、輸血・免疫血清検査が88,443件、血液・一般検査が554,047件、臨床微生物検査が22,914件、生理検査が26,171件、合計1,235,082件で前年と比較して全ての検査が増え93,596件の増加がありました。

また、日々臨床検査データの標準化に努め、精度管理は、日本医師会、日本臨床検査技師会、鹿児島県医師会、その他メーカー主催の外部精度管理への参加と毎日行う内部精度管理で良好な成績を収めました。これからも精度保証認証施設として精度管理の向上に努めたいと思います。学会、研修会等へは多くのスタッフが参加し自己研鑽に励み、2演題を発表することができました。

●平成29年度中央臨床検査部スタッフ

臨床検査部長 佐藤榮一(鹿児島大学医学部名誉教授)

臨床微生物検査 村中利也(感染制御認定臨床微生物検査技師) 今堀小百合 播磨佐江子(緊急臨床検査士)

輸血・免疫血清検査

今堀貴之(認定輸血検査技師) 持留ゆりか(認定輸血検査技師)

血液・一般検査 原菌真由美(二級臨床検査士・血液学) 西田智佳(認定一般検査技師)

岩崎明日香 福迫俊介 水流遥香

生化学検査 山崎泰代 花房雅子 永岡伸代 來住和剛 牧之段李奈(第一種衛生管理者)

外来・生理検査 平原千代子 上齋昭知(認定神経生理検査技師) 宝代聡美(認定輸血検査技師) 有馬愛

小原旅人(二級臨床検査士・呼吸生理学) 池本菜月 有村美和

超音波検査 富吉祐児(認定超音波検査士) 森田修康(認定超音波検査士)

クリニック検査 久永洋一郎

●平成29年度中央臨床検査部実績

生化学検査	件数	セット外検査	件数	血液ガス	件数
セット検査	456,301	血糖	80,672		5,619
血中薬物濃度	482		433		
合計	543,507				

輸血・免疫血清検査

輸血 16,991 免疫血清 6,698 感染症 28,942

腫瘍マーカー 17,189 ホルモン 11,879 その他 6,744

合計 88,443

血液・一般検査

血液 484,686 凝固系 37,904 尿 29,851

糞便 282 穿刺液 1,321 その他 3

合計 554,047

臨床微生物検査						
細菌塗抹培養	13,165	嫌気培養	2,814	薬剤感受性	2,003	
抗酸菌塗抹培養	2,261	PCR	1,900	その他	771	
合計	22,914					
生理検査						
心電図	8,987	筋電図	1,864	ABI	419	
脳波	413	肺機能	6,069	超音波UCG	6,080	超音波腹部 2,339
合計	26,171					

●精度管理への参加

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| ①第51回日本医師会精度管理 | ⑥第19回血液検査コントロールサーベイ |
| ②第28回日本臨床検査技師会精度管理 | ⑦第10回コアプレスタ(凝固系)コントロールサーベイ |
| ③第40回鹿児島県医師会精度管理 | ⑧エームス尿検査コントロールサーベイ |
| ④2017年度関東化学ユーザーズコントロールサーベイ | ⑨第24回ルミパルスコントロールサーベイ |
| ⑤ニッポーユーザーズコントロールサーベイ | ⑩第22回A I Aコントロールサーベイ |
| | ⑪平成29年度特異IgEコントロールサーベイ |

●実習生(学生)の受け入れ

川崎医療短期大学 臨床検査科	3年生	1名
熊本大学 医学部保健学科 検査技術科学専攻	4年生	2名
熊本保健科学大学 保健科学部 医学検査学科	3年生	2名
大隅鹿屋病院	臨床検査技師	2名

●学会・研究会への参加

月	学会・研修会名	月	備考
H29. 5月	第26回鹿児島ICTネットワーク学術講演会	1	
	鹿児島県臨床検査技師会春季研修会・総会	2	
	鹿児島県医療機関輸血担当者研修会	1	
6月	第1回臨床血液部門研修会	1	
	南九州ヘマトロジーセミナー	3	
7月	日臨技九州支部輸血研修会	3	実務委員：持留
	第2回臨床血液部門研修会	2	
	第1回臨床一般部門研修会	6	
9月	臨床微生物検査部門・薬剤師会合同研修会	1	座長：村中
	第1回生物化学分析部門研修会	2	
10月	第27回鹿児島ICTネットワーク学術講演会	1	発表：村中
11月	輸血検査ワークショップ	1	
	第27回南九州臨床微生物研究会	1	座長：村中
12月	第3回臨床血液部門研修会	3	
	第2回臨床微生物検査部門研修会	2	
	第2回輸血細胞治療部門研修会	4	
	第2回臨床一般部門研修会	5	講師：西田
	第3回生物化学分析部門研修会	2	
H30. 1月	第29回日本臨床微生物学	1	
	第8回鹿児島県合同輸血療法懇話会	2	
2月	第14回鹿児島県医学検査学会	2	発表：來住
	第1回臨床血液・遺伝子・病理細胞部門合同研修会	4	
3月	第40回鹿児島県医師会臨床検査精度管理調査研修会	1	
	鹿児島後天性血友病研究会	4	

●検査部内勉強会

月	発表者	発表テーマ
H29. 4月	今堀 小百合	主な薬剤耐性菌
6月	小原 旅人	肺機能2について
7月	サツマ薬品(東中川)	新病院レイアウト
8月	今堀 貴之	因子指定血が必要です?
9月	水流 遥香	PT・APTTについて
10月	有村 美和	ABI/CABI
11月	西田 智佳	卵円形脂肪体について
H30 2月	花房 雅子	HBsAg-HQについて
3月	池本 菜月	睡眠時無呼吸症候群(SAS)について

※学会関連は[研究実績]にも掲載



リハビリテーション部

療法士長 児島 邦幸

【平成 29 年度の概要】

1. はじめに

急性期医療は、救命や原疾患の治療が、細心のコントロール下で行われます。リハビリは、重症化の予防や心身機能の改善のため、リスクを十分に理解した上でのアプローチが必要です。

一方で、「重症患者を対象に、できるだけ短い期間で、しかも在宅に帰っていただく」ことも求められています。最近では、入院時から退院支援のプロセスに関わることができるようになってきました（退院支援カンファレンス参加）。本来は、原疾患の治療が順調な回復路線に乗れば、自宅生活をイメージできるリハビリ計画に変わらなければなりません。しかし、発症・手術後、すぐに早期リハを開始、自ずと心身機能を高めるリハビリが中心となり、退院後の生活を具体的にイメージしたりリハビリ計画を作成しにくい現状です。

今後は、リハビリスタッフの意識改革と業務改善を進め、患者本人、家族、ケアマネージャー、その他に自宅生活を支援する人たちとの相談機会を増やし、近距離であれば、時間を調整して入院中の訪問指導等も検討していく。そうして収集した情報からアセスメントを経て、各関係者のニーズに添った、現実的な自宅生活イメージの提案ができる療法士の育成が必要であると考えます。

2. 届出承認

施設承認	受理番号	算定開始
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	（脳Ⅰ）第 46 号	平成 18 年 4 月 1 日
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	（呼Ⅰ）第 28 号	平成 18 年 4 月 1 日
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	（運Ⅰ）第 7 号	平成 22 年 4 月 1 日
がん患者リハビリテーション料	（がんリハ）第 9 号	平成 23 年 7 月 1 日

3. スタッフ(平成 29 年 4 月 1 日現在)

専任リハ医師	1 名				
理学療法士	44 名 (1 名育休中)	作業療法士	17 名	言語聴覚士	9 名 (1 名育休中)
リハビリ事務	4 名 (派遣社員 2 名含む)				
リハビリ助手	1 名				

4. 人事

入職	H29. 4. 1	理学療法士	蓑崎 翼	神村学園専修学校
	H29. 4. 1	理学療法士	田中 一樹	鹿児島医療福祉専門学校
	H29. 4. 1	理学療法士	藤崎 真由	鹿児島医療福祉専門学校
	H29. 4. 1	理学療法士	別府 詩音	鹿児島医療技術専門学校
	H29. 4. 1	作業療法士	竹之内 沙弥	鹿児島医療技術専門学校
	H29. 4. 1	作業療法士	宮城 星乃	神村学園専修学校
	H29. 4. 1	言語聴覚士	中野 桜子	国際医療福祉大学
	H29. 4. 1	言語聴覚士	水溜 善紀	鹿児島医療技術専門学校

退職	H29. 7. 31	理学療法士	湯村 千里
	H29. 12. 31	理学療法士	高田 奨
	H29. 12. 31	作業療法士	下野 真由
	H30. 1. 31	理学療法士	宮下 明夏
	H30. 3. 31	理学療法士	中辻 晋太郎
	H30. 3. 31	理学療法士	山崎 数馬
	H30. 3. 31	理学療法士	黒木 祐樹
	H30. 3. 31	理学療法士	植村 大介
	H30. 3. 31	作業療法士	玉井 彩乃
	H30. 3. 31	作業療法士	七村 和也

【部門実績】

1. 診療科別

(1) 患者数

	H29.4	H29.5	H29.6	H29.7	H29.8	H29.9	H29.10	H29.11	H29.12	H30.1	H30.2	H30.3
小児科	1	2	4	2	2	0	1	0	1	0	1	2
整形外科	202	218	221	193	197	198	205	212	229	234	244	193
形成外科	22	22	26	18	21	14	17	14	19	21	18	18
脳神経外科	26	20	26	30	23	15	18	27	29	30	29	30
産婦人科	4	6	3	3	1	1	2	1	4	4	6	3
耳鼻咽喉科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
放射線科	0	1	3	1	0	1	1	4	3	2	2	1
泌尿器科	17	16	16	11	19	13	16	15	19	21	26	11
麻酔科	1	0	0	0	0	0	0	1	3	2	2	0
皮膚科	4	2	2	2	2	2	1	1	0	1	1	2
総合内科	26	30	30	34	37	21	20	16	20	22	22	34
神経内科	70	58	66	69	68	64	73	74	71	64	58	69
循環器内科	13	19	14	18	12	12	14	9	20	19	12	18
呼吸器内科	24	29	27	26	24	28	33	31	42	37	32	26
消化器内科	17	17	20	18	21	25	17	15	20	19	15	18
糖尿病科	1	1	4	3	3	1	0	0	1	0	1	3
血液内科	5	3	3	6	7	10	10	8	5	10	11	6
新生児内科	21	29	22	23	29	31	35	23	29	29	22	23
外科	25	31	32	30	34	42	38	36	25	28	27	30
呼吸器外科	19	18	27	34	28	25	30	34	32	21	29	34
緩和医療科	0	1	1	2	1	1	2	2	1	2	0	2
計	498	523	547	524	529	504	533	523	573	566	558	524

(2) 単位数

	H29.4	H29.5	H29.6	H29.7	H29.8	H29.9	H29.10	H29.11	H29.12	H30.1	H30.2	H30.3
小児科	47	23	42	74	29	0	10	0	19	0	15	74
整形外科	10,191	10,819	9,765	9,063	8,672	9,323	10,712	9,957	10,054	9,259	9,338	9,063
形成外科	1,412	1,455	1,389	1,278	1,008	1,230	1,105	1,113	1,223	842	910	1,278
脳神経外科	2,434	2,095	1,900	2,312	2,290	1,546	1,132	1,714	2,197	2,178	1,325	2,312
産婦人科	22	127	45	35	12	9	19	17	61	71	109	35
耳鼻咽喉科	0	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	40
放射線科	0	66	125	0	0	18	14	123	91	78	80	53
泌尿器科	372	576	564	351	521	364	454	344	585	565	647	351
麻酔科	103	0	0	0	0	0	0	48	70	53	63	0
皮膚科	159	31	48	38	27	79	81	71	0	42	26	38
総合内科	1,413	1,748	1,481	1,541	1,607	1,295	1,106	1,131	1,046	1,031	1,060	1,541
神経内科	4,336	4,007	4,076	4,013	4,021	4,058	4,988	4,505	4,696	4,349	3,572	4,013
循環器内科	971	769	797	930	662	648	634	443	511	768	470	930
呼吸器内科	735	913	909	890	875	986	1,345	1,277	1,199	1,440	1,029	890
消化器内科	446	599	602	715	876	781	588	487	693	663	421	715
糖尿病科	22	14	98	15	61	22	0	0	15	0	16	15
血液内科	226	102	180	213	245	376	406	457	178	240	389	213
新生児内科	90	102	114	156	178	171	201	109	119	120	83	156
外科	944	1,052	1,230	1,103	1,139	1,524	1,847	1,281	437	762	933	1,103
呼吸器外科	293	312	516	941	883	715	761	569	716	631	543	941
緩和医療科	0	2	31	96	95	49	59	33	8	53	0	96
計	24,216	24,812	23,912	23,804	23,201	23,194	25,462	23,679	23,918	23,145	21,029	23,857

2. 実習受入

専門	養成校	種別	開始	終了	人数
理学療法	鹿児島大学	総合臨床実習Ⅲ	H29. 7. 18	H29. 9. 8	1
理学療法	鹿児島医療技術専門学校	臨床実習Ⅳ	H29. 5. 8	H29. 7. 14	1
理学療法	鹿児島医療技術専門学校	臨床実習Ⅱ	H29. 7. 24	H29. 7. 28	1
理学療法	鹿児島医療技術専門学校	臨床実習Ⅱ	H30. 2. 12	H30. 2. 23	2
理学療法	鹿児島医療福祉専門学校	長期臨床実習	H29. 5. 8	H29. 7. 15	2
理学療法	鹿児島医療福祉専門学校	検査測定実習	H29. 7. 24	H29. 7. 29	3
理学療法	鹿児島医療福祉専門学校	施設見学実習	H29. 7. 10	H29. 7. 15	3
理学療法	神村学園専修学校	臨床実習	H29. 6. 26	H29. 8. 19	1
理学療法	福岡リハビリテーション専門学校	評価実習	H29. 8. 21	H29. 9. 8	1
作業療法	鹿児島医療技術専門学校	臨床長期実習	H29. 8. 7	H29. 10. 13	1
作業療法	神村学園専修学校	見学実習	H29. 9. 4	H29. 9. 6	1
作業療法	沖縄リハビリテーション福祉学院	長期臨床実習	H29. 5. 8	H29. 7. 7	1
言語聴覚療法	鹿児島医療技術専門学校	臨床実習Ⅱ	H29. 5. 22	H29. 7. 15	1
言語聴覚療法	沖縄リハビリテーション福祉学院	長期臨床実習	H29. 7. 24	H29. 8. 19	1
言語聴覚療法	熊本保健科学大学	評価実習	H29. 7. 17	H29. 8. 5	1

【認定資格者】(平成 30 年 3 月 31 日時点)

がんのリハビリテーション研修終了者	20名
3学会合同呼吸療法認定士	23名
心臓リハビリテーション指導士	1名
リンパ浮腫指導技能者	1名
褥瘡認定作業療法士	1名

【部門の取組み】

平成17年11月～	NSTにST参加
平成18年4月～	疾患別リハ施設承認
平成18年4月～	専従常勤の療法士が20名
平成19年10月～	褥瘡対策チームにPT・OT・ST参加
平成20年4月～	専従常勤の療法士が30名
平成20年7月～	療法士の病棟担当制の開始
平成21年3月～	日祝含めた均等配置勤務体制開始
平成21年4月～	専従常勤の療法士が40名
平成22年6月～	口腔ケアチームにST参加
平成22年10月～	緩和ケアチームにPT・OT参加
平成23年6月～	専従常勤の療法士が50名
平成23年7月～	がん患者リハ施設承認
平成24年4月～	日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医を専任配置
平成24年6月～	リンパ浮腫外来開始
平成25年4月～	専従常勤の療法士が60名
平成25年7月～	NSTにPT・OT参加
平成26年3月～	RSTにPT参加
平成26年4月～	化療緩和ネットワーク委員会に参加
平成27年1月～	回復期病棟開設
平成28年4月～	転倒・転落ワーキンググループ参加



臨床工学部

技士長 齋藤謙一

1. 高気圧酸素療法 (HBO)

高気圧酸素療法は、第1種装置（川崎エンジニアリング社製KOH-2000）2台で月～金曜日8：30～17：00、土曜、祝日8：30～12：00実施。緊急時にはオンコールでいつでも実施できる体制になっています。

2017年度は、198名（男109名、女89名）の患者様に対して治療回数は2,086回（救急適応462回、非救急適応1,624回）でした（表1）。診療科別では、整形外科37%、耳鼻咽喉科35%と2診療科で全体の約7割を占めています（表2）。

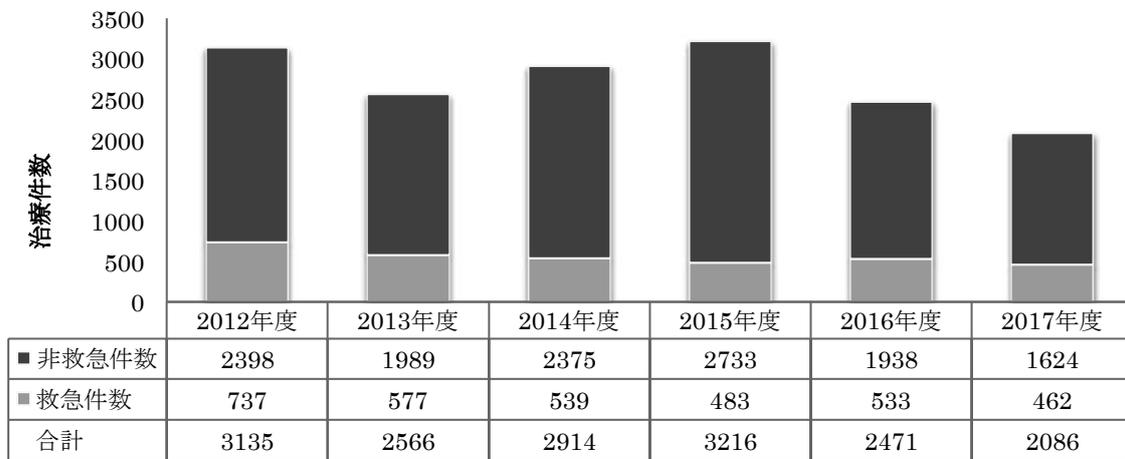


表 1 高気圧酸素治療実施状況

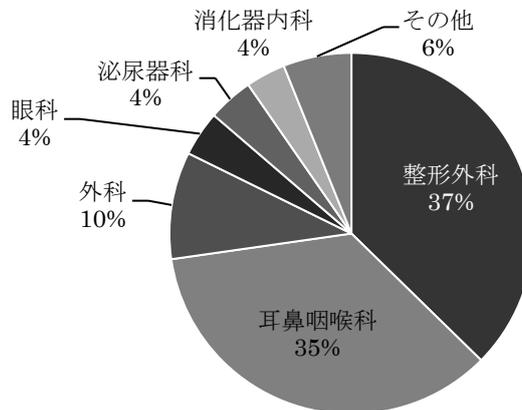


表 2 診療科別HBO依頼件数

2. 人工呼吸関連

当院の人工呼吸器を表3に示します。2013年から導入されたハイフローセラピー／ネーザルハイフロー（NHF）の使用状況を表4に示します。NHFは鼻カニューラを通して21～100%の酸素を最大60L/minの高流量で患者に供給できるシステムで低流量酸素療法とNPPVとの間の治療法としてNPPVの拒否患者や気管挿管チューブ抜管後などに有効とされます。当院での使用状況は増加傾向にありましたが2016年度に一気に337件と増加し2017年度も同数でした。

機種名	メーカー	台数	コメント
HAMILTON-C1	HAMILTON	4	長時間バッテリー、小型、コンプレッサ内蔵、NPPV・IPPV可、ASV・APRVモード搭載
NPB-840	Covidien	4	高性能、高度な設定が可能、
Evita_XL	Dräger	1	高性能、APRVモード、スマートケア搭載
Engstrom Carestation	GE Healthcare	1	高性能、酸素消費量やCO2産生量、エネルギー消費量、呼吸商、FRC測定
V 60	Philips	2	NPPV専用機 常時レンタル
Carina	Dräger	1	長時間バッテリー、小型、コンプレッサ内蔵、NPPV・IPPV可
Babylog 8000plus	Dräger	3	新生児専用人工呼吸器
Babylog VN500	Dräger	1	HFO搭載の新生児専用高性能人工呼吸器
infant Flow SiPAP	CareFusion	2	新生児専用 n-CPAP装置+3台レンタル中
sindi	MedIn	2	新生児専用 n-CPAP装置
CARE vent MRI	O-TWO Medical	1	ガス駆動、搬送用、MRI対応

表 3 人工呼吸器使用状況

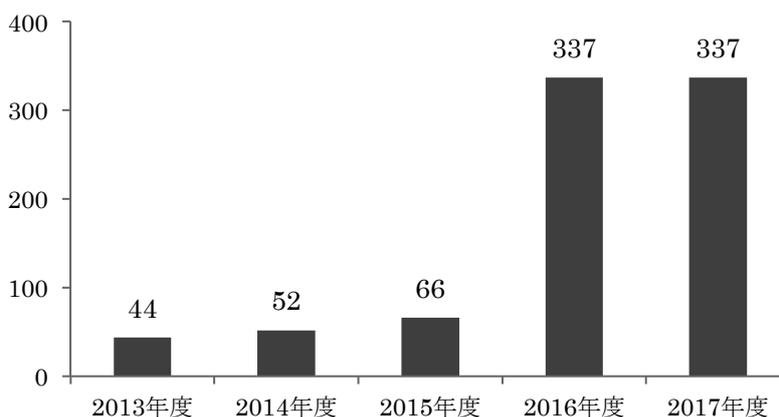


表 4 ネーザルハイフロー実施状況

人工呼吸器患者の搬送について

人工呼吸器装着患者のCTやMRIの検査や院外への転院などは、これまで医師がバッグバルブマスクなどを用いて用手換気を行いながら実施していましたが、当院では人工呼吸器装着患者の搬送にも適した人工呼吸器やMRI対応人工呼吸器の採用により必要な時にいつでも検査することができます。また、人工呼吸に関わる搬送には必ず臨床工学技士が同伴して医師や看護師の労力軽減につなげられるよう努力しています。2017年度は82件の搬送があり院内での搬送は49件、院外搬送は33件でした。転院時には搬送先での人工呼吸器設定などの申し送り等を臨床工学技士が実施しています。また、鹿児島市立病院NICUより当院へ転送する新生児に人工呼吸器（n-CPAP）やNHFが装着されている場合は必ず当院臨床工学技士も一緒に迎えに行き搬送用呼吸器のセットアップ、搬送中の監視を実施しています（表5）。

搬送先	回数
指宿浩然会病院	2
三船病院	2
小田原病院	2
国分生協病院	1
鹿児島医療センター	1
林内科胃腸科病院	1
臨床工学技士同乗の新生児搬送	
鹿児島市立病院	22
鹿児島大学病院	1
中村（哲）産婦人科内科	1

表 5 人工呼吸患者搬送先病院

3. 血液浄化

血液浄化のうち血液透析は3台の個人器（+ICU内に1台）で実施しています。2017年度の透析実施回数は297回でした（表6）。当院は各科に紹介入院された透析患者様について実施しています（表7）その他、持続的腎代替療法（CRRT）、アフエレーシスの実施状況を（表8）に示しました。

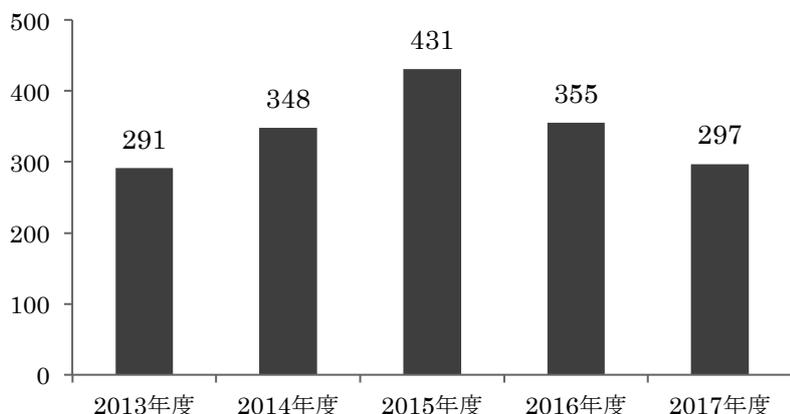


表 6 血液透析実施状況

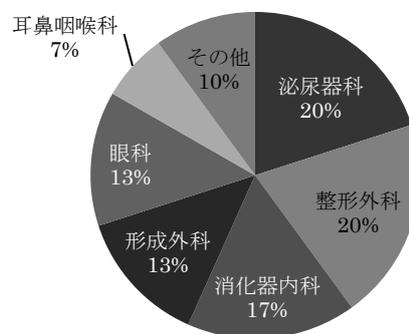


表 7 血液透析患者診療科割合

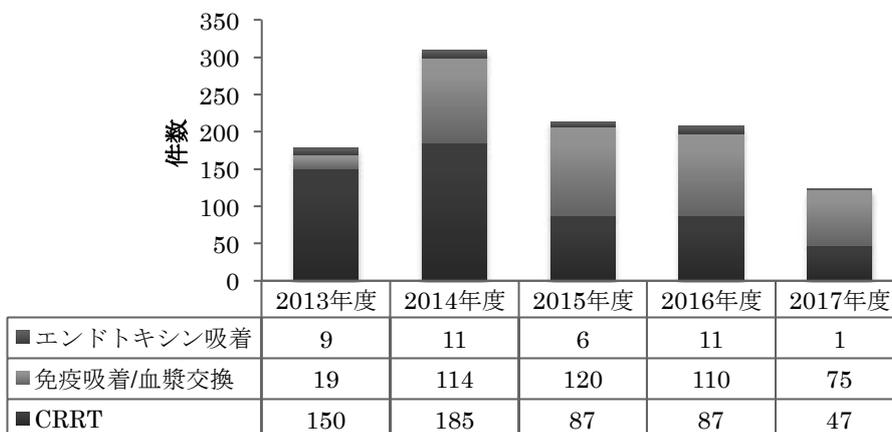


表 8 アフエレーシス実施状況

4. 術中脊椎誘発電位モニタリング

脊椎、脊髄の手術の際、MEP（運動誘発電位）およびSSEP（体性感覚誘発電位）による術中モニタリングを施行しています。脊髄モニタリングとは脊髄の電気伝導能を評価する方法であり、圧迫性病変や脊髄腫瘍などによる脊髄の損傷の程度を評価することができます。

2014年10月に検査機器（Endeavor CR 術中モニタリング装置）の導入を行いMEPの計測が可能になり2017年度は277件の脊椎・脊髄手術で実施しました（表9）。

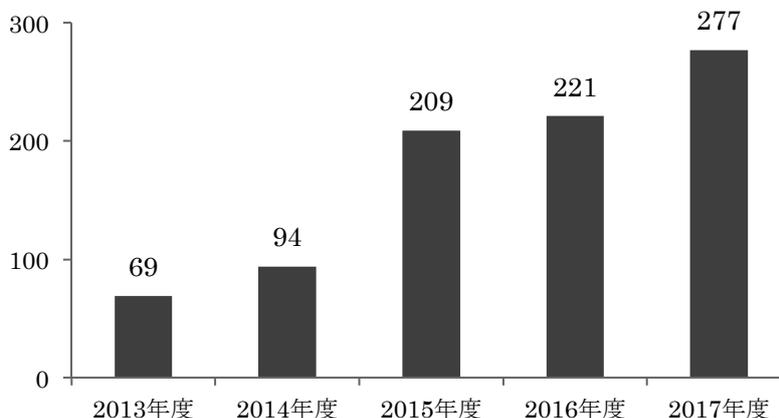


表 9 術中モニタリング件数推移



在宅医療部

主任 生野 雅子

I. 訪問看護活動(平成 29 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日) ※在宅診療科に合わせ、年次報告

1) スタッフ (五十音順)

保健師・看護師 3名 小野・生野・南
 訪問診察医師(兼任) 8名 臼元・小田・甲斐・生野・林・二木・松添・三宅
 兼任作業療法士 1名 児島

2) 患者総数 44名 (男性 20名 女性 24名)

① 転帰

転帰	人数(人)
軽快	1
転院	6
施設入所	3
長期入院	0
死亡(病院)	4
死亡(在宅)	1
合計	15

② 月別訪問件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計(件)
訪問診察 (緩和診察)	42 (0)	40 (0)	38 (0)	39 (0)	39 (0)	41 (0)	40 (0)	41 (0)	39 (1)	36 (2)	39 (0)	37 (0)	471 (3)
訪問看護	108	97	91	71	78	103	81	91	93	98	95	89	1,100
訪問リハビリ	1	4	3	3	5	4	3	3	3	4	4	4	42
合計(件)	151	141	132	113	122	148	125	135	135	138	138	130	1,608

3) 相談ケース

① 相談内容

相談内容	件数
訪問診察と看護について	9
訪問看護について	18
訪問診察について	3
介護保険について	0
その他	0
合計	30

② 相談依頼者

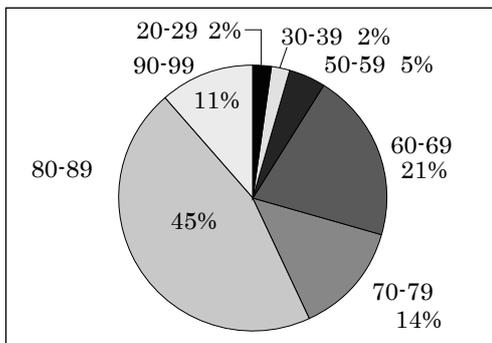
相談依頼者	件数
緩和ケアスタッフ	7
医師	3
ケアマネージャー	7
MSW	7
患者・家族	0
看護師	5
その他	1
合計	30

4) 主疾患名(44名)

疾患	(人)	疾患	(人)
神経系疾患	15	尿路器系疾患	0
悪性新生物	6	消化器系	1
循環器疾患	11	内分泌系・代謝疾患	3
呼吸器疾患	3	精神および行動障害	1
損傷、中毒外因の影響	3	筋骨格系	1

5) 患者年齢 (平均 76.4 歳 23 ~ 94 歳)

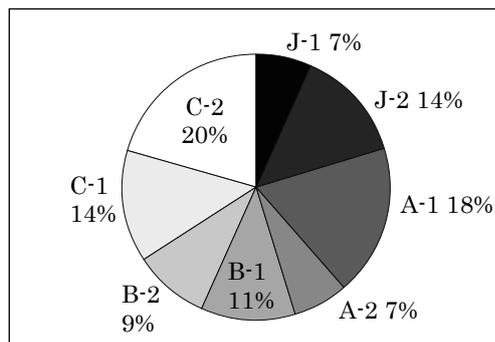
年代	人数 (人)
20-29	1
30-39	1
40-49	0
50-59	2
60-69	9
70-79	6
80-89	20
90-99	5
合計	44



6) 寝たきりランク

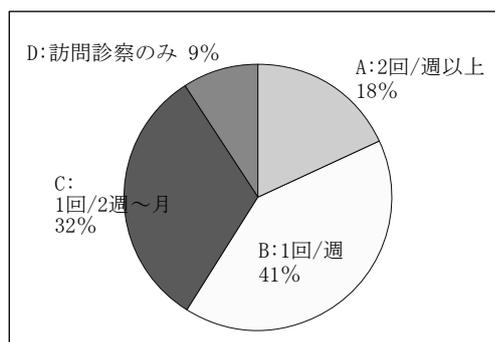
生活自立	ランク J	何らかの障害等を有するが、日常生活は自立しており独力で外出する 1. 交通機関を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ 1. 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車椅子に移乗する
	ランク C	1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうたない

ランク	人数 (人)
J-1	3
J-2	6
A-1	8
A-2	3
B-1	5
B-2	4
C-1	6
C-2	9
合計	44



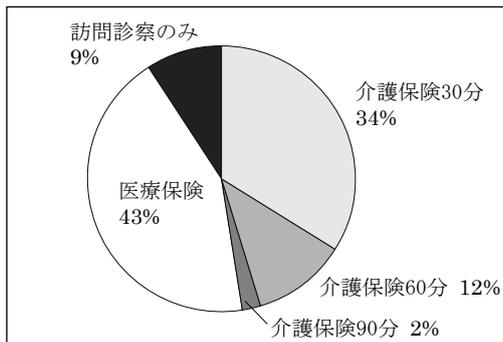
7) 訪問看護の頻度

訪問回数	人数 (人)
A: 2回/週 以上	8
B: 1回/週	18
C: 1回/2週 ~ 月	14
D: 訪問診察のみ	4
合計	44



8) 訪問看護の保険の種類

介護保険30分	15
介護保険60分	5
介護保険90分	1
医療保険	19
訪問診察のみ	4
合計	44

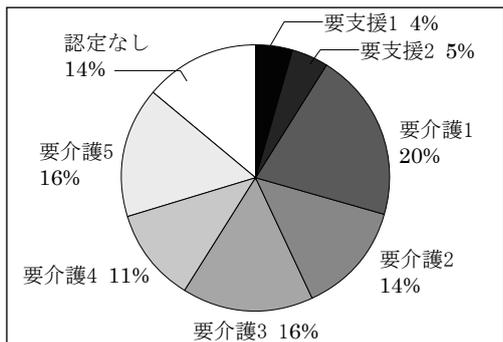


9) 医療依存度ケース

内容	人数(人)	内容	人数(人)	内容	人数(人)
軟膏塗布	15	坐薬挿入	1	吸入	2
創処置	14	人工呼吸器	0	血糖チェック	1
排便・浣腸	5	バルンカテーテル留置	3	人工肛門・ウロストミー	0
点滴・注射	4	リハビリ	4	点眼	3
麻薬・抗癌剤管理	3	気管切開	4	IVH(ポート)	1
胃ろう・経管栄養	6	在宅酸素療法	3	服薬管理	31
吸引	5	導尿	3	その他	0

10) 介護保険利用者

介護度	人数(人)
要支援1	2
要支援2	2
要介護1	9
要介護2	6
要介護3	7
要介護4	5
要介護5	7
認定なし	6
合計	44



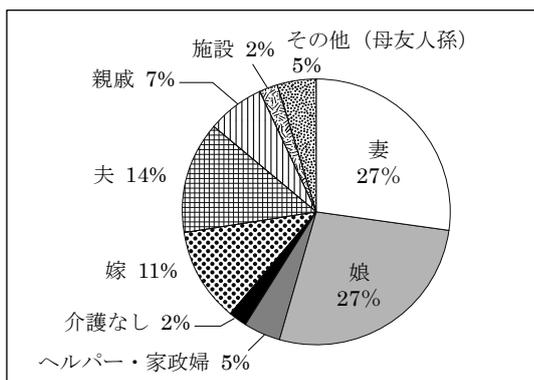
11) 清潔介助

内容	人数(人)
全身浴	3
部分浴	7
部分保清	8

全身浴: 入浴・シャワー浴・全身清拭など
 部分浴: 足浴・手浴・陰部洗浄・洗髪など
 部分保清: 部分清拭・口腔ケア・耳垢除去・髭剃り・爪きりなど

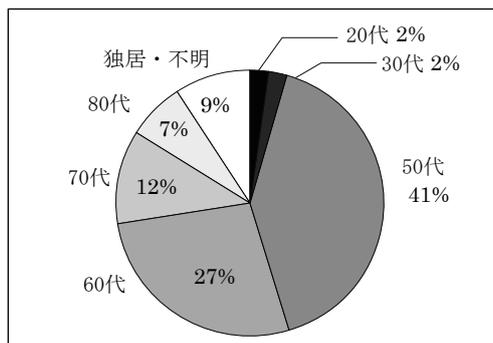
12) 主な介護者

介護者	人数(人)
妻	12
娘	12
ヘルパー・家政婦	2
息子	0
介護なし	1
嫁	5
夫	6
兄弟	0
親戚	3
施設	1
その他(母友人)	2
合計	44



13) 介護者の年齢(平均 60.4 歳 26 ~ 82 歳)

年代	人数 (人)
20代	1
30代	1
40代	0
50代	18
60代	12
70代	5
80代	3
独居・不明	4
合計	44



14) 介護保険利用状況

内容	人数 (人)	内容	人数 (人)
訪問介護	18	通所リハビリ	9
訪問入浴	4	通所サービス	13
訪問リハビリ	17	ショートステイ(病院を含む)	6

15) 指導内容

内容	人数 (人)	内容	人数 (人)
服薬指導	39	精神的支え	7
栄養指導	24	認知症対応方法	8
介護指導	25	家族の健康相談	4
福祉サービス紹介	5	終末期の援助	4

16) 他の専門機関・職種との連携

- 1) 訪問歯科診療の利用 7名
- 2) 訪問薬剤指導の利用 8名

Ⅱ. その他の活動

1) 実習生受け入れ実績

- ・久木田学園看護専門学校 : 4/17 ~ 9/22 8名
- ・鹿児島中央看護専門学校 2年課程(通信制)看護科 : 7/26 ~ 8/22 15名
- ・神村学園高等部看護学科専門課程 : 6/12 ~ 12/15 17名

2) 院内感染防止対策委員会 : 月1回

3) 労働安全衛生委員会 : 月1回

4) 病院業務運営会議 : 月1回

5) 死亡患者初七日訪問 : 4名



相談支援センター 医療相談室

副センター長 吉 満 実

【平成 29 年度 MSW(退院調整)の活動報告】

地域の基幹病院としての性格を持ち、高度救急医療の提供を行う当病院では入院外来治療において阻害要因としての様々な問題が発生しています。また、医療制度の変遷により役割分担が更に明確になってきており、このような背景において平成29年度のMSWとしての活動を報告致します。

当院では退院調整加算1及び退院調整加算3（NICU）を算定しており退院調整部門として各病棟に担当MSW及び看護師を配置しています。

平均在院日数の短縮

当病院におけるMSWとしての最大の役割としては、院内外との連携であります。

現在の当院の基準としては、『平均在院日数 17日以内』です。在院日数は退院支援部門の設置、退院支援の強化もあり15.95日で短縮化が図れました。平均在院日数の短縮及び稼働率向上が当院として最大の課題です。

質の高い医療の提供と共に患者様の早期退院や転院、社会復帰を目指し援助を行っています。

◆MSW の早期介入の促進(退院支援部門の強化)

MSWが入院初期より、患者様の状態・基本情報等を把握することにより、いろいろな問題を未然に防ぎ、円滑な退院・転院への援助が可能となります。

早期での患者様との関わりを持つことで信頼関係の構築が容易になり、患者様・その家族の理解を得ることにより、入院・治療期間の短縮につながります。また、整形外科・脳神経外科・神経内科・呼吸器内科・総合内科のカンファレンスに同席し患者様の状態や状況の変化に応じて対応しています。

また、退院支援部門として退院調整カンファレンスの他職種介入により患者様の退院や転院に関して質の高い支援が構築されつつあります。

◆社会的入院患者へのアプローチ

核家族化が進む中、一人暮らしのために家に帰れない、日中、仕事で自宅介護が困難等いわゆる「社会的入院」が、問題になっています。当病院においても例外ではありません。

現時点においては、MSWの早期患者把握・介入によって、かなり減少傾向にあります。療養型の医療機関、回復期リハビリテーション病院・介護老人保健施設グループホームや在宅復帰の場合は常日頃より居宅介護支援事業所等と綿密に連携をとることで、迅速な援助を行うことができています。

◆長期入院患者へのアプローチ

長期入院患者（入院期間3ヶ月以上）の的確な把握を行い、「なぜ、長期になっているのか」ということを明確にすることが重要です。長期入院となっている患者様の中には、治療の経過で長期になられた患者様や病状的に退院・転院が困難な患者様への理解は忘れてはなりません。長期入院は年々減少傾向です。

◆回復期病棟における退院支援

平成27年1月1日より3階北病棟において33床の回復期病棟を運営しています。

整形外科の術後の患者様が中心ですが、高齢者、要介護者、障害者など自宅退院を目標とした病棟なので退院に際し、在宅サービスの導入など調整が必要です。自宅退院を調整するためケアマネージャーさんとの連携強化を図り退院前カンファレンス等充実を図っています。

引き続き患者様及び御家族にとってより良い退院調整ができるように努めます。

地域の医療機関・介護保険関連事業所との連携強化

当病院が急性のDPC医療機関として体制を維持していくためには、地域の各医療機関との連携を推進していかなければなりません。

また、療養型の医療機関もそれぞれ役割や特徴があります。その状況を把握して患者様の橋渡しをしなくてはなりません。リハビリテーションにおいても疾患別限度日数が導入され、リハビリ目的で早い時期での転院が必要となってきました。地域の医療機関との連携もより迅速に行っていかなければならなくなりました。

また、介護保険に関連した施設や居宅会議支援事業所との連携もより多様化し多くの事業所との関係が必要となっています。介護連携指導の充実と退院時共同指導の充実が今後の課題です。

医療相談室の開設

当院本館1階に医療相談室や患者サポート窓口が開設しており、個室での面談・相談が可能です。患者様のプライバシーに配慮した面談が可能です。

医療相談室では、患者様や御家族に入室してもらい相談援助を実施する形を取っていますが、入室が困難な場合は各病室への訪室も可能です。また、がん相談・経済的相談・社会的相談・各種申請書類についての相談や苦情や個人情報に関する相談窓口としての機能を有しています。

その他の業務として

変遷していく医療保険制度や介護保険制度において、退院支援部門として対処しなければならない事柄は多いものです。

MSWの役割として、外来・入院患者様を問わず、医療費の相談や社会福祉サービス等の相談を、受けています。連携室では緊急性のない入院相談等も調整しています。

介護保険・指定難病・身体障害者手帳の手続き代行や苦情処理・個人情報に関わる相談・平均在院日数の管理・紹介患者の管理・問題患者への対処等々、その他の細かい業務は多いものです。

次年度は退院支援に関し、入退院支援室（PMF）との連携も図り入院前から退院調整・社会的問題の把握、解決を図り、調整部門の充実と患者様、ご家族にとってより良い、退院支援を目指して行きたいと思えます。

退院調整部門（MSW5名 退院調整看護師2名）

MSW：原口一博・吉満 実・上西章子・山崎留美・湯田麻里子

NS：窪田いづみ・本坊ひろえ（専従）・永山絵梨香（NICU 専従）

現在、月曜日から金曜日までの午前・午後、土曜日の午前の勤務となっています。

事前に連絡を頂ければ、時間外でも相談には応じます。

平成29年度 平均在院日数、長期入院患者、退院援助の統計表

平均在院日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成27年度	15.1	16.9	15.4	15.5	15.9	15.5	15.8	16.5	15.7	17.1	17.1	15.7	16.02
平成28年度	16.5	16.7	15.8	16.0	15.5	16.2	17.3	15.7	16.2	17.9	16.9	16.8	16.46
平成29年度	16.5	16.5	15.6	15.7	15.4	15.6	15.6	15.4	14.6	17.3	17.1	16.1	15.95

長期入院患者（3ヶ月以上入院患者）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成27年度	4.2%	5.0%	3.6%	5.1%	6.5%	6.3%	4.2%	4.1%	6.7%	6.2%	5.6%	5.4%	5.2%
長期（人数）	15	17	13	17	21	21	14	14	18	22	21	20	17.75
病床稼働	356	340	362	332	324	335	335	343	270	354	376	367	341.2
平成28年度	4.8%	6.1%	4.9%	5.9%	4.6%	5.1%	4.8%	4.2%	3.3%	2.9%	2.5%	2.3%	4.2%
長期（人数）	18	22	18	22	17	19	18	16	13	11	10	9	16.08
病床稼働	376	358	367	372	373	369	378	381	394	383	406	399	379.67
平成29年度	4.1%	6.0%	4.4%	3.3%	3.4%	4.5%	4.6%	4.0%	4.2%	2.3%	3.6%	3.0%	3.9%
長期（人数）	15	23	17	13	13	17	17	15	16	9	15	12	15.17
病床稼働	365	383	389	399	386	380	369	375	384	398	418	406	387.7

退院支援患者集計表（退院支援部門介入）

	医療機関	在宅	老人保健施設	他施設	死亡退院	平成29年度合計
4月	83	33	2	7	3	128
5月	93	33	2	12	5	145
6月	95	51	3	11	6	166
7月	68	29	2	12	6	117
8月	87	34	1	8	2	132
9月	79	36	3	5	6	129
10月	86	28	1	10	4	129
11月	75	41	2	12	5	135
12月	93	36	3	15	6	153
1月	90	47	2	8	9	156
2月	84	35	2	10	12	143
3月	105	38	3	14	3	163
平成27年度合計	738	197	35	67	25	1,062
平成28年度合計	809	316	38	88	38	1,289
平成29年度合計	1,038	441	26	124	67	1,696

退院調整加算等算定数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院支援加算1	108	119	141	103	120	104	116	114	133	108	121	149	1,436
退院支援加算3	0	12	12	9	18	16	17	11	17	15	17	10	154
介護連携指導	9	7	14	10	8	7	5	11	5	4	5	2	87
退院時共同指導2	2	2	2	7	5	9	5	5	6	3	3	7	56
多機関共同指導加算	2	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0	1	9



相談支援センター 地域医療連携

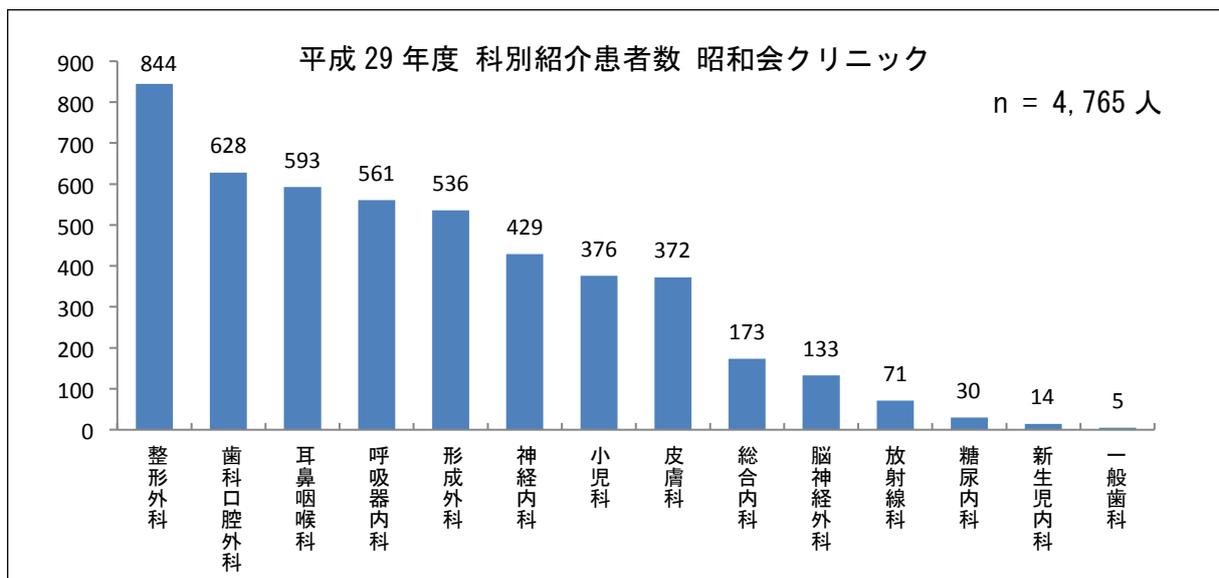
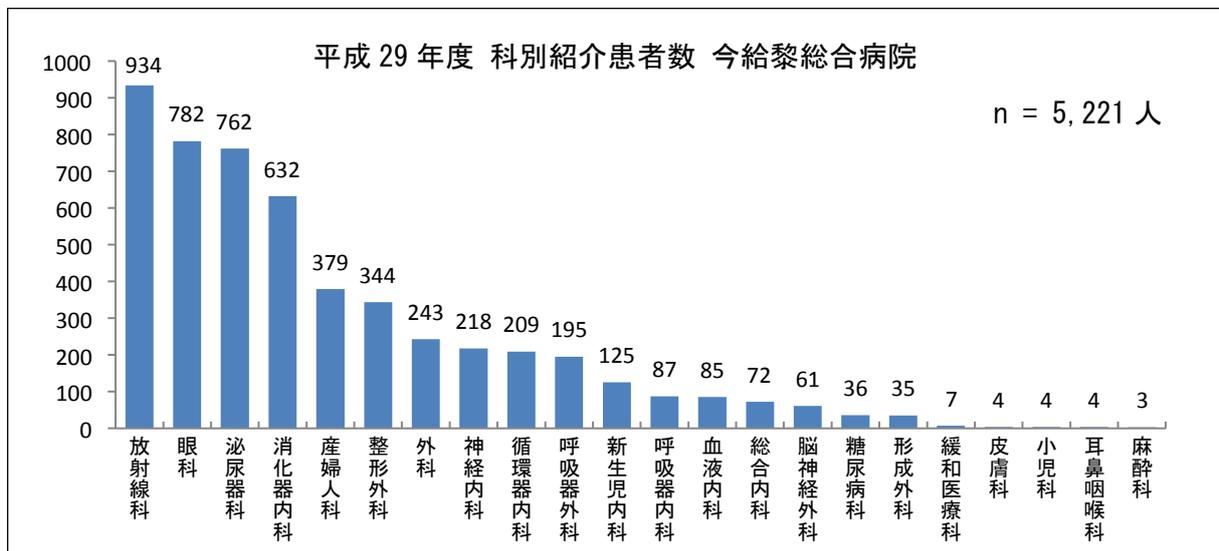
上ノ園美穂

平成29年度関連施設は、1,000施設 9,986名の紹介がありました。鹿児島県内870施設、県外130施設から紹介をいただきました。県内では、鹿児島市・霧島市・姶良市・薩摩川内市・日置市の順に、離島からも多くのご紹介をいただいております。

県外では、宮崎県(22)、熊本県(13)、福岡県(22)、東京都(19)、北海道・沖縄の施設からも紹介いただきました。※()内は施設数

また、当院は多数の診療科を有しており、総合医療を提供できることが最大の特徴です。単科診療を目的とした紹介もありますが、1施設から多数の診療科に紹介をいただくといった、総合医療を目的とした紹介が多くみられます。日常診療の充実はもとより、救急医療や地域の中心的病院としての役割を担っています。

当院では、病診・救急医療へ積極的な取り組みを病院方針の一つとして、今後とも、紹介患者や救急患者を積極的に受け入れていくことにより、地域医療に貢献していきたいと考えております。



- 紹介患者及び逆紹介市町村別統計は、病院統計にて参照
- 年度別救急車受け入れ台数・患者数統計病院統計にて参照



がん相談支援センター

専従保健師（緩和医療課） 植屋 明代

がん相談支援センターは本館1階の産婦人科外来の前にあり、専従相談員の植屋が常駐、不在時は緩和ケア認定看護師の早崎・岩山が対応しています。MSWは主に退院支援に携わり、管理栄養士・薬剤師・医事課の方など院内スタッフの協力を得ております。患者様・ご家族のみならず、まだ院内スタッフへの周知も十分とは言えない状況です。じっくりお話を傾聴し、相談の質を向上させるとともに、更に広報・周知にも努めていきたいと思っております。

【スタッフ】植屋・早崎・岩山(緩和医療課) 原口・吉満(相談支援センター)

相談内容 （*重複相談対応あり）	緩和医療課対応			相談支援センター対応			合計
	患者	家族	その他	患者	家族	その他	
がん治療	34	32	4	0	0	0	70
がんの検査	8	8	1	0	0	0	17
症状・副作用・後遺症	37	13	3	0	0	0	53
セカンドオピニオン(一般)	4	2	2	0	0	0	8
セカンドオピニオン(受入)	2	1	4	0	0	0	7
セカンドオピニオン(他へ紹介)	1	3	2	0	0	0	6
治療実績	0	0	0	0	0	0	0
臨床試験、先進医療	0	0	0	0	0	0	0
受診方法・入院	5	2	1	0	85	0	93
転院	3	22	3	0	104	0	132
医療機関の紹介	2	16	2	0	0	0	20
がん予防・検診	1	1	0	0	0	0	2
在宅医療	5	17	7	0	59	0	88
ホスピス・緩和ケア	10	44	7	0	0	0	61
食事・服薬・入浴・運動・外出など	9	3	0	0	0	0	12
介護・看護・養育	7	17	5	0	0	0	29
社会生活(仕事・就労・学業)	5	3	0	5	0	0	13
医療費・生活費・社会保障制度	11	14	1	17	0	0	43
補完代替医療	2	1	4	0	0	0	7
生きがい、価値観	16	4	0	0	0	0	20
不安・精神的苦痛	119	93	3	0	0	0	215
告知	5	7	0	0	0	0	12
医療者との関係・コミュニケーション	11	13	1	0	0	0	25
患者-家族の関係・コミュニケーション	3	4	0	0	0	0	7
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	1	0	0	0	0	0	1
患者会・家族会	9	3	0	0	0	0	12
その他	40	14	6	0	0	0	60

★緩和医療課のがん相談対応 371 件の詳細は『緩和医療課』のページに掲載

【院外会議】

鹿児島県がん相談員部門会議(鹿児島大学病院) 8月：原口、植屋 11月：植屋、 2月：原口、植屋



医療安全管理課

課長 千田 清美

医療機関においては、組織的な医療安全管理活動が義務化され、当院も医療安全管理加算1を取得しています。各部署・部門において発生したインシデント・アクシデント事象の報告書による可視化、作業環境や情報管理および業務手順・運用システムなどの管理工程でエラー要因となる根本原因を明らかにして改善策の策定と取り組みの評価を行うPDCAサイクルが機能することが求められます。また、医療従事者一人ひとりが、危険認識と事故回避のための対処ができること、チーム医療においては、患者安全の最優先と職員全員が協力して安全性の向上に取り組むことが欠かせません。今年度は5Sと患者同定をテーマに、各部署において医療安全推進月間の取り組みを展開し、安全管理部門メンバーによる院内の電気使用の安全確認ラウンドを実施しました。

【スタッフ】

看護師 2名 千田清美、長野みつ美

【部門実績及び活動内容】

- 安全管理部門カンファレンスの運営
(1回/週-第1火曜日と毎週月曜日) ~長野、千田
- 医療安全対策委員会の運営 (毎月第2水曜日)
~長野、千田
- 看護安全対策委員会の開催支援
(毎月第3火曜日) ~長野、千田
- 多職種チーム活動への参加
 - RSTチーム (木曜日/週) ~長野、千田
 - 転倒、転落ワーキンググループ
(毎月第2木曜日) ~長野
 - 口腔ケアチーム (金曜日/週) ~長野
H29、4月 口腔ケア学会発表
(口腔ケアチーム共同発表 長野・末吉・中村)
口腔観察シート、日々の口腔ケア記録導入後の現状と今後の課題
- 院内報告システムにおけるレポートの管理および定例会へのフィードバック
- 院内教育研修の企画と開催、看護部教育研修の支援
- 医療安全管理指針の見直し
- 患者相談および患者・家族対応への相談事案 (6診療科・11部署)
- 院内BLS講習会及びICLS講習会の開催支援 (BLS4回、ICLS2回)
- リスクマネジメントニュースの発行~各部門からの情報提供。
- 学会発表 口腔ケア学会 口腔ケアチーム共同発表 長野みつ美・末吉由美子・中村章子
口腔観察シート、日々の口腔ケア記録導入後の現状と今後の課題 H29年4月22日 沖縄

月別	タイトル
4月	患者情報の照合はできていますか？
5月	ワーファリン内服はありませんか？
6月	手術に伴う中止薬・中止薬再開の指示受けルールを守れていますか？
7月	ポンプと自然滴下の併用って大丈夫？
8月	検体の取扱いを見直してみましよう！
9月	X線透視撮影時の注意点
10月	① 自分の周りで取り扱われている個人情報 を把握していますか？ ② インフレーションライン(カフチューブ) 切断
11月	タコ足配線していませんか？
12月	Do 処方機能を使ってオーダーが行われ るとコメントまで引き継がれるため注 意が必要です。
1月	病理検体取扱いについて~病理検体取り 間違いを防ぐために~
2月	大腿骨人工骨頭置換術・人工股関節全置 換術術後の脱臼リスクについて理解して いますか？
3月	何気ない場面ですが、確認必要！

【医療安全管理部門カンファレンス (1回/週)】

〈カンファレンスメンバー〉

松永俊二副院長(チーフ統括セーフティマネージャー)、高橋真理(医薬品安全管理責任者)
 斎藤謙一(医療機器安全管理責任者)、岩下邦子(看護副部長)、末吉美津代(看護安全対策委員会委員長)
 千田清美(専従医療安全管理者)、長野みつ美(専従医療安全管理者)、田中英樹(施設課課長)
 野口桂一(事務局長)、川井田祐一郎(事務局長代理)、濱田敏彦(クリニック事務長)
 益田阿佑美(総務企画課)：書記

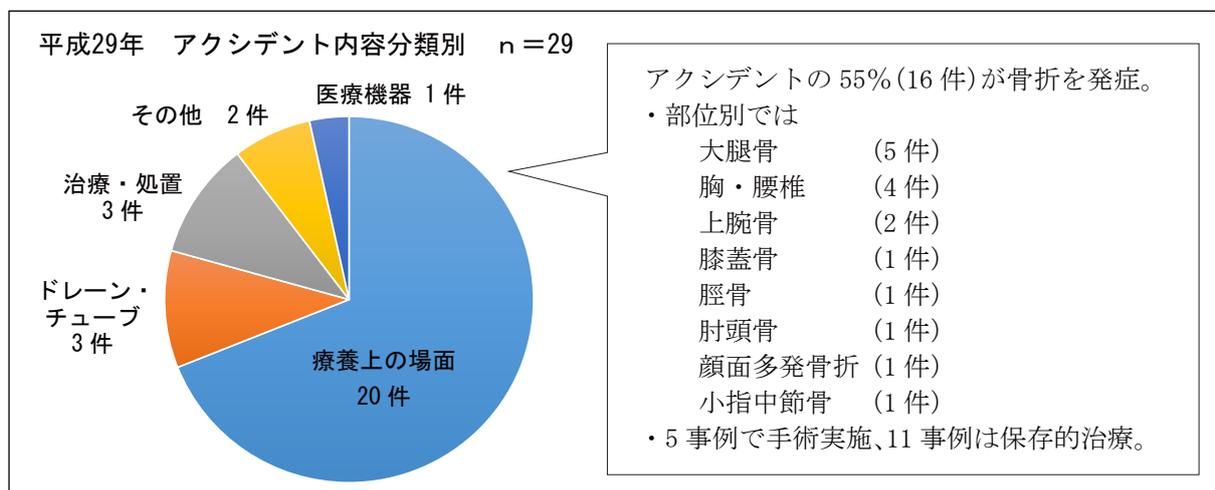
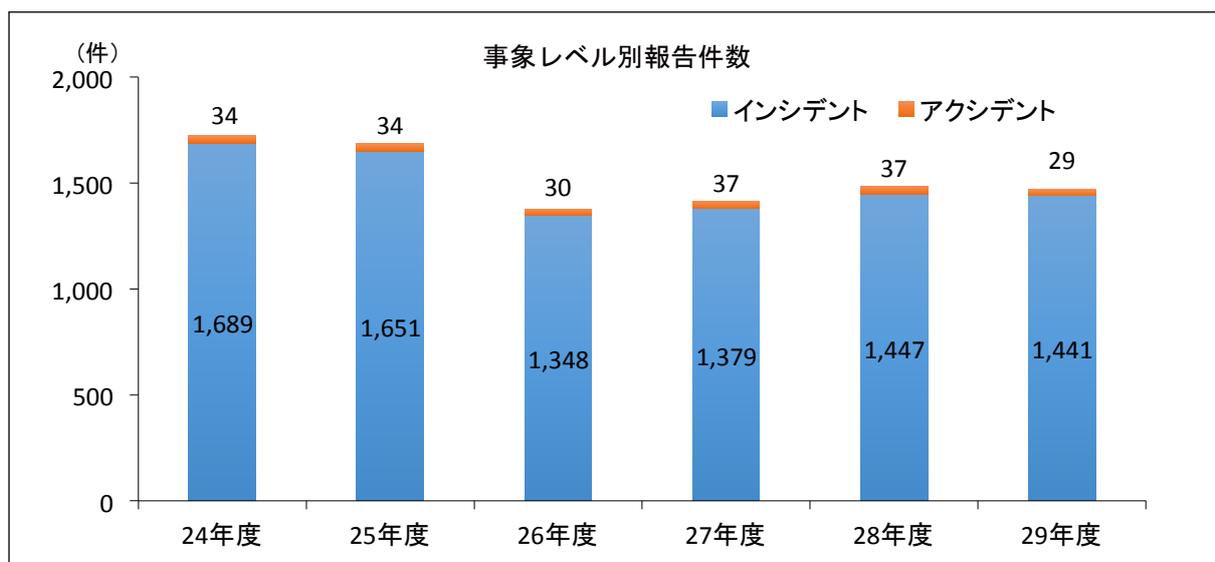
1 週間単位で登録されたインシデントレポート件数および事案の経緯についてカンファレンスメンバーで情報共有を行い危険度の評価および対策や対応方針について検討しました。

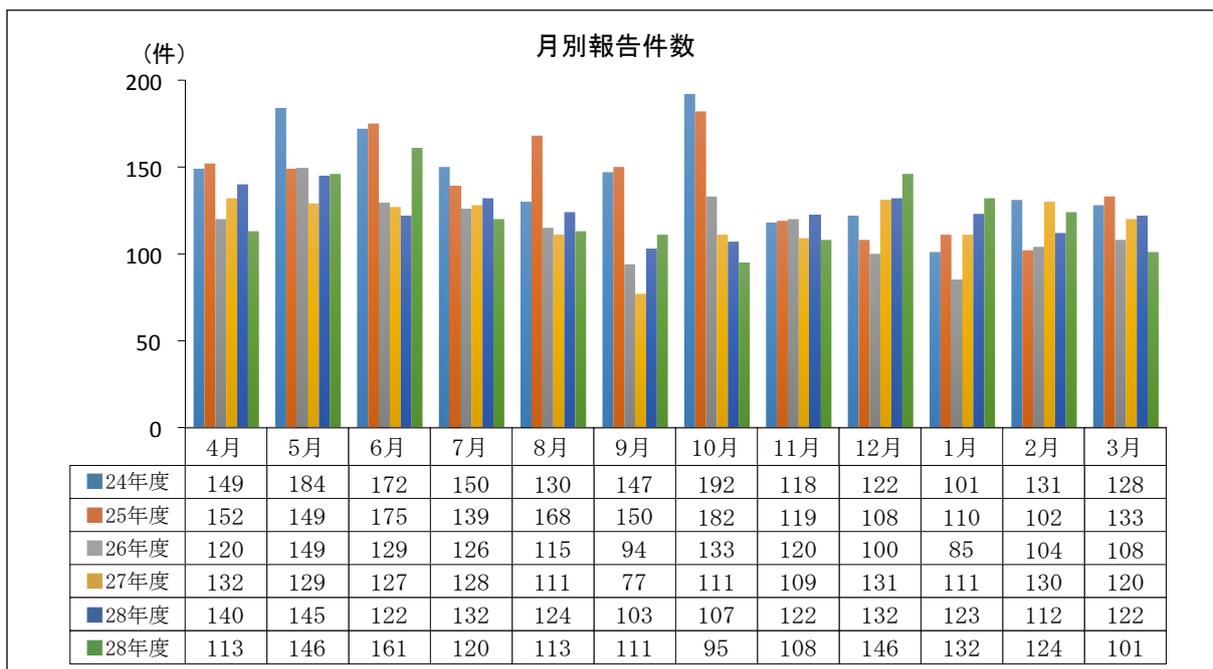
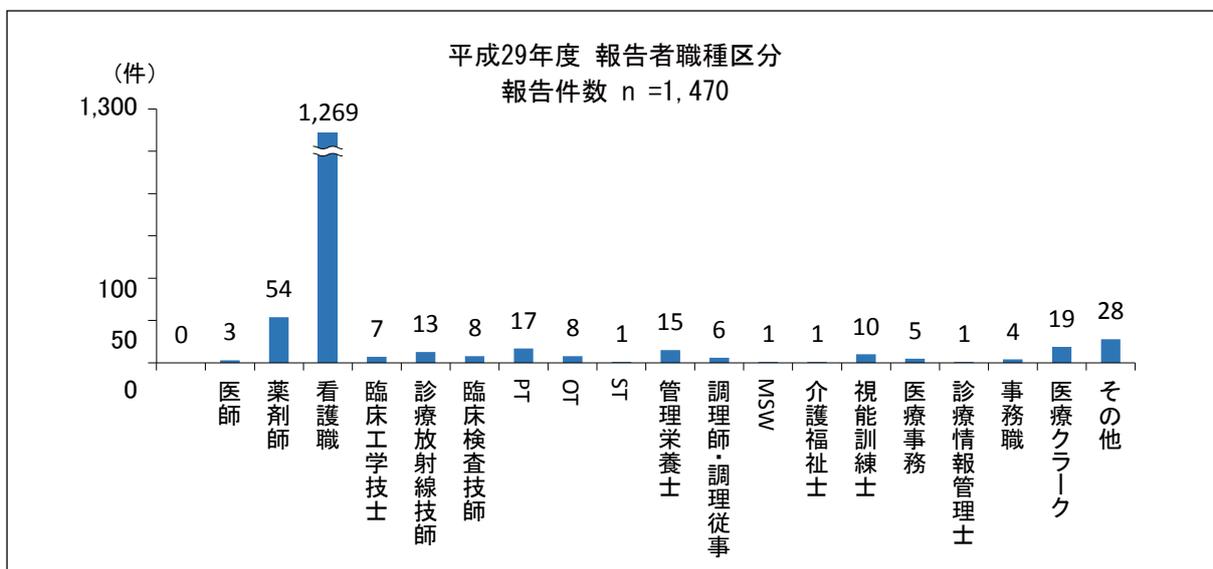
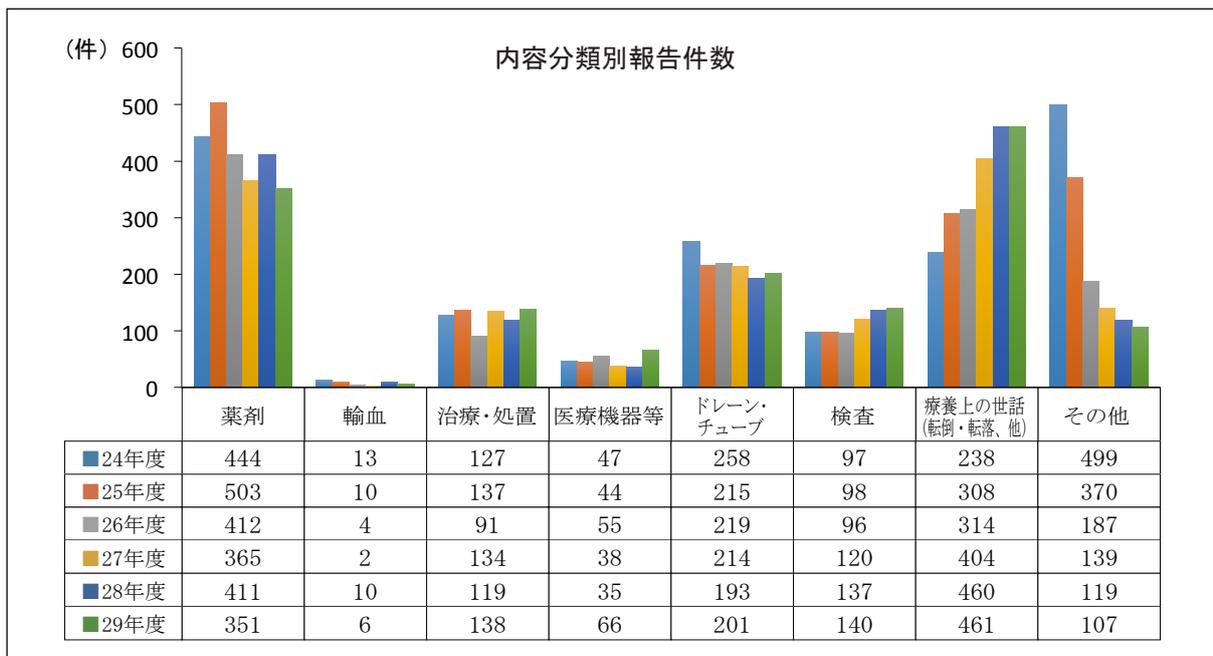
〈主な検討事項〉

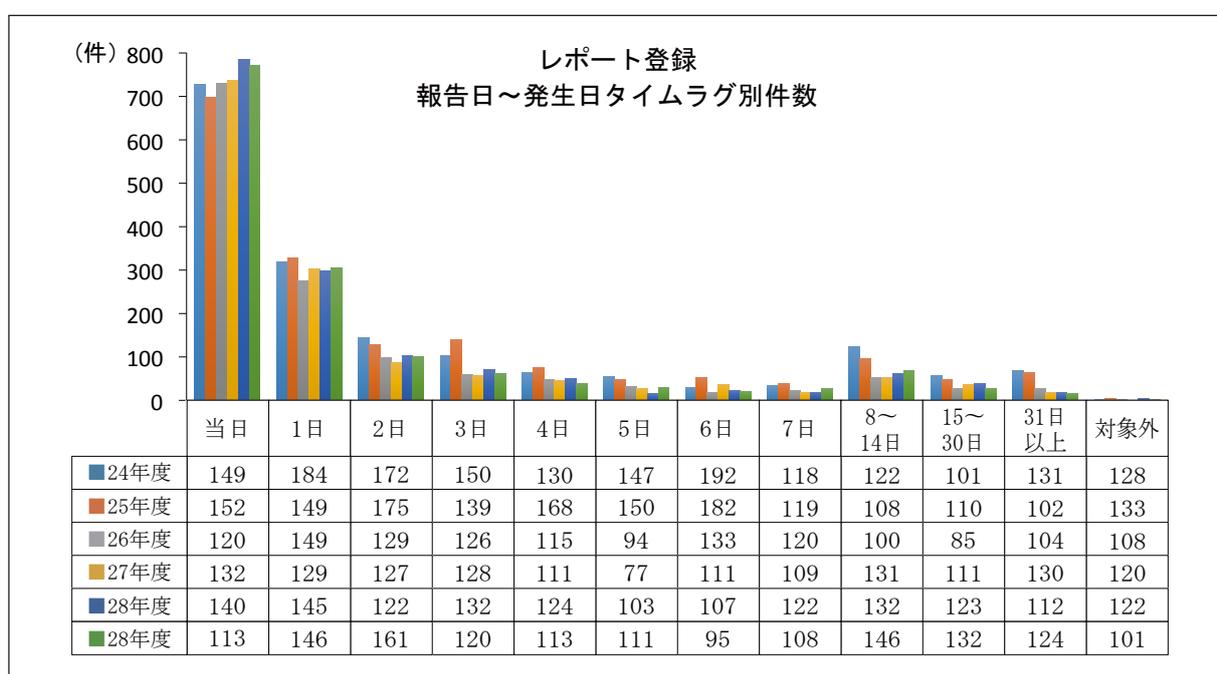
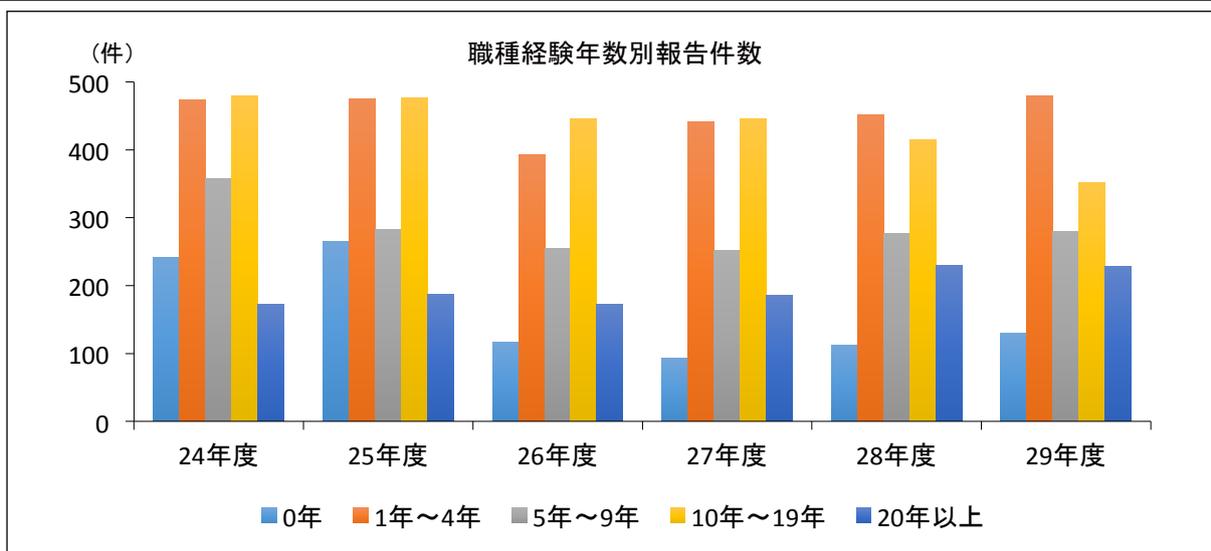
MRI検査入室前の金属探知機の導入について、ICU入口・職員通用口へのセキュリティ対策、透視室内の安全対策の確認、地震災害時の院内給水汚染への対応、外付けHDDの盗難事案への対応、入院患者の離院時対応、酸素チューブ採用品の見直し、寮のボヤ発生事案の確認、杖購入時トラブル事案、病棟の漏電発生事象等の検討を行いました。今年度は、院内のテーブルタップの過熱事案や病棟におけるコンセント差し込みプラグの破損事象などを受けて、医療安全推進月間に、安全管理部門メンバーによる院内ラウンドを行い各部署の電源タップの使用状況確認と不適切な使用状況の改善を実施しました。

【院内報告件数の推移：平成 29 年】

平成 29 年度の報告件数は 1470 件で、事象レベル別ではインシデント 1441 件(前年度 1447 件) アクシデント 29 件(前年度 37 件)でした。内容分類別の内訳は、療養上の世話(転倒・転落、褥瘡を含む)が 461 件(前年度 460 件)、薬剤 351 件(前年度 411 件)、ドレーン・チューブ管理 201 件(前年度 193 件)、検査 140 件(前年度 137 件)、治療・処置関連 138 件(前年度 119 件)、その他 107 件(前年度 119 件)、医療機器等 66 件(前年度 35 件)、輸血関連 6 件(前年度 10 件)で、薬剤・輸血・その他において前年度報告数より減少あり、薬剤においては 60 件の減少を認め、治療処置・医療機器・ドレーン・チューブ管理・検査・療養上の世話において報告数の増加あり、医療機器関連においては 31 件の増加を認めました。アクシデント(事象レベル 3 b 以上)29 件の内訳は、療養上の世話 20 件、ドレーン・チューブ管理 3 件、治療処置関連 3 件、その他 2 件、医療機器 1 件の割合で、昨年度のアクシデント事案 37 件より 29 件と減少しましたが、アクシデント事案における骨折の発症の割合は、前年度 10 件から 16 件に増加しました。骨折発症の要因は、転倒・転落を起因とした症例が 14 件と最多で、要介護 5 の寝たきりで関節拘縮を認める患者さんの骨折の発症が 2 件ありました。転倒・転落の危険度に限らず、**易骨折性**についても留意しておく必要があります。







【院内教育研修】

日程	内容	対象者
平成 29 年 4 月 5 日 ①11:20～12:30 ②14:05～15:30	医療安全管理について ②ワークで学ぼうみんなの SBAR	新入職者 60 名 (研修医 3 名含む)
平成 29 年 5 月 30 日 13:30～14:30	看護部クリニカルラダー レベル4 KYT の基礎と分析手法	レベル4 看護師 15 名
平成 29 年 7 月 10 日 13:30～14:30	看護部クリニカルラダー 医療安全研修～KYTの実践(GW)	レベル4 12 名
平成 29 年 8 月 3 日 16:00～17:00	がん看護委員会勉強会 せん妄ケアについて - 医療安全の視点から	がん看護委員会委員 21 名
平成 29 年 8 月 10 日 13:30～14:30	看護部クリニカルラダー:レベル3 リスククレーム	レベル 3 24 名
平成 29 年 9 月 29 日 13:30～14:30	看護部クリニカルラダー:レベル1 インシデントレポートの書き方とKYT	レベル1・中途入職者 40 名
平成 29 年 11 月 24 日 13:30～14:30	看護部クリニカルラダー:レベル2 医療安全管理活動について-KYT の理解と実践	レベル2・中途入植者 35 名
平成 29 年 11 月 29 日 13:30～14:30	看護部クリニカルラダー:レベル 4 KYT の実践-発表	レベル4 13 名

平成 29 年 12 月 8 日 17:30～19:00 12 月 9 日 13:30～15:00 追加開催:伝達講習 1 回目 12/16 2 回目 12/25 3 回目 H30/1/17 4 回目 1/19 5 回目 1/30 6 回目 1/31	平成 29 年度 第 1 回 医療安全研修会 安全を守るためのコミュニケーション ～メンタルモデルを意識しよう～ 講義と事例演習 1 日目・2 日目 講師 東京海上日動メディカルリスクマネジメント室 玉利英子先生 追加開催は医療安全管理課による伝達講習	全職員 1 日目 203 名 2 日目 95 名 追加開催 1 回目 89 名 2 回目 161 名 3 回目 92 名 4 回目 99 名 5 回目 82 名 6 回目 80 名 総受講者数 901 名
平成 30 年 5 月 30 日 17:30～18:30 2 回目 5/31 3 回目 6/1 4 回目 6/8 5 回目 6/12 6 回目 6/19	平成 29 年度 第 2 回 医療安全研修会 医療安全管理 - 院内事例からの報告 担当者:医療安全管理課	全職員 1 回目 228 名 2 回目 218 名 3 回目 187 名 4 回目 102 名 5 回目 83 名 6 回目 79 名 総受講者数 897 名

【救急蘇生ワーキンググループ】

当院職員を対象に、日本救急医学会認定プログラムのBLSコースを4回とICLSコースを2回開催し、BLSコース66名ICLSコース12名の受講生に修了証が発行されました。今年度は、若手の新規インストラクターの参加もありました。今後も、インストラクターの養成が課題です。

○コースディレクター 西山淳(麻酔科)

○インストラクター

齊藤謙一(臨床工学技士)、橋口恒夫(救急認定看護師)、尾堂知子(看護師)、有菌さつき(看護師)、熊迫智枝(看護師)、伊野知余子(看護師)、永田恵理(看護師)、小野保代(看護師)、千田清美(看護師)、古市寿子(理学療法士)、日高里美(看護師)、平瀬戸剛(看護師)有村美和(看護師)、弓元康平(理学療法士)、岩元大地(理学療法士)

院内 BLS コース (3 時間) 18:00～21:00		
日 程	内 容	対 象 者
平成 29 年 8 月 18 日	第 42 回 院内 BLS 講習会	受講希望者 18 名
平成 29 年 6 月 24 日	第 43 回 院内 BLS 講習会 (午前)	新卒看護師 18 名
	第 44 回 院内 BLS 講習会 (午後)	新卒看護師 18 名
平成 29 年 10 月 20 日	第 45 回 院内 BLS 講習会	受講希望者 12 名
今給黎総合病院 ICLS コース (8 時間) 9:00～17:00		
日 程	内 容	対 象 者
平成 29 年 10 月 7 日	第 10 回 ICLS コース (鹿児島大学総合臨床研修センター)	受講希望者 6 名
平成 29 年 12 月 16 日	第 12 回 ICLS コース (鹿児島大学総合臨床研修センター)	受講希望者 6 名 研修医 3 名・医師 1 名含む

【その他の活動】

鹿児島県看護協会医療安全情報ネットワークの鹿児島地区委員として、以下の院外活動を行いました。(鹿児島地区医療安全情報ネットワーク委員会 委員 千田清美)

1、鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議

- 第 1 回 平成 29 年 7 月 27 日(木) 18:30～20:00 鹿児島市立病院
- 第 2 回 平成 29 年 10 月 26 日(木) 18:30～20:00 鹿児島市立病院
- 第 3 回 平成 29 年 12 月 21 日(木) 18:30～20:00 鹿児島市立病院
- 第 4 回 平成 30 年 5 月 24 日(木) 18:30～20:00 鹿児島市立病院

2、鹿児島県医療安全情報ネットワーク会議

- 平成 29 年 8 月 26 日(土) 11:00～13:00 鹿児島県看護研修会館
- 平成 30 年 1 月 27 日(土) 11:00～13:00 鹿児島県看護研修会館

3、鹿児島県看護協会

- 鹿児島地区集会 医療安全情報ネットワーク委員
- 平成 29 年 6 月 10 日(土) 13:30～16:00 鹿児島県看護研修会館

4、鹿児島県鹿児島地区評議員会

- 平成 29 年 6 月 23 日(土) 14:30～17:00 鹿児島県看護研修会館
- 平成 29 年 9 月 22 日(金) 14:30～17:00 鹿児島県看護研修会館
- 平成 29 年 11 月 24 日(金) 14:30～17:00 鹿児島市立病院
- 平成 30 年 2 月 23 日(金) 14:30～17:00 鹿児島県看護研修会館
- 平成 30 年 6 月 1 日(金) 14:30～17:00 鹿児島県看護研修会館



褥瘡管理課

主任 下前百合香

【スタッフ】 4名(皮膚・排泄ケア認定看護師2名、日本褥瘡学会認定師(看護師)1名、事務1名)

【部門実績】

- 1) 業務内容
- ・入院患者の褥瘡対策・褥瘡患者管理、スタッフ指導、形成外来との連携
⇒詳細は褥瘡対策委員会報告書参照
 - ・褥瘡対策患者抽出し、褥瘡ハイリスク対象患者への予防訪問
 - ・スキンケア・創傷ケア・ストーマケアコンサルテーション
 - ・NPWT(VAC・RENASYS・PICO・SNaP)製品物品管理
 - ・体圧分散寝具管理(除圧マット・Airマット・ポジショニングクッション)
 - ・褥瘡回診(毎週月曜日14:00~)
形成外科医(小坂Dr)、皮膚・排泄ケア認定看護師(下前、椎木)、
日本褥瘡学会認定師(看護師:逆瀬川)薬剤師(古賀、賤間、壽、肥田)、
作業療法士(宮之原:日本褥瘡学会認定師、鮫島、鶴田)、
理学療法士(野村、中辻、井上、福永)、各病棟スタッフ
 - ・NSTカンファレンス・回診:日本褥瘡学会認定師(看護師:逆瀬川)参加(毎週火曜日)
 - ・褥瘡対策委員会開催(毎月第1水曜日:17:15~18:15)
 - ・NST委員会会議参加(奇数月第1水曜日:13:15~13:45)
 - ・医療安全対策会議(毎月第1水曜日)、システム委員会(毎月第4木曜日):下前参加
 - ・NICUカンファレンス(毎月第3木曜日:15:30~16:00):下前・椎木
 - ・各病棟カンファレンス:介入依頼時参加
 - ・ストーマケアコンサルテーション
新規ストーマ造設患者数:14名
コロストーマ:11名、イレオストーマ:2名、回腸導管術:2名、尿管皮膚瘻:2名
ストーマサイトマーキング施行患者数:20名(うち3名はマーキングのみ)
 - ・ストーマ外来(診察日に合わせて日程調整)
 - ・各社メーカーとの情報交換
 - ・他病院・施設・訪問看護ステーションからのコンサルテーション対応
 - ・褥瘡勉強会開催(偶数月開催)

日時	内容	担当講師	参加人数
4月5日	「チームで取り組む褥瘡予防」(対象:新入職者)	褥瘡管理課:下前	54名
4月20日	「褥瘡予防対策・治療」(対象:研修医)	褥瘡管理課:下前	3名
5月18日	「褥瘡関連の記録について」	褥瘡管理課:逆瀬川	219名
6月21日			184名
7月20日	NST・褥瘡・口腔ケア合同研修会 「急性期から考える摂食嚥下障害と食支援」	鹿児島市医師会病院 摂食嚥下障害 CN:松尾晴代氏	129名
8月16日	「褥瘡評価:DESIGN-R」	褥瘡管理課:下前	145名
10月18日	「スキンケアのポイント」	褥瘡管理課:椎木	180名
12月20日	「実技研修」 フィルム貼付・除去、Q固定、弾性包帯、保湿ケア	褥瘡管理課:下前	122名
H30年 2月28日	「入院基本理療と褥瘡対策」 H30年度診療報酬改定に向けて	医事課:上唐湊 褥瘡管理課:下前	92名

日時	内容	担当講師	参加者
10月16日 25日	アシスタント対象 褥瘡・排泄ケア	株式会社リブドゥーコーポレーション 排泄ケアアドバイザー：伊藤操氏 褥瘡管理課：椎木	47名
各病棟にてポジショニング勉強会開催		リハビリテーション部	250名

2) 看護師特定行為(下前)

特定行為項目	介入人数	介入件数	※下記3項目は介入なし ・創部ドレーン抜去(皮下) ・持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 ・脱水症状に対する輸液による補正
褥瘡又は慢性創傷の治療における 血流のない壊死組織の除去	院内：6名	44回	
	外来：1名	4回	
	訪問：1名	7回	
創傷に対する陰圧閉鎖療法	院内：8名	29回	

【部門実績】

1) 院外講演活動

日時	主催・場所	内容	担当
9月10日	主催：なちゅは鹿児島 場所：学校法人南学園	なちゅは鹿児島：看護・介護職のための褥瘡予防セミナー 「スキンケアと褥瘡予防ケア」	下前
9月29日	主催：公益社団法人 鹿児島県看護協会 場所：看護協会研修館	鹿児島県看護協会 認定看護師交流研修会 「特定行為研修終了後の活動の実際とこれからの展望」	下前
10月21日	主催：公益財団法人 日本 オストミー協会鹿児島県支部 場所：市立病院会議室	第3回オストメイト研修講座 「ストーマケアの基本と実践」実技指導	下前 椎木
11月9日 22日	久木田学園看護専門学校	ストーマ造設患者の看護「周手術期にある人の看護」	椎木
11月18日	主催：アルケア株式会社 場所：TKP ガーデンシティ 鹿児島中央	アルケア 鹿児島ストーマケアセミナー 「ストーマ装具の選択と実際」	椎木
11月11日	主催：オストミーサポートセンター 株式会社 場所：自治会館	第7回オストミーサポートセンター IN 鹿児島 「在院日数の変化から考える、装具選択」	下前
H30年 1月20日	主催：鹿児島看護師 特定行為研究会 場所：鹿児島医療センター	第1回 鹿児島看護師特定行為研修会 「看護師特定行為(創傷モデル)の実際と今後の活動」	下前

2) その他院外活動

日時	主催・場所	内容	担当
4月29日	主催：公益財団法人日本オストミー協会 鹿児島県支部 場所：ハートピアかごしま	公益財団法人日本オストミー協会鹿児島県支部総会 および、セミナーなどの調整	下前 椎木
5月20日	主催：日本褥瘡学会九州・沖縄地方会 場所：長崎ブリックホール	第14回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会 ポスター討論1 座長 世話人会参加	下前
8月21日	主催：鹿児島市立病院	平成29年度第1回看看連携会議 「皮膚・排泄ケア領域の看護をつなぐために」	下前 椎木
12月16日	主催：持田ヘルスケア株式会社 場所：天文館ビジョンホール4F	鹿児島 furfur 勉強会 講演座長	下前



緩和医療課

主任 植屋 明代

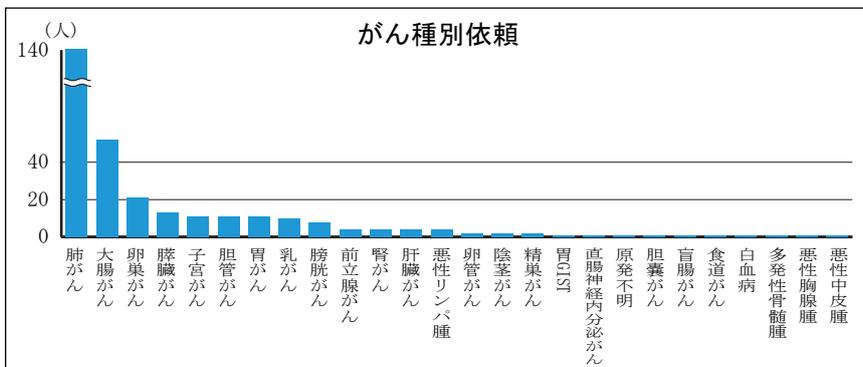
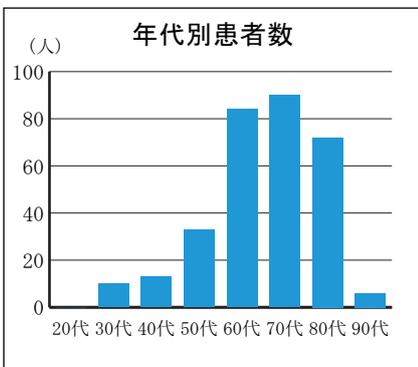
緩和医療課は、緩和ケア認定看護師早崎・岩山と保健師植屋の3名で、早崎・岩山が緩和ケアを植屋はがん相談を主軸にお互い情報共有・サポートし合いながら活動しています。今年度はみなさまのご理解とご協力のもと緩和ケアチーム依頼が20%増となりました。引き続き、緩和医療課（緩和ケアチーム、がん相談支援センター）へのご依頼よろしくお願いたします。

●スタッフ：早崎玲子(緩和ケア認定看護師)、岩山友紀(緩和ケア認定看護師)、植屋明代(保健師)

●緩和ケアチーム実績

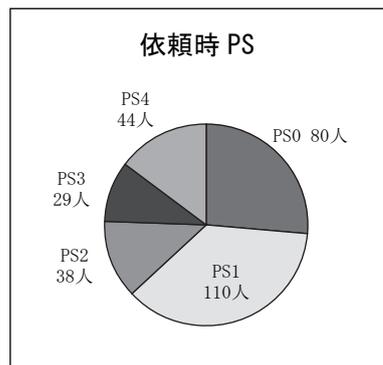
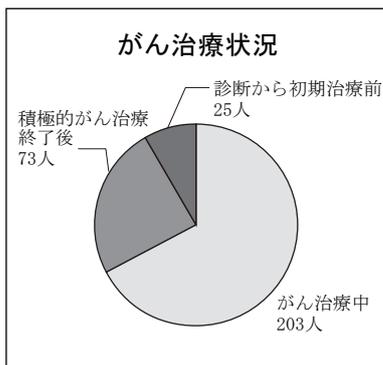
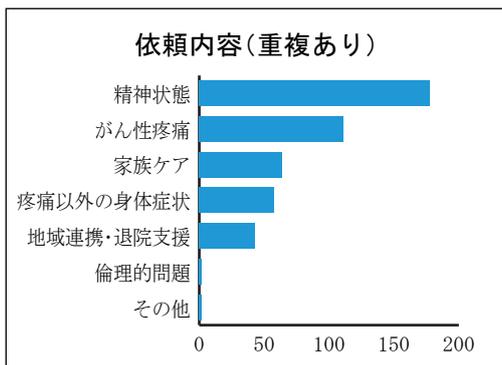
チーム依頼件数：依頼件数：308名(男134名・女174名 / がん患者301名・非がん患者7名)

*緩和ケア診療加算 277件 2,233日



診療科別依頼内容（重複依頼あり）

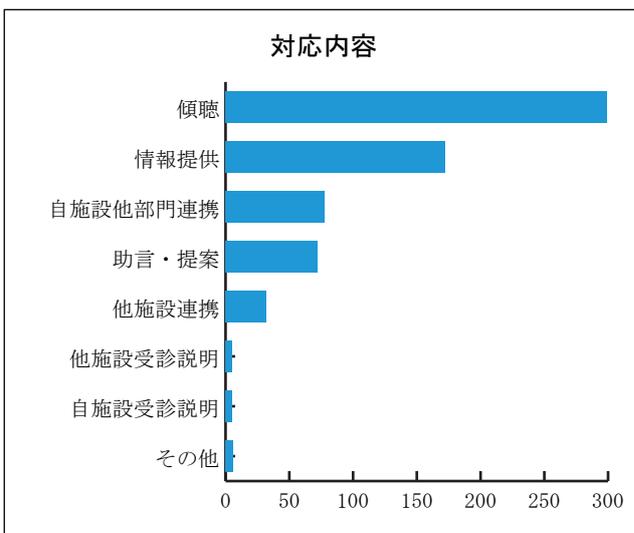
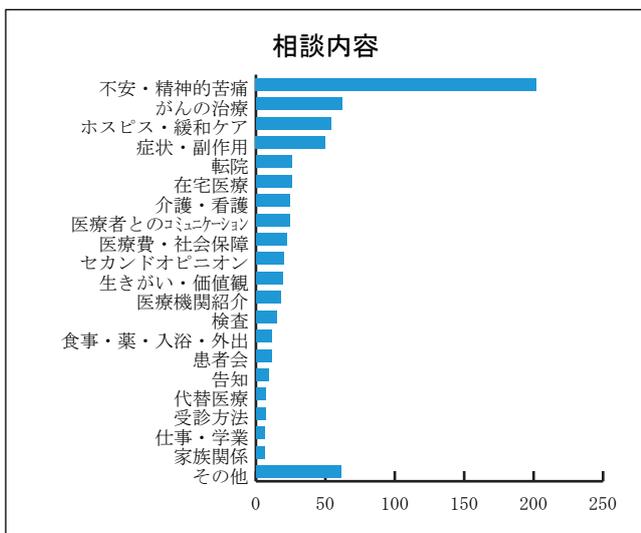
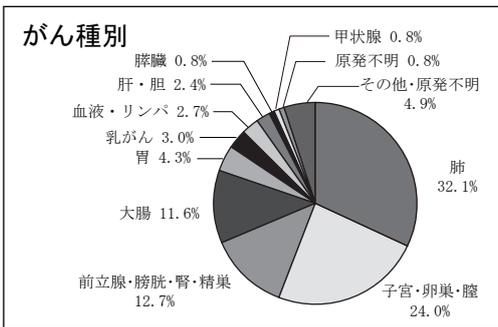
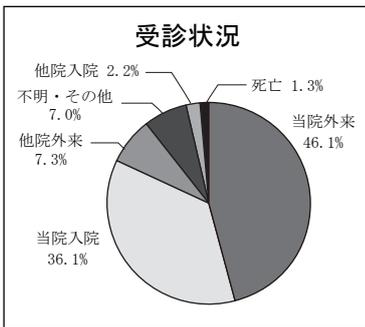
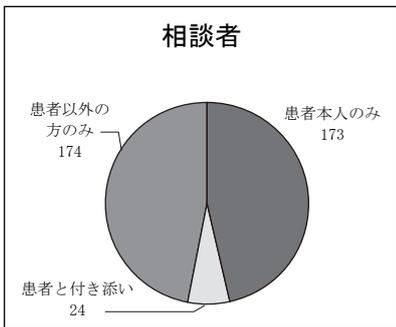
	疼痛	疼痛以外の身体症状	精神症状	家族ケア	倫理的問題	地域連携退院支援	その他	依頼件数
婦人科	8	3	26	4	0	3	0	44
呼吸器内科	28	36	95	33	0	28	2	222
呼吸器外科	25	20	34	18	1	6	0	104
消化器内科	12	10	17	10	2	10	0	61
血液内科	0	0	4	0	0	0	0	4
外科	21	14	57	11	0	2	0	105
泌尿器科	11	7	8	1	0	1	1	29
放射線科	2	1	4	0	0	0	0	7
循環器内科	0	0	1	0	0	0	0	1
整形外科	4	2	2	0	0	0	0	8
形成外科	0	0	1	0	0	0	0	1
他施設	3	3	2	1	0	0	0	9



●がん相談支援センター(緩和医療課対応分)

相談件数：371件

(面談：279 電話：87 メール：5 / 初回：124 2回目以上：247)



●ほっとサロン今給黎(第3水曜日 14:00～16:00)

がん患者さん、ご家族が安心して思いを語り合う場として、がんサポートかごしまと協働で開催しています。

月	ミニ勉強会テーマ	担当	参加者(スタッフ含)
4	緩和ケアってなに？	岩山友紀(緩和ケア認定看護師)	11
5	抗がん剤の副作用とその対応	財間富士子(薬剤師)	19
6	バルーンアートを作ろう！	近藤看護部長、岩下副看護部長	8
7	実践できる良好な食事のポイント	田中美帆(管理栄養士)	12
8	いのちの授業について	野田真紀子(がんサポートかごしま)	9
9	抗がん剤のはなし	赤坂美保(がん化学療法看護認定看護師)	17
10	がんと社会保障制度	原口一博(社会福祉士)	13
11	不安への対応	小玉哲史(精神科医師)	11
12	クリスマス会	参加のみなさん	17
1	画像検査のABC	丸尾美由紀(臨床放射線技師)	18
2	みんなで絵手紙をかこう	里(がんサポートかごしま)	12
3	リンパ浮腫について	鎌田寿子(理学療法士)	16

●がん・緩和ケア研修会

日付	テーマ	講師	人数
6/28	困難事例から考える対人援助	的場康德先生(鹿児島大学医歯学総合研究科腫瘍学講座)	104名
10/13	今、在宅医療のできるこゝ ～緩和も小児も難病も～	五反田満幸先生(五反田内科クリニック院長)	92名

●セカンドオピニオン外来 2件

性別	年齢	がん部位	相談内容	対応医師
女	65歳	大腸がん、多発肺転移	治療方針	米田敏医師(呼吸器外科)
女	71歳	肺腺癌、脾のう胞	診断、今後の方針について	吉永英希医師(消化器内科)

●がん患者指導管理料(緩和ケア認定看護師対応)

42件(早崎24件うち2件は算定不可・岩山18件うち4件は算定不可)

依頼診療科：呼吸器内科26件、消化器内科5件、婦人科5件、呼吸器外科4件、外科1件、血液内科1件

●退院支援(緩和医療課対応：緩和ケアチーム+がん相談支援センター)(人数)

緩和ケア病棟・外来(計29名)：天陽会中央病院(9)いづろ今村病院(6)相良病院(6)南九州病院(3)南風病院(2)鹿児島市医師会病院(1)霧島医療センター(1)サザン・リージョン病院(1)

他医療機関(計17名)：鹿児島大学病院(4)霧島医療センター(2)屋久島徳洲会(2)三船病院(1)愛と結の街(1)肝付町立病院(1)市来内科(1)林内科(宮之城)(1)内村川上内科(1)久保内科(1)かわもと相良消化器科(1)緑ヶ丘クリニック(1)

在宅医療(計11名)：ナカノ在宅医療クリニック(7)五反田内科クリニック(3)

今給黎総合病院在宅医療部(1)

訪問看護(計13名)：ナカノ訪問看護ST(7)今給黎総合病院在宅医療部(1)モーション鹿児島ST(1)

訪問看護STかりん(1)訪問看護STオアシスカ(1)さつま訪問看護ST(1)

訪問看護STさくら(1)

●図書の間覧・貸出利用者(がん相談支援センター図書) 8名利用(貸し出し：計12冊)

●つながる想い in かがしま かんまちあ 5月13日(土)参加呼びかけ がん相談協力：早崎、植屋

●学術実績

講義(院内)

早崎：ラダーⅡ「看護過程」(講義)、ラダーⅣ「事例検討」(講義、ファシリテーター)

岩山：看護助手研修「ターミナルケアについて」、ラダーⅣがん看護(講義・ファシリテーター)

ラダーⅡ「エンゼルケア」、4西・外来勉強会「エンゼルメイクについて」

研修協力 緩和ケア研修ファシリテーター 鹿児島大学病院(6/10-11) 早崎

〃 今給黎総合病院(10/28-29) 早崎、岩山、植屋

他施設合同カンファレンス(12/27)事例提示 岩山

NHKフォーラム 宝山ホール(6/25)がん相談協力 植屋

●その他の活動

- ・緩和ケアチームカンファレンス(木曜日午後) ・緩和ケアチームラウンド(毎朝)H29.12-
- ・病棟カンファレンス・キャンサーボード参加(随時)
- ・呼吸器内科回診参加(金曜日) ・在宅医療部カンファレンス参加(第3火曜日)
- ・化学療法緩和ケアネットワーク(第1木曜日) ・がん看護委員会(がん関連認定看護師で企画実施)(第1木曜日)
- ・緩和ケア合同カンファレンス(鹿児島市内がん拠点病院・指定病院 1回/月)
- ・緩和ケアに関する地域連携会議(相良病院2回/年)
- ・鹿児島県4部門会議(緩和ケア2回/年・がん相談3回/年)
- ・緩和医療科・精神腫瘍科診療の調整・補佐 ・緩和ケア週間にてPR(10/8-14)
- ・パンフレット・リーフレットにより情報提供、広報
- ・周知活動、患者図書館“すまいる”へパンフレット等提供
- ・誕生日カード、グリーンケア(電話・手紙での遺族ケア) ・鹿児島県がん相談員メーリングリスト管理
- ・認定看護師会(奇数月) ・認定看護師連絡会(3・9月) ・認定看護師だより(輪番制)
- ・倫理委員会 ・患者図書運営委員会 ・職員教育研修委員会
- ・病院業務運営会議(第2月曜日)



感染管理課

主任 立和名聖子

当課は、平成24年院長直下の感染管理部門として新設されました。その後、感染防止対策加算1・感染防止地域連携加算を取得したことにより更に院内感染対策が強化されています。病院感染防止対策委員会副委員長、感染対策チームメンバー、看護部感染リンクナース会管理者として院内の多くの部署と関わり院内感染防止対策の指導、実践、相談を主な業務としています。院内のほぼすべての感染情報が当課に集まるため、院内の感染情報を整理し迅速に関係部署へ伝達・介入できるよう取り組んでいます。院内のあらゆる職種と関わり、相談しやすい環境づくりや問題点の提示、現場と一緒に改善に向け取り組みこと、状況に応じて迅速な指示を活動の一貫としています。

今年度の新しい取り組みとして①院内の環境清掃の強化②指導者レベルの看護師教育を行い、その他、安全面・性能・コストの観点で感染対策物品の見直しを行いました。①に対しては、リンクナースと環境の清浄度測定（ATP測定）を実施しその結果を全職員対象の院内感染研修へ活用し院内環境清掃の重要性を可視化して伝達した。②に対しては、看護師経験15年目以上の看護師を対象として感染対策の必要な場面を例に挙げ手指衛生のタイミングや必要な个人防护具選択についてパネルを用いて研修を進めました。

今後も現場の感染対策の実施状況を把握分析し、患者様と医療従事者の両方を無用な感染から守るために日々活動していくことが責務であり院内外の関係各部署と情報共有や相談介入を積極的に実践できるよう取り組んでいきたいと考えます。

【スタッフ】 1名(感染管理認定看護師)

【部門実績】

院内

- ・感染症発生対応：結核、インフルエンザ、麻疹・流行性耳下腺炎疑い、CD など
- ・院内感染防止対策委員会の運営(毎月第4水曜日)
- ・ICT 会議、ラウンド(毎週水曜日)の調整、計画、実施
- ・看護部リンクナース会の運営(毎月第1火曜日)
- ・サーベイランスの実施と結果報告

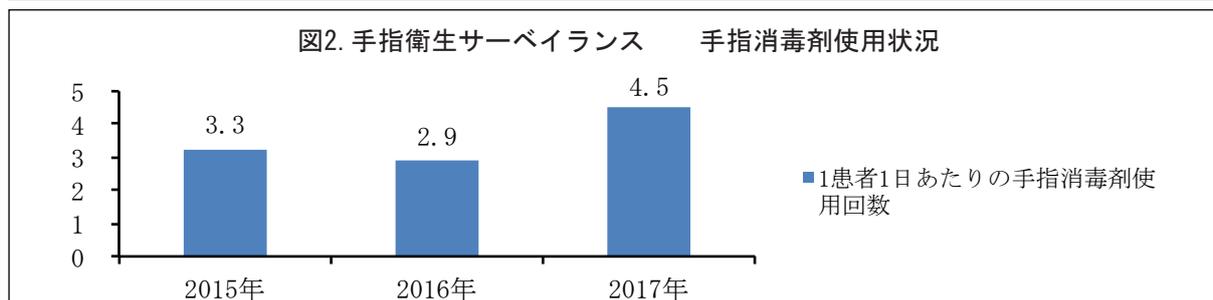
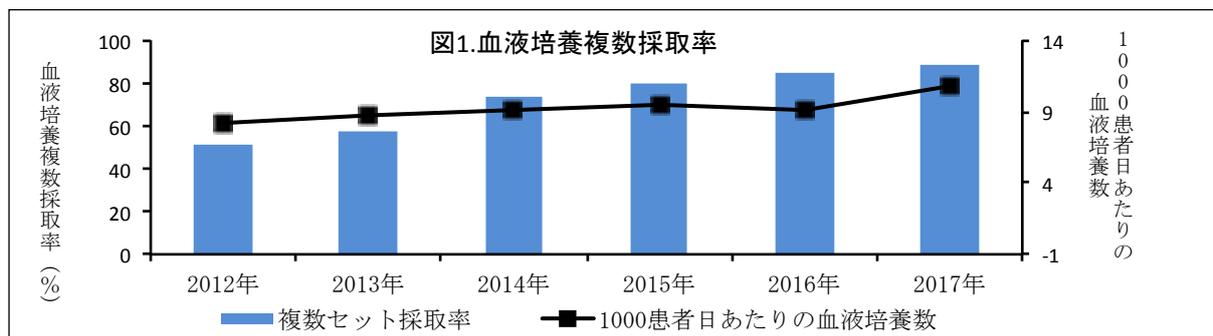
カテーテル関連尿路感染サーベイランス

カテーテル関連血流感染サーベイランス

血液培養セット数サーベイランス(図1)

手指消毒剤使用量サーベイランス(図2)

厚労省サーベイランス事業(JANIS)全入院部門



- ・相談：90件(内訳：環境6件、患者配置16件、洗浄消毒滅菌8件、検査結果3件、標準予防策経路別予防策関連23件、ケア手順1件、就業制限6件、廃棄物4件、職業感染4件、インフルエンザ関連11件、その他11件)
- ・院内研修の計画、実施 詳細は、病院感染防止対策委員会参照

	研修内容	参加率
第1回 全職員対象	「当院の環境調査結果と医療施設の環境清掃の重要性」 「細菌肺炎から学ぶ抗菌薬の使い方」 「現場で実践する感染対策を考える」	84%
第2回 全職員対象	「インフルエンザの知識を深め実践に繋げよう」	93%

- ・労働安全衛生委員会へ依頼：職員健診時のIGRA検査の定期的な検査の実施

【加算関連】

- ・感染防止対策加算地域連携加算 相互評価ラウンドの調整、計画、開催

	評価対象医療機関	評価実施医療機関
11月30日	今給黎総合病院	鹿児島生協病院
12月6日	指宿医療センター	今給黎総合病院

- ・感染防止対策加算合同カンファレンスの調整、計画、開催
(感染防止対策加算2連携施設：米盛病院、八反丸リハビリテーション病院)

開催日	主な内容
5月18日	緑膿菌アンチバイオグラムについて・抗菌薬使用状況報告と評価 感染症発生対応について・職員のワクチン接種について
10月31日	ICTラウンドの取り組み・抗菌薬使用状況報告と評価 クロストリジウム ディフシル治療薬適正使用の取り組み
1月11日	八反丸リハビリテーション病院ラウンド・インフルエンザ対策について
2月15日	今給黎総合病院ラウンド・インフルエンザ発生状況と感染対策 JANISデータに基づいた耐性菌検出動向
3月22日	インフルエンザ発生状況・感染防止対策マニュアルの更新と更新後の周知について 病棟の薬剤管理について

【院外】

- ・アイアイ保育園の感染性胃腸炎対応：保育園訪問調査3回、登園基準の提示
- ・相談：6件

【学術実績】

院内感染研修(講師)

実施月	対象
4月	新入職者
5月・8月・12月	看護部レベル4：感染管理課応用
6月・8月・9月・10月・11月	リンクナース
7月・11月	全職員
7月・8月	看護師経験15日以上
10月	看護部レベル3
3月	委託業者(ワタキューセイモア株式会社)

院外研修(講師)

5月12日、7月13日、11月10日	日本感染管理ベストプラクティスSaizen研究会 鹿児島ワーキンググループ アドバイザー
9月26日	鹿児島県看護協会「感染管理(1)感染管理の基礎」
10月18日	社会福祉法人厚生会 睦園 感染研修 「介護老人施設における感染症予防及び蔓延防止対策」
3月13日、3月17日	ワタキューセイモア(株) 「廃棄物の取り扱いについて」



施設課

課長 田中英樹

【はじめに】

当課は、病院全体の施設の管理を行う部署で、24時間体制で業務を行っています。

病院の理念、基本方針、目標に沿って目標課題を毎年設定し達成できるように業務を推進しています。

また、病院で活動する全ての方に安全で快適な環境を提供するために、建物、設備のメンテナンスをサポートしています。老朽化した建物、設備に対して単純に修理・更新の手配をするのみではなく、運営方針や経費対効果を考慮した、適切な修繕計画の策定も担っています。また東日本大震災・熊本地震レベルの大規模災害時にも、建物の機能不全に陥ることがないように、日常の点検業務・修繕に取り組んでいます。

【スタッフ】 6人体制

1・2級ボイラー技士、第1・2種電気工事士、危険物取り扱い、エネルギー管理員、医療ガス保安管理技術者、貯水槽清掃作業監督者、防火・防災管理者等の有資格者

田中・米盛・佐々木・山元・大迫・上赤

資格を取得することだけでなく、どんな物でも修理できる発想力の豊かさが求められます。

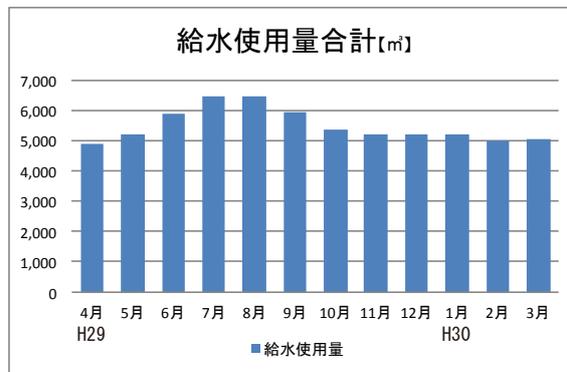
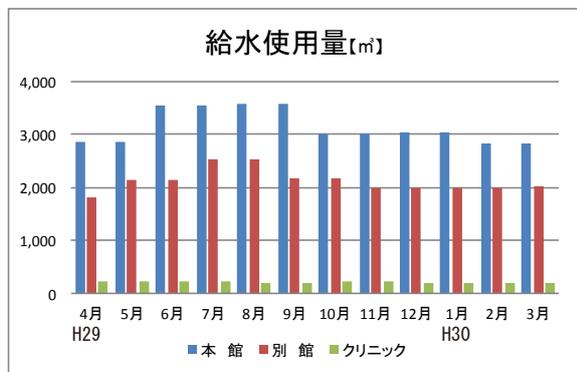
【実績】

4月	本・別館冷温水機分解整備 全館害虫駆除 エレベータ点検【全館】 医療ガス研修会 防火委員会	11月	本館2号ボイラー性能検査 火祭り エチレン・ホルムアルデヒド残留濃度測定 消防設備総合点検【本・別館・クリニック】 ガス器具保守点検 本・別館冷温水機分解整備 エレベータ点検【全館】 汚水検査 総合防火訓練
5月	中材・消毒器性能検査【3缶】 本・本・別館、貯水槽清掃作業 クリニック電気年次精密点検 エチレン・ホルムアルデヒド残留濃度測定 消防設備機器点検【本・別館・クリニック】 エレベータ点検【全館】 汚水検査 総合防火訓練	12月	本館1号ボイラー性能検査 エレベータ点検【全館】 コンセントプラグ点検 手術室 環境消毒清掃・清浄度測定 高圧酸素治療装置精密点検
6月	自動ドア総合点検 エレベータ点検【全館】 コンセントプラグ点検	1月	医療ガス設備保守点検【本・別館・クリニック】 エレベータ点検【全館】
7月	自家発電設備精密点検 手術室消毒器性能検査【2缶】 エレベータ点検【全館】	2月	本館ストレージタンク性能検査 本・別館電気年次精密点検 窒素酸化物・ばいじん量測定 エレベータ点検【全館】 汚水検査 自動ドア総合点検 CE設備検査
8月	別館ストレージタンク性能検査 窒素酸化物・ばいじん量測定 ガス器具保守点検 エレベータ点検【全館】	3月	ガス器具保守点検 エレベータ点検【全館】 ナースステーション空調機点検清掃 医療ガス安全管理委員会 在庫管理
9月	汚水検査 エレベータ点検【全館】		
10月	熱交換器、分解整備 全館害虫駆除 自動ドア総合点検 エレベータ点検【全館】 防火委員会		

【給水使用量実績表】
2017年4月分～2018年3月分

単位【m³】

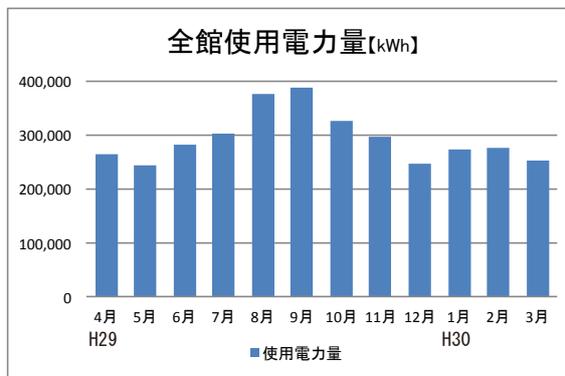
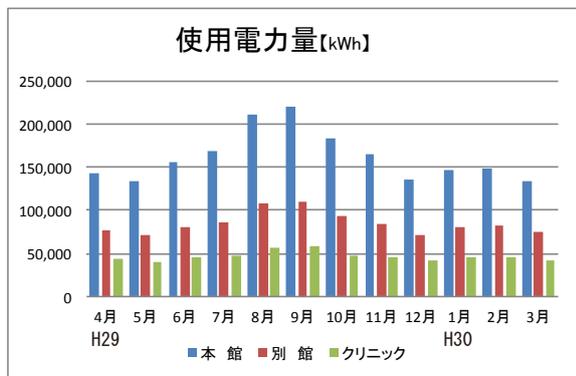
給水使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本館	2,846	2,846	3,533	3,533	3,560	3,560	2,998	2,998	3,028	3,028	2,834	2,834	37,598
別館	1,818	2,131	2,131	2,523	2,523	2,152	2,152	1,983	1,983	1,983	1,983	2,009	25,371
クリニック	212	212	220	220	208	208	213	213	203	203	195	195	2,502
合計	4,876	5,189	5,884	6,456	6,471	5,920	5,363	5,194	5,214	5,214	5,012	5,038	65,831



【電力使用量実績表】
2017年4月分～2018年3月分

使用電力量【kWh】

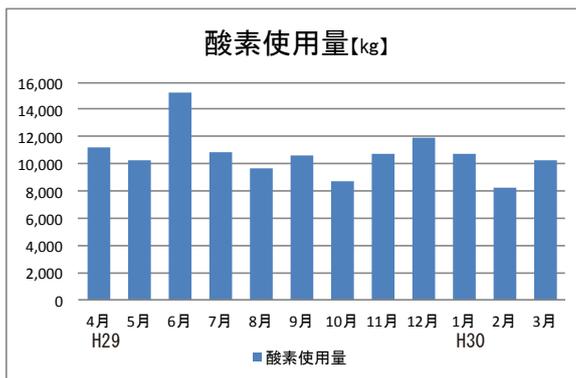
使用電力量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本館	142,476	132,876	156,156	167,604	211,572	219,096	182,436	164,616	135,024	147,024	148,188	134,136	1,941,204
別館	76,776	70,644	80,712	86,148	107,520	109,632	93,264	84,324	70,680	80,796	82,752	74,472	1,017,720
クリニック	43,482	40,254	44,778	47,388	56,016	59,310	48,282	46,380	41,154	45,678	45,600	42,258	560,580
合計	262,734	243,774	281,646	301,140	375,108	388,038	323,982	295,320	246,858	273,498	276,540	250,866	3,519,504



【医療用酸素使用量実績表】
2017年4月分～2018年3月分

使用電力量【kWh】

酸素使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
酸素使用量	11,155	10,274	15,274	10,806	9,720	10,622	8,678	10,783	11,941	10,761	8,287	10,297	128,598





栄養管理部

課長 上平田美樹

●スタッフ構成（平成30年4月1日現在）

管理栄養士12名、NST専任管理栄養士1名、栄養士7名
調理師9名、調理員9名、洗浄パート3名、洗浄部門（委託）15名 合計56名

●認定資格取得状況（平成30年4月現在）

・上平田美樹	病態栄養専門管理栄養師 NSTサポートチーム専門療養士 糖尿病療養指導士（CDEJ）	がん病態栄養専門師 NSTコーディネーター
・鈴木聖子	病態栄養認定管理栄養師 NSTサポートチーム専門療養士 特定保健従事者	褥瘡管理栄養士 NSTコーディネーター
・鵜瀬裕美	病態栄養認定管理栄養師 糖尿病療養指導士（CDEJ）	がん病態栄養専門師 健康運動療指導士
・染川麻美	病態栄養認定管理栄養師	糖尿病療養指導士（CDEJ）
・田中美帆	病態栄養認定管理栄養師	がん病態栄養専門師

●給食管理

平成28年4月1日から運営方式を変更して2年目となりました。今年度の栄養管理部では、給食運営及び災害対策を強化した取り組みを行いました。災害においては、7月の鹿児島湾沖（喜入）地震を経験し、普段の備えの再確認と教訓を得ることができました。この経験からも入院患者様に災害時でも安心安全な給食管理を提供するべく、備蓄品の見直し、ローリングストック等、更なる整備を図りました。

今年度の食事アンケートでの評価においては、満足度が79%（平成29年8月実施）から82%（平成30年2月実施）へ向上している結果となりました。今後も引き続き、喜ばれる給食作りとサービス向上を目指して参ります。

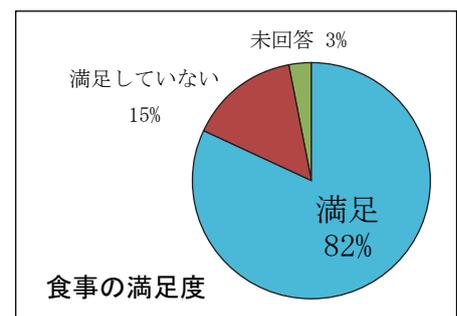
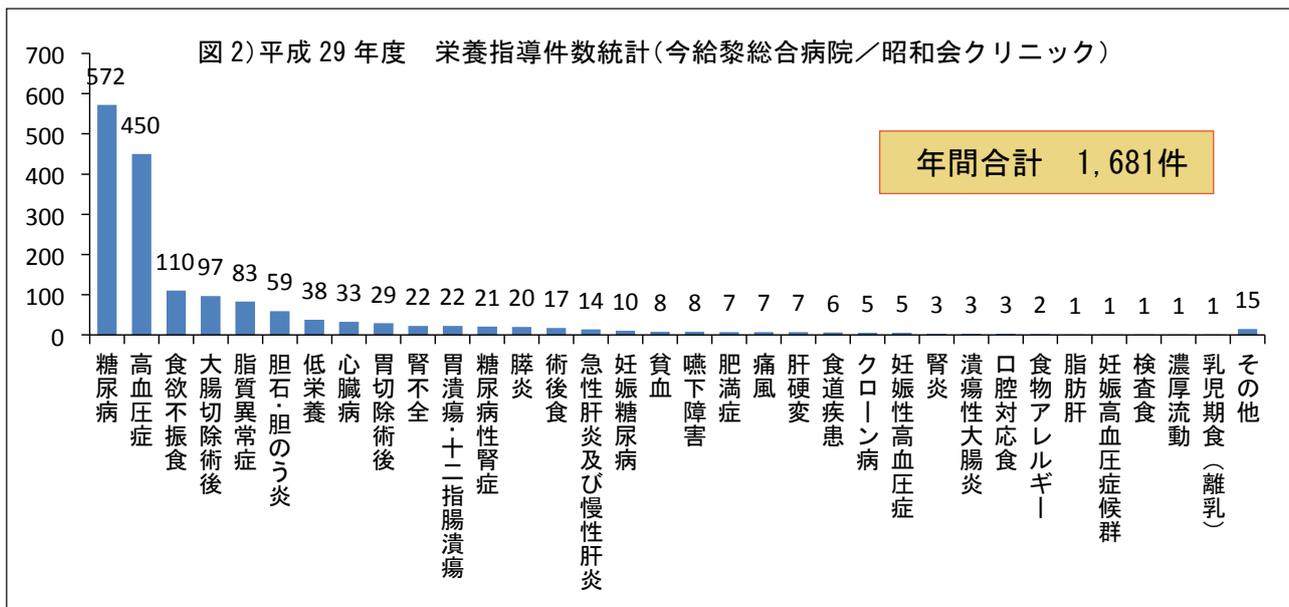


図)1 平成29年2月食事アンケート結果

●栄養管理・栄養指導実績

平成29年度の指導実績は、入院栄養指導1,490件、外来栄養指導108件、昭和会クリニック外来栄養指導83件、合計1,681件でした。前年度と比較し、徐々に件数も伸びてきており、患者様の身体状況、臨床データ、患者背景などを考慮しオーダーメイドでの栄養管理と栄養指導を実施致しました。

（栄養指導件数統計；図2参照；栄養指導算定・非算定を含む実施数）



●平成29年度 栄養管理部活動状況報告

・実習生受け入れ状況

平成29年8月17日～8月31日 臨床栄養学実習(校外実習)
 鹿児島県立短期大学 生活科学科 食物栄養専攻 2年生 2名受け入れ

・インターンシップ(職場体験学習)受け入れ

平成29年11月7日 鹿児島県立 東高校 2年生 4名 講師 上平田美樹
 平成30年 2月16日 鹿児島私立樟南高校 2年生 職場体験 4名 講師 上平田美樹

・院外講師活動

平成29年6月10日 第22回鹿児島糖尿病スタッフセミナー「インスリン療法と食事管理」
 聴講者数 200名 講師 上平田美樹
 平成29年11月16日 鹿児島市 鹿児島市医師会主催 糖尿病予防講演会 「健康食は糖尿病食」
 聴講者数150名 講師 上平田美樹

・病院施設の公開利用

平成29年7月19日 がん患者サロン「ほっとサロン今給黎」ミニ勉強会
 「実践できる良好な食事のポイント」 講師 田中美帆

・院外発表活動

平成30年3月4日 第37回 食事療法学会
 「応用カーボカウント導入により血糖改善が得られたIDDM症例」 発表 上平田美樹

・大規模災害研修会

平成29年9月20日 平成29年度 給食施設従事者研修会 聴講者数 180名
 「災害時に備えた取組みについて～事例紹介」 発表 上平田美樹
 平成29年12月6日 鹿児島県医師会 第1回災害医療講習会 上平田美樹、田中美帆、朽沙由理
 平成29年11月10日 第56回自衛消防隊消火競技会 新小倉勝利

・院外ボランティア活動

平成29年4月9日 第21回歩いて学ぶ糖尿病ウォークラリーIN鹿児島 鶴瀬裕美、染川麻美
 平成29年5月13日 つながる想いin かごしま 田中美帆
 平成29年8月26・27日 第48回鹿児島小児糖尿病サマーキャンプ 鶴瀬裕美
 平成29年11月19日 第34回市民健康まつり 栄養相談 久永亜里紗、神之田優

・公的会議参加

平成29年10月21日 鹿児島摂食嚥下リハビリテーション研究会 理事会 鈴木聖子

・院外研修参加

平成29年9月20日 平成29年度給食施設従事者研修会(管理栄養士, 栄養士) 柏木美保
 平成29年9月28日 平成29年度給食施設従事者研修会(調理従事者) 高山省吾

・ 院外視察

平成29年7月21日 山口県（仁保病院）厨房システム視察研修 上平田美樹、上平田智喜、田中美帆

・ その他、研修会・学会参加状況

平成29年4月1日 第1回糖尿病医療学研究会IN鹿児島 鶴瀬裕美、染川麻美
 平成29年4月22日 第8回チーム医療を考える会 鶴瀬裕美
 平成29年4月23日 鹿児島糖尿病メディカルスタッフ連携セミナー 上平田美樹、鶴瀬裕美、染川麻美
 平成29年5月18日～20日 第60回日本糖尿病学会年次学術集会 上平田美樹
 平成29年6月10日 第22回鹿児島糖尿病スタッフセミナー 上平田美樹、鶴瀬裕美、染川麻美
 平成29年6月17日 第13回 びくるすの会研修会 上平田美樹、鈴木聖子
 平成29年6月22日 大塚製薬工場 Live on Nutrition Seminar
 「褥瘡対策における経腸栄養の選択」 染川麻美、鶴瀬裕美
 平成29年7月2日 がん専門管理栄養士セミナー 田中美帆
 平成29年7月6日 大塚製薬工場 Live on Nutrition Seminar
 「研修医のための輸液・電解質・酸塩基平衡異常 1. 重要な電解質異常」 鶴瀬裕美、鈴木聖子
 平成29年7月13日 新調理法（クック&チル・真空調理法） 上平田智喜
 平成29年7月15日・16日 第25回西日本肥満研究会 上平田美樹、鶴瀬裕美
 平成29年7月15日・16日 第5回肥満症治療講習会 上平田美樹、鶴瀬裕美
 平成29年9月3日 栄養情報提供研修会 実践講座 上平田美樹、鈴木聖子、小園智恵美
 平成29年9月6日 食品のもつ機能性を生かした嚥下・介護食 上平田美樹、篠田佳那
 平成29年9月9日 新調理法（クック&チル・真空調理法） 上平田美樹、篠田佳那、柘沙由理
 平成29年9月21日 感染対策セミナー、施設の現状及び実践 松山貴子、加藤友教
 平成29年9月21日・22日 日本調理機 厨房システム視察研修 上平田美樹、鈴木聖子、田中美帆
 平成29年9月27日 食品・衛生セミナー 上平田智喜、富永奈穂美
 平成29年10月9日 鹿児島県栄養士会第2回研修会 上平田美樹、鶴瀬裕美、久永亜里紗
 平成29年10月18日 ガススチームコンベクション体験調理セミナー 大山ゆり、内山昭子、小園千恵美
 平成29年10月21日 第13回鹿児島摂食嚥下リハビリテーション研究会 鈴木聖子
 平成29年11月11日 鹿児島県栄養士会生涯学習研修会 栄養補給方法 染川麻美
 平成29年11月16日 糖尿病予防講演会 鈴木聖子、柘沙由理
 平成29年12月2日 第3回鹿児島1型糖尿病セミナー 鶴瀬裕美
 平成29年12月10日 平成29年度公益社団法人鹿児島県栄養士会第2回研修会 上平田美樹、鶴瀬裕美、久永亜里紗
 平成30年1月12日～14日 第21回日本病態栄養学会年次学術集会 鈴木聖子、田中美帆
 平成30年2月22日・23日 HCJ2018 厨房設備機器展 上平田智喜、高山省吾
 平成30年2月22日・23日 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会 鈴木聖子
 平成30年3月3日・4日 第37回食事療法学会 上平田美樹
 平成30年3月10日・11日 第52回糖尿病学の進歩 鶴瀬裕美
 平成30年3月17日・18日 第6回栄養管理指導者協議会学術集会 鈴木聖子

・ 病院指定

日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設認定 平成26年4月1日～平成31年3月31日
 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設認定 平成28年9月1日～平成33年8月31日



診療情報管理部

課長 畑 中 幸 子

当院は、診療録管理体制加算1を算定し、DPC病院・地域がん診療連携拠点病院に認定されています。

質の高いデータを提出するためにはデータベースである診療録の質の高さを求められます。診療情報管理部では診療録の質的向上を目的に、診療情報管理部・診療記録検討委員会を中心に組織的活動を行っています。退院時要約（サマリー）は施設基準である全退院患者サマリー14日以内完成率9割以上を目標に、手術記録は術後48時間以内の完成を目標とし、さらに今年度は各科診療録の記載率80%を目標に掲げ、退院患者の記載率を調査し、診療録記載を促しました。診療録監査においては他病院の地方厚生局個別指導等の指摘事項をもとに監査を行い、必要記録の記載・日々の診療記録の記載促進および情報提供を行いました。

がん登録部門においては院内がん登録のみならず、法制化された全国がん登録、国立がん研究センター主催のQI研究への参加、予後調査事業へ参加し、がん登録の質の向上に努めています。

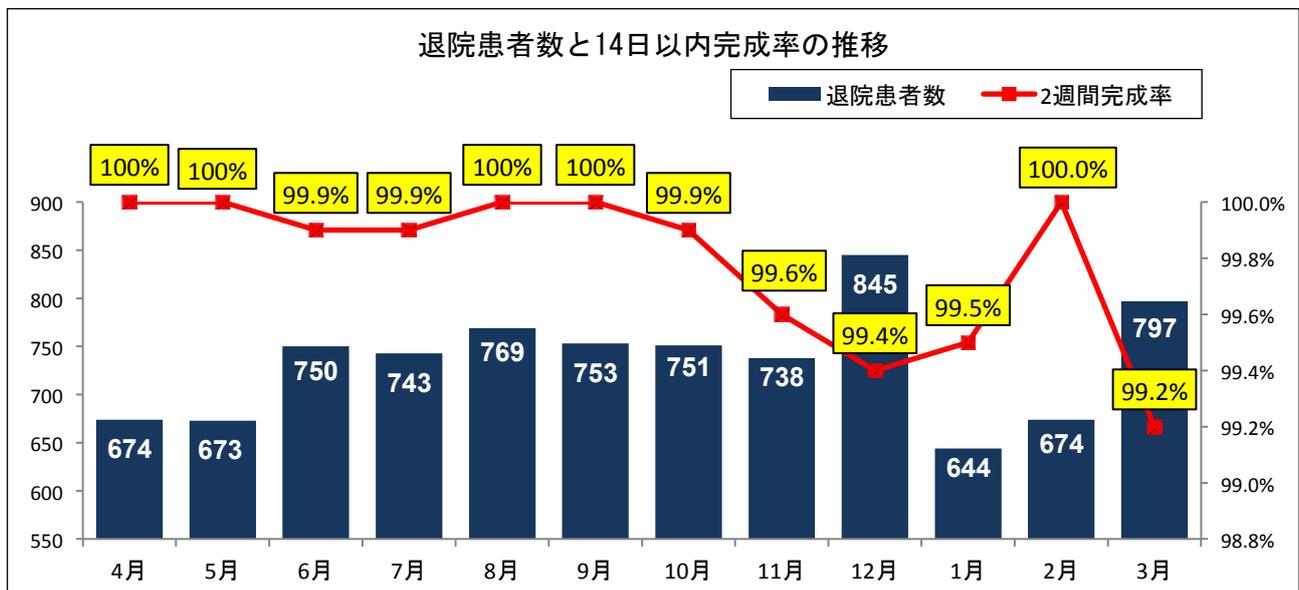
さらに今年度は初めての試みとしてがん登録情報を活用し、病院広報誌への掲載をいたしました。今後はより一層、情報活用に力をいれていきたいと思っています。

【退院時要約(サマリー)完成率】

◆H29年度全体

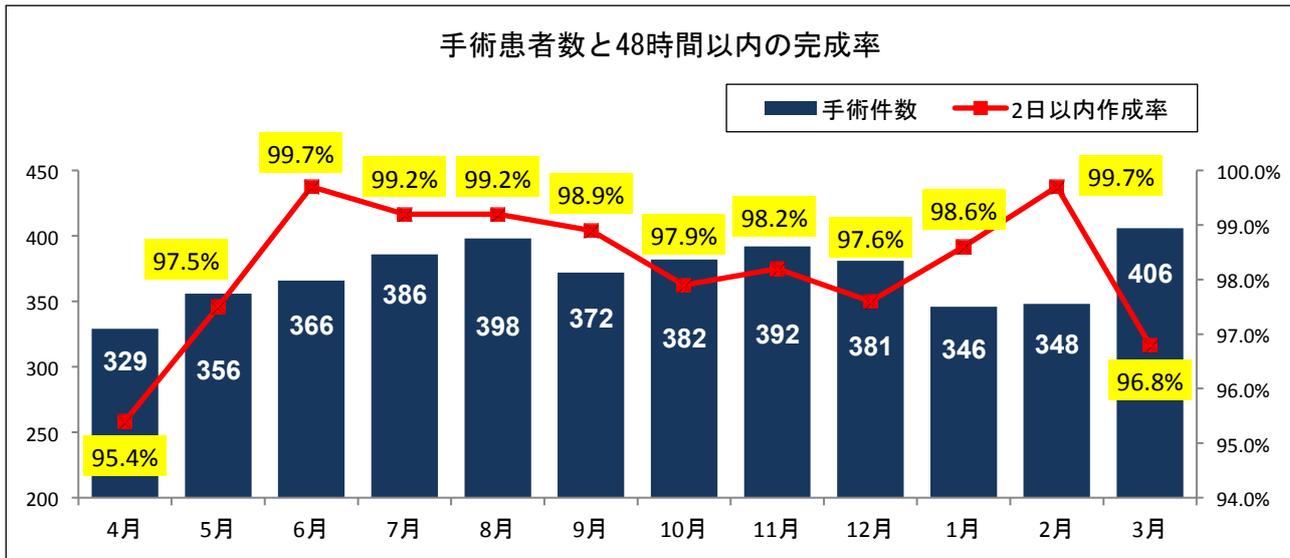
14日以内(2週間)完成率 99.6%(前年比-0.3%)

7日以内(1週間)完成率 90.9%



【手術記録 48 時間以内の記載率】

◆H29 年度全体 98.2% (前年比 +0.7%)



【診療録記載率および監査】

診療記録検討委員会報告を参照

【広報誌】

院内がん登録を活用し、当院の特徴やがん進行度別治療内容や生存率等を記事にしました

H29.6月 がん検診をうけましょう

9月 前立腺がん

H30.3月 肺がん

【スタッフ】 (平成 28 年度)

- ・畑中幸子 H13年4月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務初級者・DPCコース認定
- ・黒丸恭弘 H20年3月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務中級者・DPCコース認定
- ・新地佑貴 H20年4月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務中級者・DPCコース認定
- ・小西佑典 H22年8月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務初級者・DPCコース認定 H30.2月退職
- ・吉永理恵 H22年9月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務初級者・DPCコース認定 H30.3月退職
- ・越間北斗 H24年3月入職 診療情報管理士・DPCコース認定
H28年8月医事部より診療情報管理部へ異動
- ・松崎愛 H22年7月入職 H28年5月末診療補助部より診療情報管理部へ異動
- ・高橋和代 H17年3月入職
- ・濱菌千鶴 H24年5月入職

【部門実績】

【実習受入れ】

- ・鹿児島キャリアデザイン専門学校(医療情報管理学科3年 2名) H29.5.15～5.24、6.12～6.23

【職場体験受入れ】

- ・東高校 1名 H29.11.8
- ・樟南高校 4名 H30.2.15

【院外活動】

- ・鹿児島キャリアデザイン専門学校 教育課程編成委員・学校関係者評価委員 畑中 幸子
- ・鹿児島診療情報管理研究会 副会長 黒丸 恭弘
- ・鹿児島診療情報管理研究会 Aブロック長 畑中 幸子

【病院施設の公開利用】

H29. 8. 5 鹿児島診療情報管理研究会 北薩・Aブロック会 当院主催・講義室誌用 20名
 H29. 11. 25 鹿児島診療情報管理研究会 北薩・Aブロック会 当院主催・講義室誌用 17名

【院外開催会議】

H29. 4. 27 鹿児島市役所 セーフコミュニティかごしま外傷データベースミーティング 畑中 幸子
 H29. 7. 26 鹿児島キャリアデザイン専門学校 教育課程編成委員会 畑中 幸子
 H29. 8. 26 鹿児島大学病院 院内がん登録部会 黒丸 恭弘
 H30. 2. 14 鹿児島キャリアデザイン専門学校 教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会
 畑中 幸子

【院外講演活動】

H30. 2. 24 H29年度 第2回鹿児島県がん診療拠点病院事業四部門合同研修会
 当院の院内がん登録の現状 黒丸 恭弘

【主な研修会参加】

- ・鹿児島県院内がん登録研修会
- ・鹿児島県がん診療連携拠点病院事業 四部門合同研修会
- ・鹿児島診療情報管理研究会
- ・鹿児島診療情報管理講習会
- ・国立がんセンター主催 院内がん登録データ集計分析研修

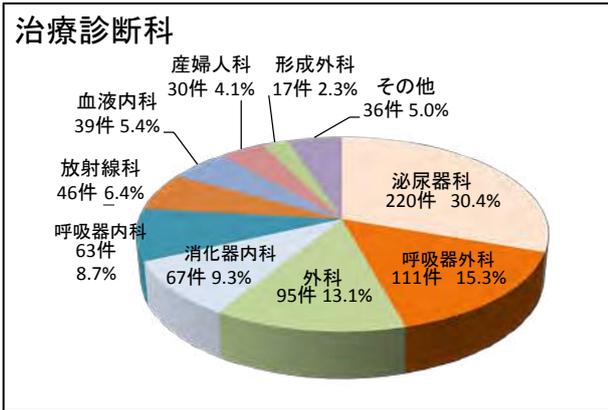
【院内がん登録集計(2017年1月～2017年12月31日)】

※がん登録の対象となる症例：上記期間中に診断及び治療の対象となった症例

★1腫瘍1登録★ 重複がんの場合は原発の数をそれぞれ登録

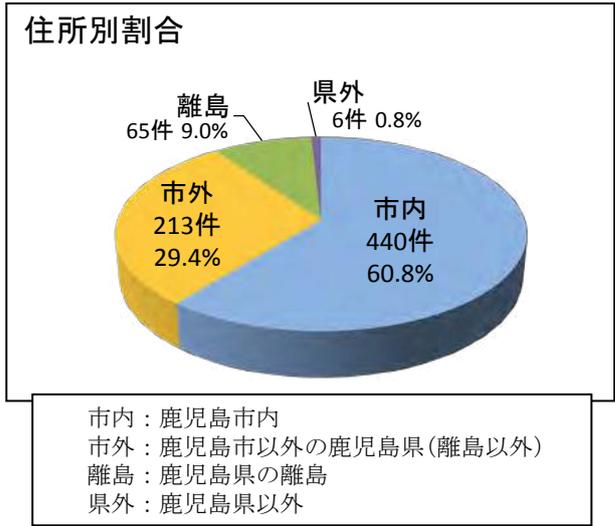
①治療診断科

診断のみで終了した場合：診断を行った診療科
 治療を行った場合：初回治療を行った診療科
 どちらも行った場合は、治療をした診療科を1としています。
 (例) 消化器内科にて診断、外科にて治療
 ⇒ 外科でカウント



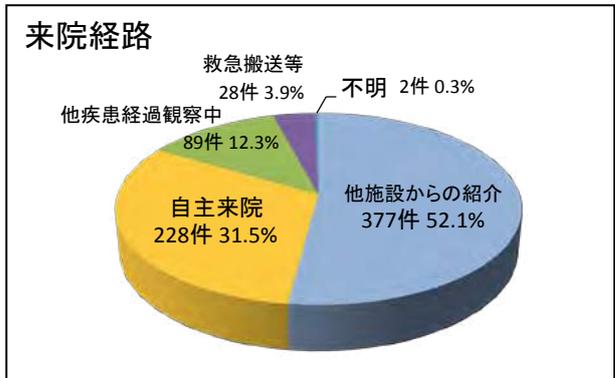
②住所別割合

患者様の居住されている地域別分類です。
 市外では多い順に始良市 35、霧島 28、日置 25
 離島では、種子島 28、屋久島 21 の順となっています。



③来院経路

がんの診断・治療のため当院を受診した経路別分類です。



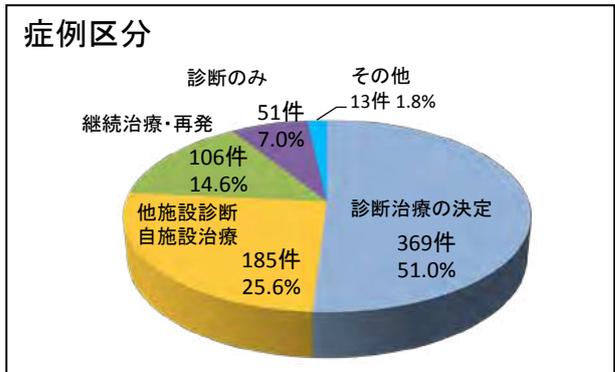
④ 症例区分

診断治療の決定：
 当院でがんの診断を行い、治療方針を決定した症例

施設診断自施設治療：
 がんの診断は他施設で行われ、初回治療を当院で行った症例

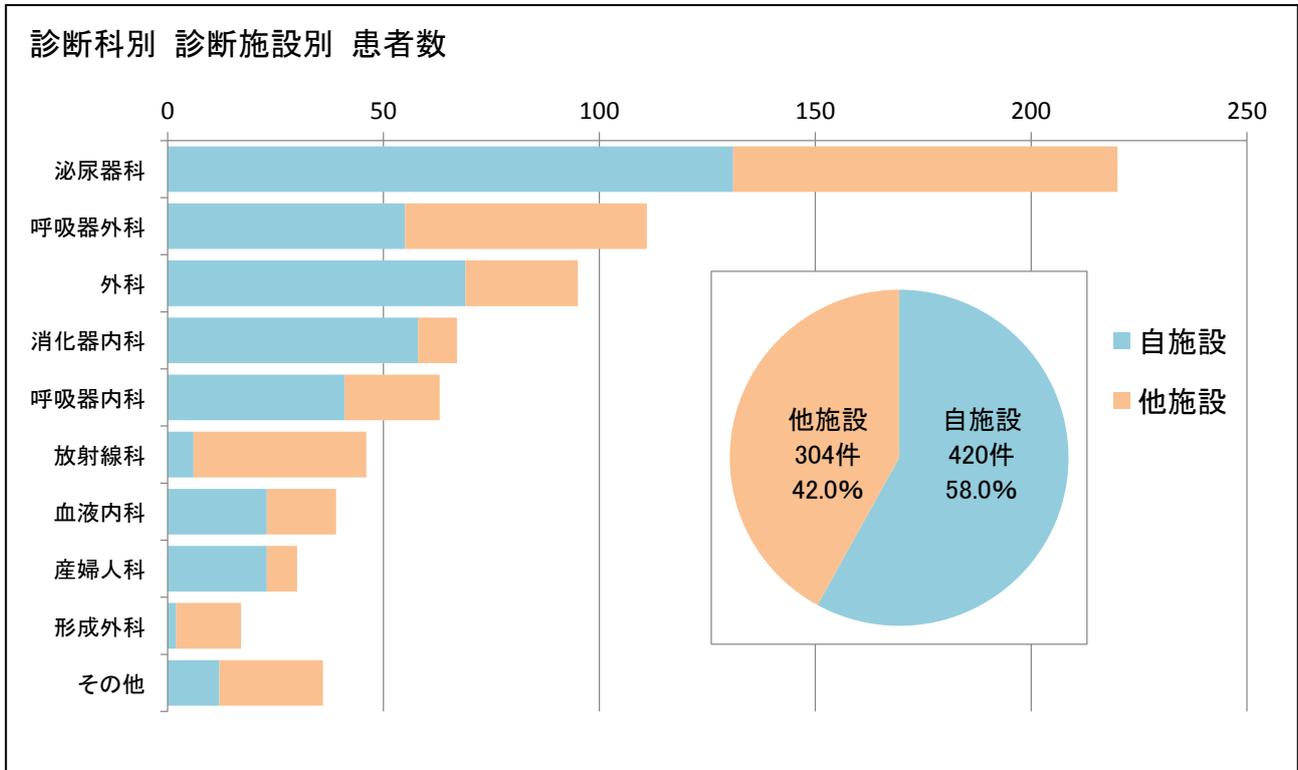
継続治療・再発：
 他施設にて初回治療後、当院にて継続治療を行った症例。もしくは、他施設にて治療後、再発し当院にて治療を行った症例

診断のみの症例：
 当院でがんの診断を行ったが、治療は他施設で行ったもしくは治療を選択しなかった症例



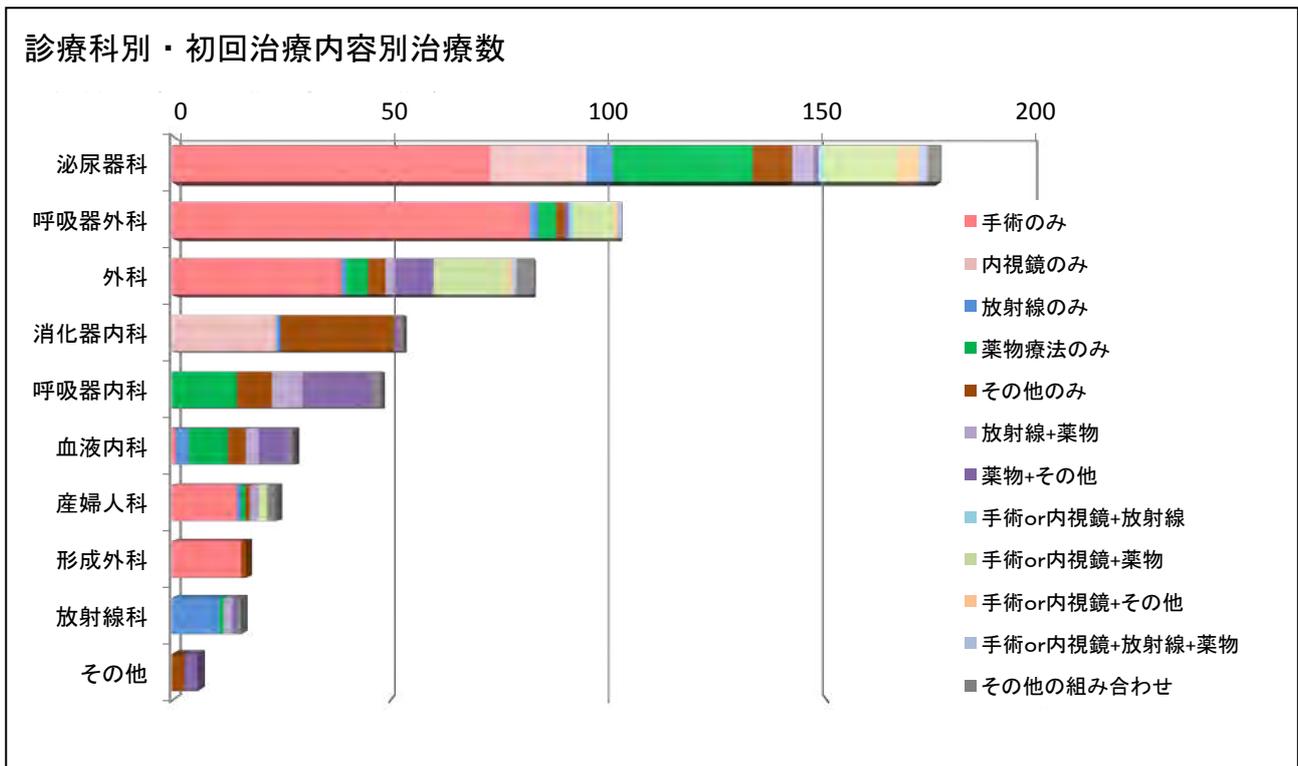
⑤ 診療科別・診断施設別患者数

がん患者様の診断がどこで行われたかを診療科別で示しています。



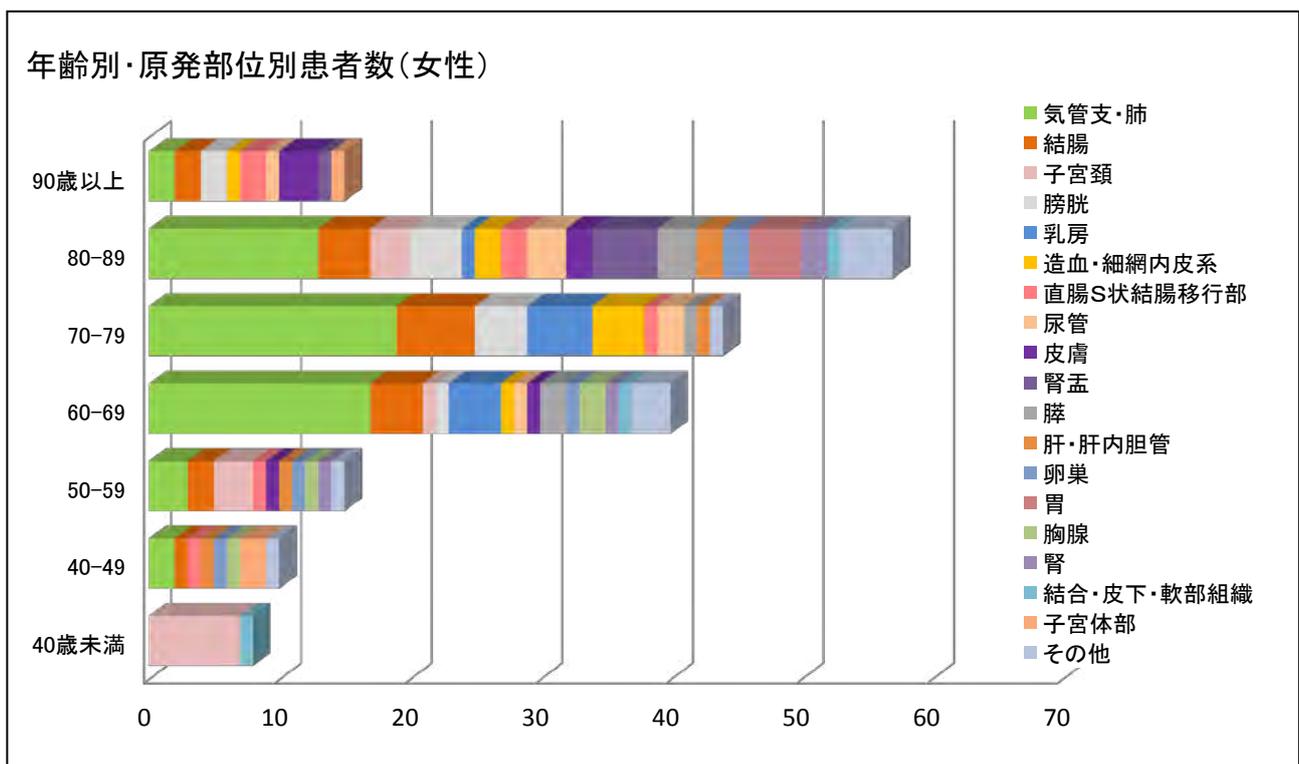
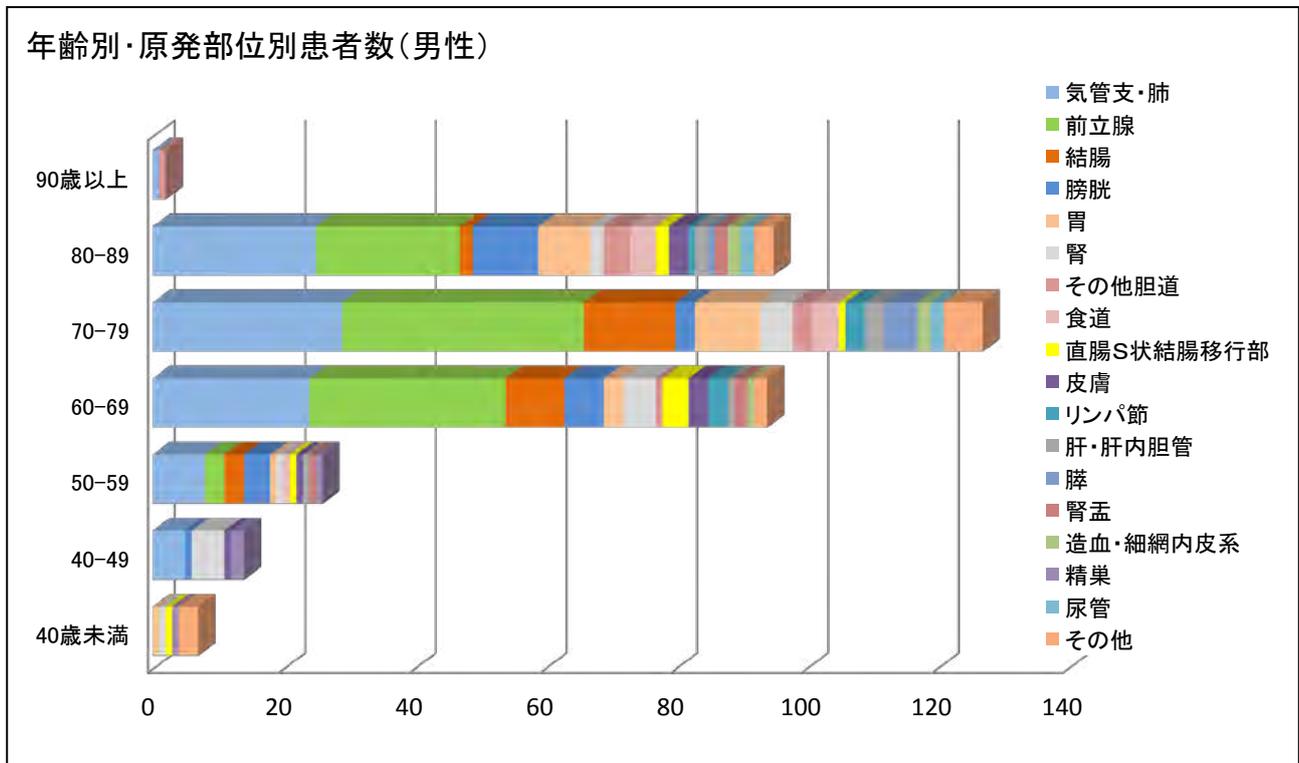
⑥ 診療科別・初回治療内容別治療数

初回治療として選択された治療内容を診療科別で示しています



⑦性別・年齢階層別・原発部位別 患者数

どの年代でどのようながんが多いかをグラフ化しています。





病床管理部

師長 田中 かすみ

【目的】

1. 当院の保有する病床を最大限活用し、急性期の入院医療を必要とする患者に速やかに病床を提供する
2. 入退院支援調整の実践を支援できるよう連携・教育・管理し、患者の早期退院・ケアの質の向上を図る

【開催日】

毎月第1金曜日1回/月（病床運営委員会前）

【委員会メンバー】

生野博久総合内科部長、今給黎尚幸副院長、中村章子看護副部長、御供田貴之課長（経営企画室）、尾之上稲子師長（看護必要度担当）、田中かすみ師長・窪田いずみ主任・大重智子・本坊ひろえ・永山絵梨香・渡邊さつき（病床管理部）、原口一博センター長・吉満実副センター長（相談支援センター）、小湊麻美課長補佐（医事課）

【平成 29 年度目標】

1. 退院支援を行い、在院日数の短縮に繋げる
2. 病床稼働率達成の支援

【平成 29 年度活動内容】

1. PFM 準備(9 月頃より 1 病棟での取り組み)を行い、患者のリスクを早期に把握しスムーズな入院治療と退院を支援するため、入院時にする業務を一部一元化する。
2. 退院支援に関する教育、指導を行なう。
3. 入退院支援のマニュアル作成及び改定を行なう。
4. 地域連携と情報交換の強化を行なう。
5. ベッドコントロールを円滑に行い、全ての入院を受け入れる。
6. データ作成と情報提供を行ない、病床管理について職員の意識向上を図る。
7. 病床運営及び業務マニュアル、その他の書類改定の見直しを行なう。

【反省・評価】

- ・入院時の初回カンファレンスやケアマネとの情報共有などの認識向上がアップしている。しかし入院後の退院支援介入不足があり、早期退院につなげられないケースもある。事例検討や訪問研修など通し退院支援に関する知識向上と地域連携強化を図る必要がある。
- ・ベッドコントロールと PFM の準備と同時進行で前半は思うようにできなかったところがあるが、患者アンケートや業務に関する調査データを取ることはできた。前年度を後退することなく病床管理に貢献できたと考える。年度末に PFM スタッフが配属され、計画とは遅れながら PFM 開始への準備が急速にできたと考える。次年度もチームでの入退院支援で患者を生活者と捉えた取組みを進めていきたい。



患者サポートチーム

看護副部長 岩下邦子

窓口対応窓口での対応件数、内容内訳は、表の通りである。

相談内容によっては、医事課長、交通事故担当、病棟師長などによって対応するケースもあった。患者サポート体制は窓口対応に加え、毎週月曜日に院長、事務長、クリニック事務長、事務長代理、看護部長を含め、窓口担当者、医療安全管理者、施設課課長、医事担当、MSW、外部の接遇コンサルタントなど13名でカンファレンスを行っている。意見箱に届いたご意見・要望に加え各部門に寄せられた内容に対し、対策を検討している。そして、その内容は月に1回開催される全部署の代表が参加する患者サービス委員会の中で、立てられた対策を周知伝達し、時には再検討し、効果判定をしている。

また、昨年同様患者満足度調査を実施した。調査用紙、実施内容は昨年と同様とした。（4月、7月、10月、1月の退院（同月複数回の入院の場合は初回の退院時）に実施）用紙の配布が退院当日であったり、病棟間で回収率に差がある、他部門や他機関からの調査と重複するなどの問題もあった。

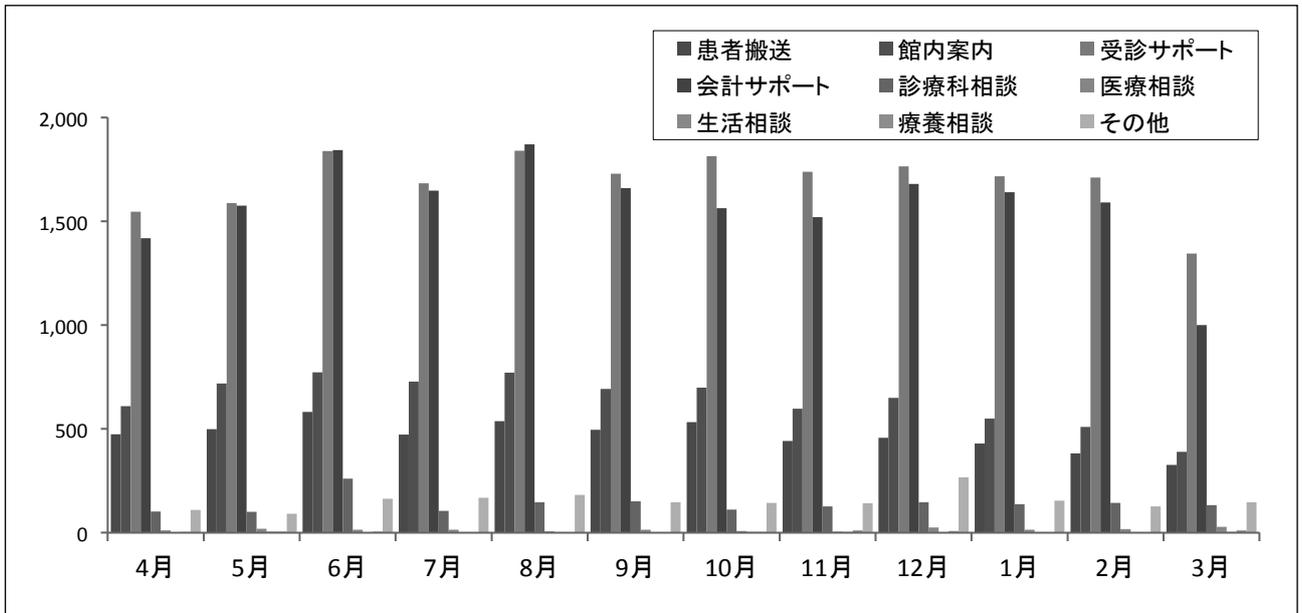
回収率は4月47%、7月36%、10月42%、1月38%で横ばいであった。実施目的を達成するためにも回収率を上げ、広く意見を集めることが今後の課題である。

その他、今年度カンファレンスで検討された主な内容は、以下の通りである。

- ・電話交換士の話し方が耳に残る→語尾を「でございます」に統一するなど、電話対応時の注意点について患者サービス委員会を通じて各部署へ周知をはかった
- ・ナースコールが集中型のため個別対応型に変更できないか→機種変更せず、施設課にて別のシステムを開発。本館の全病室の工事は年度内に終了した。
- ・清掃業者の接遇が悪い・清掃が行き届いていない→委託業者へ総務課長より指導、業者内の指導担当者より教育が行われた。
- ・多床室に大人数の面会者あり迷惑した→該当病棟師長に対応を依頼。当該患者を含め入院中の患者へ向けて注意喚起が行われた。
- ・態度の横柄な医師がいた→院長より指導が行われた
- ・職員用の夜間出入口の運用は5月9日より平日17:00～翌6:00迄施錠となった（土曜日は13:00～月曜日の6:00迄施錠）。
- ・病棟の廊下の荷物が多く通りにくい→決められた枠内の整理整頓を徹底する
- ・電話の受話器の置き方も含め電話対応について
- ・WiFi設置の要望有り→現時点では導入予定はなし
- ・7月3日より24時間空調開始
- ・歩行器が不足している→在宅療養を見据えた歩行器選定を行い購入した
- ・夜間暴力・暴言行為の患者あり→保安・緊急コールの基準の見直し各部署にて点検
- ・駐車場の運用について（料金他）
- ・付添証の様式変更と運用について
- ・暖房運転（11月より外気温1桁にて運転することとなり12月からは朝から21:00までの運転）について

【29年度患者サポート窓口利用集計】

	患者搬送	館内案内	受診サポート	会計サポート	診療科相談	医療相談	生活相談	療養相談	その他
4月	475	610	1,546	1,419	102	11	0	4	110
5月	499	718	1,587	1,575	101	19	5	6	92
6月	582	772	1,838	1,843	261	15	1	6	164
7月	473	728	1,683	1,647	105	15	0	1	169
8月	538	771	1,839	1,870	146	7	0	2	182
9月	496	693	1,729	1,660	151	15	0	2	147
10月	533	698	1,813	1,563	111	9	3	4	143
11月	442	597	1,738	1,520	126	5	3	12	142
12月	458	649	1,765	1,680	147	25	1	8	266
1月	430	549	1,716	1,640	137	14	1	2	155
2月	382	509	1,710	1,590	143	17	0	2	126
3月	327	390	1,344	1,000	133	28	4	11	147
総数	5,635	7,684	20,308	19,007	1,663	180	18	60	1,843
月平均	470	640	1,692	1,584	139	15	2	5	154





事務部

事務局長 野口桂一

特記事項

8月	新病院プロジェクト事業計画書 策定
9月30日	みんなでイキイキ健康まつり
10月	今給黎総合病院 公的医療機関等2025プラン 策定

1. 院内行事

4月1日	入社式	57名入職
5月17日～19日	職員健診	865名実施
7月30日	リフレッシュ研修	
8月17日	鹿児島県臨床研修病院見学ツアーAコース	県外医学生
10月28日・29日	がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会	受講者19名・スタッフ33名
11月15日～17日	職員健診	511名実施

2. 文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動

毎月第一木曜日	病院周辺清掃活動 主任級以上20名程度で活動	
6月12日	鹿児島県赤十字血液センター献血	25名
11月7日	鹿児島県赤十字血液センター献血	19名

3. 入院患者不在者投票実施

7月9日執行	肝付町長選挙	1名実施
9月17日執行	屋久島町議会議員選挙	1名実施
10月22日執行	第48回衆議院議員総選挙及び第24回最高裁判所裁判官国民審査	41名実施
2月4日執行	指宿市長選挙および市議会議員選挙	1名実施

4. 各種補助金関係

へき地医療拠点病院運営費補助金
 医師臨床研修費等補助金
 がん診療連携拠点病院整備事業補助金
 周産期母子医療センター運営費補助金
 病院内保育所運営補助事業
 産科医等確保支援事業補助金
 新生児医療担当医確保支援事業補助金
 地域周産期母子医療センター設備費補助金
 認知症看護分野認定看護師養成促進事業補助金

9つの項目において申請手続きを行った

5. その他の活動報告

乳がん検診	1100名受付
子宮がん検診	114名受付
大腸がん検診	65名受付
低線量CT肺がん検診	40名受付
前立腺がん検診	2名受付

8月17日	南九州地区洋上救急支援協議会平成29年度通常総会	1名参加
9月7日	平成29年度多数傷病者事故対応訓練における電話連絡訓練参加	
12月14日	産科退院患者による「おぎゃー献金」	16,136円
12月22日	NHK歳末たすけあい募金	65,158円

6. 教育研修

4月3日～7日	新人オリエンテーション研修	
5月24日	個人情報保護推進委員会「スマホ、ケータイ安全教室」	115名受講
7月14日・15日	院内感染研修会「当院の環境調査結果と医療施設の環境清掃の重要性」	計531名受講
7月26日	院内感染研修会（医師・薬剤師向け）「細菌性肺炎から学ぶ抗菌薬の使い方」	169名受講
11月21日/12月1日・5日・14日・19日・21日	院内感染研修会「インフルエンザの知識を深め実践につなげよう」	計935名受講
12月8日・9日・16日・25日/1月17日・19日・30日・31日	医療安全研修会「安全を守るためのコミュニケーション～メンタルモデルを意識しよう！～」	計901名受講
1月12日/3月2日・8日	ハラスメント研修会～meetooと言われたい為に～	計128名受講

7. 会計監査

監査法人監査（北三会計社）

（平成28年度：北三会計社、平成29年度：いちご公認会計士共同事務所）

平成28年度	現金実査・棚卸立会	平成29年4月4日・6日
	下半年監査	平成29年5月29日・30日
	決算監査	平成29年6月6日・7日
平成29年度	現金監査	平成30年3月31日

8. 平成29年度購入物品（100万円以上の物品）

購入日	購入品
4月18日	膀胱腎盂ビデオスコープCYFVA2
4月28日	炭酸ガスレーザー C02エスプリ
5月25日	超音波画像診断装置SSDF37
5月29日	自動蛍光免疫測定装置ミニバイダス
6月13日	Valleylab FT10エネルギープラットフォーム
7月31日	紫外線治療器JTRAC
8月31日	エンドスコープ 25°（PED）No.2
8月31日	耳鼻科SNユニット エクセレンス Aタイプ
9月26日	ウロダイナミックシステム(MMS社)
9月29日	3DワークステーションSYNAPSE VINCENT（ハード部）
9月29日	3DワークステーションSYNAPSE VINCENT（ソフト部）
9月29日	超軽量移動型デジタルX線撮影装置CALNEO AQRO
12月19日	カード用全自動輸血検査装置
2月20日	FLOW-i 麻酔システム
2月20日	ベッドサイドモニタ（DYNASCOPE）
2月20日	ERGA自動麻酔記録装置
2月20日	マシモモニタ
12月29日	ENDOYE FLEX腹腔・胸腔ビデオスコープ 5mm
1月15日	センチュエリオンビジョンシステム
3月30日	ALMEX 医療費自動精算機（2台）

会議・委員会活動報告

IV

- 各会議
- 法令関連
- 医療安全
- 医療の質向上
- 教育研修推進
- 病院運営
- 地域サービス



病院業務運営会議

【目的】

総合医療推進に伴い、病院運営上の実務についての連絡調整、意見集約を図りながら、より充実したチーム医療を構築する。

【本会議の開催】 毎月第2月曜日 (18:00～19:30)

【出席者】

理事長、院長、各科部長、各科医師、看護部長、看護師長、薬剤部長、放射線・検査技師長、療法士長、栄養管理課長、事務局長、各事務部課長、各部署責任者

本会議は、病院運営上において、原動力的会議として位置づけされ、毎月1回開催されている。各科各部署より連絡事項、報告、問題点、提案等を提議して、多面的な立場より検討し『より適切な医療とサービスの提供』を目標にしている。

本年度も多くの課題が検討され、医療機能の質の向上・改善が図られた。

病院移転に伴い、資産上の関係から公益社団へ移行することが決定し報告された。

鹿児島県からの許可が下りれば、平成30年4月から変更予定である。

今後も、患者様はじめ、地域医療関係機関へ、更なる貢献向上に向けて、全職員一丸となり、取り組んでいきたいと考える。

《今年度の主な検討事項》

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ・各部署からの現状実績報告 | ・7対1・ICU入院料、実績報告 |
| ・各委員会からの報告 | ・各講演会関係開催 |
| ・収入支出報告、稼働状況報告 | ・在院日数短縮、病床利用率 |
| ・医療安全対策・院内感染対策 | ・インフルエンザ、ノロウイルス対策 |
| ・サマリー、診療記録監査、がん登録報告 | ・病院移転関係 他 |



薬事委員会

【目的・目標】 採用薬の整理・後発医薬品への切替え

【開催日】 3ヶ月に1回

【構成員】

大久保幸一 昇卓夫 中目康彦 大場一郎 野口桂一 酒匂英子 前嶋一友 高橋真理

【平成29年度活動内容】

平成29年度は、新規採用・削除薬を審議する定期の薬事委員会を第93回～96回まで4回開催した。新規採用薬は院内・院外共通8品目、院内処方専用6品目、院外処方専用16品目であった。後発医薬品への切替えは36品目（内服薬25品目・注射薬11品目）について行った。

平成30年度診療報酬改定ではDPC制度における後発医薬品係数が廃止され、後発医薬品使用体制加算の対象にDPC対象病棟入院患者が追加されて以下のように評価が見直された。

*後発品使用割合＝後発医薬品の規格単位数量／後発医薬品あり先発医薬品及び後発医薬品の規格単位数量

			後発医薬品使用割合		
後発医薬品使用体制加算1	42点	} →	後発医薬品使用体制加算1	45点	85%以上
後発医薬品使用体制加算2	35点		後発医薬品使用体制加算2	40点	80%～85%
後発医薬品使用体制加算3	28点		後発医薬品使用体制加算3	35点	70%～80%
			後発医薬品使用体制加算4	22点	60%～70%

平成30年1月～3月の当院における後発医薬品使用割合は94.1%、全医薬品中の後発医薬品の割合は65.9%で、後発医薬品使用体制加算1の施設基準を満たすことができた。

また、一般名処方加算も以下のように見直され、僅かではあるが加算による収入が増える見込みである。

一般名処方加算1 3点 → 6点

一般名処方加算2 2点 → 4点

分子標的薬・生物学的製剤など高額な薬剤が増えてきており、薬剤費は年々増加している。前年度と比較した薬剤費の増加額は1億8,900万円であった。医薬収入に対する薬剤費率は昨年度より1.4%増加し、12.2%となった。

薬剤費率(医薬収入に対する薬剤費の割合)と薬剤費に対する後発品の割合 前年度との比較

	平成28年度		平成29年度	
	年間	月平均	年間	月平均
医薬収入	9,838,193,534	819,849,461	10,264,016,893	855,334,741
薬剤費	1,062,360,218	88,530,018	1,251,461,885	104,288,490
薬剤費率	10.8%		12.2%	
後発品金額	109,812,264	9,151,022	114,409,466	104,527,399
後発品割合(金額)	10.3%		9.1%	
後発医薬品置換率	71.8%		80.7%	
後発医薬品係数	0.01058		0.00949	

前年度との差額	平成28年度		平成29年度	
	年間	月平均	年間	月平均
医薬収入	-57,364,392	-4,780,366	425,823,359	35,485,280
薬剤費	-174,565,638	-14,547,137	189,101,667	15,758,472

新しく上市される薬剤には高額なものが多く薬剤費の増加を抑えるのは難しいが、今後も定期的な後発医薬品への切替えと採用薬の適正化を検討していきたい。



労働安全衛生委員会

【目的】

職員の健康保持及び職場の環境衛生の改善について必要な事項を定め、職場の勤務能力を向上させる。

【開催日】 毎月1回

【委員会構成員】

牟禮洋(委員長5月まで・産業医)、岩下邦子(看護部・衛生管理者)、福元こずえ(看護部・衛生管理者)、飯伏順一(中放)、村中利也(中検)、有村郷司(病理・衛生管理者)、牧之段李奈(中検)、小野純子(在宅・衛生管理者)、児島邦幸(リハ)、山之内樹里(薬局)、十島達也(人事)、小林美子(人事)、上唐湊(医事)、前野浩一(総務・委員長6月～) 14名

【活動内容】

1. 労働環境衛生、施設等の改善
2. 職員の健康保持の判定及び事務処理に関する事
3. 職員の疾病予防に関する事
4. 常時飲食物を扱う職員の保菌検査及び保健衛生や指導に関する事
5. 放射線技師及び放射線科に勤務する職員の保健衛生や指導に関する事
6. 夜勤を行う職員の保険衛生や指導に関する事
7. その他衛生管理に必要な事

【総括】

今年も例年通り、5月と11月に職員健康診断、職員インフルエンザ予防接種、医師の時間外状況や化学物質リスクアセスメントについても、毎回報告をあげ検討してきた。

今年は、昨年3月に監督署より指導のあった院内巡視を4名の衛生管理者を中心に行ってきた。最初は巡視時間を確保する事や、記録の保存、改善の指導など大変であったが、委員会から、担当の各現場へ改善を依頼することで、早期改善に繋がって良い方向へ向かっていると思われる。委員全員でのラウンドも定期的に行っていきたい。

30年度より、定期健康診断を外部へ委託することとした。健診後、職員への結果報告が、2～3カ月後くらいとなっていた。今後は受診後、1カ月程度で各職員へ返却できるようになる。また医師や放科、検査、事務部スタッフの負担軽減も効果が出るものと思う。

職員向けの講演会として、当院の接遇講師へ依頼し、パワハラ研修会を行った。100名程度の職員が聴講した。

今後も職員が安全安心して業務を行えるよう、当委員会が中心となり取り組んでいきたい。



防火対策委員会

【目的】

火災の予防及び火災発生時の対応について、日常的に職員の防火意識の高揚と防火訓練の立案・計画・実施等により、患者様・職員の人命を守る事を最大の目的とする。

本委員会の第一目標は、火災予防と火災発生時の対応並びに初期消火と患者様・職員の人命救助である。

日常的においては、消火設備・非常ベルの位置・避難経路の確保及び周知、廊下の物品管理消火設備・防火戸の前に物を置かない等、職員の防火意識向上を図ることである。

今年度は、鹿児島市消防局中央消防署上町分遣隊立ち合いのもと、総合訓練を2回実施した。訓練では、火災発生連絡、消防への通報、消火器による初期消火・消火栓による消火、避難誘導出火区画外への護送・担送、本部への報告を行った。消防署ご指導のもと、水消火器を使用した消火訓練を行い、初期消火の重要性と取り扱い方法の周知を図った。また、火元責任者には更なる防火意識の向上に努めていただけるよう防火管理者講習を受講してもらった。

今後も、火災予防と火災時に落ち着いて判断・行動・実践出来るよう基本的な訓練は怠らず、本委員会を通じて職員一人一人の防火意識の向上に努めたい。

【構成員】 病院長（委員長）、事務長、看護部長、看護副部長、施設課長、各部火元責任者（26名）

【平成29年度の主な活動】

- 4月 鹿児島市自衛防火協会定期総会（事務長出席）
- 5/10 乙種防火管理者講習（火元責任者9名受講）
- 5/11 本委員会開催（28名出席）
- 5/15～5/20 消防設備機器点検（4日間）
- 5/30 昼間想定防火総合訓練実施（通報・初期消火・避難誘導）116名参加
消火器取扱い（5名実施）
- 6月 甲種防火管理者講習（21日2名受講）（28日2名受講）
- 9/14 昭和会クリニック昼間想定防火総合訓練実施（通報・初期消火・避難誘導）30名参加
消火器取扱い（3名実施）
- 9/26 消防署立入検査（昭和会クリニック）
- 9/27 消防署立入検査（本館・別館・医局）
- 10/26 本委員会開催（27名出席）
- 11/10 第56回自衛消防隊消火競技会出場（男性3名、女性3名）
- 11/30 昼間想定防火総合訓練実施（通報・初期消火・避難誘導）109名参加
消火器取扱い（6名実施）
- 11/13～11/18 消防設備総合点検（4日間）
- H30.3/15 昭和会クリニック昼間想定防火総合訓練実施（通報・初期消火・避難誘導）30名参加
消火器取扱い（3名実施）



医療ガス設備安全管理委員会

【点検活動実績】

- *エチレンオキシド・ホルマリン作業環境測定 5月・11月/年2回
- *医療ガス配管設備年次点検 12月/4日間
- *7トンCEタンク(液体酸素)年次点検 /2月
- *高気圧酸素治療装置点検 12月/2日間
- *医療ガス設備安全管理委員会 /3月
- *新入職員医療ガス研修/4月委員会目的、目標：医療ガスの安全及び管理について審議し決定し以て医療事故防止を図る
- *医療ガスの使用量は病院の売り上げに比例します。

【委員会議事録】/委員会 年1回

1. 委員の退任と新任の報告 濱畑委員(薬剤師)より脇元委員(薬剤師)に変更
2. 高気圧酸素治療装置 1号缶の点検報告書の連絡事項
温度指示計の誤差 28年-1.2℃・29年-0.5℃(継続掲載) 許容範囲(±2.5℃)調整後の温度指示は正常に出来ております。H30年9月のアクリル内筒の交換時期に、圧力制御盤、交話装置、電源装置、バッテリーなども併せて交換する予定となっております。
(加圧回数1万回が当病院 アクリル内筒の交換条件に該当 H29年12月点検時9303回)
3. 齋藤臨床工学技士長より
クリニック4階歯科診療に酸素アウトレット設備が無く、酸素を使用されている患者様の残量不足などのトラブルに対応できるようにスタッフと流量調整付酸素ポンベの設置場所・本数を調整し設置準備を進めております。
4. 近藤看護部長より
病室の医療ガスアウトレットの防塵キャップ・チェーン破損・紛失等の報告がありますが、本来ならば医療ガスを使用しない時に装着する防塵キャップが無いのは問題があると思いますので、看護部で防塵キャップ破損・紛失、チェーン破損の状況を調査したいと思います。
5. 野口事務局長より
Q. 完全に停電した場合は医療ガスは使用できますか
A. 発電機より送電中は問題はありませんが、完全に停電した場合は、酸素はCEタンクの自己圧で供給はできますがモーター電源を必要とする空気・吸引に関しては使用はできません。
6. 新入職員研修プログラムに沿って医療ガス取扱い講習会を4月4日8:30より40分間の予定で行います。
新入職員対象であります、興味のある方は受講してください。

日時： 3月22日 7F カンファレンス室

時間： 16:00～17:00

出席者

役付委員又は役割	名 前	病院内職務名	備考欄
委員長・・・総括責任者	牟 禮 洋	副院長	
副委員長	近 藤 ひ と み	看護部長	
副委員長	池 田 耕 自	麻酔科部長	
委員	藤 山 み ど り	看護副部長	
委員	齋 藤 謙 一	臨床工学技士長	
委員	尾 堂 知 子	手術室師長	
委員	伊 野 知 余 子	ICU 師長	
委員	坂 口 聖 治	医事部主任	
委員	脇 元 弘 喜	薬剤師	
委員	米 盛 正 志	施設課長補佐	
	野 口 桂 一	事務局長	

欠席者

役付委員又は役割	名 前	病院内職務名	
委員(監督責任者)	田 中 英 樹	施設課長	

委員出席者：11名

欠席：1名



[法令関連]

委員長 昇 卓夫 報告 上平田 美樹

栄養管理委員会

【目的】 患者栄養管理の内容充実、栄養管理業務の改善向上

【会議内容】 栄養管理及び給食管理業務に関する事項
院内約束食事(箋)・入院患者の嗜好調査に関する事項
入院及び外来栄養指導に関する事項
NST・医療安全管理に関連する事項
電子カルテ使用に関する事項

【構成員】 院長・事務長・看護部長・副看護部長 1 名・病棟師長 5 名
栄養管理部 課長(管理栄養士)1 名・NST 専従(管理栄養士)1 名・調理長(調理師)1 名

【開催日】 毎月第三月曜日 14:00～

【平成 29 年度の活動内容及び取り組み】

＝平成 29 年＝

- 4 月 離乳食調査に関する帳票(改定)、ラテックスアレルギーに関する食事対応
- 5 月 安全管理統計報告、ワーファリン内服に関する献立変更(納豆提供中止へ)
- 6 月 栄養の日イベントに関する準備・広報
- 7 月 地震災害時食事対応についての報告、健康祭り準備
- 8 月 災害時院内対策確認、ローリングストック分の補充品検討、
- 9 月 食事アンケート報告(8 月 23 日調査:配布数 105 名、回答数 68 名:回収率 68%)
- 10 月 院内配茶についての検討
- 11 月 栄養管理計画手順の見直し、化学療法食についての申し合わせ事項
- 12 月 感染対策強化、配茶切り替えによる報告

＝平成 30 年＝

- 1 月 栄養管理計画手順の改訂、水使用に関する災害対策
- 2 月 食事アンケート計画と調査内容の検討(平成 30 年 3 月 8 日実施予定)
- 3 月 食事アンケート実施(2 月 28 日調査:配布数 108 名、回答数 73 名:回収率 68%)
平成 30 年診療報酬改訂に伴う対応



[法令関連]

委員長 生野 博久 報告 前嶋 一友

治験審査委員会

昨年度に引き続き、新日本科学臨床薬理研究所が SMO(治験施設支援機関)として参加して頂きました。委員会に関しては毎月開催しています。

本年度の当施設における審査対象試験

- 昭和会クリニック神経内科実施試験
➢パーキンソンズムを伴うレビー小体型認知症を対象とした AD-810N の検証的試験(第 3 相試験)
- 昭和会クリニック整形外科実施試験
➢変形性関節症患者を対象とした MT-5547 の第 II/III 相試験

今給黎総合病院実施試験は昨年度同様に 0 試験であった。また、昭和会クリニック実施試験は昨年度の 1 試験から 2 試験に増加した。

院外からの審査依頼試験数は昨年度 5 試験に対し、本年度は 6 試験であった。

審査依頼施設としては、藤元総合病院、厚地脳神経外科、川原泌尿器科、天保山内科、田村脳神経外科クリニック、なかむら整形外科クリニック、橋口整形外科、武本整形外科であった。

来年度は当院、昭和会クリニックでの実施治験数の増加及び外部医療機関の治験審査依頼数の増加に努めていきたいと考えます。



放射線安全管理委員会

【議事録】

開催日：平成29年7月5日(水) 17:00~17:40

場所：本院7F カンファレンスルーム

出席者(敬称略)

院長	：昇(病院)	医師	：松永、中禮、鉾立
放射線部	：新村、竹之内、永山、松下、飯伏、浮田	看護部	：中馬、加治屋
事務局	：野口、前野、田中(施設管理)		
その他	：高橋(薬剤部)、原口(医療相談)、千田(医療安全)		計 18名
進行	：放射線安全委員会委員長・放射線取扱主任者 安全管理責任者・取扱責任者	中禮 久彦 新村 栄次	

1. 28年度報告

(1) 放射線障害防止法に基づく職務審議案件報告

- ① 業務従事者の登録とその教育・訓練・健康診断及び被曝管理に関すること
 - ・被ばく線量測定用バッジ着用者数
 - ・業務従事者の新規登録はありません。
 - ・5ミリシーベルト以上の被ばく者なし。
 - ・健診(前期)5月18日から20日まで、(後期)11月16日から18日まで実施
放射線による被ばく障害者の発生なし
 - ・教育講演を行った。11月30日実施(講義室) 参加者50名
 - ・整形外科ミエロ、神経根ブロック検査用鉛手袋を新たに10枚購入した。
- ② 放射性同位元素等・放射線発生装置の管理及び運用に関すること
 - ・年末年始は4日間あけないで1月2日に放射線治療を実施した。
- ③ 帳簿・書類の記帳及び保管に関すること
 - 7月、保健所による医療監査を受けるために書類の準備を進めています。
- ④ 法令に基づく申請、届出、報告の審査
 - ・1月15日 九州厚生局の監査
放射線治療で、医療機器安全管理料2についての指摘があった。
当該技術者については放射線治療専任加算における技術者との兼任はできないこと。
 - ・6月12日原子力規制庁へ平成28年度放射線管理状況報告書の提出を行った。

(2) 安全管理報告について

- ① 28年度安全管理報告書
報告書27件 インシデント26件 アクシデント1件 でした
- ② 各部門責任者より安全管理について

(3) その他の対応(機器)

- ・5月にOPE室外科用イメージのイメージインテンシファイアーが破損し交換しました。4月に戻って保守に入り、管路交換もしました。
- ・マンモトームの画像が表示されなくなり、CCDカメラの故障でした。部品が800万円と高価な為保留にしました。

2. 29年度計画案件等について

- ① 被ばく実効線量減少への取り組み
 - ・外部講師(メーカー等への依頼も検討)を招いての教育講演を実施する
- ② 保健所による医療監査にむけて準備を行う。
- ③ 退職者等に伴う放射線障害予防規程の各種委員・担当者の変更を行う。
- ④ がん拠点病院等で問われる認定資格取得(複数取得)への取り組みや支援を行う

3. その他

ガラスバッジ紛失について。

未返却のまま3ヶ月が経過すると、1個当たり3,750円(税込み)の支払いが発生し、現時点では病院負担になっている。2回紛失した方は、個人負担にさせて頂きたい。

若いスタッフが随分増え活気がみなぎっています。安心して働ける職場として、また、安心して受診できる病院・放射線部として、今後も精進、精度の高い画像提供に努めて参ります

* 次回の開催について 来年の6ないし7月頃を予定(臨時招集はその都度)



化学療法緩和ケアネットワーク委員会

【目的】

本委員会は、院内で行われているがん化学療法の問題点などを議論し解決策を見出すことを目的としている。さらに院内で実施されている化学療法のレジメン(治療内容)の妥当性を評価し、承認する。また、外来化学療法室の現状を報告し、問題点を洗い出し、解決策を見出す。そして、緩和ケアに関する問題点を議論し、院内で統一化を計る。

【構成員】※異動者を含む

委員長 米田 敏(呼吸器外科)

委員 濱ノ上 雅博(外科) 今給黎 尚幸(呼吸器外科) 緑川 健介(呼吸器外科) 小濱 浩介(血液内科)
立和田 得志(泌尿器科) 新村 昌弘(呼吸器内科) 中間 恵美子(産婦人科)
財間 富士子、前島 一友(薬剤部) 古市 寿子、高田 奨(リハ) 田中 美帆(栄養管理部)
福徳 里佳、下野 智子(医事課)

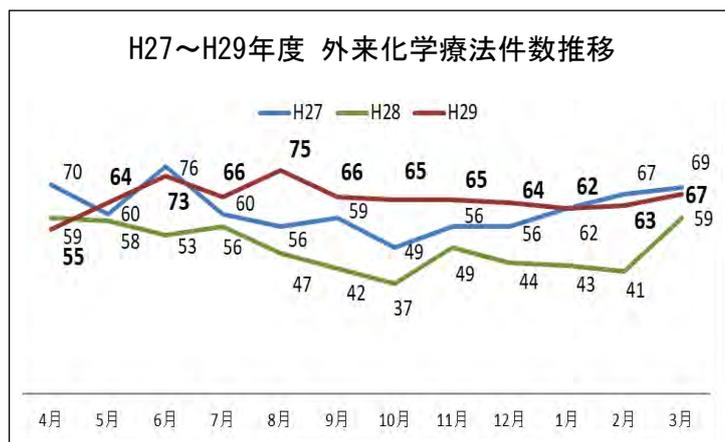
【看護部】※退職者、異動者を含む

横山 睦美(2 東) 酒匂 英子(2 西) 有菌 さつき(3 東) 河原 尚美(3 西) 松野下 恵子(2 北)
橋口 恒夫、赤坂 美保(外来)
植屋 明代、早崎 玲子、岩山 友紀(緩和医療課)

【平成 29 年度活動内容】

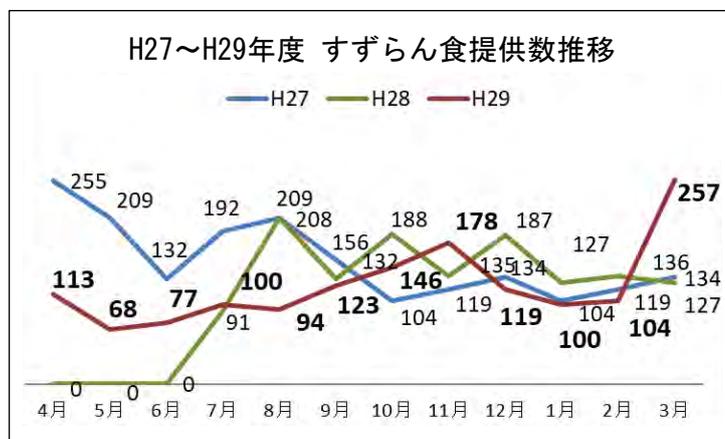
毎月 1 回 第 1 木曜日(17 時 15 分～)

- ・ 外来化学療法実績報告(右図)
- ・ 院内の化学療法数・主な有害事象報告、化学療法に関わる医療安全事案、解決すべき問題点の提案が行われた。
※主にアレルギーや発熱性好中球減少症、血管外漏出などの情報を共有することができた。



・ 栄養管理部(右図)

※平成 28 年 4 月から 7 月 3 日まで厨房職員不足のため、すずらん食の提供ができなかった。



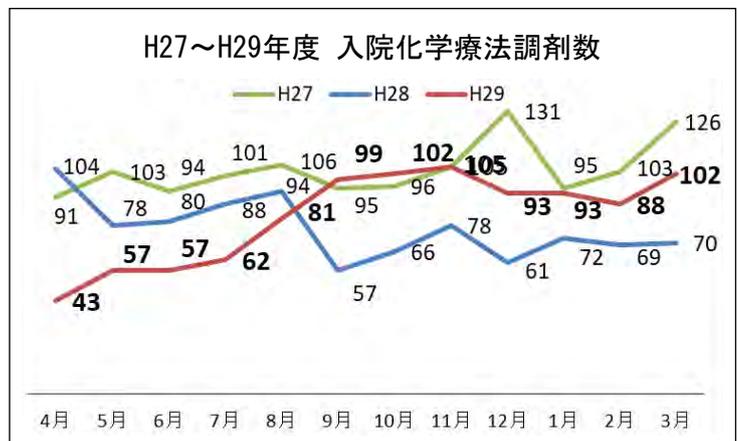
・ 医事課

算定報告並びに化学療法・緩和ケアに関する診療報酬改定内容の説明



・緩和ケア
ほっとサロン案内、緩和ケア研修会案内(詳しい内容に関しては、緩和医療課の項参照)

・薬剤部
入院化学療法調剤数報告(右図)



- 薬剤に関する情報提供
- ジプレキサが抗悪性腫瘍剤の投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)に対して適応あり
- エルプラットが、後発品のオキサリプラチンへ変更される
- トポテシンが、後発品のイリノテカンへ変更される
- * リツキサンは、インフュージョンリアクションのリスクが高いため、今後検討していく
- ベナ錠からポララミンへ変更などを報告した。

・医師

承認月	申請診療科	レジメン名	適応がん
4月	血液内科	E-Ld 療法	再発または難治性の多発性骨髄腫
8月	外科	IRIS+Pmab	治癒切除不能な進行再発結腸・直腸がん
10月	外科	オブジーボ	胃がん
12月	外科	アブラキサンD法	胃がん
1月	泌尿器科	キイトルーダ	尿路上皮癌
3月	外科	nab-PTX+RAM	胃がん
3月	泌尿器科	GC療法ショートハイドレーション	尿路上皮癌

以上、7件が申請され、すべて承認された。

● 新病院の外来化学療法室について

・その他

● 5月30日、11月28日に免疫関連会議を各診療科の医師、薬剤師、医事課、看護師を中心に開催した。



DPCコーディング委員会

【活動報告】

当委員会は、年4回(4、7、10、1月)開催しております。

委員の構成は、病院長をはじめとして副院長、事務局長、診療情報管理士、医事課スタッフ16名 総勢約20名で構成されます。

【目的】

標準的な診断及び治療方法について院内で周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保することを目的とする

【構成員】

委員長	牟禮 洋(副院長)		
委員	昇 卓夫(病院長)	野口 桂一(事務局長)	畑中 幸子(診療情報管理士)
	上唐湊 芳一(医事課長)	東 貴史(医事課長補佐)	坂口 聖治(ICU医事担当)
	永野 一彰(2 東医事担当)	柿木 浩希(3 東医事担当)	岩元 正子(手術室医事担当)
	中村 亜希子(2 西・NICU・GCU医事担当)		東 知子(3 中央医事担当)
	針山 朋美(2 南医事担当)	小湊 麻美(病床管理部兼務)	米満 久美(2 北医事担当)
	福徳 里佳(3 西医事担当)	河野 真子(3 北医事担当)	岡元 麻衣(4 北医事担当)
	中菌 ひとみ(4 西医事担当)	松元 葵(3 南医事担当)	

議事内容としまして、様々な報告、提案をしています。

【議題】

- | | |
|--|---|
| <p>29. 4 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例検討(耳鼻咽喉科)
副傷病の確認
慢性副鼻腔炎手術は部位を確認のこと
めまいは原因疾患を検索すること
めまい関連の分類が何種類もあるので
要注意 ・平成 29 年度機能評価係数Ⅱについて
効率性・複雑性・カバー率指数について
提案
⇒6 症例以上ある分類のみ計算対象
であるため、6 件を超えるよう
努力していく <p>29. 7 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度機能評価係数Ⅱについて
平成 29 年度機能評価係数Ⅱ 県内で
当院は 10 番目
救急医療係数について 低くなりつつあ
るので指数を増やしていく努力が必要
加算をもれなく適正に算定する ・症例検討(呼吸器外科)
自然気胸と膿胸の比較 資源病名決定
にあたり、手術点数や DPC 点数を比較
等しながら分類を行う ・DPC 新設項目について
H ファイルの説明
重症度、医療・看護必要度の見直しの
説明 ・DPC データ提出に伴う様式 1 エラー報告
医療介護関連肺炎入力漏れ
040070 インフルエンザ・ウイルス肺炎、
040080 肺炎にて必須項目 | <p>29. 10 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例検討(神経内科)
多発性硬化症患者 インターフェロン
と血漿交換施行は資源がかかるので要
注意 査定・返戻に注意 ・胃がん、骨転移患者症例検討
診断群分類に要注意 ・DPC 分析 DPC/ 出来高比較
新生児内科、呼吸器内科が売上増
マイナス診療科の分析 ・DPC データ提出に伴う様式 1 エラー報告
ADL、院内感染評価、肺炎・心不全の評価 <p>30. 1 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例検討
(糖尿病内科 平成 29 年 1 月～12 月退院)
1 年で 35 名の退院 2～3 週間退院が
全体の 7～8 割
糖尿病疾患における疾患レコード別一
覧の説明
DPC 点数 / 出来高点数の比較
クリティカルパスを作成中 ・平成 30 年 4 月改正に伴う DPC 再入院
ルール説明
7 日以内再入院の取扱見直しにて「分
類不能コード」を用いた場合は一連の
入院としての扱いとなる
合併症と伴う再入院も一連の入院とし
ての扱い ・DPC 形式チェックから
エラー内容説明、データ提出報告 ・出来高算定となる高額薬剤報告
当院でも購入予定のある高額薬剤につ
いて |
|--|---|

【総括】

適切なコーディングを行うために、関係部署でよく議論し診療報酬請求業務等を行っております。

出来高算定の場合とDPC算定の場合で、点数の乖離が大きい症例等、正しくコーディングされているか医療資源の投入量の点検・確認を行い、皆さんより意見・助言を頂いております。また、交代で科別の症例検討も行っております。

入院医事担当が医療資源傷病名に悩んだ症例をもちより、コーディングが正しかったのか、他に変更ができなかったのか、先生方をはじめ他スタッフにも意見を頂戴しております。また、中医協の動向などもふまえて情報の共有を図っております。そして、DPCのデータを提出していることから行政や患者様からの評価も受けているとの認識をもち、正確なデータが提出できるよう日々精進していきたいと考えております。

今後も当委員会の活動を前進させ、適切なコーディングに努めたいと思います。最後にDPCの啓蒙活動にも力を入れ、院内にも浸透していけたらと思っております。



[医療安全]

委員長 横山 睦美(報告)

感染対策リンクナース会議

【目的】 リンクナースの役割を把握し、病院感染防止対策に努める

【目標】 ・ラウンドチェック項目の遵守率が80%以上になる
・手指衛生に対する意識が向上しスタッフに統一した伝達指導ができる

【開催日】 第1火曜日 10時～12時

【構成員】

委員長 横山睦美

副委員長 木場信一 田川愛子 師長 東美津子 上山真紀

委員 副部長 岩下邦子 感染管理課 立和名聖子

2西 前鶴真知子 NICU 楠元有梨 2東 福別府真美 3西 永田香織 3中 地頭菌佳奈

3東 中野菜里 4西 佐野智美 ICU 勝山 茜 手術室 森 美幸 2北 佐藤 恵

2南 上温湯和美 3北 徳永京子 3南 藤田理恵 4北 福留なつみ

外来 永野のぶ子 クリニック 入江田徳美

【活動内容】

4月～12月	1時間かけて 病棟感染ラウンド	11月	結核・流行性耳下腺炎事例検討
6月	結核レクチャー		市立病院相互ラウンド
8月	CDレクチャー	1月	年間活動報告会
10月	流行性耳下腺炎レクチャー	2月	次年度目標検討
		3月	次年度グループ活動検討

【平成29年度評価・反省】

- ・リンクナースによる病棟ラウンドの遵守率は88.2% であり目標は達成された。特に市立病院との相互ラウンドのため10月以降の遵守率は90%以上となり各病棟でのリンクナースの取り組みの成果であるといえる。しかし一方で43%とかなり低い結果となったのが医療廃棄物の項目である。分別表に従い分別されず、医療廃棄物に一般廃棄物が混在している状況がなぜ改善されないのか分析し次年度はさらなる取り組みをする必要がある。
- ・今年度は各リンクナースが病棟での手指衛生に対する取り組みを行い、全病棟ウェルフォームの使用率が昨年に比べ2.9% → 4.5% と増加した。このことは、手指衛生の意識が看護部全体で上がったためであると考え、引き続き継続していかなければならない課題であるといえる。

平成30年度より看護感染対策委員会へ名称変更

**【目的】**

本委員会は医療安全対策の確立を促進し、以て適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。また、医療事故発生時の適切な対応及び医療事故等の経験を活かすため、原因分析と再発防止策を検討の上、安全教育の場にフィードバックするなど、医療の質の確保と向上および職員の安全に関わるスキルの向上を目指すものである。

【平成 29 年度委員会構成員】

松永俊二（委員長）、昇卓夫、丸山芳一、土持賢一、千田清美（医療安全管理者）、長野みつ美（専従医療安全管理者）、近藤ひとみ、藤山みどり、岩下邦子、下前百合香、高橋真理（医薬品安全管理者）、新村栄次、今堀貴之、児島邦幸、齊藤謙一（医療機器安全管理者）、田邊尚子、鈴木聖子、野口桂一、原口一博、濱田敏彦、岩元正子、田中英樹、益田阿佑美

（外部）東京海上日動メディカルサービス株式会社メディカルリスクマネジメント室 玉利英子（年4回）

【今年度の主な活動】

※看護安全対策委員会との連携

- ・同委員会で特に課題となったアクシデント報告の再検討と対策を図る

※医療安全管理責任者より、毎月発生したインシデント・アクシデント事案を、内容分類別・事象レベル別の報告あり、事案を共有し検討を加える

※医療安全推進週間 11月19日～11月25日
（安全標語・ポスター作成、レポート入力の促進）

※医療安全推進月間 12月1日～1月31日
テーマを提示し各部署での取り組みを奨励

※医療安全対策研修会（2回/年）
＜1回目＞H29年12月8日・12月9日 実施
追加研修6回実施
・全職員対象：総参加者数 901名
「安全を守るためのコミュニケーションメンタルモデルを意識しよう！～」
講師：東京海上日動メディカルサービス株式会社
メディカルリスクマネジメント室
玉利 英子 先生

※医療安全対策研修会（2回/年）

＜2回目＞平成30年5月30日
追加研修5回実施

- ・全職員対象：総参加数 897名
「院内報告制度について
（インシデントレポート統計報告）」
講師：今給黎総合病院 医療安全管理課

※その他、主な検討実施事項

- ・安全管理報告書の集計結果と改善策の提示
- ・安全管理のための方策の提示
- ・リスクマネジメント関連情報の検討
- ・安全管理に関連する委員会からの報告、情報提供
- ・医療機能評価機構の安全情報の検討
- ・医薬品、医療機器材料、褥瘡管理者による安全情報の検討
- ・安全管理部門カンファレンスの実施
（毎週月曜）
- ・電気安全使用確認ラウンド（H29.12～H30.1）
- ・安全管理部門組織図の改訂（7月）



病院感染防止対策委員会

【目的】

院内感染の発生を未然に防止することや院内感染が発生した場合における緊急対策など院内感染防止対策に関する問題の原因分析、改善策を審議し諸施策の査定などを行うことを目的とする。病院長直属の顧問機関とし最終的な意思決定機関として機能する。

【開催日】 毎月第4水曜日 14時30分～ 緊急会議：今年度は実施なし

【構成員】

委員長 丸山芳一(神経内科、ICD)

副委員長 岩川純(呼吸器内科医師/ICD)、立和名聖子(感染管理課/CNIC)

委員 昇卓夫(病院長)、河井洋祐(歯科口腔外科医師)、米田敏(診療科部長)*1

看護部：近藤ひとみ、酒匂英子、古川秀子、横山睦美、河原尚美、水元英子、末吉美津代、有菌さつき、伊野千余子、尾堂知子、上野京、稲森優子、松野下恵子、山下真理恵、上ノ町和子、橋口恒夫、上山真紀、田中かすみ、尾ノ上稲子、東美津子*2(看護部)

村中利也(中央検査部/ICMT)、高橋真理、久津輪久世(薬剤部/BCPIC)、肥後真(病理部)、

四本斉(放射線部)、福留舞子*3(リハビリテーション部)、上平田美樹(栄養管理部)、

南貴美子*4(在宅医療部)、野口桂一(事務局長)、今堀小百合(中央検査部 議事記録)

(*111月～新規 *2退職に伴い委員除外 *39月～委員変更：児島邦幸へ

*41月～委員変更：大重智子)

Infection Control Team (ICT)

丸山芳一(ICD)、岩川純(ICD)、立和名聖子(CNIC)、村中利也(ICMT)、久津輪久世(BCPIC)、

山之内樹里(薬剤師)、西岡帆菜未(薬剤師)、横山睦美(看護部)、日高知恵(総務課)、日高章洋(用度課)

【平成29年度活動内容及び実績】

定例会議では、耐性菌検出状況や抗菌薬使用状況の報告、事案検討、感染症発生に対する院内感染対策の周知と検討などを行った。今年4月より呼吸器内科部長でICDの岩川純医師が副委員長として加わったことで院内感染対策の遂行や抗菌薬監査、院内感染マニュアルの改訂など院内感染対策が一層強化された。

例年、院内で問題となる感染症としてインフルエンザがあげられる。今年度もインフルエンザ発生に備えて10月より症候性サーベイランスを開始し定例会議にて発生状況や対策の確認、検討を行った。今年、インフルエンザワクチンの製造量が例年より少なく院内の納入も不足する状況となったため、ワクチン接種対応及び対象者の選別を検討した。患者、職員の発生を認めたものの発生状況に応じた面会制限や病室閉鎖、病棟閉鎖など早期察知と対応により短期間で感染制御することができた。

委員会の主な内容、検討事項

4月26日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内感染防止対策マニュアル検討
5月27日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、平成28年度ICTラウンド報告 手指消毒剤使用量サーベイランス報告、感染症報告と対応
6月28日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、MRSAのVCM使用について CD検出者のリハビリ介入について検討、TB接触者健診結果報告
7月26日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、抗MRSA薬初回投与量について 主要菌のアンチバイオグラム
8月23日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内感染防止対策マニュアル[CD]改訂 医療法に基づく保健所立入り調査報告、第1回院内感染研修報告
9月27日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、消毒綿花の製品検討

10月25日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、TB 接触者健診、あいあい保育園の感染性胃腸炎発生対応、院内のインフルエンザ発生状況
11月22日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内のインフルエンザ発生状況 インフルエンザワクチン接種対象者の検討
12月27日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、TB 接触者健診経過報告、院内のインフルエンザ発生状況、面会制限の開始の検討、感染対策物品 N95 マスクの製品検討 第2回院内感染研修包交と不参加者対応の検討
1月24日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内のインフルエンザ発生状況 感染防止対策地域連携加算相互評価ラウンド結果報告 院内感染防止対策マニュアル追加の検討
2月28日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内のインフルエンザ発生状況 TB 接触者健診経過報告、院内感染防止対策マニュアル新規追加 第2回院内感染研修最終参加率報告
3月28日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、面会制限2の子供の対応について検討 TB 接触者健診の報告、化膿性脊椎炎患者の受け入れ時の抗酸菌検査について検討 感染対策物品 アイシールド一体型マスクの製品変更の検討

院内感染研修の内容と参加率(全職員対象)

参加率	内容(講師)	講師
第1回 84%	テーマ1 当院の環境調査結果と医療施設の環境清掃の重要性	古賀暁子(花王プロフェッショナルサービス株式会社) 立和名聖子(今給黎総合病院 感染管理課)
	テーマ2 細菌性肺炎から学ぶ抗菌薬の使い方	岩川純(今給黎総合病院 呼吸器内科部長)
	テーマ3 現場で実践する感染対策を考える	立和名聖子(今給黎総合病院 感染管理課)
第2回 93%	インフルエンザの知識を深め実践に繋げよう	今給黎総合病院 感染対策チーム



[医療の質向上]

委員長 西澤輝彦(報告)

救急医療部門運営委員会

当委員会は麻酔科池田部長のお世話でICU、手術室、中央材料部、NICU運営委員会、更に物品購入委員会と合同で月1回開催されています。

従来通り救急部門は前月の救急車の受け入れ状況、各科のオンコールの回数やお断り例の検討を行い改善策について討議しています。また、休日の当番医に際して日直医師の割り当て、看護師などの体制の確認も行っています。

今年度大きな動きとしては救急車の受け入れ台数は増加傾向にあるものの重症の多発外傷患者の割合が減少傾向で、市立病院と米盛病院のドクターヘリ、ドクターカーの影響を大きく受けていることがはっきりしたことです。ICUの入室件数が減るなど重症例の減少は大きな問題です。このため、本委員会とは別に救急部門プロジェクトが12月に発足いたしました。救急隊とのホットラインの通話を全て記録し受け入れ拒否の実態把握と対策を行っています。その分析から20%を越えていた受け入れ拒否が明らかとなりましたが、当直医の専門外を理由としたお断りを極力減らすことなどで10%前後まで減少するなどの効果が出ています。また新病院での救急部門の構築についても討議を行っています。実質的な改善策は救急部門のプロジェクトで策定していきますが、当委員会は全体的な連絡調整の場として今後も活動して行く予定です。



輸血療法委員会

【構成員】

委員長 丸山芳一 (神経内科)

副委員長 濱之上雅博 (外科)、小濱浩介 (血液内科)

委員 昇 卓夫 (病院長)、

近藤ひとみ、藤山みどり、松野下恵子、横山睦美、尾堂知子、伊野知余子、二宮ルミ子、
徳 恵梨香、浜田みのり (看護部)、

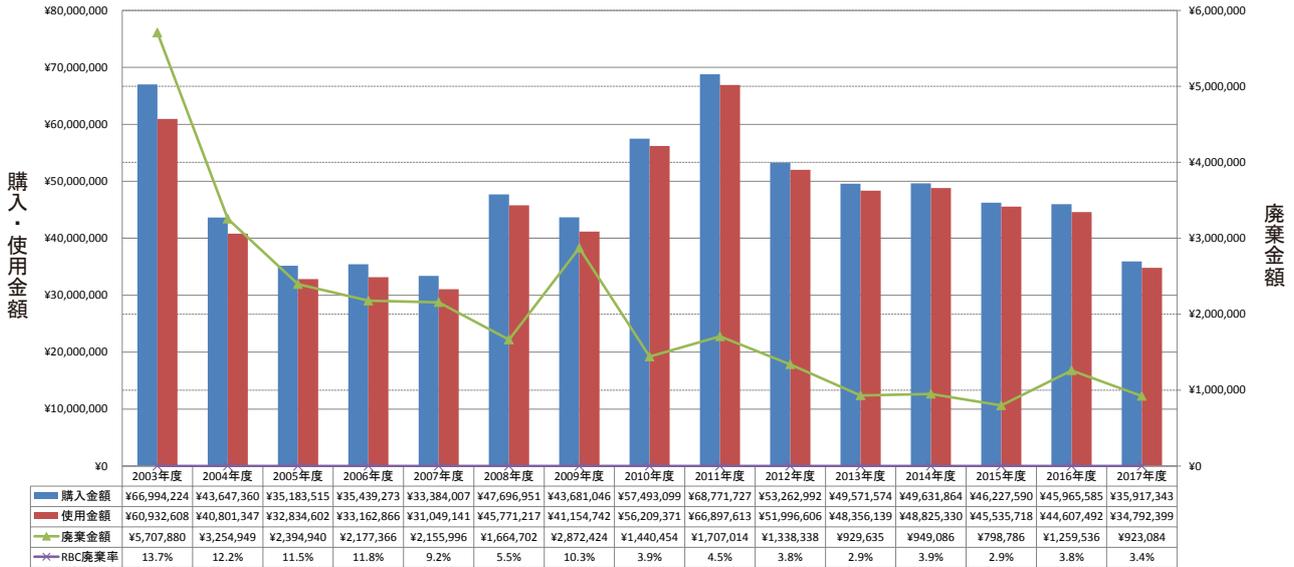
高橋真理 (薬剤部)、川井田祐一郎 (事務部)、村中利也、今堀貴之、宝代聡美 (検査部)

委員会は隔月の第4水曜日に開催した。主な協議事項は血液製剤の適正使用を目標に診療科ごと、医師ごとの血液製剤発注と使用量、製剤ごとの廃棄量とその原因につき詳細な検討を行った。廃棄は期限切れが一番の理由であり、新鮮凍結血漿ではバッグ破損も原因であった。輸血マニュアル第3版として輸血同意書を改定した。また、宗教上の理由による輸血謝絶の免責証書を作成し、使用済み製剤バッグ保管は院内感染の観点から中止した。アルブミン/赤血球製剤比は2.20、FFP/赤血球比は0.44と輸血管材料算定基準を満たしていた。不適切輸血、過剰オーダーなどには十分なお理解が得られていると思われた。以下に29年度の血液製剤使用量、廃棄量と平成15年度からの29年度までの購入金額と廃棄金額の推移をまとめた。

平成29年度血液製剤使用量
(平成29年4月～平成30年3月)

製剤名	単位	薬価 (円)	購入本数	購入金額 (円)	使用本数	廃棄本数	廃棄金額 (円)	廃棄率 (%)
濃厚赤血球	1 単位	8,864	17	150,688	17	0	0	3.35
	2 単位	17,726	1,106	19,604,956	1,060	50	655,862	
新鮮凍結血漿	120m l	8,955	0	0	0	0	0	1.26
	240m l	17,912	446	7,988,752	435	3	107,472	
	480m l	23,617	18	425,106	20	0	0	
血小板製剤	5 単位	40,100	0	0	0	0	0	2.06
	10 単位	79,875	93	7,428,375	91	4	159,750	
	15 単位	119,800	0	0	0	0	0	
	20 単位	159,733	1	319,466	2	0	0	
自己血	1 単位		17		1	1	0	30.30
	2 単位		24		11	2		
計			1,700	45,965,585	2,092	60	923,084	2.63

血液製剤使用状況



【医療の質向上】

委員長 西澤輝彦 報告 川井田祐一郎

地域医療支援病院委員会

【目的】

地域における医療の確保、向上のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議することを目的とする。

【構成員】

鹿児島県医師会副会長	野村秀洋	今給黎総合病院院長	昇卓夫
鹿児島市医師会副会長	池田耕自	今給黎総合病院副院長	西澤輝彦
鹿児島県立病院事業管理者	福元俊孝	今給黎総合病院看護部長	近藤ひとみ
鹿児島市消防局長	木場登士朗		

当院は、平成25年3月22日地域医療支援病院に承認されました。

【議事内容】

- 1、年度業務報告
 - 年度業務報告を県知事への業務報告書に沿って行った
- 2、地域医療連携強化について
 - 地域医療連携強化に向けて MSW より今後の活動予定の報告を行った。
- 3、病院移転について
 - 病院移転について現況報告を行った。
- 4、質疑応答
 - 年度業務報告についての質疑、外部委員からの助言を頂いた。
 - 地域医療支援病院運営全般に対する、ご意見・ご助言を承る。



看護安全対策委員会

【目的】

本委員会は、医療事故防止対策の確立を促進すると共に安全な医療看護を提供し、万が一事故が発生時は、速やかに誠心誠意取り組むそれを生かし、安全教育の場にフィードバックし再発防止に努め、看護医療の質の確保と向上を図る

【目標】

病棟全体の医療安全への意識を高め、安全な行動が実践できる

【年間目標】

各病棟単位で自部署のインシデントKYT事例に関する活動報告を行い、安全行動を共有することで看護部全体の安全の意識と行動の標準化を図る

【構成員】

岩下看護副部長 医療安全課：千田課長 長野主任 各部署師長
委員メンバー：各部署委員

【活動内容】

1. 毎月の安全管理報告件数、事象レベル、発生事例についての報告
2. アクシデント発生部署からの事例及び対策の報告
(報告を受けることで看護部全体の情報共有・注意喚起に繋がる)
3. 医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理者からの周知事項の提示
4. 外部リスクマネジメント関連情報の提示
医療機能評価機構からの医療安全情報、PMDA情報
東京海上日動メディカルサービスからのリスクマネジメント関連情報
5. 各部署のインシデントKYTを提示し、改善策の立案と対策の取り組みについて評価を行い、委員会内で報告を行った
6. 看護医療安全対策委員会において、4つのワーキンググループを立ち上げ安全行動の標準化を図るべく既存のマニュアルの見直し、改訂を検討
①転倒・転落対策グループ ②薬剤：内服管理グループ ③薬剤：注射管理グループ
④ドレン・チューブ管理グループ

本年度は、昨年立ち上げたワーキンググループで安全行動の標準化を図るため既存のマニュアルの見直し、改訂を検討した。

活動目標として、①転倒・転落対策グループでは、転倒転落による有害事象の低減を図るため転倒転落予防マニュアルの策定（転倒転落アセスメントシートの見直し、安静度表の活用、看護計画立案）、②薬剤：内服管理グループでは、指示受け～服薬確認のチェックリストの見直しを実施、③薬剤：注射管理グループでは、ミキシング～点滴投与時・点滴確認時の監査を行い、手順の定着を図るとして6Rの提示や各病棟ラウンドによる監査を実施、④ドレン・チューブ管理ではチューブ類の安全管理に特化したチェックリストの作成 また医療安全推進月間において「カリウム製剤投与間違い撲滅にむけて」院内採用薬とリマインダーの再確認と指示受けで留意することについて検討した。

今後も看護安全対策委員が中心となり、安全行動の実践に取り組み看護医療の質と向上を目指して取り組みたい。



診療録検討委員会

【構成員】

- 委員長 丸山芳一（神経内科）
 委員 昇卓夫（院長）、米田敏（診療科部長）
 【看護部】近藤ひとみ（看護部長）、岩下邦子（副部長）、上野京（看護記録委員長）
 千田清美（医療安全管理課課長）、上山真紀（クリニック師長）
 【リハビリテーション部】豊留研二（副療法士長） 【栄養管理課】上平田美樹（課長）
 【医療情報管理課】神野博幸（主任） 【中央放射線部】新村栄次（技士長）
 【中央臨床検査部】上靄昭知 【診療補助部】春崎有希、赤木美和
 【医事課】針山朋美、米満久美
 【診療情報管理部】畑中幸子（課長）、黒丸恭弘（主任）、小西佑典、吉永理恵、越間北斗

【活動内容】

- ・委員会 毎月第2火曜日 15:00～16:00
- ・診療記録監査 毎月第4金曜日 13:30～14:30

【今年度の主な活動】

- ・入退院時記録の充実（ワードパレット使用促進）
- ・医師記録の記載率向上
- ・同意書および文書の改定等（共通文書より抜粋）： 麻酔説明書・同意書
- ・テンプレート作成：脳波検査結果、敗血症SOFAスコア、qSOFAスコア
- ・サマリー下書き機能運用開始
- ・診療情報管理規定の見直し

【診療録監査 実施診療科】

監査月	監査対象診療科（医師名）	監査実施診療科	師長もしくは主任
4月	耳鼻科	眼科	4北師長
5月	神経内科	泌尿器科	2南師長
6月	呼吸器内科、呼吸器外科（岩川、亀ノ原、緑川）	脳神経外科	河原師長
7月	神経内科（湯地、織田）、産婦人科（児島）	呼吸器内科	酒匂師長
8月	整形外科（南、土持、黒島）	形成外科	末吉師長・山下師長
9月	形成外科（小坂、箕原）	整形外科	水元師長・横山師長
10月	泌尿器科（上村、恒吉）	呼吸器外科	有菌師長
11月	皮膚科（三好、大久保、瀬戸山）	放射線科	稲森師長
12月	放射線科（中村）、歯科（河井）	皮膚科	松野下師長・上ノ町師長
H30.1月	整形外科	総合内科	末吉師長・山下師長
2月	外科	産婦人科	横山師長
3月	形成外科	泌尿器科	水元師長

今年度も引き続き診療録の質的向上を目的に診療録監査に力をいれた。今年度の主な目標は入院における診療録記載率80%、入院時記録および退院時記録の記載内容の充実とした。入院診療録は特に状態が落ち着き、リハビリ中心になると医師記録がされないことがあったが、全体的に充実してきた。入退院記録についてもワードパレットの使用率もあがり全体的に改善傾向であるが（以下記載率の推移を参照）退院時記録については“退院”の記載のみといった記録もあり、記載漏れのないよう再度ワードパレット使用を促進していく必要がある。

**【目的】**

今給黎総合病院および昭和会クリニックで行われる医学研究や医療行為に対し、倫理上の対応指針を示すことを目的とする。ヒトを対象とした医学研究については「ヘルシンキ宣言」、日常の医療については「リスボン宣言」を審議上の基準とし、医学的、倫理的および社会的観点から調査検討し、審議する。また、倫理に関する職員への教育や研修等により、患者の意思の尊重と人権保護の意識高揚を図る。

【平成 29 年度 倫理審査委員会委員】

昇 卓夫、大久保幸一、丸山 芳一、寺原 賢人、牟礼 洋、白濱 浩、高橋 真理、近藤 ひとみ、藤山 みどり、野口 桂一、原口 一博、前野 浩一、上唐湊 芳一
長野 芳幸（外部委員）、林 宏嗣（外部委員）、山内 茂（外部委員）

【平成 29 年度 倫理審査小委員会委員】

昇 卓夫、丸山 芳一、寺原 賢人、牟礼 洋、米田 敏、高橋 真理、近藤 ひとみ、藤山 みどり、野口 桂一、前野 浩一、上唐湊 芳一、山内 茂（外部委員）

【平成 29 年度 医学研究に関する倫理審査概要】

小委員会開催回数(平成 29 年度)：11 回

開催頻度：月 1 回(第 2 金曜)申請がない月は未開催

審査件数：合計 28 件 2 件 未承認、26 件 承認

会議記録：厚生労働省「倫理審査委員会報告システム」に委員名簿及び規程とともに掲載

【平成 29 年度 委員会開催日、課題名、申請者】

- | | |
|---|--|
| H29. 4. 14(金) 申請者：皮膚科部長 三好 逸男
『院内特殊製剤調製依頼(20% グルタルアルデヒド)』 | H29. 6. 9(金) 申請者：形成外科 増田 えりか
『ポケットを伴う褥瘡患者に対するエタノール硬化療法』 |
| H29. 4. 14(金) 申請者：皮膚科部長 三好 逸男
『院内特殊製剤調製依頼(0.1% レチノイド軟膏)』 | H29. 6. 9(金) 申請者：小児科部長 玉田 泉
『カルシウム代謝異常、リン代謝異常、骨疾患の遺伝学的解析』 |
| H29. 4. 14(金) 申請者：外科部長 瀨之上 雅博
『70 歳以上の切除不能進行・再発結腸・直腸癌患者を対象とした TFTD(TAS-102)と Bevacizumab の同時併用療法第Ⅱ相臨床試験』 | H29. 6. 9(金) 申請者：病児保育室 鈴木 詩織
『病児保育室におけるデイリープログラムを用いた保育』-小学校低学年の子供に対する有効性の検討- |
| H29. 4. 14(金) 申請者：外科部長 瀨之上 雅博
『切除不能 KRAS 野生型大腸癌に対する 1 次療法としてのセツキシマブ +IRIS 療法に関する第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験 KSCC1401』 | H29. 7. 14(金) 申請者：外科部長 瀨之上 雅博
『結腸癌切除症例における術前 lactobacillus paraplantarum11-1 製剤投与による術後経過によりみた免疫系活性化能の評価』 |
| H29. 4. 14(金) 申請者：産婦人科 中間 恵美子
『既往子宮術後妊娠における子宮破裂例の全国調査への参加』 | H29. 7. 14(金) 申請者：循環器内科 志岐 健三郎
『ご家族不在の患者様に対する PEG 造設』 |
| H29. 4. 14(金) 申請者：新生児内科部長 丸山 有子
『早産児における乳児期早期の GMS 評価と発達予後との相関』 | H29. 8. 4(金) 申請者：整形外科 岡田 拓巳
『日本人工関節登録制度実施』 |
| H29. 5. 12(金) 申請者：小児科部長 玉田 泉
『小児Ⅰ型糖尿病におけるインスリンポンプの有用性と問題点について また患者アンケート調査および報告について』 | H29. 8. 4(金) 申請者：総合内科部長 生野 博久
『非弁膜症性心房細動を有する後期高齢患者を対象とした前向き観察研究』
All Nippon AF In Elderly Registry -ANAFIE Registry- |
| H29. 5. 12(金) 申請者：病棟師長
『輸血謝絶 兼 免責証明』 | |



看護部臨床倫理委員会

【目的】

今給黎総合病院・昭和会クリニックの職員等が行うヒト対象とする医療行為、看護研究および当院で発生した倫理上の諸問題について、ヘルシンキ宣言および我が国の個人情報保護に関する法律等を踏まえ、ヒトを対象とする医学系研究に関する倫理指針等の趣旨に沿って審議し、倫理的配慮を図ることを目的とする。

【目標】

臨床での倫理問題に気づくことができ、スタッフでの話し合いの場を持ち、看護職の倫理意識を高めることができる。

【構成員】

委員長 近藤 ひとみ 副委員長 伊野 知余子
副部長 藤山 みどり・岩下 邦子・中村 章子
2西 附田 加織 2東 四村 朋美・前田 康子 NICU 原田 純子・古川 秀子
3西 永野 ひとみ・河原 尚美 3東 下水流智美・有菌 さつき 3中 田川 愛子
4西 永岩 真弓 ICU 福元 こずえ
2北 橋本 かおり 2南 牧瀬 輝美
3北 岡西 文美 3南 船木 泉 4北 高倉 加代子
手術室 東後藤 智恵美・行野 圭美・尾堂 知子
外来 川崎 陽子 クリニック 福里 美佐子

【活動内容】

1. 規定の見直し
2. 学習会：①宗教的輸血拒否に関する講義（講師：河原師長）
② " 事例検討（ " ）
3. 事例検討：毎月

【反省】

今年度は、「臨床での倫理問題に気づくことができ、スタッフでの話し合いの場を持ち、看護職の倫理意識を高めることができる」と目標を立て取り組んだ。各部署それぞれ工夫した取り組み（委員会の伝達、学習会、4分割法、ナラティブ発表会）等を行った結果、以前より倫理的な視点が持てるようになったのではないかと各部署の目標評価より感じた。しかし、スタッフ自らの倫理的問題としての提議やカンファレンスの実施には至っていないという反省や、また、委員も自己学習しながらの取り組みであったため、積極的な関り、取り組みが出来なかったとの反省も多かった。そのため、次年度も引き続き同じ目標とし、目標達成できるように取り組んでいきたい。



クリニカルパス委員会

【平成 29 年度目標】 1. 患者パス作成促進 2. 電子パス改訂促進 3. 電子パスの普及と知識の向上

【構成員】

委員長：中目康彦(泌尿器科医師)

委員：昇卓夫(院長)、尾堂知子(手術室師長)、梅北裕司(看護師 主任)、畑中幸子(診療情報管理部)
野島裕二郎・山内久法(医療情報管理課)

看護師：郡山リカ、山崎英理、瀬戸山奈美、神野綾、迫立里絵、榮真奈美、高江真都香、押領司幸恵、
田原知枝、常喜由起子、池田美智子、中迫誠、安藤友香里、平瀬戸剛、伊藤綾華、丸山恵美、
有迫瑠美

【活動報告】

4月 新規パス作成にむけて各診療科症例数にそって診療情報管理部より作成提案
病床管理部より現行パスのDPC入院期間の評価報告

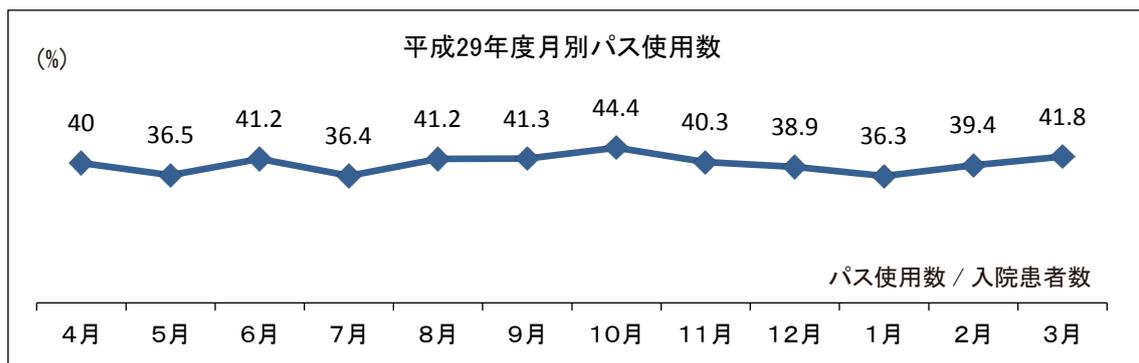
5月 5/19 SSI フレキシブルパス(中級者)ユーザー会参加(尾堂、梅北)
使用率50%を目標にするよう中目委員長より提言
バリエーションについて、対象外の□チェックを外すように周知

9月 パス使用率目標設定 55% 予定入院率を元に設定

11月 11/17 SSI フレキシブルパスユーザー会参加(平瀬戸、木下)

2月 2/21 院内クリニカルパス大会開催 参加者 110名
演題1：ICUにおけるパスの現状と課題 看護師：平瀬戸 剛
演題2：人工股関節置換術(THA)
診療支援部門 整形外科 石田 育男
看護部 迫立 里絵
薬剤部 壽 明伸
医事部 松元 葵
リハビリテーション部 木下 慎也

【平成 29 年度使用率実績】 39.8%



【新規・見直しパス承認】

6月 耳鼻咽喉科 耳漏管摘出

7月 呼吸器内科
在宅酸素療法、ジオトリフ(アフアチニブマレイン)内服、タルセバ(エルロチニブ)、
オピオイド導入、イレッサ(ゲフィチニブ)内服

8月 総合内科 PTEG
整形外科 人工骨頭置換術・腰椎圧迫骨折(保存)
外科 胃がん・大腸癌



医療情報システム委員会

医療情報システム委員会（通称システム委員会）は通常は月一回、木曜日に定例の会を行っています。特に新しいシステムの運用開始時には臨時の会議や実際的な運用を決めるためのWG（ワーキンググループ）を適宜行っています。単に電子カルテの運用だけではなく、病院全体のシステム化に向けて全領域からの参加があるのが大きな特徴です。

昨年度から無線LAN入替で発生していた接続不良は、関連部門の皆様をはじめ導入ベンダ様のご協力の下、改善することができました。

入院診療計画書立案時の氏名記載は、栄養委員会で協議された事項を反映するため、コピー&ペーストで氏名記載ができるよう帳票の変更を実施しました。

ウイルス対策ソフトバージョンアップに伴う電子カルテ端末入替作業を約500台実施し、WindowsXPからWindows7へ合わせて実施いたしました。これにより、電子カルテ端末の更なる延命ができたものと考えています。

システム障害レベル5の区分を細分化し障害マニュアルの改訂を実施しました。

併用禁忌薬オーダー時の警告メッセージの設定では、持参薬にワーファリンがある場合、併用注意薬剤の処方入力時に警告が表示されるように対応しました。

電子カルテ端末 自動シャットダウン時間と回数の変更としては、以前は19時と21時の2回の実施でしたが、22時1回へ変更しました。

患者一覧での病名表示は、患者一覧の入院（看護師）【看護師さん利用患者一覧】へ「DPC決定病名」を一番右の項目に表示できるように設定変更しました。

日曜日の朝、電子カルテの動作が遅いと連絡あり確認しましたところ、毎週日曜日の朝実施していました保守処理がAM2:30から6時間強掛かっていたことが判明いたしました。週末の電カル動作遅延に対する保守計画見直しを実施し、8月12日（土）AM2:00～及び13日（日）AM2:00～開始することに変更しました。以降毎週土曜日AM2:00～と日曜日AM2:00～で継続することにしました。

SSISCOPE（低コストのデータ検索ツール『簡易BIツール』）の導入を行ったことにより、電子カルテシステムに収められたデータの更なる活用が各部門で期待できると考えています。

FileMakerメンテナンス業者の導入を行うことで、院内各部門で独自に開発しているFileMaker関連システムがよりいっそう使いやすいものへレベルアップできると考えています。

公益財団法人から公益社団法人への法人変更に関し、確認・準備を進めて参りました。

画像ファイリングシステム及び長期署名システムのデモ確認を行い、新病院の導入システムの一つとして今後検討していきます。

診療報酬及び介護報酬の同時改定を対応しました。

クリニック開院当初から稼働していた（稼働13年）自動精算機を入れ換えました。今回クレジット対応機器となることから、次年度稼働を目標とします。

定期的にソフトウェアサービスから提供されるサービスパックの適用を行いシステムの機能アップを行いました。

次年度は、仮想サーバ入替を期にサーバをデータセンターへ移設することで作業を進めております。これは、新病院に向けた実質的な移転の第一弾であると考えます。

まだまだ、新病院に向けた協議は進んでおりませんが、本年度以上に医療情報システム委員一丸となって病院移転が達成できるよう、役割を果たしていきたいと考えています。



NST(栄養サポートチーム)委員会

【目的・目標】

栄養サポートチーム(以下:NST)は、栄養障害の状態にある患者や、栄養管理を行わなければ栄養障害の状態になることが見込まれる患者に対し患者の生活の質の向上、原疾患の治癒促進及び感染症等の合併症予防等を目的とします。

当院 NST は主治医からの申し込みを原則としています。栄養管理を行うためには、主治医の治療との連携が必要であるという理念からです。そのため多岐にわたる病態に応じた、適切な助言・補助ができるよう今後も努めて参ります。

【活動】

2005年に日本静脈経腸学会よりNST稼働施設認定を受け、主治医よりNST介入依頼のあった患者様のカンファレンス・回診を行っています。構成メンバーは、総合内科医師・口腔外科医師、管理栄養部、褥瘡管理課・薬剤部・中央臨床検査部・リハビリテーション部・看護部・事務部です。毎週火曜日14時より、病棟にてカンファレンス・回診を実施し、あらゆる職種の視点から知識を出し合い患者様の栄養改善に取り組んでいます。平成23年6月から、栄養管理についてオンコール体制を開始し、食事摂取不良症例の相談や経腸栄養の選択について主治医や看護師・コメディカルからの相談をお受けしています。

【構成員】

院長、内科医2名、歯科医1名、看護副師長2名、看護師主任1名、看護師(病棟・外来・クリニック)16名、褥瘡管理課看護師3名、薬剤部4名、リハビリテーション部7名、中央臨床検査部5名、管理栄養士9名、事務部1名

【主な活動内容】

●NST対象者スクリーニング

主治医から依頼された症例

電子カルテの抽出機能よりAlb2.5g/dl以下の症例の抽出

MNA-SFを用いたスクリーニングによる低栄養症例の抽出

NST介入の必要な症例に対して主治医へ低栄養報告書を提示

●NSTカンファレンス・回診 毎週火曜日 14時00分～

参加者:医師・歯科医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・言語聴覚士・臨床検査技師

場所:各病棟をラウンドし、カンファレンス・病棟回診を行っている

アセスメント:身体計測・臨床検査データ・栄養量などの推移を確認

ディスカッション:各アセスメントを踏まえ、栄養補充方法やルート、内容について検討

ミニ会議:NSTコアメンバー(運営委員)での検討事項の確認や伝達事項の確認

カンファレンスを基に患者の身体状況の確認 栄養投与ルートの確認と現在の問題点の把握、リスクマネジメント、患者様やご家族への説明指導、主治医への提言

●NST会議 毎月第1水曜日 13時15分～

NST委員会からの報告、統計報告

病棟NSTからの報告や情報共有

NST専門療法士などによる学会報告や症例検討会

●資格等

日本静脈経腸栄養学会 認定医 1名

NST専門療法士

管理栄養士 2名、薬剤師 1名、看護師 1名

日本病態栄養学会認定資格

病態栄養専門師、NSTコーディネーター 4名

日本褥瘡学会認定資格

認定褥瘡管理栄養士 1名

●施設認定等

日本静脈経腸栄養学会 NST稼働認定施設

日本栄養療法推進協議会認定 NST稼働施設

【平成 29 年度年間報告】

NST介入依頼 : 104件

総回診件数 : 480件

平均介入期間 : 25.6日 平均介入回数 : 4.6回

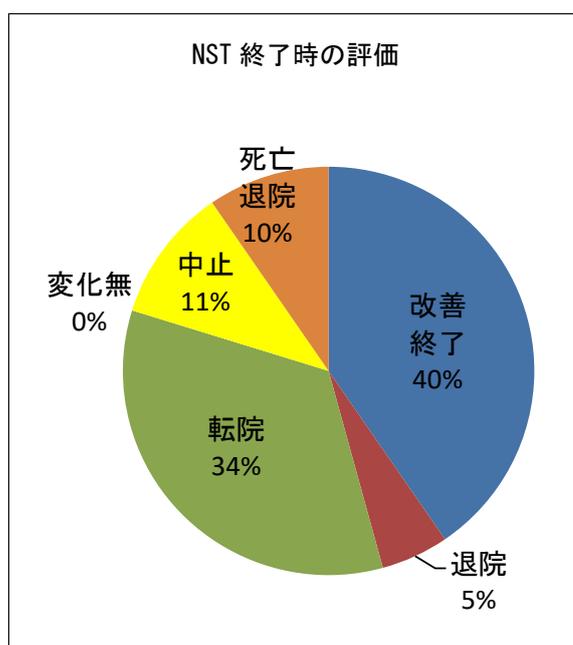
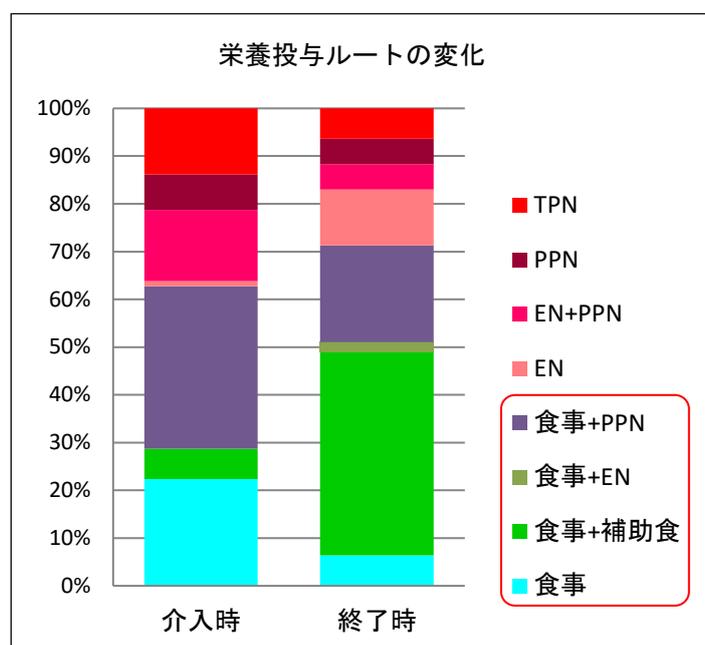
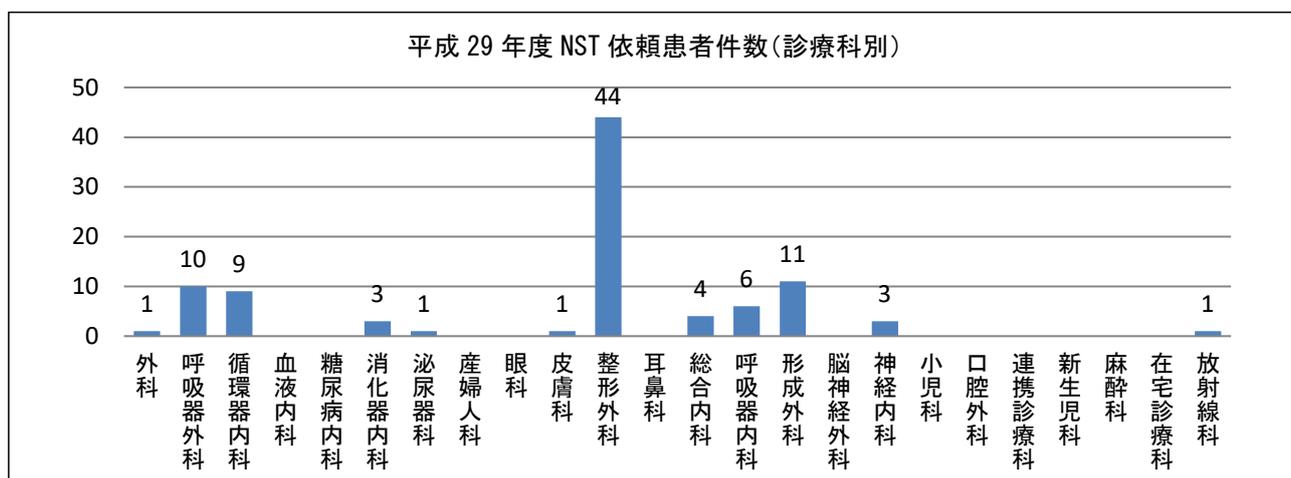
主な栄養指標の変化 ALB : 2.5g/dl→2.6g/dl

TTR : 11.7mg/dl→13.3mg/dl

平成 29 年度は NST 介入のご依頼が 104 件ありました。総回診件数は延べ 480 件で 1 か月平均 40 件の介入を行いました。近年、急性期における栄養管理の重要性が認識されるようになり、入院直後のご依頼も増えつつあります。また、がんや低栄養、摂食嚥下障害の患者の栄養指導が診療報酬で認められるようになり、術前や抗がん剤・放射線治療中の依頼も増えてきました。抗がん剤治療中における患者様に対して、適切な栄養管理を行うことは、感染症などの合併症や副作用の抑制につながる事が報告されているためです。

当院は急性期病院のため NST 介入患者の 34% の転帰先が転院です。切れ目なく栄養管理を継続できるよう、転院先の病院や施設へ栄養情報提供書を送付し転院先ともコミュニケーションをとるようにしております。

当院は、医師や歯科医師、コメディカルも多職種での活動に非常に協力的であり、充実した多方面からの意見で NST 活動が行えております。次年度も引き続き、栄養管理の重要性を院内外に啓蒙しつつ、患者様にとって栄養管理が行えるようサポートしていく所存です。





褥瘡対策委員会

【目的】

- ・褥瘡対策に関する診療・看護計画を作成し、予防及び対策を実施する
- ・専門的知識・技術で患者・家族のQOLを高める

褥瘡対策が必要な患者数は年間4,293名で、入院患者数の約49%と半数であり、昨年よりやや増加し、褥瘡ハイリスク対象患者数は1,986名(うち70歳以上患者は1,358名:68.3%)であり、男女とも80歳以上が増加していた。

褥瘡ハイリスク項目では皮膚脆弱が約77%と最も多く、術中特殊体位、鎮痛剤投与、末梢循環障害であった。推定発生率年間平均は褥瘡は0.78%、医療機器関連圧迫創は0.48%と全国平均より低く、医療機器関連圧迫創は0.3%で全国平均よりやや高い結果であった。院内褥瘡発生部位では踵・尾骨が多く、ベッドアップ前後の体位調整、除圧不足が原因であり、医療機器関連圧迫創では顔面が多く、BiPAPマスクや術中体位(腹臥位)による発生で、足指は弾性ストッキングにより同一患者に多発発生したケースであった。院内褥瘡発生数は年々減少傾向にあり、褥瘡は昨年より30名、医療機器関連圧迫創も23名減少した。褥瘡発生患者の中には、治療規制・体動制限、末梢循環障害など全身状態悪化、栄養低下、終末期など予防困難な症例もあった。診療科別では、院内・院外共に整形外科患者、院外発生では総合内科・呼吸器内科・神経内科患者が多かった。

褥瘡ハイリスク患者を訪問し、患者状態に合わせたケア提供できるようスタッフや患者指導とともに、本年度より褥瘡専任看護師とリハビリテーション部、褥瘡管理課にて褥瘡予防ラウンドを週1回開始し、年間36回(3~8回/1病棟)行った。他病棟を訪問し評価することにより自部署のケア内容を見直すことに繋がった。自部署の評価希望が多く、専任看護師と所属師長で患者を選択し訪問。訪問後にカンファレンスを行い、その内容を自部署に伝達していることも発生減少の要因と思われる。

褥瘡回診は毎週月曜日:14時より形成外科医、WOCN、褥瘡学会認定Ns、リハビリテーション部・薬剤部と共に訪問し病棟Nsと褥瘡回診チームにて褥瘡・ケア内容の評価を褥瘡経過記録に記載しケア統一が図れるよう行い、NST委員会や栄養管理課とも連携を取り、褥瘡・創傷改善するよう努めている。

褥瘡対策委員会勉強会は計6回(942名)、その他にリハビリ部にて各病棟でポジショニング勉強会を開催(250名)した。看護師特定行為(創傷関連)を活用し、壊死除去や局所陰圧閉鎖療法に対し院内・院外にて16件(延べ84回)介入した。

以下の表やグラフは、病棟単位・発生部位・診療科を院内・院外で、各々褥瘡と医療機器関連圧迫創に分けたデータである。

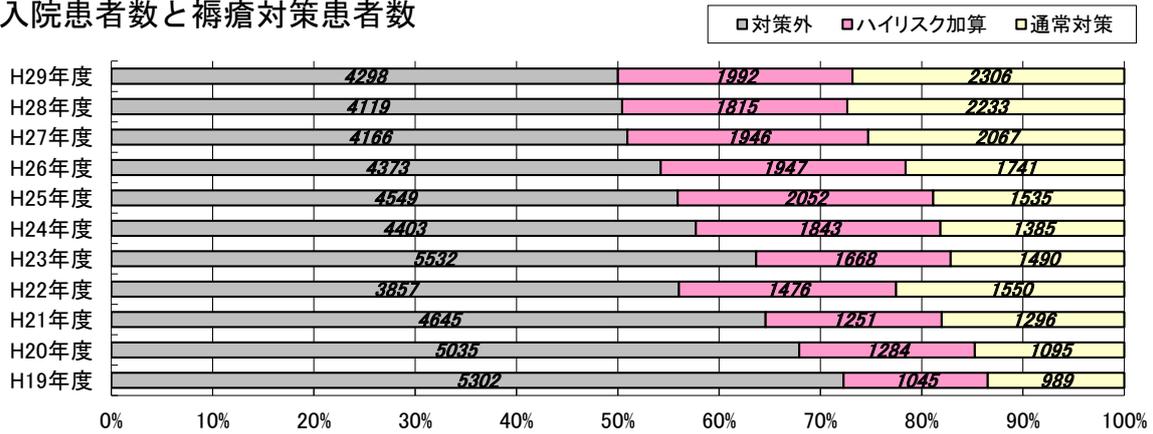
【構成員】 毎月第1水曜日、17:15~開催

形成外科:小坂医師、褥瘡管理課(下前WOCN・逆瀬川、椎木WOCN)、看護部(上山師長、橋口師長、野田主任)
外来・クリニック・各病棟・OPE室、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション部(PT・OT・ST)、医事課

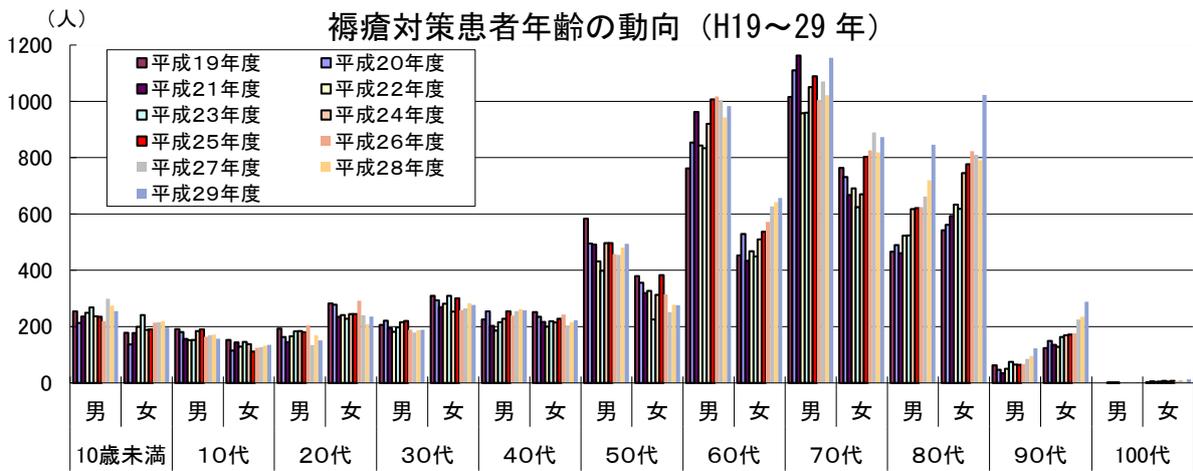
	入院患者数	要対策	ハイリスク	ショック	循環不全	鎮痛	6時間以上	特殊体位	下痢	皮膚脆弱	褥瘡
4月	633	181	137	6	31	25	11	49	0	101	17
5月	750	186	170	7	32	31	16	52	1	133	17
6月	695	189	166	1	22	41	5	61	0	116	23
7月	789	224	154	9	30	43	8	56	0	110	14
8月	755	214	164	8	29	49	10	52	0	126	20
9月	712	173	155	6	24	33	7	41	0	126	12
10月	780	194	160	12	41	33	9	42	0	128	17
11月	747	198	169	5	21	28	8	57	1	124	10
12月	766	194	185	7	42	35	11	44	0	150	11
1月	744	193	180	6	34	29	5	39	0	146	28
2月	670	181	167	7	24	31	8	51	1	134	30
3月	752	177	182	4	32	35	10	64	2	134	20
計	8793	2304	1989	78	362	413	108	608	5	1528	219
割合%				3.9	18.2	20.8	5.4	30.6	0.3	76.8	11.0

	入院患者数	要対策	ハイリスク	要対策割合%	ショック	循環不全	鎮痛	6時間以上	特殊体位	下痢	皮膚脆弱	褥瘡
NICU	209	23	185	100	0	72	0	0	0	0	185	1
2西	445	219	10	51	2	2	2	0	1	0	8	0
2東	1445	287	174	32	14	33	16	2	10	1	168	28
3西	958	186	150	35	10	56	25	0	8	1	139	27
3中	498	122	264	78	0	8	39	4	180	0	119	11
3東	863	257	111	43	4	11	9	0	10	0	107	16
4西	1509	246	63	20	1	1	1	3	11	0	53	17
ICU	137	125	454		39	98	290	98	321	3	201	17
2北	560	149	200	62	5	60	8	0	9	0	199	40
2南	618	174	140	51	3	16	2	0	3	0	139	24
3北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3南	595	224	220	75	0	5	20	1	54	0	192	31
4北	955	292	18	32	0	0	1	0	1	0	18	1
OPE												6
計	8792	2304	1989	49	78	362	413	108	608	5	1528	219

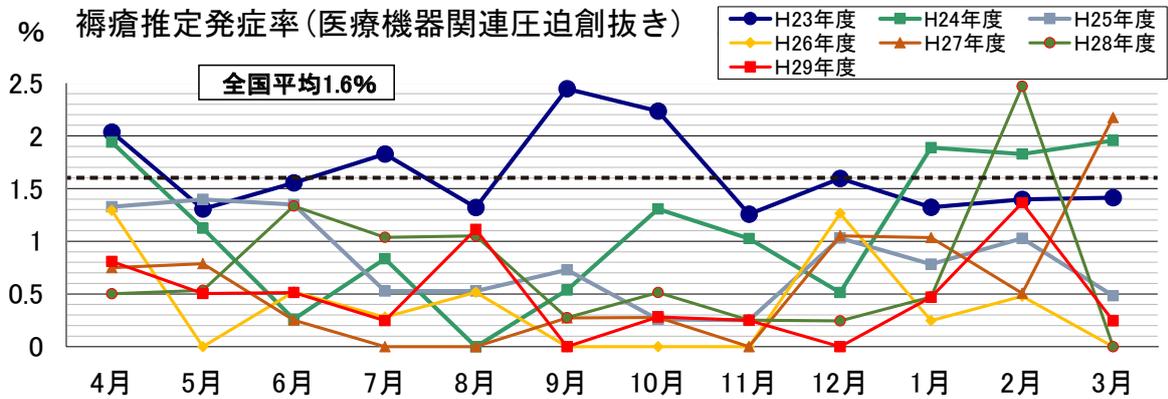
入院患者数と褥瘡対策患者数



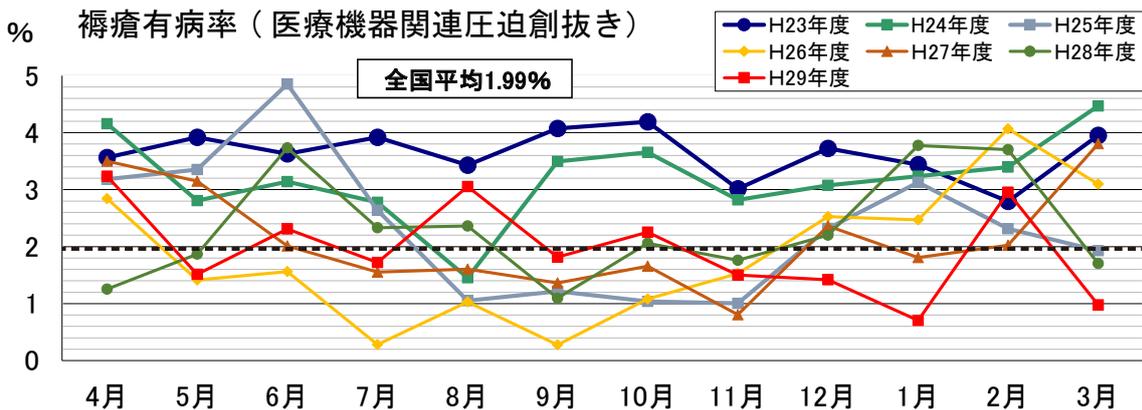
褥瘡対策患者年齢の動向 (H19~29年)

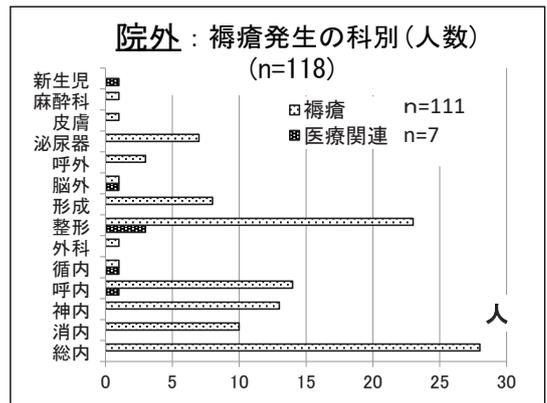
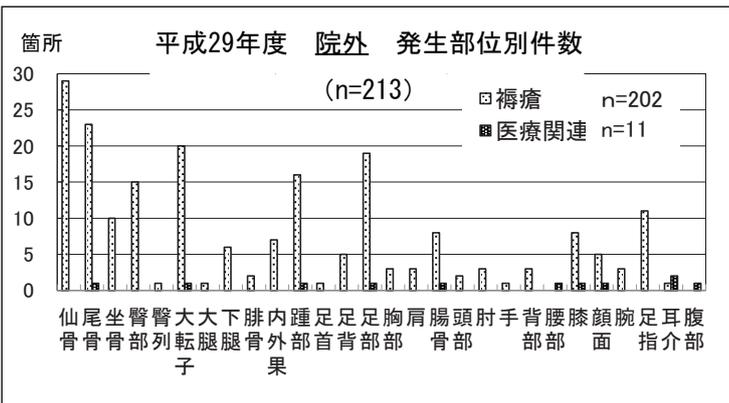
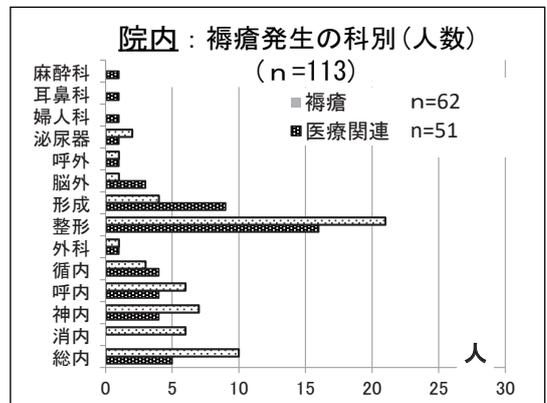
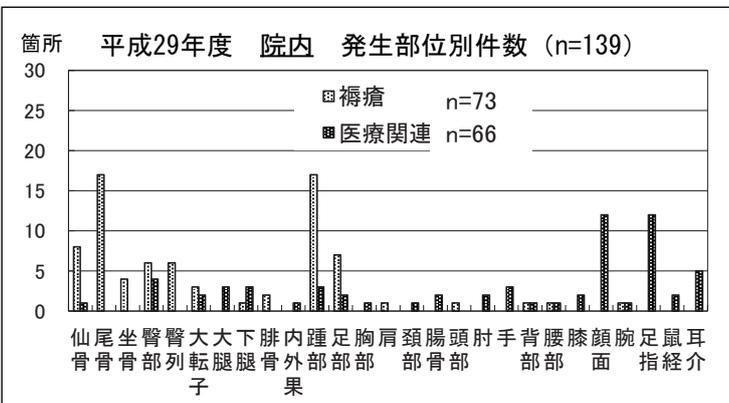
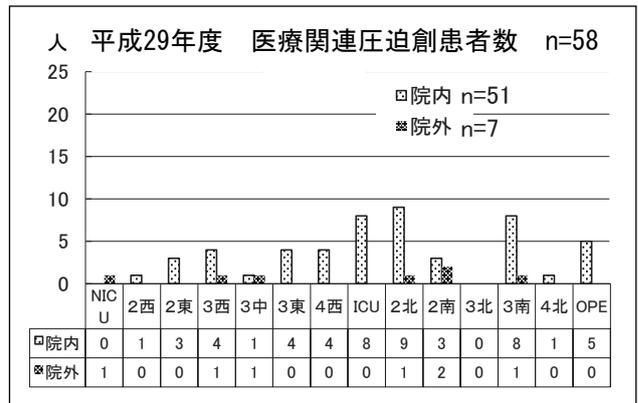
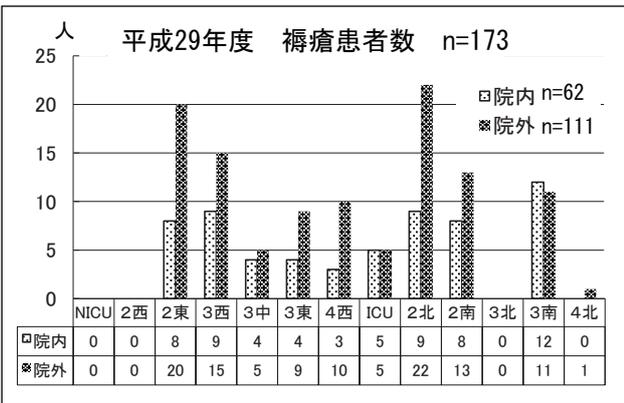
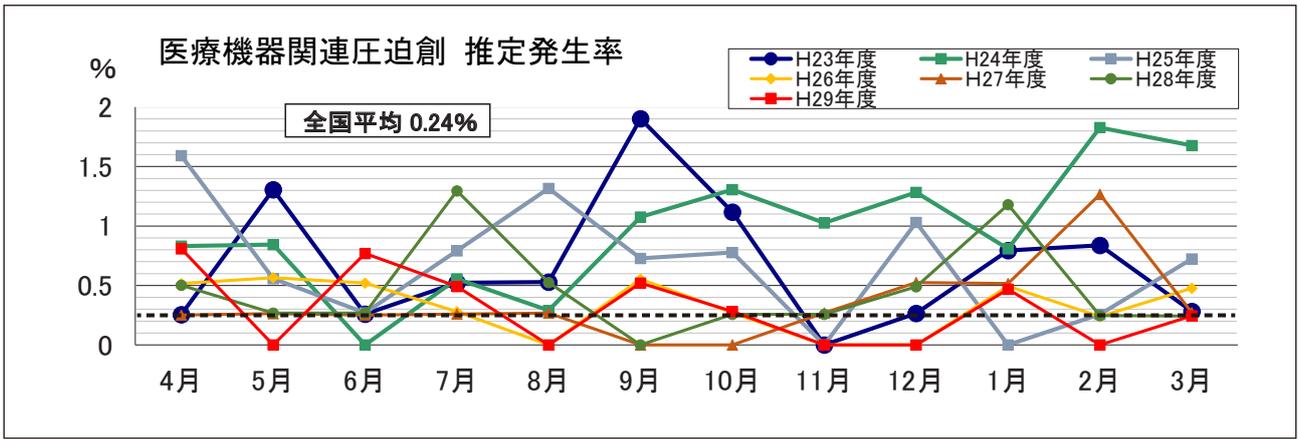


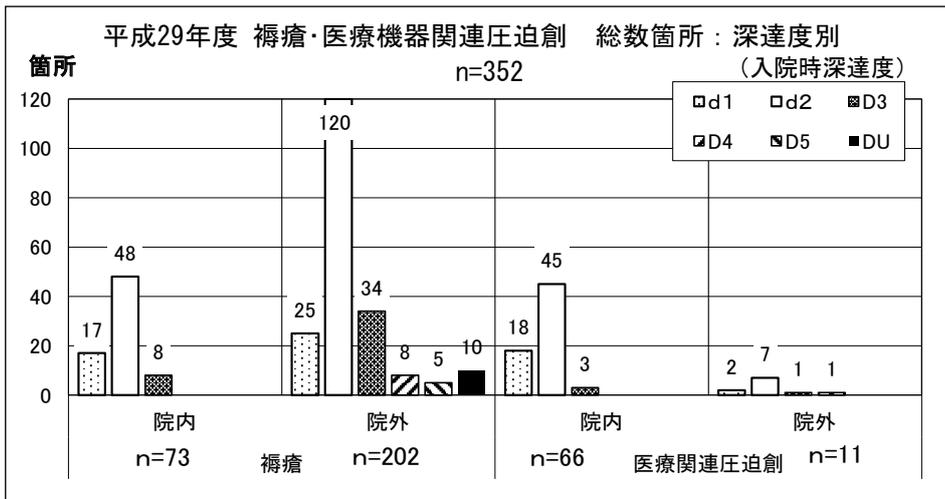
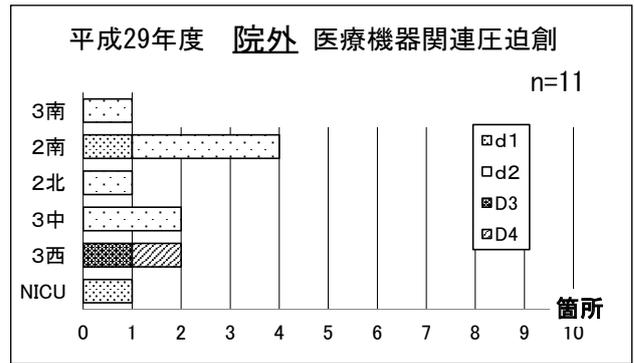
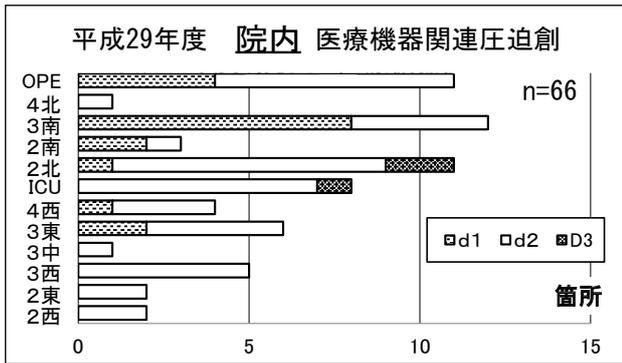
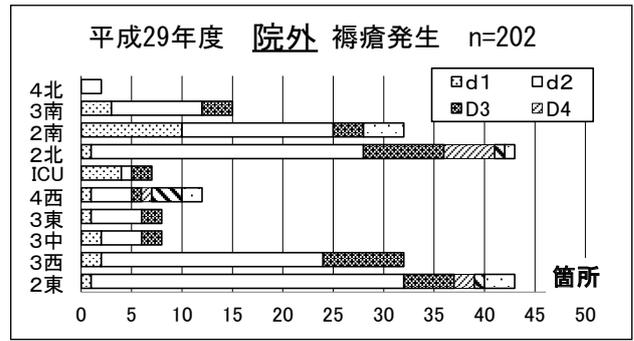
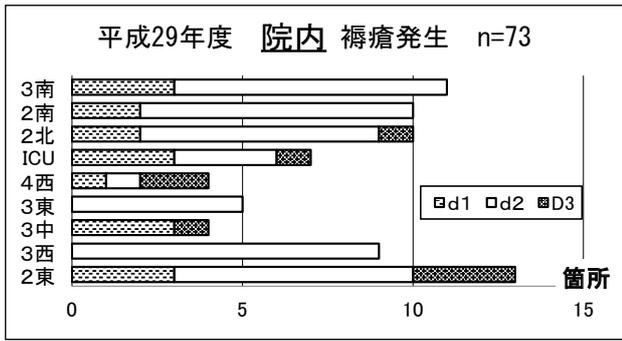
褥瘡推定発症率 (医療機器関連圧迫創抜き)



褥瘡有病率 (医療機器関連圧迫創抜き)

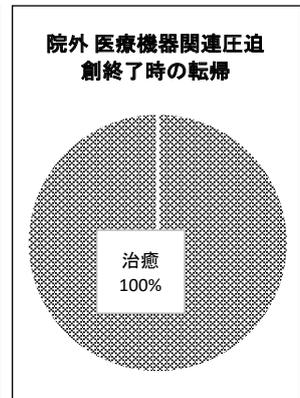
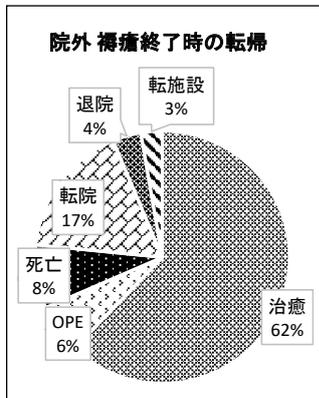
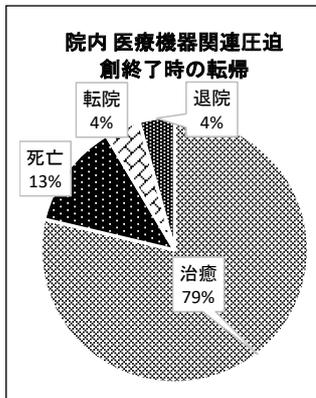
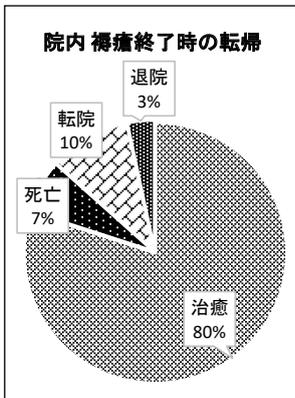


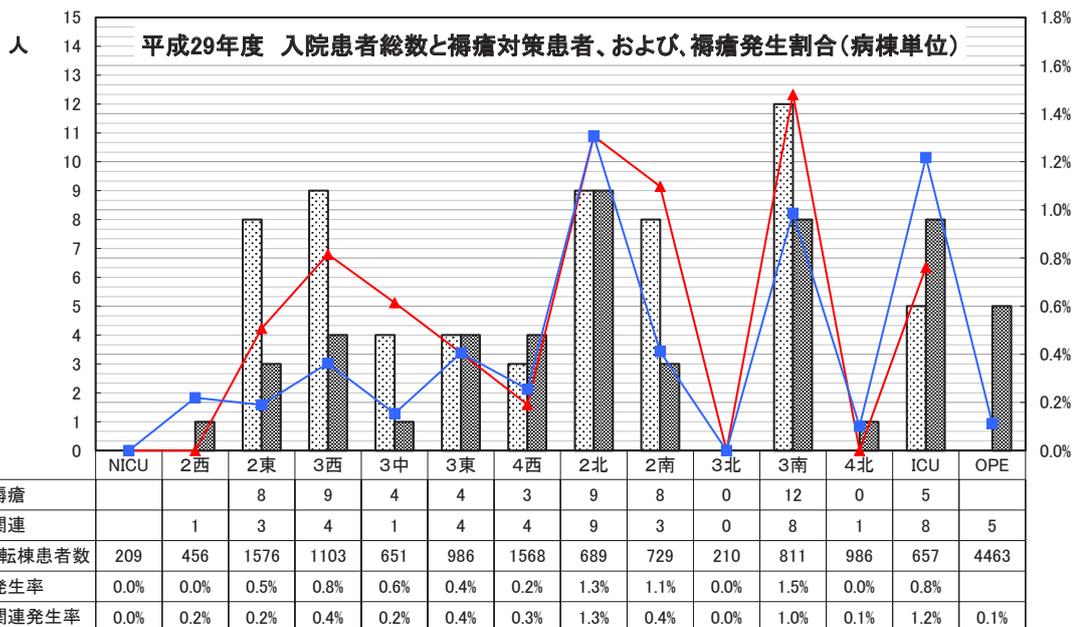




H29年度 治療日数

	院内		院外	
	褥瘡	医療	褥瘡	医療
d1	9	6	8	6
d2	12	12	11	7
D3	51	66	23	
D4			70	
D5				
DU				





[医療の質向上]

委員長 上野 京(報告)

看護記録委員会

【目標】 看護記録を充実させることを通して、看護ケアの質の向上を図る

【目的】 実践した看護が見える記録の充実を図り、看護記録の質向上を目指す

1. 看護記録マニュアル・標準看護計画(看護必要度の項目を含めた)の見直し
2. 看護必要度の根拠に基づく適正な評価

【開催日】 毎月第3木曜日 13:30～14:30

【構成員】 委員長 上野 京(師長)
 副委員長 高吉 富子(主任) 福重 絵里子(主任)
 アバイザー 尾之上稲子(師長)・稲森優子(師長) 各病棟の委員1～2名

【活動内容】

- ・記録と必要度の2グループで活動したが、記録グループの中でも監査と記録マニュアル検討のチームと分かれて活動した。
- ・記録マニュアルの見直しは、用語の表現方法などを改正して、修正ができた。
- ・新人と中途採用者看護師の看護必要度の研修(6/13・10/10・1/24)を年間3回実施した
- ・入院時の記録時間の短縮のためアナムネの見直しをして新規アナムネ1、2を作成した
- ・標準看護計画(看護必要度の項目を含めた)の見直しは進まなかったが、看護必要度の定型文の作成と見直しで根拠に基づく評価がしやすくなった。
- ・監査について、1回目は看護記録に看護必要度の内容を追加し実施したが、効果的な看護必要度の結果が得られず、2回目は看護記録と看護必要度を別々に監査したため、記録不備(アナムネや家族構成など)が減少し、しっかり記録・必要度が見直されていた。
 しかし、記録や看護計画での個別性についての評価ができていないため、患者状態が読み取れる記録にするためにはどうすればよいか今後検討していく。
 また、部署により監査表の変更で、方法・手順の周知ができず、監査自体に漏れがあり、時間がかかった。監査基準の周知、監査表の熟読を行い各スタッフの教育体制を整えていく。監査時期が、2回目は年末年始と重なり大変だったと意見あり、年間計画を検討していく。
- ・平成28年～29年度看護必要度の院内外試験合格者90.9%で不合格者の対策として各部署がどのようなことを取り組んでいるか把握し共有を図れば合格に繋がられるのではないかと今後検討していく。



看護業務委員会

【目的】 看護業務の統一化並びに、看護水準の維持、向上を図る事を目的とする

【目標】 マニュアルを遵守し、安心安全な看護を提供する

【活動内容】

1. 課題の実施 1項目 / 2ヶ月 チェックリストの活用・監査まで
2. ナーシング・スキルの見直し
3. 看護手順の新規見直し

【開催日時】 毎月第3水曜日

【構成員】 山下師長 尾之上師長 北野主任 戸高主任病棟・手術室・外来・クリニック 各委員1～2名

【活動内容】 平成29年4月～平成30年3月

- | | | |
|-----|------------------------------|--|
| 4月 | 看護業務委員会規則の読み合わせ・訂正、接遇マナーについて | チェックリストの活用 |
| 5月 | 課題実施・手順の見直し / 接遇マナー | 電子カルテ内→看護部→ナーシングスキルの下に補足資料を追記できるようにした。
霊安室使用について・手袋の使い分け・口腔ケア |
| 6月 | 課題実施・手順の見直し / 接遇マナー | 評価
環境整備・感染対策・口腔内鼻腔吸引 |
| 7月 | 課題実施・手順の見直し / 輸液管理・静脈内注射 | 経鼻的胃管挿入・持続硬膜外麻酔・ |
| 8月 | 課題実施・手順の見直し / 輸液管理・静脈内注射 | 評価
膀胱留置カテーテル：女性・男性 |
| 9月 | 課題実施 手順の見直し / 転倒転落 | 中間評価
中心静脈カテーテルの管理 |
| 10月 | 課題実施 手順の見直し / 転倒転落 | 評価 |
| 11月 | 課題実施 手順の見直し / 褥瘡 | 輸血の管理と実施 |
| 12月 | 課題実施 手順の見直し / 褥瘡 | 評価
皮下埋め込み型ポート・外用薬：軟膏貼付薬 |

平成30年

- | | |
|----|------------------------------------|
| 1月 | 最終反省 |
| 2月 | 平成30年度業務委員会目標決定
次年度病棟目標設定・入力 |
| 3月 | 次年度病棟目標設定・入力
業務委員会の運営について 委員の選出 |

【評価】

昨年度インシデントの多かった項目(輸液管理・静脈内注射 / 転倒・転落 / 褥瘡)と接遇に対し手順を遵守し安心・安全な看護が提供できるようチェックリストを活用し各病棟で監査を行った。

転倒転落の4月～12月のインシデント発生率は、平成28年度が192件、平成29年度185件との結果で減少が見られた。また輸液管理のインシデント数も平成28年度は150件であったが平成29年度は96件と大幅に減少が見られた。今回はインシデント数での比較で評価を行ったが、インシデントの質や内容等を分析していかれたらと思う。患者満足度調査では看護部の接遇で4月・7月・10月を比較したが大きな変化はなかった。問題があったという項目はどの月もどの項目も全体の(200～250人)1～4人が問題があったと回答していた。病棟単位ではできていない項目をペアやグループでチェックや監査を行うことで、意識して行動できたという意見が聞かれた。褥瘡の発生率は平成28年4月～12月で126件であったのに対し、今年度は71件と大幅に減少した。ナーシングスキルのチェックリストや手技の見直しを行った結果だと考える。褥瘡予防に対する意識が高まった、意識して行動できたという意見も聞かれた。

課題に対しチェックリストやテストを行い評価してきたが、100%入力をする事ばかりに意識が行き目標に対しての計画・評価が行えていない病棟もあった。



看護部入退院支援調整委員会

【目的】 各部署における円滑な入退院支援調整の実践を支援することで、患者の早期退院・ケアの質の向上を図ること

【開催日】 毎月第2金曜日に定例の委員会を実施

【構成員】 師長会が選出する師長、入退院支援調整看護師、単位毎に選出する看護師、MSW

【平成 29 年度目標】

患者および家族が安心・納得した退院調整の実現～退院支援ルールの定着～

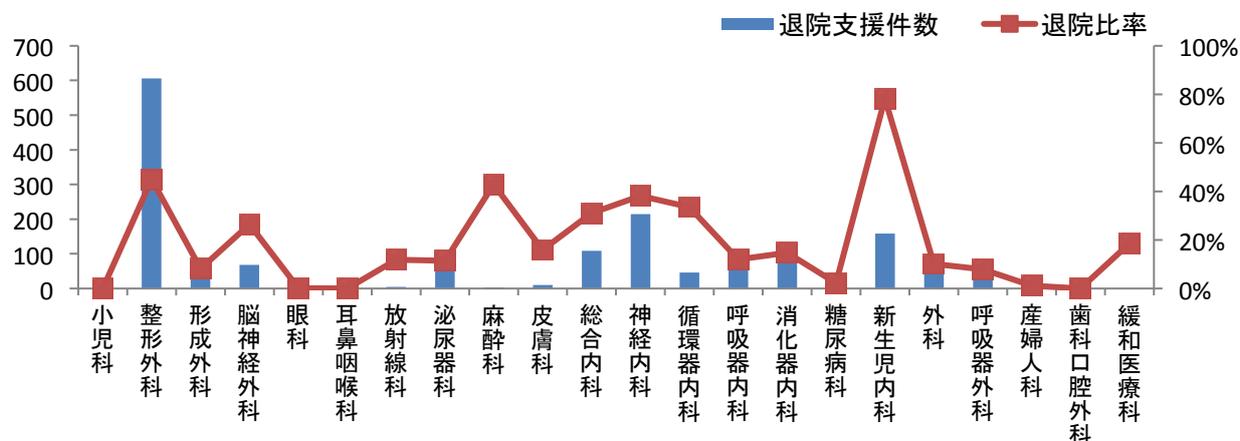
【活動内容】

- 委員会内でのミニレクチャー及び勉強会の実施
- ケアカフェの実施
- グループごとの活動内容
 - * 1G:退院カンファレンスの実践と定着
4分割法の書式のテンプレート化し、全病棟で統一された質の高いカンファレンスを実践
 - * 2G:入院時から退院後の生活を見据えた退院指導
カンファレンスや記録の充実、パンフレット作成と検討
 - * 3G:地域福祉職と病棟スタッフとの「友好的な関係の構築」
主任や入退院支援委員とのケアマネージャーとの交流で患者・家族の思いに沿った支援
 - * 4G:入退院支援調整に関する意識向上を図る
社会資源などの知識不足などアンケートのデータに基づいた研修企画
- 退院支援加算 1・3 のチェックとデータ集計と評価

【反省・評価】

退院支援ルールについて理解度が上がり、各病棟での取り組みで少しずつ支援に関わられてきており、退院支援加算も確実性が上がった。入退院支援部門の支援やグループ活動を継続して今後も入退院支援に取り組む必要がある。特に退院前カンファレンスを行い、ケアマネージャーなどの在宅との連携も重要視していく必要がある。今後は事例検討会・訪問看護研修などを行い、退院支援の介入の方法を学べる場もふやしていく。また、PFM導入し入院前からの支援を行ない、地域包括ケアシステムを意識した取組みを考えたい。

平成 29 年度 退院支援件数・退院比率



退院数	加算件数	退院比率
8811	1600	18.2%



臨床検査適正化委員会

平成 29 年度臨床検査適正化委員会は、精度管理報告、新規検査項目の実施、外注化項目の決定や中止、検査運用の変更等、臨床検査の適正化を目的、目標に年 2 回（4, 11 月）開催しました。

【構成員】

委員長	白濱 浩	(診療支援部長)		
副委員長	佐藤 榮一	(中央臨床検査部長)		
副委員長	生野 博久	(総合内科部長)		
委員	岩下 邦子	(看護副部長)	橋口 恒夫	(外来看護師長)
	濱田 敏彦	(クリニック事務長)	御供田 貴之	(経営企画課長)
	東 貴史	(医事課長補佐)	村中 利也	(中央臨床検査部技師長)
	山崎 泰代	(中央臨床検査部主任)	持留 ゆりか	(中央臨床検査部：議事録担当)

【平成 29 年度活動内容】

(精度管理報告)

- 平成 29 年度日本医師会臨床検査精度管理報告
生化学と血液検査が中心の精度管理で参加項目数 49 で総合評点 99.8 と良好な成績でした。
- 平成 29 年日本臨床検査技師会精度管理報告
221 項目中 219 項目が A～B 判定であり良好な成績でした。

(検査項目の変更、中止)

・院内検査

- ① インフルエンザ検査キットの改良により判定時間が15分から5分と短縮された。
- ② HBs抗原をHBs抗原定量へ変更・HTLV-I 抗体をHTLV-I / II 抗体へ変更した。
 - ・HBs抗原定量の特徴は従来法と異なり、検体前処理によりHBV粒子、小型球形粒子および管状粒子からHBs抗原を遊離させ、ウイルス膜の外側に露出した抗原部位を認識する抗体の他に、内側の抗原部位を認識する抗体を使用し、高感度にHBs抗原を検出する。変異が少ないと考えられているウイルス膜内側の抗原部位を補足することにより、エスケープ変異株等のHBs抗原もより検出し易くなる。
 - ・HTLV-I / II 抗体の改良点は現行品より感度・特異性の向上で、現行品はIgGのみであったが、抗原標識抗体を変えIgGに加えIgM抗体の検出も可能となった。
また、HTLV-I 抗体のみならず、HTLV-I / II 抗体の検出が可能となった。
HBs抗原もHTLV-I / II 共に試薬代金や保険点数は変更なし。
- ③ 細菌培養検査の便の提出容器が蓋つきに変更になった（今まではシャーレであったが、下痢便がよくこぼれていたため）。

・外注検査

- ① EGFR遺伝子検査（血漿）リアルタイムPCR法 2100点
患者1人につき1回に限り算定できる
- ② 膵グルカゴン（血漿）ELISA法 150点
従来のRIA法に比べてグルカゴンを特異的に測定できる
DMより新規患者では1回は検査したいとのことで検査件数は多い
- ③ 百日咳抗体 IgA・IgM（血清）80点
小児科より希望があり電子カルテにものせた
- ④ 岩川医師依頼により相模原病院へ委託
 - ・室内塵中アレルゲン量測定 ダニのみ：3000円
他アレルゲン量測定の追加（1項目につき）：2000円
 - ・沈降抗体：4000円
 - ・カビ培養同定検査：2000円

以上のことが2回の委員会で報告、決定されました。



がん看護委員会

【一般目標】

1. せん妄のハイリスク患者を予測でき、早期から予防ケアを行うことができる
2. リンクナースが中心となり、看護師スタッフへの勉強会を企画し開催する
3. 苦痛のスクリーニングにより、がん患者とその家族の身体的、精神心理的、社会的苦痛を把握し、適切なサポートが受けられるようなシステムを確立できる

【到達目標】

1. せん妄に関する基本的な知識を習得し、ハイリスク患者を把握し予防する方法を知ることができる
2. せん妄ケアの実践へ向けて、スタッフに対する教育を行うことができる知識を身につける
3. 苦痛のスクリーニングの必要性を理解し、改善策を見出し、新たなシステム作りに積極的に取り組むことができる
4. 各部署の中で率先して、スクリーニングによるがん患者と家族の苦痛を把握し、陽性者への対応を行うことができる

【年間活動内容】

年月	内容
H29. 4月	スクリーニングシートについて
5月	スクリーニングシートの活用方法について各部署での取り組み方法を検討 「せん妄」について学習前知識確認テスト
6月	「せん妄」について 講師 精神科 小玉医師
7月	「せん妄に関連する薬剤」について 講師 薬局 財間薬剤師
8月	「医療安全からみたせん妄」について 講師 医療安全管理課 千田看護師
9月	アセスメント方法、予防ケアについて
10月	ロールプレイ アセスメント実施
11月	事例患者をもとにせん妄ハイリスク患者の予防ケアについて検討 GW
12月	各部署「せん妄」の現状の問題点について情報収集、問題点を中心とした勉強会開催について企画
H30. 1～3月	勉強会の企画、実施 GW

【評価・反省】

今年度、がん看護委員会では「せん妄予防ケア」をテーマにあげて活動を行った。前半は講義、グループワークを中心に取り組み、講義では「せん妄」に関する基本的な知識や「せん妄に関連する薬剤」「せん妄から考えられるインシデント、アクシデント」など医師や薬剤師、医療安全管理課などの協力を得て実施した。講義前後は、それぞれ知識確認テストを行いその中で「せん妄には原因がある」の問いに関する正解率として、前：87%対し、後：100%の結果が出た。講義後は、ロールプレイやグループワークを実施し、アセスメントシートの紹介、使用方法についての説明も行った。その後、講義、グループワークの学びを各部署へ伝達するために、リンクナースが主体となって各部署の勉強会企画、開催を実施した。企画書の作成から勉強会の資料作成など、がん関連認定看護師の協力を得ながら協力して作成した。勉強会に関しては、病棟会を利用して実施を予定していたが、PNSのペア決めと重なり計画通りにはできなかった部署もあり、病棟会で実施できなかった部署に関してはチーム会、カンファレンス時間を活用し実施していた。今年度は、「せん妄予防ケア」に関する知識の取得と各部署スタッフ向けの勉強会実施で取り組みは終了となった。今後の課題として、勉強会後のせん妄予防ケアを部署のスタッフは意識して実践できているか、またアセスメントが実施できるようになったかなど看護ケアの質に関する状況確認が必要と考える。現在、せん妄に関するアセスメントシートの活用は行っていない。今後アセスメントシートの導入も視野にいれ活動していく必要があると考える。

**PNS委員会****【目標】**

1. PNS のアクションチェックにおけるそれぞれの役割りを理解し実践する
2. PNS の成果を明確にし課題を抽出する

【構成員】

委員長 酒匂英子

副委員長 池上紀代子 本田沙織

年	月	内 容	備 考
H29	4		
〃	5	各病棟の監査を実施し委員会で意見を出し内容検討 アクションチェック実施。結果を（ 19日 ）までに入力	5/22 WG にて成果アンケートの検討
〃	6	監査実施 レベル3研修実施（6/7）	
〃	7	レベル4研修実施（7/12, 7/18）	
〃	8	レベル3研修実施（リーダー）（8/2） レベル4研修実施（8/16 8/29）	
〃	9	レベル1研修実施（9/6） レベル4研修実施（6/13 9/20）	
〃	10	成果のアンケート完成 レベル2研修実施（10/3） レベル4研修実施（10/5 10/13）	
〃	11	アクションチェック実施 監査実施 11月13日～15日福井大学研修 参加4名 22日 PNS 委員会で福井大学研修報告	成果アンケートを委員会提意見をもらう
〃	12		
H30	1	活動評価 各病棟年間目標評価発表 各レベルの反省・評価発表 次年度目標設定 成果アンケートによる評価	
〃	2	次年度活動内容検討	
〃	3	次年度活動計画検討	

【評価・反省】

1. レベル3の研修に、PNSにおける「リーダーの役割り」を追加し共通認識できるようにした。良く理解できたとの意見が多数あり今後も実施していく予定である。今年度もアクションチェックの実施を行った。各病棟の問題点と課題を抽出し実践を行った。特に時間外の削減に対して取り組んだが、具体策とならず大きな成果は見られなかった。またアクションチェックの結果と実際が伴わず、マインドやPNSの理解などが不透明なところもあるため次年度の課題となった。
2. 福井大学の研修に4名参加、PNSの原点を見直す良い研修となった。また研修参加の結果を委員会や主任会議・臨地実習指導者会議等に報告する機会が得られたことで、今後のPNS推進により役立だったと考える。
3. 明確になった課題（アクションチェックや監査の見直し、管理者研修の検討、パートナー・グループの補完についてなど）を次年度再検討していく予定である



医師臨床研修管理委員会

【目的・目標】

本委員会の医師臨床研修活動は、医師としての基盤形成期において、人格の涵養性、プライマリ・ケアの基本的な診療能力等を習得し、将来の地域医療を担う専門医の育成を目的とする。また、研修に専念できる環境の整備を図る。

【平成 29 年度委員 (H30. 3 現在)】

委員長 昇 卓夫

副委員長 / プログラム責任者 牟禮 洋

(指導医講習会修了医)

牟礼 洋、丸山 芳一、松永 俊二、濱之上 雅博、長堂 竜維、米田 敏、堀之内 兼一、玉田 泉、加藤 明彦、生野 博久、今給黎 尚幸、銚立 博文、今給黎 和幸、西山 淳、石田 育男、甲斐 太、三宅 健治、大磯 陽子、吉永 英希、大場 一郎、二木 真琴、中目 康彦、小玉 哲史、徳久 琢也、今給黎 南香、林 茂昭、高木 信介、宮口 文宏、岩川 純、三好逸男、實 操二、井上 大栄、兒島 信子、佐藤 恭子、永嶋 智成(公立種子島病院)、高橋 誉(谷山病院)、川崎 孝一(鹿児島市立病院)、厚地 伸彦(中央病院)、杉本 東一(奄美病院)

(上級医)

昇 卓夫、西澤 輝彦、池田 耕自、盛満 慎吾、小濱 浩介、高橋 範雅、丸山 有子、中禮 久彦、下舞 浩二、白濱 浩、佐藤 雅美(鹿児島大学病院)、浜畑 弘記(長島町立鷹巣診療所)

(外部委員)長野 芳幸

(パラメディカル)近藤 ひとみ、高橋 真理、兒島 邦幸、村中 利也、室屋 純一、上平田 美樹、原口 一博、野口 桂一、永井 美由紀、松山ひとみ

【平成 29 年度の活動内容及び実績】

平成29年度は、5名の基幹型初期臨床研修医(1年次3名、2年次2名)および5名の鹿児島大学病院協力型研修医を受け入れ、計20診療科で指導を行った。

1名の上級医が2日間にわたる指導医講習会を修了し、当院における厚労省指定の指導医は34名となった(H30. 3現在)。一部の委員で研修医体制会議を計12回(毎月1回)開催した。救急症例カンファレンスは毎水曜に開催し、研修医、救急担当指導医および各科の指導医が参加した。修了判定会には19名の委員が参加し、2名の初期研修修了が承認された。

平成30年度県内マッチ者(平成30年度からの臨床研修先として鹿児島県内を希望し、病院の受け入れ意向と合致した医学生)は、111名(前年度比10名減)、そのうち実際の採用者は103名(前年度比6名減)であり、前年度を下回る結果であった。

なお、当院における平成30年度採用者は募集定員の8名に対して3名であった(前年度比)。今後も他医療機関と協力しながら、県内医学生や鹿児島出身の県外医学生に対するアプローチに注力し、指導体制をはじめ多方面における受け入れ体制の充実が必要と考えられる。

また、医師法第16条2第1項の中で「指導医はプライマリ・ケアの指導方法等に関する講習会を受講していること」と規定されていることから、院内の研修指導に携わる医師に対して指導医講習会受講を引き続き推進していくこととする。

初期臨床研修関係事業(平成 28 年度)

日付	事業名称	当院参加者	場所	主催
H29. 6. 13	「平成 29 年度第 1 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	2 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H29. 7. 4	「平成 29 年度第 1 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会本会議」	1 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H29. 7. 14	「平成 29 年度第 1 回臨床研修病院合同説明会」(佐保研修医が発表)	8 名	鹿児島大学医学部	県初期臨床研修連絡協議会
H29. 8. 17	「鹿児島県臨床研修病院見学ツアー事業」(B コース)	—	県内 11 病院	県初期臨床研修連絡協議会
H29. 8. 18	「平成 29 年度第 2 回臨床研修病院合同説明会」	7 名	サンプラザ天文館	県初期臨床研修連絡協議会
H29. 11. 12	「平成 29 年度臨床研修指導医講習会」(佐藤医長修了)	1 名	全日本病院協会	全日本病院協会
H29. 11. 28	「平成 29 年度第 2 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	4 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H29. 12. 20	「平成 29 年度第 2 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会本会議」	1 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H30. 1. 13	「第 16 回鹿児島県臨床研修医合同研修会」	7 名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
H30. 3. 4	「レジナビフェア 2018 in 福岡」	8 名	マリンメッセ	民間医局

(その他)・医学部医学科病院見学者 25 名を受け入れた。
(4 年生 3 名、5 年生 14 名、6 年生 8 名；鹿児島大学 8 名、県外大学 17 名〔内、鹿児島出身者 7 名〕)
・平成 31 年度プログラム(臨床研修プログラム昭和会)：平成 30 年度からの変更点なし

(研修歯科医)

鹿児島大学病院歯科医師臨床研修プログラム研修協力施設として、次の通り研修歯科医を受け入れ、指導教育を行った。

平成 29 年 6 月 5 日～平成 30 年 2 月 12 日 週 1 回(毎週火曜日)

大学病院歯科医療(A)・大学病院歯科医療(B)・地域歯科医療プログラムの研修歯科医を 1 名ずつ、計 25 回



[医療の質向上]

委員長 昇 卓夫 報告 大原 美保子

患者図書室運営委員会

【委員会目的・目標】

患者図書室の管理・運営を円滑に遂行し、より充実した利用者サービスを提供できるよう患者図書室サービスを検討し、また患者図書室としての意向を反映できるようにする。

【患者図書室目的・目標】

患者さんご自身が病気や検査・治療法について理解を深め、医療提供者の医療に関する説明の質と効率の向上を図り、協働の医療を促進する。

【構成員】

医師(病院長・運営委員長)1 名、看護部 1 名、リハビリテーション部 1 名、患者サポートセンター 1 名、緩和医療課 1 名、事務局(事務局長、総務企画課)3 名、総務企画課 学術情報室 2 名。

上記のほか人事課ボランティア担当 1 名が参加。

【平成 29 年度の活動内容・実績】

患者図書室運営委員会の開催は 2 回。利用統計、蔵書点検、ボランティアスタッフの活動状況の報告や運営について報告、検討を行った。また、広報用に「患者図書室すまいる通信」を発行した。

患者図書室『すまいる』は NPO 法人の支援のもと、平成 25 年 4 月 19 日にオープンし 5 年が経過した。ボランティアスタッフを中心に原則 2 名ずつで運営しており、29 年度は 18 名のボランティアが活動した。

29 年度の延べ利用者数は 2,596 人、1 日平均利用者数 10.6 人、入院患者比率 51.6%、図書貸出数 934 冊であった。

眺めのよい場所で、書架には季節ごとにボランティアによるさまざまな手芸作品も展示され、癒しの空間となっている。12 月には初めて作品展を開催し好評であった。7F という場所柄利用者数にはバラつきがあるが、繰り返し利用される患者さまも少なくない。職員の利用も少しずつ増えているようである。

平成 30 年度も引き続き、職員への認知度の向上や利用の促進を図り、患者さまへの紹介や口コミにつながるよう、全体的な利用を推進したい。



図書委員会

【図書室目的】

職員の生涯研修及び医学・医療の知識の向上を図り以て高度医療・地域医療・救急医療に貢献する。

【構成員】

医師(病院長、昭和会クリニック院長)2名、看護部1名、薬剤部1名、中央放射線部1名、中央臨床検査部1名、リハビリテーション部1名、栄養管理部1名、事務局(総務企画課1名、総務企画課 学術情報室 1名)

【平成 29 年度の活動内容・実績】

29年5月に日本病院ライブラリー協会の研修会に1名が参加し、協会誌「ほすびたるらいぶらりあん」に参加記が掲載された。11月には図書館総合展フォーラムの製本実習に1名が参加し破本修理の基本を学んだ。

30年1月より将来的な管理の利便性を考慮して、試験的に蔵書表紙に管理用のバーコードシールの貼付を開始。

30年2月に図書委員会を開催し図書室の概要・各種統計を報告。また、新規に契約予定の文献データベースのトライアルの報告を行い、30年4月からの利用開始が承認された。これに伴いこれまで利用してきた文献データベースの利用は3月末で終了した。また移転や保管スペースの問題から国内雑誌のパッケージコンテンツのトライアルを次年度に行うことを検討した。

病院図書室は、新刊の雑誌架のみを医局棟3Fカンファレンスルームに残して、25年4月より本館7Fカンファレンスルームの一隅に書架を移動している。

データは一元管理しているが、蔵書は殆どを各部門で保管しており、必要に応じて廃棄申請及び除籍処理を行っている。また、各種資料を病院ウェブサイトや電子カルテ端末で閲覧できるよう整備している。病院移転に備え各部門保管の図書の整理を促すとともに、電子コンテンツの利用を促進していきたい。



看護教育委員会

看護教育委員会は、毎月第1木曜日の13時30分から1時間予定で実施している。

教育委員は各部署の師長と1名のスタッフからなる。

研修企画書を作成し、講師依頼、研修準備、研修当日の役割、研修終了後はアンケートの集計を行う。反省内容は教育委員会にて報告。次年度へ反映していく。これが一連の流れです。

昨年から全師長の協力を得てキャリアラダーができあがり、29年はラダーの説明会を行いラダーの申請を開始しました。看護師ひとり一人は、臨床実践能力評価表を用いて自己評価を行い、他者評価は年間パートナー、主任・師長の評価を受け、ラダー認定委員会の評価判定を受けるという流れです。また、今回からパソコンを利用した研修企画、研修案内、申し込み、アンケート記入、アンケート集計となりその仕組み作りも大変でした。

しかし、そうすることで個人のファイルが作成でき、個人のキャリア形成、院外研修時にも役立てられると考えています。

院内研修 (年間)			院外研修
	看護師	補助者	241研修／累計802名参加
回数	108研修	14研修	
参加人数	累計：3052名	累計：328名	



看護部臨地実習指導者委員会

【目的】

本会は、臨地実習の意義と実習指導者としての役割が理解でき効果的な実習指導を行なう

【目標】

- 1、学生をPNSの一員とし、既習学習と実習を統合させ、看護の喜びと楽しさを伝えることができる
- 2、指導案の追加・修正を行い、スタッフ全員で活用し統一した指導を行う

【構成員】

委員長：郡山 リカ 副委員長：江口 しおり

師長：山下 真理恵

委員 2西：寿島 恭子 2東：折田 千佳 NICU：染木 里恵 3西：老谷 愛 3中：福留 美紀

3東：水口 理沙 4西：薬丸 亜由美 4北：西 洋子 2北：永山 栞 2南：東 清美

3北：益森 節子 3南：堀之内 沙樹

外来：西迫 ルミ子 クリニック：満留 あゆみ ICU：馬場 恵理

【活動内容】

4月 実習上の問題点・リスク報告・グループ活動

5月 実習上の問題点・リスク報告・平成28年度臨床指導者講習会受講者による伝達講習

6～9月 実習上の問題点・リスク報告・グループ活動

10月 実習上の問題点・リスク報告・医療技術看護専門学校教育研修報告会

11～12月 実習上の問題点・リスク報告・グループ活動

1月 感染マニュアル作成・実習上の問題点・リスク報告・福井大学見学報告会

2月 実習上の問題点・リスク報告・グループ活動・協会立看護専門学校訪問報告

今年度は、学生をPNSの一員として関わるができるよう、グループで計画をたて活動を行った。学生を名前呼び、学生のネームを作成し各病棟の業務割り振りボードに取り入れたり、学生とスタッフが一緒に担当患者へ挨拶に行くことができてきた。

学生をPNSの一員として関わるという認識を持てるようになってきたスタッフも増え、学生の日々の計画に沿って検温や看護ケアと一緒にいる機会が増えている。

今後も引き続き学生をPNSの一員として関われるよう計画実践していく

毎月、各学校の実習打ち合わせや反省会を実施 学校名は以下の通り

- ・久木田学園看護専門学校・鹿児島医療法人協会立看護専門学校・神村学園専修学校
- ・龍桜高等学校・鹿児島医療技術専門学校・鹿児島中央看護専門学校
- ・鹿児島看護専門学校・神村学園高等部専門課程・タラ看護専門学校

29年度 実習学生受け入れ人数 867名

**病床運営委員会****【目的】**

病院全体の病床の効率的な各診療科の割り当て・入退院の状況及び空床状況に、急性期のDPCの医療機関として適切かつ効率的病床の有効利用を目指す。

長期入院患者の把握と社会的入院患者の適正化を目指す。

DPC病院として、ベッドコントロールの効率化の向上を目指す。

【開催日時】

月一回・病院業務運営会議の30分前に開催 別館地下1階 講義室

【構成員】

診療部：昇 病院長(委員長)・今給黎 理事長・大久保 クリニック院長・丸山副院長・西澤副院長
今給黎(和)副院長・今給黎(尚)副院長・米田診療部長

看護部：近藤部長・中村 副看護部長・岩下 副看護部長・藤山 副看護部長・尾之上師長・橋口師長

診療支援部：田中師長(病床管理部)・前迫主任(リハビリ)・吉満相談支援センター副センター長(MSW)
原口相談支援センター長(MSW)

事務局：野口事務局長・御供田課長(経営企画室)・小湊課長補佐(医事)

【会議議題】

平均在院日数・病床稼働率・紹介率・逆紹介率の報告	回復期リハビリテーション病棟からの報告
長期入院患者のチェック	経営企画室より、救急の実績報告と分析
DPC入院の分析	病床管理部からの病床運営の報告
看護必要度の報告と分析	地域連携プロジェクト会議より報告
	その他

【総括】

平成29年度の新たな取り組みとして、病床管理部を中心に入院前からの退院支援・適正な入院期間を目的に、「PFM」の導入の試験運用を開始致しました。

また会議内容の充実をはかるため、病床運営に係わる各部門・各委員会・会議から、現状と分析・対策立案などを報告してもらうスタイルに変更しました。その結果、病床運営に関する様々なデータや対策などの共通認識をはかることができました。

来年度の診療報酬の改定では、医療看護必要度の引き上げや回復期リハビリテーション病棟の見直しなどが想定されており、改定に対応した病床管理が必要となり、今後も委員会の充実も図って行かなければなりません。

【平成29年度 病院 実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
在院日数 (調整後)	16.5	16.5	15.6	15.7	15.4	15.6	15.6	15.4	14.6	17.3	17.1	116.1	16.0
稼働率	81.1	85.3	86.6	88.7	86.0	84.5	82.0	83.5	85.4	88.6	93.0	90.2	86.2
医療看護必要度	32.6	31.0	31.2	31.8	30.4	29.2	29.0	29.0	31.3	30.9	29.8	27.8	30.3
在宅復帰率(%)	92.8	91.7	92.1	92.1	92.6	93.6	92.6	94.7	93.3	91.3	89.4	91.3	92.3
紹介率(%)	73	65.6	63.6	57.8	55.1	67.3	71.5	67	71.4	72.0	77.1	72.3	67.8
逆紹介率(%)	116	96.9	105.5	86.9	86.8	91.4	100.6	104.1	118.3	104.2	114.5	124.0	104.1



労務委員会

【目的】

働きやすい環境づくりを基本に、規程の策定や見直し、各部署からの事案の検討、検証、解決を図り、職員人事考課制度の運用と適正な人件費管理を目的とする。

【構成員】

昇卓夫(委員長)・近藤看護部長・野口事務局長・川越事務次長・堀経営企画室長・十島人事課長補佐

【主な議題】

- 4月 人事考課の進捗・人件費、正職員登用の検討、組織図の検討、看護実習謝礼金、労務問題
- 5月 人事考課進捗の確認、ナースアシスタント雇用対策、組織図の検討
- 6月 人事考課の決定、ナースアシスタント雇用対策、人事異動の検討、組織図の検討、労務問題
- 7月 人件費・時間外推移、昇格の決定、平成29年度総人件費増減確認、労務問題
- 8月 人件費・時間外推移、昇格の決定、労使委員会準備、労務問題
- 9月 人件費・時間外推移、パート職員人事考課検討、新卒入職者の評価、人事考課中間面談実施検討
- 10月 人件費・時間外の推移、パート人事考課の昇給検討、規程改定検討、労務問題
- 11月 人件費・時間外の推移、パート人事考課の昇給決定、一般職員中間面談状況、昇格の決定、正職登用の決定、労務問題
- 12月 人件費・時間外の推移の検証、人事考課説明会日程調整、労務問題
- 1月 人件費・時間外の推移の検証、人事考課進捗報告、人事異動の検討、職員定数の考え方、新卒採用状況進捗確認、労務問題
- 2月 人件費・時間外の推移の検証、職員人事考課進捗確認、新卒採用状況進捗確認、入社式日程及び担当者検討、労務問題
- 3月 人件費・時間外の推移の検証、職員人事考課進捗確認、新卒採用状況進捗確認、正職員登用検討、組織図改定の検討、労務問題

【総括】

平成29年度本委員会では引き続き「人件費の適正化」「職員のモチベーション向上」「規程の整備」を主な施策として取り組みました。



働き続けられる職場作り (Work Life Balance) 検討委員会

【目的】全職員が健康でやりがいを持って働き続けられる職場をつくる

【構成員】人事課：十島課長補佐、小林美子

看護部：岩下邦子（看護副部長）、橋口恒夫（師長）、永尾幸江（主任）、畠中愛（主任）、
福重絵里子（主任）、渡邊さつき、田中範晃、福山睦美、四村朋美

放射線部：稲留久恵、濱田智太郎、池田真一 臨床工学部：外口健太郎（主任）

検査部：平原千代子

リハビリテーション部：植村大介、重水智子

薬剤部：財間富士子（主任）、肥田香織

【平成 29 年度活動内容と実績】

●定例の活動

- ・月1回（毎月第4火曜日16：00～）の会議。
- ・ぴたっとカエルデー（第4金）の実施、

●今年度の活動

- ・薬局の業務負担軽減について
開封後の点滴の返品や、アンプルやバイアルが混注予定の輸液についたままの返品、内服薬の未実施や条件付き指示に病棟の記載がないもの、また内服薬の未実施の返品と条件付き指示が区別されていないなどについて改善策を提案し改善された
- ・妊婦への配慮
人事課にてマタニティマーク（缶バッジ）を作成。色は黄色、ブルー、ピンクの3色で全30個作成、運用を開始
- ・用度課の負担軽減・事務用品の削減
台帳で請求していない部署は台帳で請求管理とした
物品の受付・注文について朝礼時間（8時～）と昼休憩時間の（12時30分～14時）は避けて欲しいとの希望有り、院内メールにて全職員周知した
病棟転倒防止用の丸シールは色、サイズを統一し商品種類の整理を実施
病棟業務の不明点であった病棟テレビ故障時の流れについて確認と周知を行った
- ・アニバーサリー休暇の取得促進について
誕生日が祝日となっているケースは別日での取得を勧める
- ・年休取得の促進
この会でこれまで要望していた個人が年休取得状況を把握できるシステムが整備され、職員各自が把握することができるようになった。年休を取得率0%の部門もあるが、人事課よりこれまで年休を取得できなかった部署に取得促進の声かけが行われ無取得の部署が減り、前年度に比して取得できるようになった部門も増え取得率も上がってきている。今後、取得率の低い各部門・部署の現状を把握し管理職の計画付与を勧めていく
また、付与開始日を1月1日から4月1日に変更してほしいという要望が有り、今後も継続して要望していく

- ・仕事を行いやすい環境にするためのアンケートの実施
6月までにアンケート作成、7月に院内LANを使用しWEBアンケート実施したが、多くは年休・給与・時間外など労務管理面に関する内容で委員会での対策が難しかったため、一旦意見の募集を中止し再考することとなった
- ・休憩時間と勤務時間について
昨年、休憩時間の短縮と退勤時間の調整を労務委員会に提案し、今年度勤務時間の調整が行われた
- ・研修会の企画実施
労働安全衛生委員会と共同開催を計画。ハラスメント研修を開催
講師は株式会社HALの春田尚子氏。2月26日診療部門の部長会議の中で、それ以外の職員は1月11日、3月2日、3月8日に実施
（参加しての意見・感想）
管理職クラスの方の受講予定が多く、一般の職員にも受講していただきたい
管理職とそれ以外の職員を対象別に講習してはどうか
受講者を募るメールを再度送信してはどうか
- ・病児担当者の負担軽減について
病児保育予約管理の現状把握。予約受付方法は、当日電話で予約をされた順番で受付
キャンセル待ちはつくらない
- ・就労時間内の喫煙者について
喫煙時間の規制の必要はないか今後労務委員会に提案
- ・患者搬送について
搬送先機関への看護師が同乗するため病棟を離れる時間が多く発生している。件数を調査し搬送基準の見直しを検討する
- ・部署間の業務改善
薬剤部：患者ラベルを薬液瓶本体に貼って返品されるとラベルを剥がす際、使用期限がわからなくなり、薬品管理の業務負担となっている
返品する際は薬品と患者情報、返品であることを記載した物を袋に入れ返却するなど返品についてのリーフレットを作成し各病棟へ配布
褥瘡管理課：前日に帳票入力してほしい
病棟：褥瘡回診の訪問時間を誤差を少なくタイムリーな時刻で連絡してほしい。

看護部以外：看護部の患者の送迎の負担軽減のため、関連部門に対し、車いすへの移乗、押し方、ストレッチャーの運転についての研修を企画していくとしていたが実施には及ばず

- ・平成29年11月15日（水）にあったワークライフバランス推進ワークショップへの参加（岩下看護副部長、OT重水参加）。会議の中で伝達講習を実施

【総括】

前年度に継続し、全員で取り組むこととなった。委員からはLIFEに関することよりもWORKに関する問題が多く取り上げられた。多職種が参加して自由に討議できる雰囲気から部署間の格差についての不公平感の是正に対する意見も多く出された。その反面、委員会としての位置づけがないため参加者個人のモチベーションで運用されているところも大きい。

しかし、現場の声をあげられるこのような場が貴重である。今後も参加できていない部間や部署の参加者の募集も継続し、参加の難しい部間からも意見を吸い上げていきたい。活動の情報発信も必要である。

【今後の WLB 推進委員会議の方向性について次年度

【取り組み案】

- ・仕事をしやすい環境にするためアンケート調査の実施の再構築
- ・アニバーサリー休暇の取得状況調査
- ・時間外の削減の経緯
- ・ピタッとかえるデーの実施状況調査
- ・年休取得率upへの取り組み
- ・ハード面の改善（別館出入口をダイヤルロック式へ変更）
- ・多部門へのストレッチャー・車椅子の講習会
- ・ママさんスタッフの会の開催
- ・搬送基準の見直し
- ・健康教室の継続実施
- ・各部署の業務負担軽減の意見集約

病児保育室

報告：吉村加奈子

【平成 29 年病児保育室業績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用者数	60	53	66	54	62	45	64	56	54	49	40	45	648
開設日数	25	24	26	25	26	24	25	24	24	23	23	25	294
満室お断り	16	17	26	17	19	6	30	13	20	14	16	15	209
1日平均	1.9	2.6	2.6	2.3	2.1	0.6	1.8	2.3	2.3	2.1	0.6	1.8	2.2
キャンセル数	25	86	36	62	65	38	13	36	62	65	38	13	623
新規登録数	3	2	3	4	0	0	9	0	0	0	2	1	24

多くの方のご協力のもと、10年目の運営を展開しております。昨年度の年間利用者数は696人、今年度は648人と平均的な人数で推移しています。子育てと仕事を両立でき、働き続けられる職場環境の提供の一つと考え、今後も病児保育室を通して貢献できたらと思います。

【参加学会】

平成29年6月9-10日	第21回日本医療保育学会（栃木県）	参加者：吉村
平成29年7月16-17日	第27回全国病児保育研究大会（大阪府）	発表者：鈴木 参加者：鈴木・西郷・吉村
平成29年11月13日	全国病児保育協議会 鹿児島支部会	発表者：鈴木 参加者：玉田・西郷・鈴木・畠中・福里
平成30年1月10日	日本医療保育学会第15回全国研修会（東京）	参加者：吉村

【著書】

平成29年7月15日発行 一般社団法人全国病児保育協議会 病児保育研究 第8号
病児保育室における看護師の保育面での問題解決への取り組み～「今日の記録」の改良を通して～
吉村・鈴木・西郷・上山・畠中・川邊・國生・吉田・玉田
※本論文は、平成28年の第26回 全国病児保育研究大会（新潟県）で推薦口頭発表したものに加筆し、まとめたものです。



労使委員会

【目的】

職員にとって働きやすい環境づくりに取り組み、労働意欲と健康の維持、向上を図る。労使協力して職場の繁栄を目指し、相互の満足、共存共栄を目的とする。

【委員会】

労使代表者が集まり、定例夏に行う。但し必要に応じて随時開催する。

平成29年度開催実績2回開催：1回目平成29年9月7日、2回目平成30年3月8日

【活動状況】

- ・就業規則 第19条（退職手続）、第27条（育児休業期間延長）、第33条（服務心得）、第35条（セクハラパワハラ禁止）、第47条（夜勤専従者）改定
- ・旅費規程 第11条（学会・研究研修会出席出張旅費）改定
- ・育児・介護休業等に関する規程 第2条（育児休業の対象者）改定
- ・退職金規程 第3条（定年退職扱いの支給）改定
- ・給与規程 第19条（通勤手当）改定
- ・独身寮規程 第1条（目的）、第2条（管理）、第4条（入居期間）、第16条 改定
- ・保育室運用規定 第8条（保育時間）、第11条（届出）、第12条（保育料）改定



個人情報保護推進委員会

個人情報管理責任者 白濱 浩

個人情報保護監査責任者 昇 卓夫

【構成員】

藤山みどり(看護部)	岩下邦子(看護部)	千田清美(医療安全管理課)	吉満 実(相談支援センター)
山崎泰代(中央検査部)	花房雅子(中央検査部)	篠原なつき(中央放射線部)	加治屋博一(中央放射線部)
壽 明伸(薬剤部)	西岡帆菜未(薬剤部)	上平田美樹(栄養管理部)	兒島邦幸(リハビリテーション部)
泊 美由紀(診療補助部)	桑波田かおり(診療補助部)	横路久美(総務企画課)	堀 雅之(経営企画室)
永井美由紀(学術情報室)	上野健人(医療情報管理課)	新地佑貴(診療情報管理部)	松下智美(クリニック医事課)
東 貴史(病院医事課)			

本委員会は、毎月第3月曜日午後5時より開催しております。

書類等の入れ間違い、FAX誤送信対策のため研修会を実施、患者様目線より個人情報に関わる書類等が目につく場所等がないか、個人情報保護推進委員による院内巡視を年2回（7月、2月）行っております。

今年度は、施設内で使用しておりました外付けハードディスクが紛失となり、顧問弁護士、保険会社と協力の上、全日本病院協会個人情報保護委員へ報告し対応を行っております。今後、再発しないように院内教育を行っております。

職員、職員家族へも、インターネット使用の危険性や対策を知り得る良い研修会となりました。

今後も、院内巡視または研修会を開催し、職員教育、漏洩防止を行っていく予定です。



広報委員会

【目的】 医療の公共性や、地域に開かれた病院としての観点から、広報誌の発行、病院パンフレット、ホームページを通じての患者さまや他医療機関、地域の方々に対する広報を目的とする。

【構成員】 委員長 西澤輝彦

中央放射線部 加治屋博一（～12月）、小谷 祐樹（1月～）、中央検査部 森田修康、
薬剤部 壽明伸・肥田香織（～12月）、福永 碧・吉永 咲紀（1月～）、
リハビリテーション部 高田奨・脇明夏（～12月）、兒島 邦幸（1月～）
栄養管理部 篠田佳那、相談支援センター 吉満実・池田留実・岡本美穂、看護部（師長担当）、
診療情報管理部 畑中幸子、経営企画室 御供田貴之、総務企画課 前野浩一、
総務企画課 学術情報室 大原美保子（書記）・永井美由紀（進行）

【活動状況】

年4回 但し必要に応じて随時開催

広報委員会では広報誌、院内報の編集、発行が主な活動となっている。

- ・ 広報誌 四季だより（季刊誌 年4回発行） ・ 院内報 いまきいれ（毎月発行）
- ・ 病院案内・病院業績集 昭和会誌（年報）平成29年10月発行
- ・ ホームページ・Facebook これらの編集、発行、更新は学術情報室2名が担当

■メディア取材対応（日付は報道・掲載日）。取材時のアテンド（世話係・付添）は主に永井が担当。

- ・ 2017年2月18日 リビングかごしま 総合内科 無呼吸・いびき外来
- ・ 2017年6月21日 KKB スーパーJチャンネル ほっとサロン今給黎～がん患者と家族のおしゃべりサロン～の紹介。
- ・ 2017年7月22日 リビングかごしま 眼科 白内障・網膜硝子体手術
- ・ 2017年8月 最新医療経営「PHASE3」2017年9月号Vol. 397 「女性が生き活きと働ける病院づくりシリーズ」小児科 玉田医師、麻酔科 今給黎医師、今給黎理事長のインタビューと病児保育室の紹介。
- ・ 2017年9月20日 KKB スーパーJチャンネル ほっとサロン今給黎～がん患者と家族のおしゃべりサロン～の紹介。
- ・ 2017年11月 Medical Note 理事長 今給黎尚典インタビュー

広報誌四季だよりは51号（2017年4月）に全面リニューアルした。コンセプト、誌面構成を決め、院外向の情報を中心に記事を作成。院内、地域医療関連施設等へ配布している。また、診療科の特集記事を1枚にまとめたペーパーも作成し、各医療機関訪問時に配布している。

[広報誌コンセプト]

- ・ 意外と知られていない今給黎をもっと知ってもらう。
 - ・ 院外とのコミュニケーションツールとして広報誌を活用し、医療機関・患者・地域・スタッフを繋ぐ
- 院内・職員向けの情報は院内報やfacebookへ掲載とした。

リニューアルした広報誌は概ね好評である。また、地域医療機関へのコミュニケーションツールとしての役割も果たし、一定の広報効果も得られている。2018年度は広報誌作成以外の活動内容も検討したい。

■広報関連フォーラム・研修参加

- ・ HISフォーラム2017 in OSAKA第21回全国病院広報研究大会 2017年10月28日 参加：永井
- ・ 第13回医療機関広報フォーラム 2018年3月23日 参加：永井
- ・ 病院マーケティングサミット2018 2018年3月25日 参加：永井

広報誌・ホームページ等からの情報提供により病院への信頼、理解、好意を得られ、患者さまの満足度も高められると思います。今後もより多くの情報を発信し、患者さま、関連施設、地域の方々とのコミュニケーションを図りたい。



健康まつり実行委員会

【開催目的】

地域住民を対象に、健康は日常の食事・運動などの生活習慣によることが多大であるとの認識と共に、「楽しい健康づくり」の観点より健康増進への普及を図っていく。

【会議開催】 不定期

【構成員】 医師1名、看護部2名、中検1名、中放1名、リハ1名、栄養部1名、事務部9名

【報告】

事前の準備期間があまりなく、広報にしても、人員確保にしてもバタバタでしたが何とか13回目の健康まつりを開催することができました。

講演会は、がんサポートかごしまの三好綾理事長に依頼し、ユーモアや自身の実体験を踏まえたご講演で、参加者からも『元気をもらいました』、『生きる勇気をもらいました』、『感動した』などたくさんありがたいお言葉を頂きました。

その他の催し物も例年の各測定や、看護部の協力も得て、新しいイベントも行い大変ご好評を頂きました。

しかし、来場者や職員から場所がわかりづらい、案内がない、聞いても答えられない、移動が大変など、お叱りの言葉も頂き、改善に向けて次回へ反省したいと思います。

次回は、開催するからには、もう少し魅力ある内容を考え、来場者が終始楽しめるようにしていきたいと思っておりますので、参加者からのご意見や職員からの意見も積極的に取り入れて改善していきたいと思っております。

今回は265名の参加で、例年より若干少ないようでしたが、ご協力頂きました先生方、看護部をはじめたくさんボランティアに感謝します。ありがとうございました。

開催日	平成29年9月30日(土) 快晴
場 所	外来駐車場、別館1F、講義室、リニアックセンター
健康チェック	体脂肪測定、血圧、検尿、骨密度測定、頸部エコー検査
健康相談	専門医による健康相談、いびき無呼吸相談、乳房(おっぱい)相談、お口相談、
催し物	職員による合唱・合奏、職員飲食ブース(かき氷、たこ焼き、ポテトフライ、綿菓子、ポップコーン、ヨーヨー釣り、ドリンク、お菓子詰め放題など)、 白衣体験、バルーンアート、AED・災害、手洗いチェック、オムツ関連、 新病院パネル展示、ペッパー君 等
院外参加者	三線かなさんどう、しょうぶ学園、串ぼうず、工房てたかの飲食出店

研究実績

V

■ 各診療科・各部署別 研究実績

- 論文・誌上発表
- 学会発表 他

■ 院内研修会・講演会一覧

■ 院外活動報告

【診療部】2017年1月～12月

血液内科

【学会発表】

1. Kosuke Obama

Impact of the status of maximal response, evaluated by combined paraprotein analyses in treatment for multiple myeloma

第79回 日本血液学会学術集会 2017年10月20日 横浜

消化器内科

【学会発表】

1. 川野ゆき子(研修医)、今給黎和幸

EUS-FNAによるアブレーションにて奏功した膵嚢胞の1症例

第110回 日本消化器病学会 九州支部例会 研修医発表 2017年11月17～18日 沖縄

呼吸器内科

【講演(院外)】

岩川 純 肺癌領域における免疫チェックポイント阻害剤の話題と診療の実際

第16回鹿児島薬剤師フォーラム 2017年11月 鹿児島市

岩川 純 高齢社会における肺炎球菌ワクチンの有用性～PCVとPPSVの有効な使用法～

鹿児島県病院薬剤師会 感染制御薬物対策講習 2018年1月 鹿児島市

【研究会】

新村 昌弘、里村 緑、亀之原 佑介、岩川 純

Nivolumabの使用状況 鹿児島肺癌研究会 ICI 2017年5月 鹿児島市

岩川 純 重症喘息患者の現状 鹿児島SA conference 2017年8月 鹿児島市

【講演(院内)】

岩川 純 細菌性肺炎から考える抗菌薬の使い方 2017年7月 鹿児島市

岩川 純 インフルエンザの診療 2017年11月 鹿児島市

神経内科

【論文】

1. 丸田恭子、内田裕一、延原康幸、丸山芳一、園田至人

左下腿筋萎縮から発症したchronic multifocal myositisの1例 神経内科86(2):259-264,2017

【学会発表】

1. 野口 悠、長尾沙織、臼元亜可理、武井 藍、樋口雄二郎、中村友紀、橋口昭大、長堂竜維、高嶋 博

パーキンソンニズムを呈し免疫吸着療法が奏功した橋本脳症の1例

第218回日本神経学会九州地方会 宮崎大学医学部 2017年6月17日 宮崎市

2. 小田健太郎、湯地美佳、甲斐太、林茂昭、丸山芳一、長堂竜維

免疫吸着療法が著効した抗グリアジン抗体陽性小脳失調症の1例

第220回神経学会九州地方会 琉球大学医学部 2017年12月16日 那覇市

【座長】

1. 丸山芳一

静脈血栓塞栓症カンファレンス

Opening remarks「ワーファリンからDOACSへ」 今給黎総合病院 2017年2月8日

2. 丸山芳一

認知症治療を考える会

認知症と運転免許～2017年改正道路交通法施行をうけて～ ソラリア西鉄ホテル鹿児島 2017年5月26日

3. 丸山芳一

Alzheimer Disease懇談会 ～認知症とてんかんを考える～

「新たな視点での認知症治療薬～合併症やBPSDへの対応を中心に～」 香川大学精神科教授 中村祐先生
 県医師会館 2017年9月14日 鹿児島市

【講演（院外）】

長堂竜維 パーキンソン病の病態と治療

大日本住友製薬社内講演会大日本住友製薬鹿児島支社 2017年5月15日

長堂竜維 神経疾患と電気生理検査 武田薬品社内講演会 武田薬品鹿児島営業所 2017年8月28日

【その他】

長堂竜維 ドクターからのメッセージ：パーキンソン病治療のポイント

大日本住友製薬健康情報サイト

<https://kanja.ds-pharma.jp/message/parkinson/column069.html>

外科

【学会・研究会発表】

1. 和田真澄, 野口智弘, 徳永拓也, 高取寛之, 濱ノ上雅博, 牟禮 洋
 腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した胆嚢捻転症の1例
 鹿児島県臨床外科学会 2017年3月 鹿児島市
2. 和田真澄, 濱ノ上雅博, 徳永拓也, 下之菌将貴, 高取寛之, 野口智弘, 牟禮 洋
 診断に苦慮した肝に高度浸潤を示したNeuroendocrine carcinomaの1例
 鹿児島市外科医会 2017年4月 鹿児島市
3. 濱ノ上雅博, 小林泰之, 三枝伸二, 田辺 元, 高尾尊身, 島津久明
 門脈塞栓術・ALPPSにおける肝再生機構の考察と安全な肝再生誘導の可能性（肝障害とHGF発現より）
 第35回日本ヒト細胞学会学術集会 2017年10月7日 西之表市
4. 櫻井秀俊, 濱ノ上雅博, 野口智弘, 實 操二, 牟禮 洋
 胃神経内分泌癌の一切除例
 鹿児島市外科医会 秋季例会 2017年11月
5. 櫻井俊秀, 濱ノ上雅博, 實 操二, 野口智弘, 牟禮 洋
 肝細胞癌破裂後 肝内多発転移、副腎転移、腹膜播種に集学的治療を行い5年経過した一例
 鹿児島肝癌研究会 2017年11月 鹿児島市

【座長】

1. 濱ノ上雅博
 静脈血栓塞栓症カンファレンス
 がん免疫療法診療講演会 今給黎総合病院 2017年6月14日 鹿児島市

【講演（院外）】

濱ノ上雅博 当院における大腸癌治療の現状 消化器癌治療カンファレンス 2017年11月24日 鹿児島市

呼吸器外科

【論文・誌上発表】

1. 今給黎 尚幸, 山本 耕三, 米田 敏
 救命できなかったvon-Recklinghausen病に伴う血管病変の2例
 鹿児島市医師会報 VOL. 56 No. 2 35-36, 2017

【学会発表】

1. 今給黎尚幸 米田 敏
 当科におけるニボルマブの使用経験
 外科医会 2017年 鹿児島
2. 山本耕三, 今給黎尚幸, 米田 敏
 肺動静脈瘻に対しコイル塞栓術後、胸腔鏡下に肺葉切除を施行した1例
 第34回日本呼吸器外科学会総会 2017年5月18-19日 福岡

3. 宮脇真理（研修医）、今給黎尚幸、米田 敏
難治性有癭性膿胸に対してEWSが有効であった1例
第50回日本胸部外科学会九州地方会総会 2017年7月27-28日 福岡
4. 今給黎尚幸、緑川健介、米田 敏
完全鏡視下左S4区域切除術
第58回日本肺癌学会 2017年10月14-15日 横浜

整形外科

【論文・誌上発表】

1. Kimura A, Seichi A, Takeshita K, Inoue H, Kato T, Yoshii T, Furuya T, Koda M, Takeuchi K, Matsunaga S, Seki S, Ishikawa Y, Imagama S, Yamazaki M, Mori K, Kawasaki Y, Fujita K, Endo K, Sato K, Okawa A
Fall-related deterioration of subjective symptoms in patients with cervical myelopathy. Spine 2017 Apr 1;42(7):E398-E403. doi: 10.1097/BRS.0000000000001798.
2. Matsunaga S, Miyaguchi F, Kawabata N, Kuroshima T, Koriyama C
Cost-effectiveness of therapeutic drugs for the prevention of incident vertebral fracture in patients with postmenopausal osteoporosis-Randomized controlled trial of 72 week follow-up- J Clin Exp Orthop 2017, Vol 3 No 3:39, 1-5 Doi 10.4172/2471-8416.10039

【学会発表】

1. 堀川良治
手指背側軟部組織損傷に対し伸展機構再建を行った1例
第61回鹿児島整形外科集談会 2017年1月21日 鹿児島市
2. 岡田拓巳、石田育男、吉川泰司、助崎文雄、宮岡英世、稲垣克記
非外傷性骨盤骨折に続発した急速破壊性股関節症に人工股関節置換術を施行した一例
第47回日本人工関節学会 2017年2月24日 宜野湾市
3. 松永俊二、宮口文宏、川畑直也、小宮節郎
骨粗鬆症治療薬の新規椎体骨折抑制に対する費用対効果
第46回日本脊椎脊髄病学会 2017年4月13日 札幌市
4. 岡田英次朗、名越慈人、渡辺 慶、横山明彦、中川幸洋、竹内一裕、松永俊二、圓尾圭史、坂井頭一郎、吉井俊貴、小林 祥、大場哲郎、和田簡一郎、大谷隼一、遠藤照頭、西村浩宇輔、森 幹士、都島幹人、大川淳一、松本守雄
びまん性特発性骨増殖症に伴った脊椎損傷－厚労科研脊柱靭帯骨化症調査研究班・多施設研究－
第46回日本脊椎脊髄病学会 2017年4月13日 札幌市
5. 竹内大作、種市 洋、橋爪 洋、金森昌彦、寒竹 司、金山雅弘、松本守雄、松山幸弘、笠井裕一、竹下克志、山崎 健、田中信弘、松永俊二、宮本雅史、田中雅人、紺野慎一、川上 守
腰椎変性側弯症の健康関連QOL低下に及ぼすエックス線学的パラメータを検討する多施設横断的臨床研究
第46回日本脊椎脊髄病学会 2017年4月13日 札幌市
6. 松永俊二、宮口文宏、山口 聡、川畑直也、堀川良治、石田育男、岡田拓巳、小宮節郎
大腿骨近位部骨折二次予防に対する骨粗鬆症治療薬の費用対効果
第90回日本整形外科学会学術総会 2017年5月20日 仙台市
7. 宮口文宏、川畑直也、松永俊二
Iliac screwが強固に固定される至適刺入位置のCT画像分析
第90回日本整形外科学会学術総会 2017年5月20日 仙台市
8. 竹内大作、種市 洋、橋爪 洋、金森昌彦、寒竹 司、金山雅弘、松本守雄、松山幸弘、笠井裕一、竹下克志、山崎 健、田中信弘、松永俊二、宮本雅史、田中雅人、紺野慎一、川上 守
腰椎変性側弯症の健康関連QOL低下に及ぼすエックス線学的パラメータを検討する多施設横断的臨床研究
第90回日本整形外科学会学術総会 2017年5月20日 仙台市

【座長】

- 松永俊二 Drug therapy for chronic back pain. 18th Annual meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific section(CSRs-AP) Kobe Japan 2017/3/11
- 松永俊二 椎体骨折を起こさないための骨粗鬆症治療
－骨吸収抑制剤と骨形成促進剤のラッシュのなかでの使い分け－
第46回日本脊椎脊髄病学会 ロイトン札幌 2017年4月14日 札幌市

松永俊二 骨粗鬆症地域連携の会 骨粗鬆症の治療と画像解析
今給黎総合病院講義室 2017年11月16日 鹿児島市

【講演（院外）】

岡田拓巳 整形外科術前後のDVTの診断と一次予防
静脈血栓塞栓症カンファレンス 2017年2月8日 鹿児島市

松永俊二 骨粗鬆症の現状と治療－骨粗鬆症薬剤選択を中心として－
旭化成ファーマ社内講演 2017年3月1日 旭化成ファーマ鹿児島支店

松永俊二 骨粗鬆症治療の現状と今後の展開
アステラス製薬社内講演 2017年8月30日 アステラス製薬鹿児島支店

松永俊二 骨粗鬆症における骨密度測定の意義と解釈 骨粗鬆症地域連携の会
今給黎総合病院講義室 2017年11月16日

形成外科

【論文・誌上发表】

高木信介、今井茂樹

【頭頸部動静脈奇形の最新治療】

動静脈奇形に対する治療戦略 BAST(balloon assisted sclerotherapy) (解説/特集)
形成外科 60巻6号 Page615-623 (2017.06)

【学会発表】

1. 高木信介、小坂健太郎、藍嵐、蓑原沙和、春山勝紀、堀川良治、門松香一
シンポジウム3 骨壊死・偽関節に対する血管柄付き骨・骨膜移植
血管柄付き骨・骨膜移植による四肢偽関節治療－アルゴリズムに基づいた部位別再建方法の検討－
第44回日本マイクロサージャリー学会学術集会 2017年12月7-8日 宮崎市
2. 高木信介、春山勝紀、外菌寿典、増田えりか、佐藤翼
リンパ管奇形に対するブレオマイシン硬化療法の有用性
第35回日本臨床皮膚外科学会 2017年1月20-21日 台湾 台北市
3. 増田えりか、高木信介、春山勝紀、外菌寿典、佐藤翼、門松香一
母指多指症指尖・側爪郭再建における指動脈島状皮弁の有用性
第20回九州昭和大学・形成外科同門会学術集会 2017年2月25日 鹿児島市
4. 佐藤翼、高木信介、春山勝紀、外菌寿典、増田えりか、門松香一
Contralateral C7 transfer (CC7) およびDouble muscle transferによる機能再建を行った全型腕神経叢
麻痺の1例
第20回九州昭和大学・形成外科同門会学術集会 2017年2月25日 鹿児島市
5. 青木恵、松下茂人、高木信介
先天性巨大色素細胞母斑から発生した悪性黒色腫の1例
第20回九州昭和大学・形成外科同門会学術集会 2017年2月25日 鹿児島市
6. 佐藤翼、高木信介、春山勝紀、外菌寿典、増田えりか、門松香一
当院におけるComponent Separation法による腹壁癒痕ヘルニア修復術
第60回日本形成外科学会総会学術集会 2017年1月13-14日 大阪市
7. 増田えりか、高木信介、春山勝紀、外菌寿典、佐藤翼、門松香一
尺骨神経麻痺の現状と展望
第60回日本形成外科学会総会学術集会 2017年1月13-14日 大阪市
8. 高木信介、春山勝紀、小坂健太郎、増田えりか、蓑原沙和
プロプラノロール療法が奏功したPHACE症候群の1例
第32回日本眼窩疾患シンポジウム 2017年5月27日 沖縄
9. 高木信介、春山勝紀、小坂健太郎、増田えりか、蓑原沙和
小嚢胞性および混合型リンパ管奇形に対するブレオマイシン硬化（局注）療法の有用性
第14回日本血管腫血管奇形学会学術集会 2017年7月14-15日 郡山市
10. 高木信介、春山勝紀、小坂健太郎、増田えりか、蓑原沙和
プロプラノロール療法が奏功したPHACE症候群の1例
第14回日本血管腫血管奇形学会学術集会 2017年7月14-15日 郡山市

【座長】

- 高木信介 シンポジウム「患者 first に向けての取り組み」
第14回日本血管腫血管奇形学会学術集会 2017年7月14-15日 郡山市
- 高木信介 一般演題「再接着 1」
第44回日本マイクロサージャリー学会 2017年12月7-8日 宮崎市

【講演（院外）】

- 高木信介 第6回重度四肢外傷Microsurgery meeting 特別講演
重度四肢外傷治療における形成外科的視点
第14回日本血管腫血管奇形学会学術集会 2017年12月8日 宮崎市

新生児内科

【論文・誌上発表】

1. 徳久琢也
胎児水腫 周産期医学 2017, 47 (増刊) p. 452-457

【講演(院外)】

- 丸山有子 周産期感染症 第7回生長会産婦人科レビューコース 2017年2月18-19日 堺市
- 丸山有子 鹿児島県におけるハイリスク新生児のフォローアップ
宮崎市郡小児科産婦人科合同勉強会 2017年10月 宮崎市

【研修会開催】

- 丸山有子 鹿児島市立病院・今給黎総合病院合同周産期カンファレンス 7月
Guest Speaker : Hyun S Park M.D. (Assistant clinical professor, Department of Pediatrics, UCI School of Medicine, Medical Staff, UC Irvine Medical Center, Orange, CA)

小児科

【論文・誌上発表】

1. 吉村加奈子、鈴木詩織、西郷今日子、上山真紀、畠中 愛、川邊なぎさ、國生かおる、吉田百合香、玉田 泉
病棟保育室における看護師の保育面での問題解決への取り組み～「今日の記録」の改良を通して～ 病児
保育研究 2017; 8: 35-40
2. 銚之原昌 虐待された年長子ども達への支援 鹿児島県医師会報 平成29年9月号

【学会発表】

1. 柿本令奈、関 祐子、永留祐佳、溝田美智代、玉田 泉、森田 智、大坪喜代子
妊娠中にヨウ化カリウム (KI) を使用したバセドウ病母体より出生した3例の検討
第90回日本内分泌学会学術総会 2017年4月20-22日 京都
2. 永留祐佳、柿本令奈、塩川直宏、溝田美智代、玉田 泉、関 祐子、森田 智、大坪喜代子、児玉祐一、
河野嘉文、山崎有人、笹野公伸
Cushing症候群の3か月女児 第51回日本小児内分泌学会学術集会 2017年9月28-30日 大阪
3. 桧作和子、柿本令奈、永留祐佳、玉田 泉、溝田美智代
一胎児期に性分化疾患を疑われた症例—いつ、誰が、どのように御家族にお話しするのがよいか
第51回日本小児内分泌学会学術集会 2017年09月28-30日 大阪
4. 上野さやか、玉田 泉
当院における1型糖尿病のインスリン持続皮下注入療法 (CSII) の現状と問題点
第165回日本小児科学会鹿児島地方会 2017年6月4日

【講演（院外）】

- 銚之原 昌 市民の育児支援のために
南日本子ども健康セミナー 鹿児島県小児保健協会・山形屋主催 2017年9月6日
- 銚之原 昌 鹿児島県新規採用養護教諭研修会 県教育委員会 県教育センター 2017年10月26日
- 銚之原 昌 児童虐待について ロータリークラブ主催 県立山川高校 2017年12月8日 指宿市

放射線診断科・放射線治療科

【学会発表】

1. 中禮久彦、銚立博文、篠原哲也、高江洸伸、大久保幸一、濱ノ上雅弘、野口智弘
松下芳正 田川伸夫 小屋俊彰 芝こずえ
肝門部から下大静脈へ急速に進展した転移性肝腫瘍に対して定位照射が奏功した1例
第30回 日本放射線腫瘍学会 高精度放射線外部照射部会 2017年3月18日 仙台市
2. Hirofumi Hokotate, Shinsuke Takagi, Tetsuya Shinohara, Shin Takaesu, Hisahiko Churei, Koichi Okubo, Takashi Yoshiura
Percutaneous sclerotherapy for symptomatic venous malformation –single center experience–
The46th Annual Meeting of the Japanese Society of Interventional Radiology,
2017. 5. 19 Okayama, Japan
3. 銚立博文、篠原哲也、中禮久彦、大久保幸一、吉浦 敬、齋藤博哉
骨盤部感染lymphoceleに対しCT下ドレナージを施行した5例
第3回日本穿刺ドレナージ研究会 2017年6月17日 大阪
3. 銚立博文、中村信哉、中禮久彦、大久保幸一、高木信介
当院における静脈奇形に対する硬化療法の検討
第14回日本血管腫血管奇形学会 2017年7月15日 福島

【講演・研究会(院外)】

- 銚立博文 肺癌の放射線診断 ～基本的CT画像とCT下生検～
第37回鹿児島CT研究会 鹿児島医療センター 2017年2月15日
- 中禮久彦 セッション「放射線治療」
平成29年度 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会(当院主催分) 宝山ホール
2017年10月28日 鹿児島市

緩和医療科

【学会発表】

1. 浦田正和、松下格司、長谷純子、小玉哲史、落合美智子、田畑真由美、長瀧恵、小栗由貴子、岩坪 笑、満尾明恵、夏越祥次
進行食道癌に対する緩和的食道ステント治療の有効性と緩和ケアチーム介入の意義の検討
第22回日本緩和医療学会学術大会 2017年6月24日 神奈川

【主催】

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 2017年10月28-29日 宝山ホール 鹿児島市

【講演(院外)】

松添大助 ヒトは死んだらどこへ行くのか? 長与ニュータウン老人会 2017年8月11日 長崎県長与町

病理診断科(病理部含)

【学会発表】

1. 白濱 浩、有村郷司
症例：皮膚病変(白濱)、演題名：遺伝子検査の実際(有村)
第140回鹿児島病理集談会 2017年6月20日 鹿児島市
2. 有村 郷司
病理分野の遺伝子検査と今後の展望 遺伝子検査セミナー2017 2017年9月2日 福岡

歯科口腔外科

【学会発表】

1. 吉田雅司
スポーツ歯学の現状と展望 平成29年鹿児島大学歯科口腔外科同門会 2017年1月21日 鹿児島市
2. 吉田雅司
スポーツ歯学の現状と展望 第45回西之表市学校保健研究大会 2017年2月2日 種子島

3. 吉田雅司、福留博文、坊野敦子、吉田礼子
マウスガードの厚みは模型上でどのように再現すべきか？
第27回日本スポーツ歯科医学会総会・学術総会 2017年6月16・17日 札幌市
4. 吉田雅司
学校歯科保健における今日的課題 学校保健研究大会 2017年9月5日 屋久島町
5. 吉田雅司、河井洋祐、土持賢一
外科的矯正手術を受けた歯科医師に対するアンケート調査
Questionnaire study to the dentists who had an orthognathic surgery
第62回日本口腔外科学会総会・学術総会 2017年10月20日～22日 京都市
6. 吉田雅司
ビデオレクチャー：骨固定を行わないSSROのコツ
第62回日本口腔外科学会総会・学術総会 2017年10月20日～22日 京都市

【講演(院外)】

- 吉田雅司 歯科医師向けマウスガード実習コース 宮崎県スポーツ歯学研修会 2017年3月12日 宮崎市
吉田雅司 ミャンマー医療援助隊の活動～歯科技工士育成事業～ 国分ロータリークラブ卓話
2017年4月20日 霧島市
- 吉田雅司 運動せずして健康語るべからず DHかごしまclub講演会 2017年8月26日 鹿児島市
吉田雅司 17. スポーツ外傷とスポーツ障害(3)：顎骨・軟組織の外科対応
日本体育協会スポーツデンティスト講義 2017年11月4日 東京都
- 吉田雅司 スポーツ歯学の現状とこれから 骨固定を行わない古くて新しいSSROのコツ
琉球大学特別講義 2017年11月13日 那覇市
- 吉田雅司 スポーツ歯学の現状とこれから 長崎大学歯学部講義 2017年11月20日 長崎市
吉田雅司 ロータリー：世界を変える行動人～自分の健康を知ることから～
鹿児島ロータリーアクトクラブ例会卓話 2017年12月4日 鹿児島市

【各部門】2017年4月～2018年3月

看護部

【論文・誌上发表】

1. 宮菌瑞帆 『ICU患者の重症化回避のワザ』（仮）
【第4章】重症化を回避するICU患者管理のワザ「6. ドレーン管理中の患者管理」（12枚）

【学会・院外研究会発表】

1. 原田純子
A病院における退院支援の現状と課題～退院後3日目の電話訪問の結果から～
第27回日本新生児看護学会学術集会 2017年10月13日 さいたま市
2. 池田桃子
保育器窓開閉前後の体温変動について～24時間体温モニタリング結果より～
第27回日本新生児看護学会学術集会 2017年10月13日 さいたま市
3. 吉田綾乃
保育器窓開閉前後の体温変動について～24時間体温モニタリング結果より～
賢英フォーラム 2017年6月 鹿児島
4. 原田純子
当院における退院支援の現状と課題～退院後3日目の電話訪問の結果から～
第70回九州新生児研究会 2017年1月 福岡

【座長・他】

- 東美津子 鹿児島県滅菌業務研究会 第44回鹿児島県滅菌業務研究会特別講演 2017年8月5日
河原尚美 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 がん治療に伴う皮膚障害看護セミナー
2017年11月15日

【講演(院外)】

- 有村こずえ 「あの時」どうした？「これから」どうする？忘れたところにやってくる災害に備えよう！
第27回日本新生児看護学会学術集会 ワークショップ 2017年10月13日 さいたま市

柴多陽子	学校法人南学園鹿児島医療福祉専門学校助産学科	2017年5月1日	2017年7月31日
河原尚美	小野薬品工業株式会社 がん免疫療法副作用マネジメントカンファレンス	2017年5月15日	
	中外製薬株式会社社内研修会	2017年6月26日	
	小野薬品工業株式会社 第16回鹿児島薬剤師フォーラム	2017年11月17日	
	協和発酵キリン株式会社 癌化学療法看護セミナー	2017年11月18日	
	大鵬薬品工業株式会社 第2回川内地区がん化学療法セミナー	2017年12月4日	
	小野薬品工業株式会社 がん免疫療法 医療連携セミナー	2018年2月15日	
	小野薬品工業株式会社 地域連携講演会～がん化学療法の悪心・嘔吐を考える～	2018年2月20日	
	中外製薬社内研修会	2018年3月6日	
入江田徳美	ファイザー株式会社 小児外来セミナー	2017年6月3日	
橋口恒夫	鹿児島県立錦江湾高等学校 リアルしごとびと一高校生と働く大人の対話の時間	2017年7月11日	
	日本救急撮影技師認定機構 平成29年度救急撮影講習会 鹿児島	2017年7月16日	
川畑真澄	医療法人玉昌会 高田病院 眼科機器取り扱いについて	2017年7月13日	
	羽月保育園保護者の会	2018年2月17日	
幸田亜弥	コルテーヌアロマセラピースクール マタニティアロマセラピー講座	2017年8月10日、9月7日、9月28日、10月26日 / 計4回	
有村こずえ	学校法人南学園鹿児島医療福祉専門学校 新生児蘇生法講習会	2017年8月26日	
宮園瑞帆	公益社団法人鹿児島県看護協会 平成29年度鹿児島地区再就業支援セミナー	2017年10月17日	
藤山みどり	公益社団法人 日本看護協会 訪問看護出向事業ガイドラインに関する意見交換会	2018年1月15日	
大重智子	鹿児島県看護協会会員施設代表会議	2018年2月3日	
本田里美	公益社団法人鹿児島県看護協会 平成29年度新人助産師合同研修会	2018年2月3日	
赤坂美保	小野薬品工業株式会社 地域連携講演会～がん化学療法の悪心・嘔吐を考える～	2018年2月20日	

薬剤部

【学会・院外研究会発表】

1. 築地辰典 財間富士子 前島一友 高橋真理
当院におけるB型肝炎ウイルス再活性化対策への取り組み ー内服抗がん薬における外来での取り組みー
第2回鹿児島県病院薬剤師会学術大会 2018年2月18日 鹿児島市
2. 壽明伸 久津輪久世 前島一友 高橋真理
当院におけるDOACの使用状況と適正使用に向けた取り組み
第2回鹿児島県病院薬剤師会学術大会 2018年2月18日 鹿児島市

【座長】

財間富士子 第16回鹿児島薬剤師フォーラム 2017年11月17日 今給黎総合病院講義室
高橋真理 NAGATOWNプロジェクト 2017年11月27日 南風病院多喜ホール

中央放射線部

【学会・院外研究会発表】

1. 浮田啓一郎 アーチファクト・脂肪抑制・造影剤
日放技基礎技術講習日放技基礎技術講習「MRI検査」 2017年5月14日
2. 浮田啓一郎 IRの秘密 鹿児島MRI研究会 2017年5月20日
3. 川畑朋之 ブラトトップによる一般撮影への影響 鹿放春季学術大会 2017年6月11日
4. 浮田啓一郎 “上手い”と言わせる追加撮影 第7回がごんまGyro 2017年8月26日
5. 丸尾美由紀 おさらいしよう膝関節、正面・側面 第8回鹿児島X線撮影研究会 2017年9月2日
6. 新村栄次 画像処理(MPR・3D画像等)の有用性について 大隅地域研修会 2017年9月29日
7. 丸尾美由紀 乳がん検診について 南国殖産乳がん検診啓発 2017年10月16日
8. 浮田啓一郎 第二報 磁場不均一の影響 第27回日本乳癌検診学会学術総会 2017年11月11日
9. 小屋俊彰 鹿島の治療装置の訪問出力調査の現状報告 九州医放射線療技術学術大会 2017年11月18日
10. 丸尾美由紀 デジタルマンモグラフィーにおける日常管理についての検討
九州医放射線療技術学術大会 2017年11月18日
11. 池田真一 Sihc, H-sincの基本特性の検討 九州医放射線療技術学術大会 2017年11月18日
12. 浮田啓一郎 MRIのアーチファクトとその対策 宮崎MRI研究会 2017年12月2日

13. 池田真一 認定試験講習会（臨床編）第5回MR講習会 2018年1月21日
 14. 小屋俊彰 鹿県治療装置の訪問出力調査の現状報告 南九州地域放射線治療合同研究会 2018年2月3日
 15. 浮田啓一郎 MRIに携わる方のちょっとためになる情報 鹿児島MRI研究会 2018年2月24日

【院内】

丸尾美由紀 画像検査のABC ほっとサロン今給黎 2018年1月17日

【座長】

丸尾美由紀 今、ハラスメントを考える さくらRT 2017年6月24日
 丸尾美由紀 PETMRIについて 鹿児島核医学技術検討会 2017年10月27日
 浮田啓一郎 施設発表 第7回がごんまGyro 2017年10月29日
 篠原なつき 九州医放射線療技術学術大会 2017年11月18日
 中村圭太 Dat View バージョンUPに伴うSBRの比較検討
 第36回鹿児島核医学技術検討会 2018年1月27日
 池田真一 MRIに携わる方のちょっとためになる情報 鹿児島MRI研究会 2018年2月24日

【ディスカッション等 司会・演者】

新村栄次 「Dual Energy Imaging」 第38回鹿児島CT研究会2017年5月17日
 新村栄次 心疾患における冠動脈CTの有用性 第39回鹿児島CT研究会 2017年8月23日
 新村栄次 スクリーニングにおける大腸CTの一次読影 第40回鹿児島CT研究会 2017年11月18日
 新村栄次 GALACTICの急性腹症 第41回鹿児島CT研究会 2018年2月21日

中央臨床検査部

【学会・院外研究会発表】

1. 村中利也、今堀小百合、播磨佐江子
 鹿児島県で薬剤耐性(AMR)対策にどのように取り組むか
 第27回鹿児島感染制御ネットワーク学術講演会 2017年10月14日 鹿児島市
2. 來住和剛、岩崎明日香、持留ゆりか、宝代聡美、今堀貴之、村中利也
 術前不規則抗体検査において、抗D+抗C様反応を示した一症例
 第14回 鹿児島県医学検査学会 2018年2月10～11日 日置市

【座長】

村中利也 臨床微生物検査部門・薬剤師会合同研修会 2017年9月
 村中利也 第27回南九州臨床微生物研究会 2017年11月

QCセンター 褥瘡管理課

【座長】

下前百合香 第14回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会 ポスター討論 1

【講演（院外）】

下前百合香 スキンケアと褥瘡予防ケア
 なちゅは鹿児島 看護・介護職のための褥瘡予防セミナー 2017年9月10日 鹿児島市
 下前百合香 在院日数の変化から考える、装具選択
 第7回オストミーサポートセンターIN 鹿児島 2017年11月11日 鹿児島市
 椎木真美子 ストーマ装具の選択と実際
 アルケア鹿児島ストーマケアセミナー 2017年11月18日 鹿児島市

栄養管理部

【学会発表】

1. 上平田美樹
 応用カーボカウント導入により血糖改善が得られたIDDM症例
 第37回食事療法学会 2018年3月4日 那覇市

診療情報管理部

【講演(院外)】

1. 黒丸恭弘

当院の院内がん登録の現状

平成29年度 第2回鹿児島県がん診療拠点病院事業四部門合同研修会 2018年2月24日 鹿児島市

事務部 総務企画課 病児保育室

【論文・誌上発表】

1. 吉村加奈子、鈴木詩織、西郷今日子、上山真紀、畠中愛、川邊なぎさ、國生かおる、吉田百合香、玉田泉
病児保育室における看護師の保育面での問題解決への取り組み ～「今日の記録」の改良を通して～
病児保育研究 (2187-6118)8号 Page35-40(2017. 07)

院内研修会・講演会一覧

平成 29 年度講義室にて開催された研修会・講演会一覧

月 日	演 題	講 師	参加者数
4 月 7 日	地域医療漢方セミナー 「チーム医療の中で漢方を活かす」	愛知厚生連 知多厚生病院 副院長 丹村敏則	69 名 (外部 1 名)
4 月 11 日	院内勉強会 「薬剤起因性消化管傷害の発症ゼロを目指して」	当院 消化器内科 部長 吉永英希	67 名
4 月 26 日	第 5 回定期多施設合同カンファレンス 「患者・家族からの激しいクレームにどう対応していますか？」	鹿児島市内 10 病院の医師・看護師・薬剤師・栄養士・ ケアマネ・MSW など	30 名 (外部 26 名)
5 月 24 日	個人情報保護推進委員会 スマホ、ケータイ安全教室	NTT ドコモスマホケータイ安全教室 インストラクター 西口奈来	115 名
6 月 14 日	がん免疫療法診療連携カンファレンス 「当院における免疫チェックポイント阻害剤の使用経験について」 「肺がん免疫チェックポイント阻害薬～何をどう使う？～」	当院 呼吸器内科 医長 新村昌弘 当院 呼吸器外科 科長 今給黎尚幸 神戸市立医療センター中央市民病院 呼吸器内科 藤本大智	134 名 (外部 22 名)
6 月 25 日	1 型糖尿病の家族の会 さくらんぼの会 「やりたいことと 1 型糖尿病患者の血糖コントロールとのバランス」	陣内病院 薬剤部 主任 吉田陽	31 名 (外部 21 名)
6 月 28 日	がん・緩和ケア研修会 「困難事例から考える対人援助論」	鹿児島大学歯学部総合研究科 腫瘍学講座 的場康徳	104 名 (外部 17 名)
7 月 14 日 ・ 15 日	院内感染研修会 「当院の環境調査結果と医療施設の環境清掃の重要性」	花王プロフェッショナルサービス (株) 学術情報グループ感染認定看護師 古賀暁子	計 531 名
7 月 26 日	院内感染研修会 「細菌性肺炎から学ぶ抗菌薬の使い方」	当院 呼吸器内科 部長 岩川純	169 名
10 月 13 日	がん・緩和ケア研修会 「今、在宅医療でできる事～緩和も小児も難病も～」	五反田内科クリニック 院長 五反田満幸	92 名 (外部 30 名)
10 月 19 日	静脈血栓塞栓症セミナー ～がんと静脈血栓塞栓症～ 「急性肺血栓塞栓症の抗凝固療法別血栓体積量の急性期変化についての検討」 「これだけは知っておきたい静脈血栓塞栓症の知識～Canser の話題を中心に～」	薩南病院 循環器内科 医長 伊集院駿 大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科学 学部内講師 畑泰司	111 名 (外部 17 名)
11 月 15 日	「EGFR-TKI 皮膚障害に対するケアの実践」 「肺がん治療における分子標的薬の必要性、副作用管理の必要性について」 「Rash マネジメントにおける看護師の役割」	当院 呼吸器内科 岩川純 熊本中央病院 化学療法認定看護師 野中由美子	64 名 (外部 15 名)
11 月 16 日	骨粗鬆症地域連携の会～DXA 検査による骨粗鬆症の連携～ 「顎骨壊死を防ぐための医科・歯科連携～顎骨壊死ポジションペーパー2016 を踏まえて」 「骨粗鬆症の治療と研究の最前線 HR-p QCT による骨微細構造解析」	当院 歯科口腔外科 部長 吉田雅司 当院 整形外科 部長 松永俊二 長崎大学 整形外科 助教 千葉恒	75 名 (外部 27 名)
11 月 21 日 12 月 1 日・ 5 日・14 日・ 19 日・21 日	院内感染研修会 「インフルエンザの知識を深め実践につなげよう」	当院 感染対策チーム	計 935 名
11 月 24 日	消化器がん治療カンファレンス 「当院における大腸癌治療の現状」 「今後の大腸癌治療戦略について」	当院 外科 部長 濱之上雅博 大阪労災病院 外科 部長 長谷川順一	69 名 (外部 4 名)

11月30日	放射線安全管理研修会 「放射線障害防止法の改正について」	(株) 千代田テクノル 営業統括本部 遠藤正志	28名
12月8日	医療安全研修会 「安全を守るためのコミュニケーション～メンタルモデルを意識しよう!～」	東京海上日動メディカルサービス (株) メディカルリスクマネジメント室 玉利英子	計 901名
12月18日	鹿児島外傷セミナー 「(救急) 外傷に対するマイクロ・形成学的処置のノウハウ」 「骨盤外傷治療のピットフォール」	鹿児島市立病院 整形外科 堀川良治 米盛病院 外傷センター 上野宜功	62名 (外部 35名)
12月27日	第6回定期多施設合同カンファレンス 「支援を拒否した高齢独居の方へのアプローチ」	鹿児島市内6病院の医師・看護師・保健師・薬剤師・臨床心理士・理学療法士・SMW など	20名 (外部 14名)
1月12日 3月2日・8日	ハラスメント研修会 「～metooと言われない為に～」	(株) HAL ビジネス 講師 春田尚子	計 128名

院内外活動報告

つながる想い in かがしま ～がんとともに生きる～

5月13日に昨年10月にオープンした“かんまちあ(鹿児島市上町ふれあい広場)”で開催されました。会場にはチャリティ販売や情報提供ブースもあり、県内がん患者サロンやがん相談支援センター紹介、がん治療中や治療後のケア用品やウイッグなどの展示・販売も行われました。

当院からも医療者大集合のトークショーには理学療法士の高田奨さん、放射線技師や看護師、保健師、職員の子供さんも子供実行委員長として協力、総勢35名以上の参加となりました。今回初めて行われたバルーンリリースではお揃いの法被を着てみんなで風船を飛ばしました。5月らしい青空と夕焼け交じりの澄んだ空にそれぞれの想いを乗せた沢山の

風船が飛んでいく様子は非日常的で感動的な場面でした。夜には“光る風船GINGA”が400個会場内にライトアップされ、今まで経験したことのないようなとても幻想的な空間でした。

来年もまた沢山の想いを乗せた風船を飛ばせるよう協力していきたいと思います。



広報誌「四季だより」52号 平成29年9月より

みんなでいきいき健康まつり

第13回『みんなでいきいき健康まつり』を開催しました。来場者は265名でした。

がんサポートかごしまの三好綾さんの講演「がんとともに生きる」では、参加者から『元気をもたらした』、『生きる勇気をもたらした』、『感動した』などの感想をいただきました。その他の催し物では、例年の各測定や健康相談、今回新たに看護部が行ったAED展示・オムツのつけ方など大変好評でした。

案内や会場移動に関して、場所がわかりづらい、案内が足りない、移動が大変など、ご不自由な思いをされた方もいらっしゃったようです。これらの反省点を改善し、新しい企画を考え、来場者が終日楽しく過ごせるイベントになるよう取り組みたいと思います。

健康まつり実行委員会

1. 開催日 平成29年9月30日(土) 快晴
2. 場所 外来駐車場、別館1F、講義室、リニアックセンター
3. 健康チェック
体脂肪測定、血圧、検尿、骨密度測定、頸部エコー測定
4. 健康相談
専門医による健康相談、いびき無呼吸相談、乳房(おっぱい)相談、お口相談
5. 催し物
職員による合唱・合奏、職員による飲食ブース、ナースの卵(キッズ向白衣体験)、バルーンアート、AED・災害、手洗いチェック、オムツ関連、新病院パネル展示、pepperによる健康チェック 等
6. 院外参加
三線かなさんどう、しょうぶ学園、串ぼうず、工房てたかの飲食出店



広報誌「四季だより」53号 平成29年12月より

【災害時小児周産期リエゾン要請研修】

2017年12月に国立病院機構大阪医療センターにて行われた「災害時小児周産期リエゾン養成研修」に参加しました。リエゾンとは、連絡、連携を意味するフランス語です。

災害時小児周産期リエゾンは厚生労働省の事業で、その目的は、1) 災害時に治療が必要な妊産婦・乳幼児の情報収集し、2) DMAT（災害派遣医療チーム）と連携（リエゾン）して妊産婦・乳幼児へ医療支援を行うことです。

1995年の阪神・淡路大震災を教訓に、大規模災害時のDMATによる医療支援体制が構築され、2011年の東日本大震災では本格的な活動を行いました。その際にDMATだけでは災害時の小児・周産期医療支援への対応が困難であることが指摘され、2016年に災害時小児周産期リエゾン養成事業が開始されました。

2016年の熊本地震では、熊本県の周産期医療の3次施設である熊本市市民病院が本震後倒壊の恐れがあり閉鎖、入院中の妊産婦・新生児の緊急避難が必要となりました。九州圏内の周産期医療施設が協力して患者搬送、受け入れを行いました。

新生児内科 部長
徳久 琢也



当院でも5例の新生児を受け入れております。熊本県庁のDMAT調整本部に災害時小児周産期リエゾンも設置されDMATと共同で活動し、その必要性が認識されました。

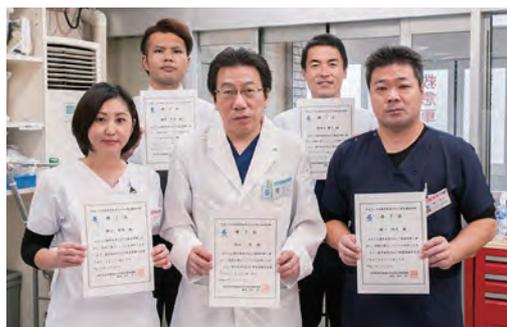
現在、鹿児島県では今給黎総合病院、鹿児島市立病院に災害時小児周産期リエゾンが配置されております。この制度は始まったばかりで私自身活動のイメージがつかかかっているところもありますが、当院には鹿児島県DMATのチームもあり、平時から連携を進めて災害に備えてゆきたいと思っております。



【鹿児島県 DMAT 隊員養成研修】

2017年11月25～26日の二日間、米盛病院にて鹿児島県DMAT隊員養成研修が行われ当院より5名のスタッフが受講しました。

この研修は県内における局所災害に迅速に救出・救援部門と合同して救急医療を行うための災害派遣医療チームを養成する研修です。今後は県内における様々な災害に対して迅速に活動し、1人でも多くの人命を救助できるよう努力して参ります。



広報誌「四季だより」54号 平成30年3月号より転載

昭和会クリニック VI

■ 現状・医療設備概要・業績

- (1) 標榜科目
- (2) 病床数 無床
- (3) 施設概要
- (4) 医療設備概要
- (5) 科別外来患者数
- (6) 外来患者市町村別分布図

昭和会クリニックの現況

(1) 標榜科目(14診療科)

内科、糖尿病内科、神経内科、呼吸器内科、小児科、整形外科
 形成外科、脳神経外科、皮膚科、新生児内科、
 気管食道・耳鼻いんこう科、放射線科、
 歯科、歯科口腔外科

(2) 病床数 無床

(3) 敷地面積 1128.02 m² 建築面積 787.73 m²

(4) 放射線部門 医療設備概要

検査室名(撮影室番号)等		メーカー	機 種 名	台数
1	一般撮影室(10)	島津 キャノン 近畿レントゲン	(1)UD-150B-40(RADIOTEX)	1
			(2)CXDI-50G(臥位用X線デジタルカメラ)	1
			(3)KR8100(パノラマ装置)	1
2	一般撮影室(9)	島津 キャノン	(1)UD-150B-40(RADIOTEX)	1
			(2)CXDI-50G(立位用X線デジタルカメラ)	1
			(3)CM-100(超音波骨密度測定)	1
3	X線CT(MDCT)室(8)	フィリップス	ブリリアンス Brilliance16(16列MDCT)	1
5	骨密度測定室	ホロジック	Discovery Wi	1
6	MRI室	フィリップス	インテラ アチーバ ノバ Intera Achieva Nova(1.5テスラ)	1
受付・ 操作室	C R レーザーイメージャー	ケアストリーム	(1)CR850 (2)ドライビュー8900	1 1
	画像処理	NOBORI 富士	画像ネットワークシステム(PACSクラウド化・検像システム) VINCENT(3Dワークステーション)	1式 1式
口腔外科	デンタル室	朝日レントゲン	サテライト MX-60N	1

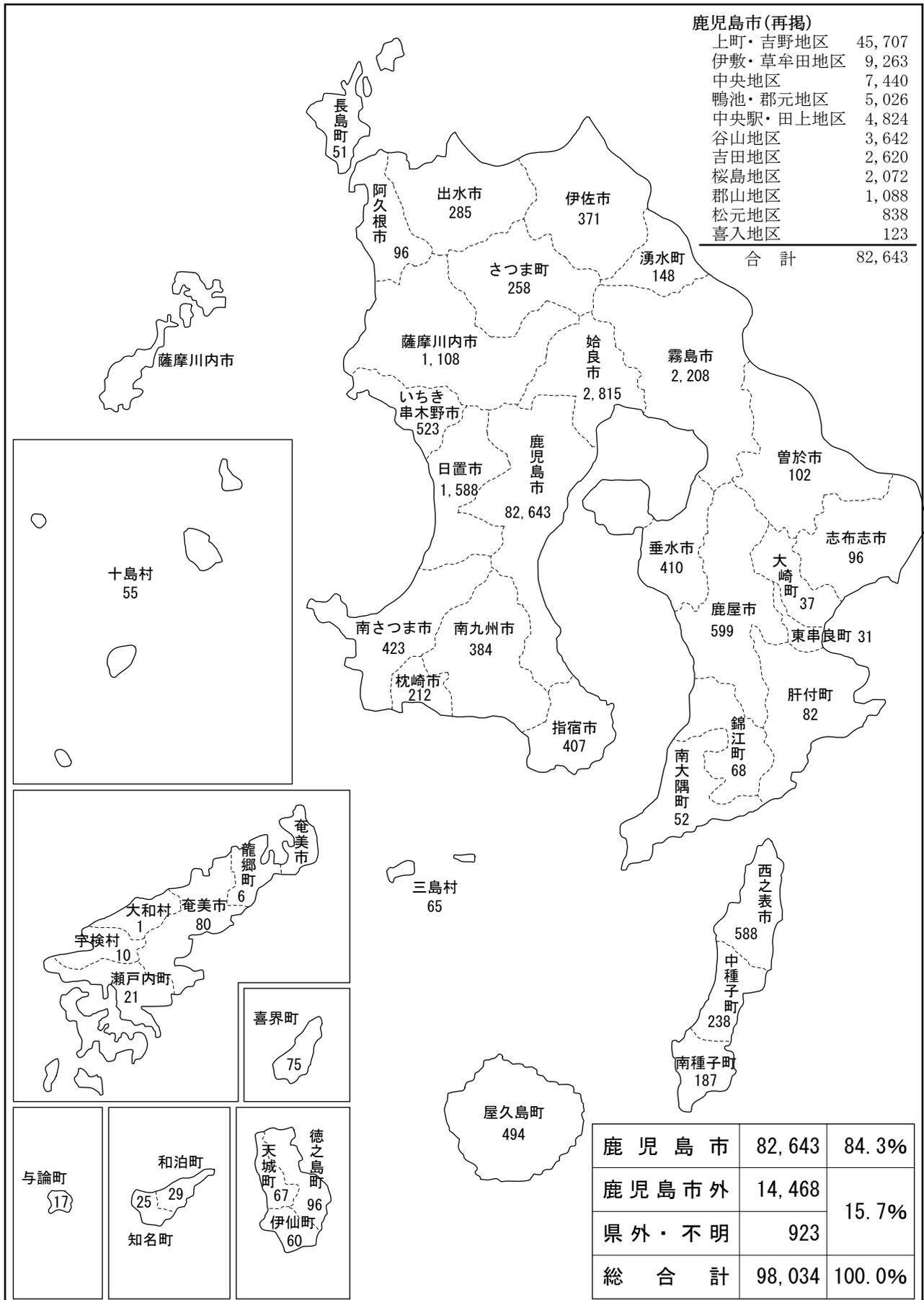
(5) H29年度 科別外来患者数(複数診療科受診を各々1とした場合)

・1日平均:患者数÷平日・土曜日数(祝日除く)・在宅医療含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計	1月平均	1日平均	初診率(%)
総合内科	711	747	766	663	718	476	655	769	700	842	649	628	8,324	694	30.8	34.8
糖尿病内科	130	130	145	157	153	153	159	177	176	188	176	226	1,970	164	7.3	2.6
呼吸器内科	375	496	554	451	439	458	425	458	450	419	366	415	5,306	442	19.7	12.5
神経内科	864	808	823	824	844	829	836	859	821	748	763	794	9,813	818	36.3	10.3
整形外科	2,247	2,399	2,363	2,254	2,389	2,222	2,366	2,163	2,221	2,044	2,038	2,193	26,899	2,242	99.6	14.6
形成外科	481	627	691	654	713	676	584	576	589	517	459	628	7,195	600	26.6	18.0
脳神経外科	288	329	294	316	327	289	298	302	298	301	270	319	3,631	303	13.4	9.5
新生児内科	105	89	116	113	139	144	132	143	119	116	128	132	1,476	123	5.5	1.6
小児科	764	802	862	735	795	727	790	935	1,023	994	830	775	10,032	836	37.2	34.0
気管食道・耳鼻いんこう科	419	515	520	403	481	424	473	457	453	415	421	495	5,476	456	20.3	27.5
皮膚科	783	967	929	1,152	1,196	992	1,042	986	1,006	906	879	973	11,811	984	43.7	22.1
放射線科	6	7	11	6	5	9	14	8	5	3	3	7	84	7	0.3	90.5
歯科	226	245	208	230	250	230	186	210	226	176	157	256	2,600	217	9.6	10.0
歯科口腔外科	311	325	290	274	329	295	281	278	301	225	216	292	3,417	285	12.7	33.5
合計	7,710	8,486	8,572	8,232	8,778	7,924	8,241	8,321	8,388	7,894	7,355	8,133	98,034	8,170	-	19.6
1日平均	350	386	357	366	366	360	358	378	365	376	350	346	-	-	363.1	-
救急車患者数(再掲)	2	3	2	0	1	3	0	3	2	1	3	1	21			

初診	1,613	1,819	1,762	1,670	1,725	1,456	1,509	1,520	1,547	1,691	1,411	1,495	19,218	1,602	65.1	-
再診	6,097	6,667	6,810	6,562	7,053	6,468	6,732	6,801	6,841	6,203	5,944	6,638	78,816	6,568	267.2	-
初診率(%)	20.9	21.4	20.6	20.3	19.7	18.4	18.3	18.3	18.4	21.4	19.2	18.4	19.6	-	-	-

(6) 平成29年度 外来患者市町村別分布図(複数診療科受診を各々1とした場合)



公益財団法人昭和会
昭 和 会 誌 (第23号)

発行日 平成30年11月

発 行 公益財団法人昭和会

今給黎総合病院

〒892-8502 鹿児島市下竜尾町4番16号

電 話 099-226-2211(代表)

FAX 099-222-7906

URL <http://imakiire.jp>

E-mail info@imakiire.or.jp

公益財団法人昭和会

昭和会クリニック

〒892-0852 鹿児島市下竜尾町2番6号

電 話 099-226-2212(代表)

FAX 099-226-3366

URL <http://imakiire.jp>

E-mail info@imakiire.or.jp

公益財団法人昭和会 平成 29 年度事業実施概況書

【 特記事項 】

- 8 月 新病院プロジェクト事業計画書 策定
 9 月 30 日 みんなでイキイキ健康まつり
 10 月 今給黎総合病院 公的医療機関等 2025 プラン 策定

目 次

1. がん医療対策関連	P1～8	} 5 疾病
地域がん診療連携拠点病院活動報告		
1) 公開緩和ケア研修会		
2) がん・緩和ケア研修会		
3) がんに関する講演会・研修会		
4) 「ほっとサロン今給黎」		
5) 院内がん登録集計		
6) 施設基準に基づく主傷病名大分類		
7) がん検診実績		
8) 病院指定		
2. 脳卒中	P8	} 5 事業
3. 急性心筋梗塞	P8	
4. 糖尿病	P8	
5. 精神疾患	P8	
6. 救急医療	P8～10	
7. 災害時における医療	P10	
8. へき地医療	P11	
9. 周産期医療	P11	
10. 小児（救急）医療	P11	
11. 地域医療支援病院活動報告	P11～12	
12. H29 年度クオリティーインディケーター （入院・救急・手術・紹介に関する指標）	P13～14	
13. 初期臨床研修病院実績	P15	
14. 実習病院としての実績	P16～17	
15. 視察・研修・見学（社会人の個人、団体、および学生）の受入	P17～18	
16. 文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動	P18～19	
17. 教育機関への講師派遣	P19	
18. 主な公的会議・研修会への参加、講師派遣	P20～23	
19. 入院患者不在者投票	P23	
20. 施設の公開利用	P23	
21. その他の活動報告	P23	
22. 表彰	P23	
23. 寄付	P23	

1. がん医療対策関連について

地域がん診療連携拠点病院活動報告

1) 厚生労働省局長通知による「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催方針」に則り、地域のがん診療に携わる医師を対象に、当院主催により次の通り「公開緩和ケア研修会」を開催した。

(日 時) 10月28日(土) 13:20～18:30
10月29日(日) 8:20～18:20
(場 所) 宝山ホール
(参加者) 19名
(講師・スタッフ) 33名

2) がん・緩和ケア研修会

6月28日 がん・緩和ケア研修会「困難事例から考える対人援助論」
鹿児島大学医歯学総合研究科 腫瘍学講座 的場康徳 104名聴講(外部17名)

3) がんに関する講演会・研修会への参加

5月25日 緩和ケア他施設合同カンファレンス(鹿児島医療センター) 看護師2名参加
6月3日 南九州病院緩和ケアフォーラム(加音ホール) 看護師1名参加
6月10日～11日 鹿児島大学病院緩和ケア研修会 講師 医師2名・ファシリテーター 看護師1名派遣
7月17日 南九州病院がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 講師 医師1名派遣
7月28日～29日 臨床心理士事例検討会(鹿児島医療センター) 看護師1名派遣
7月29日 日本の死の臨床研究会九州支部第41回研究集会(鹿児島女子短期大学) 看護師1名派遣
8月19日～20日 済生会川内病院がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 講師 医師1名派遣
8月26日 がん診療連携拠点病院 4部門合同研修会・同門会(鹿児島大学) 看護師2名派遣
8月28日 緩和ケア他施設合同カンファレンス(鹿児島市立病院) 看護師1名派遣
9月9日 久留米大学認定看護教育センター緩和ケアセミナー(久留米) 看護師1名派遣
9月9日～10日 平成29年度県民健康プラザ鹿屋医療センター
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 講師 医師1名派遣
9月17日～18日 ケアと対人援助に生かす臨床瞑想法(飛騨光明寺) 看護師1名派遣
9月22日 緩和ケアに関する地域連携会議(鹿児島市医師会館) 看護師2名派遣
9月30日 中央病院事例検討会(天陽会中央病院) 看護師2名派遣
10月25日 緩和ケア他施設合同カンファレンス(鹿児島大学病院) 看護師1名派遣
11月11日 尊厳死協会かごしま講演会(黎明館) 看護師1名派遣
11月16日 鹿児島県がん相談部門会(鹿児島大学病院) 看護師1名派遣
11月16日 乳がん患者の就労支援(相良病院) 看護師1名派遣
11月18日 南風病院がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 講師 医師1名派遣
12月2日 がん看護研究会研修(相良病院) 看護師1名派遣
12月9日 グリーフケアとエンゼルケア(鹿児島県看護協会) 看護師1名派遣
1月8日 鹿児島医療センターがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会講義
「地域連携と治療・療養の場の選択」 医師1名派遣
1月25日 緩和ケア合同カンファレンス(鹿児島医療センター) 看護師1名派遣
2月3日・4日 平成29年度鹿児島県立大島病院
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 講師 医師1名派遣
2月21日 緩和ケアに関する地域連携会議(鹿児島市医師会館) 看護師2名派遣
3月3日 がん相談研究会(東京) 看護師1名派遣
3月3日・4日 平成29年度第2回がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会講師 医師1名派遣

4) 「ほっとサロン今給黎」

がん患者とその家族を対象に、病気や心の悩み、体験などを気軽に語り合い、思いを共有する場として「がんサポートかごしま」と共同で「ほっとサロン今給黎」を院内開催してサポートした。

(毎月第3水曜日開催、無料)

全136名参加

5) 院内がん登録集計

【院内がん登録集計(2017年1月～2017年12月31日)】

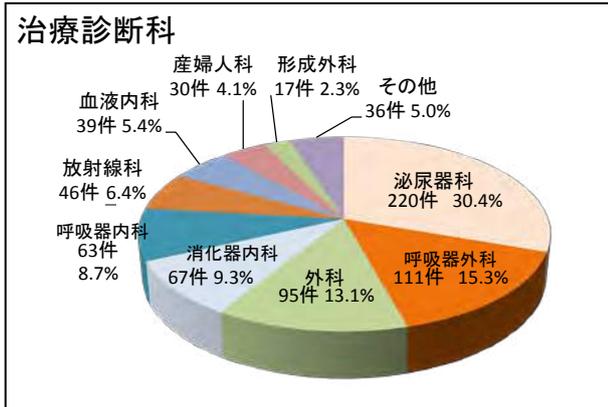
※がん登録の対象となる症例：上記期間中に診断及び治療の対象となった症例

★1腫瘍1登録★ 重複がんの場合は原発の数をそれぞれ登録

①治療診断科

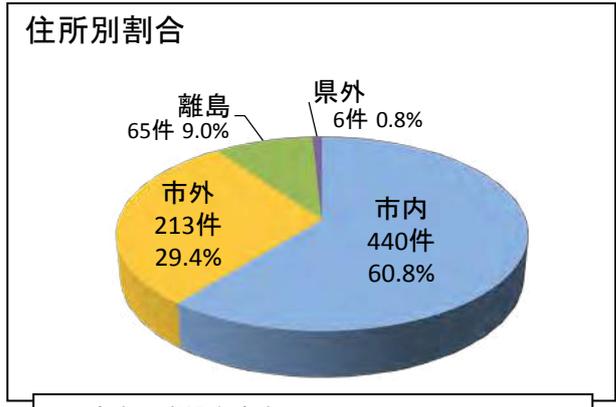
診断のみで終了した場合：診断を行った診療科
 治療を行った場合：初回治療を行った診療科
 どちらも行った場合は、治療をした診療科を1として
 しています。

(例) 消化器内科にて診断、外科にて治療
 ⇒ 外科でカウント



②住所別割合

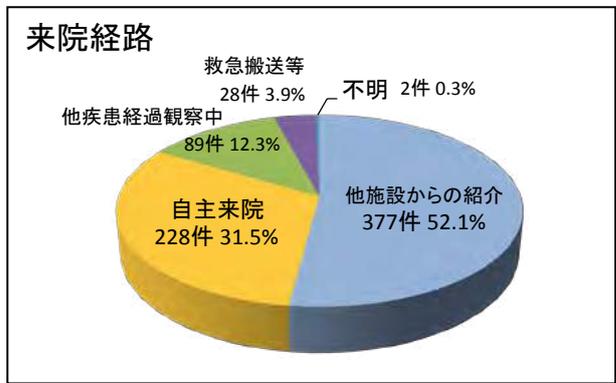
患者様の居住されている地域別分類です。
 市外では多い順に始良市 35、霧島 28、日置 25
 離島では、種子島 28、屋久島 21 の順となっています。



市内：鹿児島市内
 市外：鹿児島市以外の鹿児島県(離島以外)
 離島：鹿児島県の離島
 県外：鹿児島県以外

③来院経路

がんの診断・治療のため当院を受診した経路別分類です。



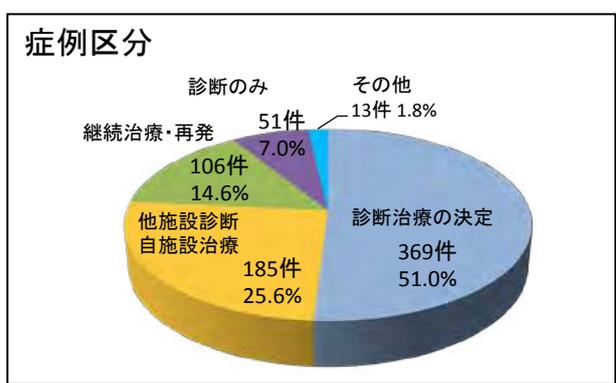
④ 症例区分

診断治療の決定：
 当院でがんの診断を行い、治療方針を決定した症例

施設診断自施設治療：
 がんの診断は他施設で行われ、初回治療を当院で行った症例

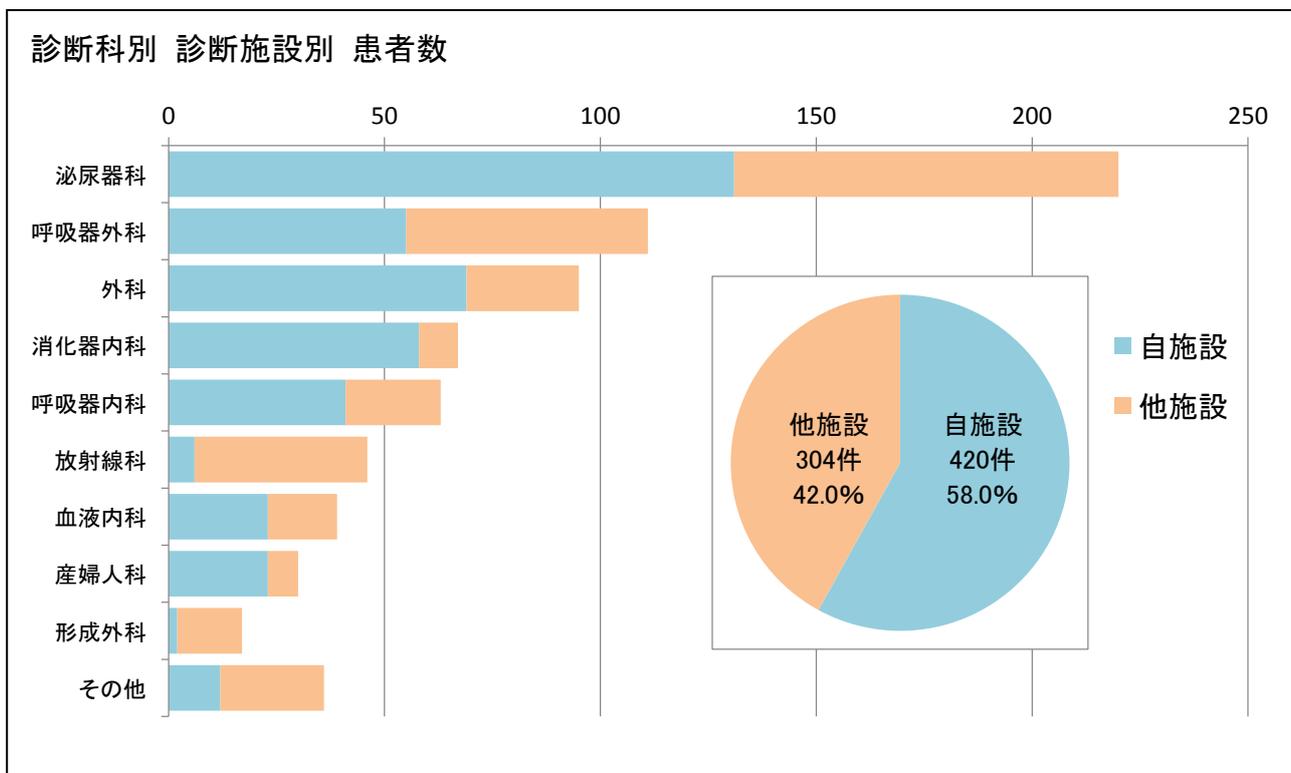
継続治療・再発：
 他施設にて初回治療後、当院にて継続治療を行った症例。もしくは、他施設にて治療後、再発し当院にて治療を行った症例

診断のみの症例：
 当院でがんの診断を行ったが、治療は他施設で行ったもしくは治療を選択しなかった症例



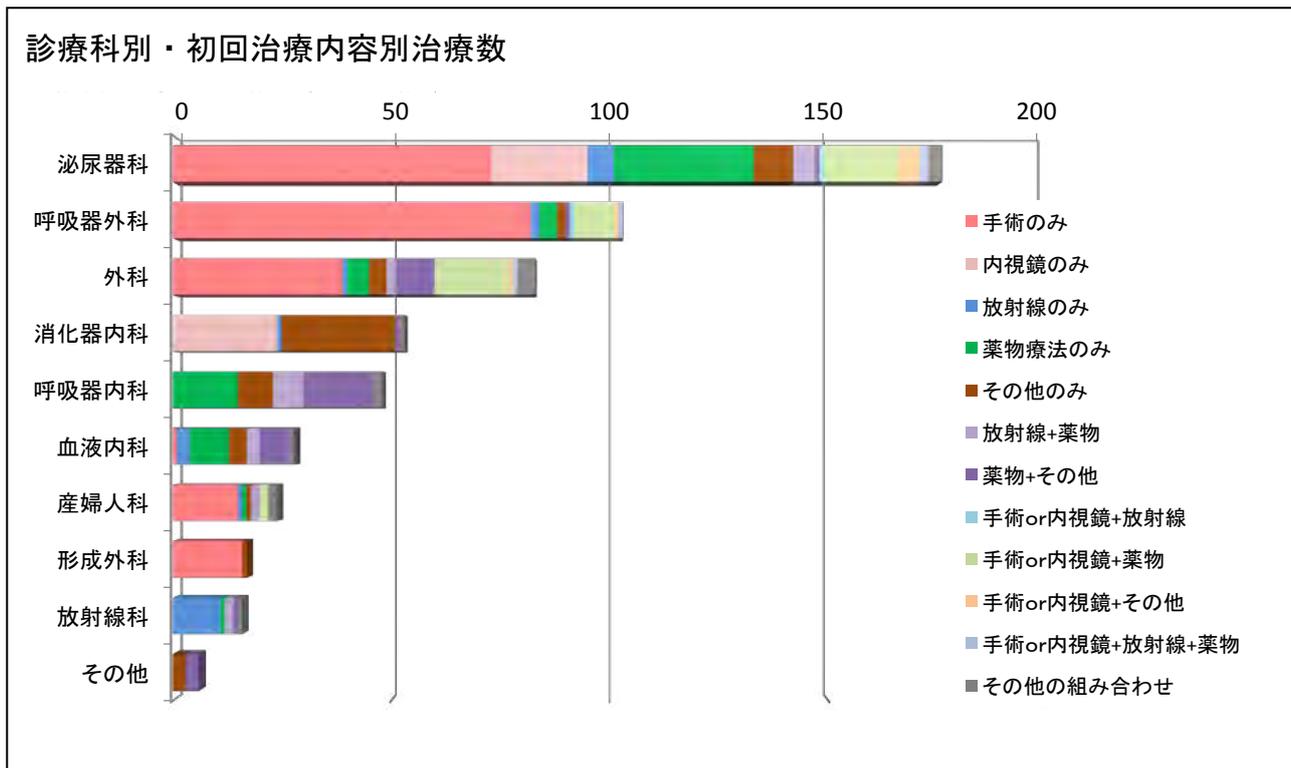
⑤ 診療科別・診断施設別患者数

がん患者様の診断がどこで行われたかを診療科別で示しています。



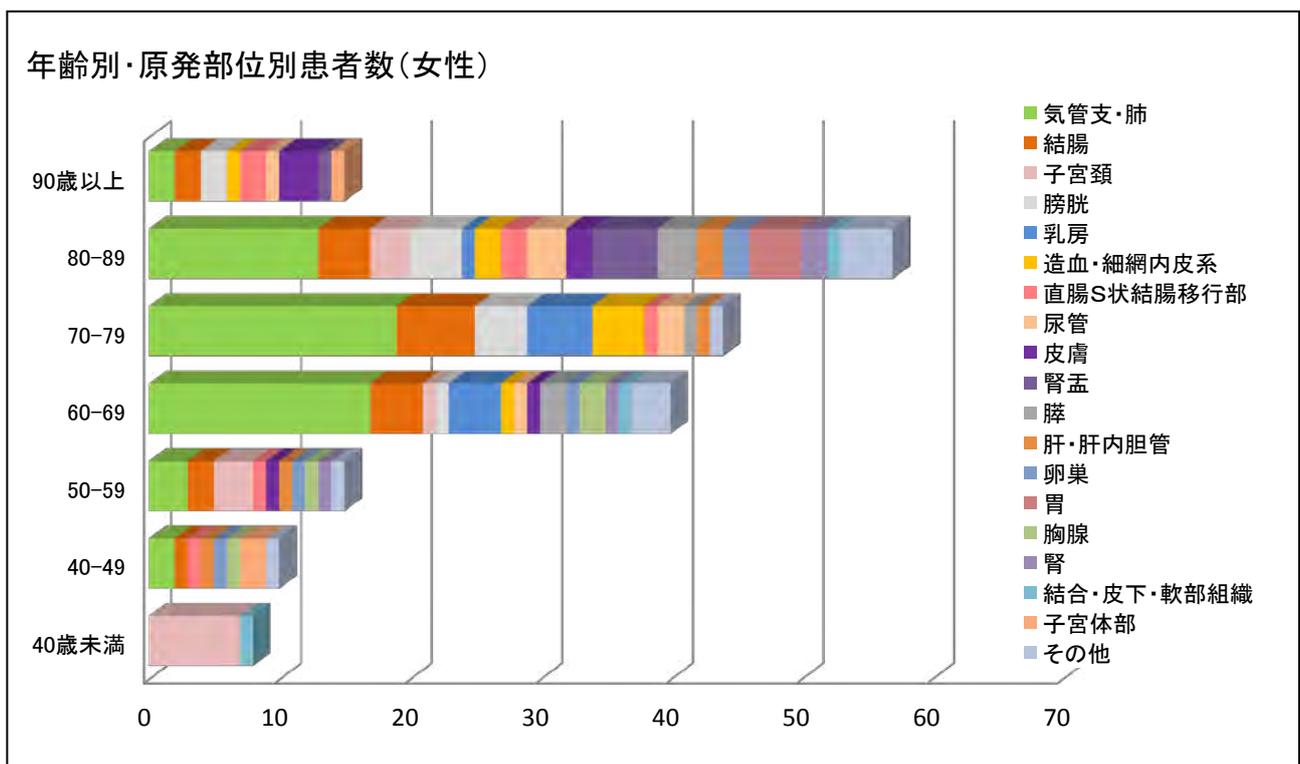
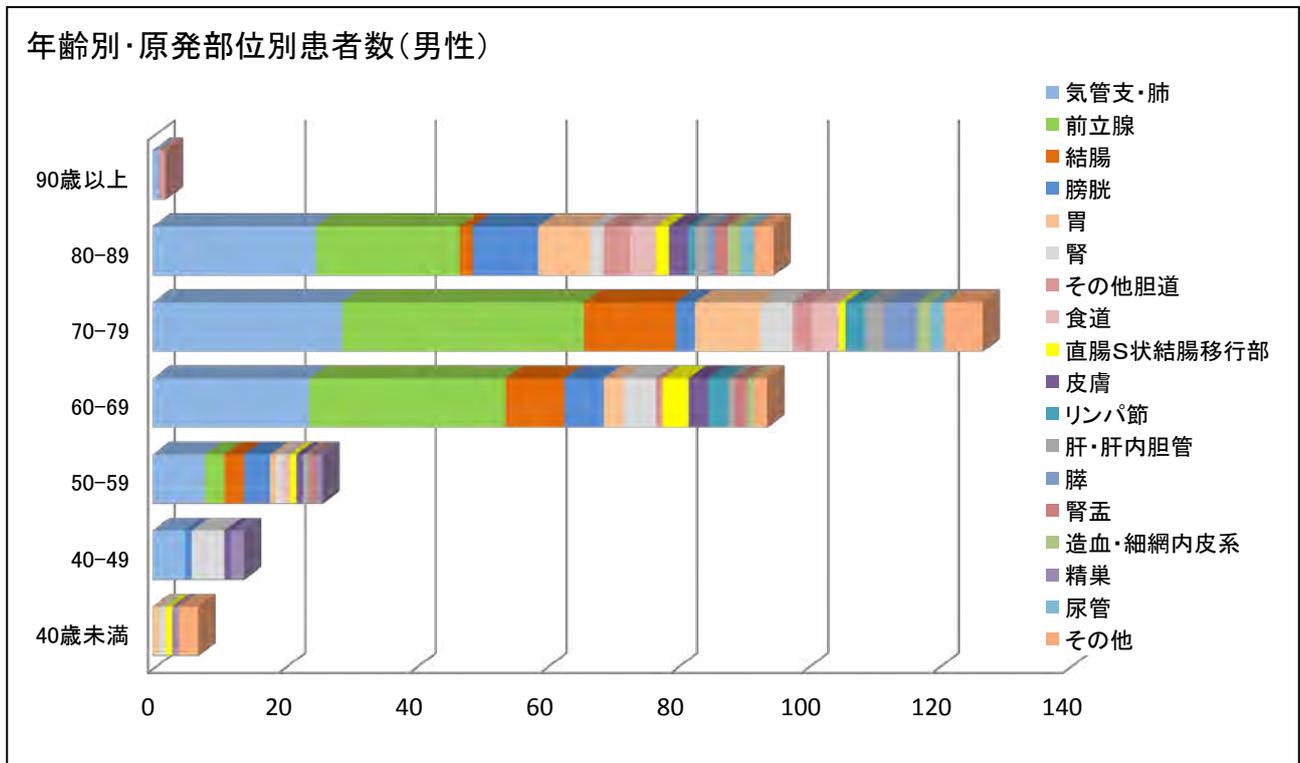
⑥ 診療科別・初回治療内容別治療数

初回治療として選択された治療内容を診療科別で示しています



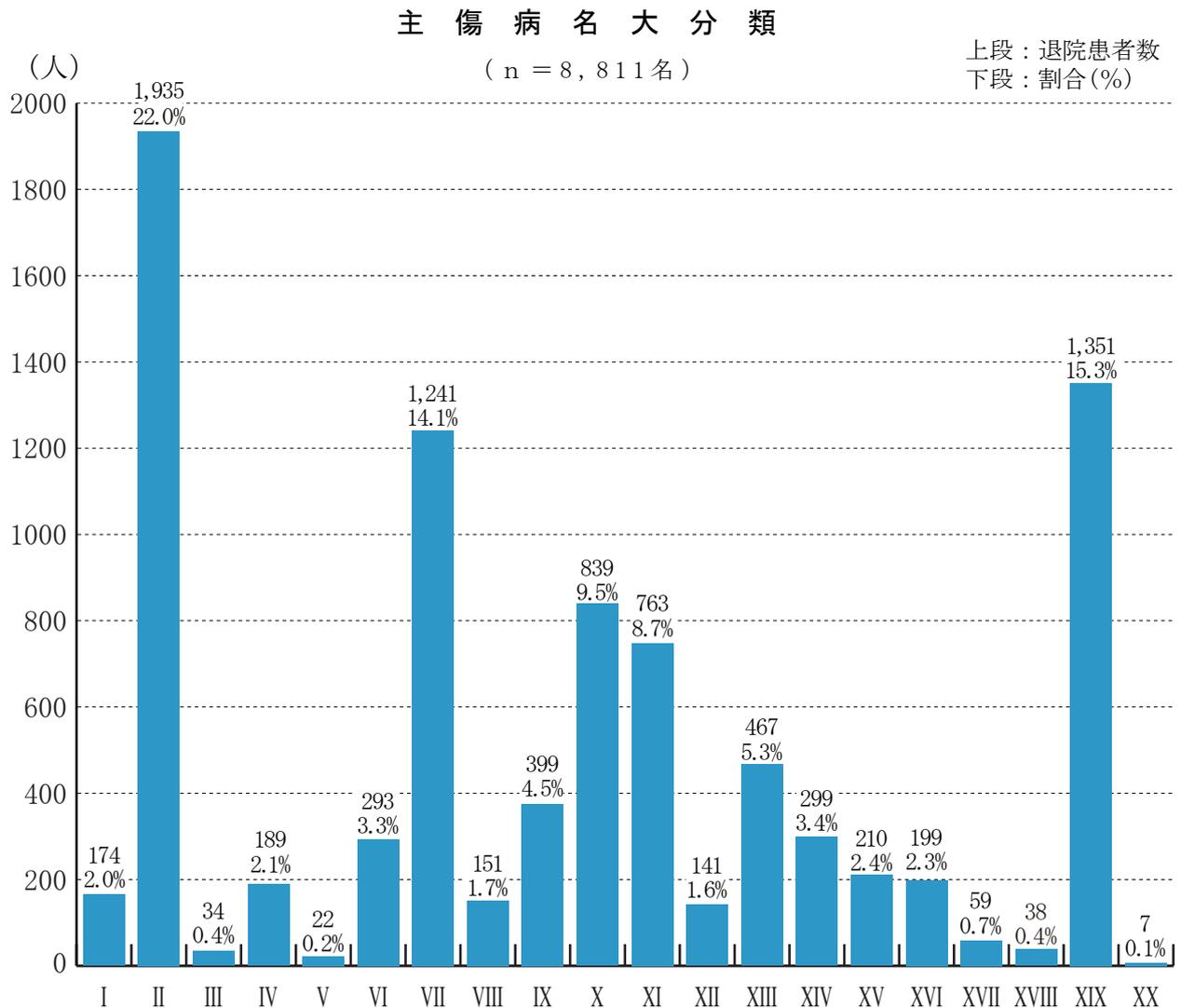
⑦性別・年齢階層別・原発部位別 患者数

どの年代でどのようながんが多いかをグラフ化しています。



6)施設基準に基づく主傷病名大分類

平成29年度 退院患者 I C D 大分類



- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| I 感染症及び寄生虫症 | XII 皮膚及び皮下組織の疾患 |
| II 新生物 | XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患 |
| III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | XIV 腎尿路生殖器系の疾患 |
| IV 内分泌、栄養及び代謝疾患 | XV 妊娠、分娩及び産褥 |
| V 精神及び行動の障害 | XVI 周産期に発生した病態 |
| VI 神経系の疾患 | XVII 先天奇形、変形及び染色体異常 |
| VII 眼及び付属器の疾患 | XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| VIII 耳及び乳様突起の疾患 | XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 |
| IX 循環器系の疾患 | XX 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 |
| X 呼吸器系の疾患 | |
| XI 消化器系の疾患 | |

平成29年度 ICD大分類・診療科別・性別・退院患者数

ICD大分類	男女合計	総数	総内	神内	呼内	消内	循内	糖	小	外科	呼外	皮	整	形	脳	泌	産	新生児	婦	眼	耳	放	麻	口腔	緩和
総数	8,811	男 4,613 女 4,198	175 176	271 294	364 188	388 271	69 68	27 18	113 94	326 221	257 123	24 39	584 764	246 218	125 132	508 128	- 205	115 87	- 208	648 624	243 167	30 12	4 3	84 143	12 15
I 感染症及び寄生虫症	174	男 78 女 96	10 10	7 15	17 20	10 11	- 1	- -	17 11	3 6	1 2	6 17	- -	- -	- -	3 -	- -	- -	- -	- -	4 2	- -	- -	- -	- 1
II 新生物	1,935	男 1,206 女 729	30 36	6 6	189 92	171 103	2 -	- -	- 1	172 112	148 74	- -	9 5	51 72	3 2	379 57	- 1	- -	- 139	- -	3 3	29 11	- -	3 2	11 13
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	34	男 12 女 22	3 8	1 2	3 1	- 2	- -	- 1	2 3	- 1	1 -	1 2	- -	- -	- -	1 -	- -	- 2	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	189	男 112 女 77	6 7	16 14	2 -	1 1	4 17	25 13	9 2	1 2	1 2	- -	1 3	2 -	- -	1 -	- -	- -	- -	43 16	- 1	- -	- -	- -	- -
V 精神及び行動の障害	22	男 9 女 13	3 1	4 5	1 1	- -	- -	- -	1 -	- -	- 3	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- 1	- -	- -	- -
VI 神経系の疾患	293	男 134 女 159	17 8	94 117	1 2	- 2	2 5	- -	1 3	- 1	2 -	- -	7 8	3 3	5 7	- -	- -	- -	- -	- -	2 1	- 2	- -	- -	- -
VII 眼及び付属器の疾患	1,241	男 602 女 639	- -	- 2	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	10 36	- -	- -	- -	- -	- -	592 601	- -	- -	- -	- -	- -
VIII 耳及び乳様突起の疾患	151	男 67 女 84	2 3	9 21	- -	- 4	- 3	- -	- 1	1 2	2 2	- -	- -	- -	- 3	1 1	- -	- -	- -	- -	- -	53 44	- -	- -	- -
IX 循環器系の疾患	399	男 206 女 193	4 7	72 50	- 2	5 8	48 47	- -	- -	1 1	2 1	- -	4 1	67 72	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	3 -	- -	- 1
X 呼吸器系の疾患	839	男 524 女 315	69 51	22 20	137 61	7 4	2 6	1 -	74 50	1 1	52 16	- -	1 3	1 -	3 1	1 -	- -	- -	- -	- -	152 101	- -	- 1	- -	- -
XI 消化器系の疾患	763	男 405 女 358	4 4	1 2	- -	185 120	1 2	- -	1 1	130 82	1 -	1 -	1 2	- -	- -	- 1	- 1	- -	- 3	- -	6 5	- -	- -	75 135	- -
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	141	男 78 女 63	5 2	1 -	1 -	- -	- -	- -	3 4	- 2	1 -	16 16	4 3	42 33	- -	- -	- -	- -	- 1	- -	2 -	- -	- -	3 2	- -
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	467	男 256 女 211	6 11	12 20	2 4	1 1	1 -	- -	- 2	- -	2 -	- 1	202 158	30 13	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- 1	- -
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	299	男 145 女 154	7 17	9 8	- 1	2 3	5 1	- -	1 1	3 2	2 2	- -	- 1	3 2	- 2	113 62	- -	- -	- 51	- -	- -	- 1	- -	- -	- -
XV 妊娠、分娩及び産褥	210	男 - 女 210	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- 200	- -	- 10	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
XVI 周産期に発生した病態	199	男 114 女 85	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- 114	- 85	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	59	男 27 女 32	- -	1 -	- -	- 2	- -	- -	- 1	- -	- -	- -	1 -	19 22	1 -	- 1	- -	1 1	- 2	1 -	3 3	- -	- -	- -	- -
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	38	男 21 女 17	1 2	3 3	2 1	2 4	- 1	- -	2 -	1 -	2 -	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	- 1	- -	- -	8 3	- -	- -	- -	- -
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,351	男 612 女 739	8 9	12 9	9 3	4 5	3 1	1 -	2 3	11 9	40 20	1 3	358 579	81 33	46 45	9 5	- 2	- -	- -	12 6	10 2	1 -	1 2	2 3	1 -
XX 健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	7	男 5 女 2	- -	1 -	- -	- -	1 -	- -	- -	2 -	- -	- -	- -	- -	- -	1 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

7) 当院で実施しているがん検診実績

【乳がん検診】

- ◇検診項目：視触診及びマンモグラフィー検査
- ◇当院の乳がん検診対象の方
 - ・鹿児島市「いきいき受診券・乳がん検診」対象の方
 - ・下記の市町村による「無料クーポン券」事業へも参加しております(鹿児島市・霧島市・垂水市)。

受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成27年度	3	7	13	13	8	11	19	18	7	8	10	10	127
平成28年度	9	3	11	19	14	17	13	6	9	3	14	12	130
平成29年度	3	8	14	15	12	7	7	6	5	9	7	7	100

【子宮がん検診】

- ◇検診項目：頸部、体部検査(細胞診)※体部検査は、医師の判断により実施
- ◇当院の子宮がん検診対象の方
 - ・鹿児島市「いきいき受診券・子宮がん検診」対象の方
 - ・下記の市町村による「無料クーポン券」事業へも参加しております(鹿児島市・霧島市・垂水市)。

受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成27年度	9	7	19	17	4	13	18	9	11	7	15	8	137
平成28年度	14	10	15	20	7	16	12	6	17	8	8	11	144
平成29年度	7	9	11	15	9	13	8	9	8	6	10	9	114

【低線量CT肺がん検診】

- ◇当院は鹿児島県「低線量CT肺がん検診事業」へ参加しております。
- ◇当院の低線量CT肺がん検診対象の方
 - ・鹿児島県在住、50歳以上の方
 - ※肺がん治療中または肺がん疑いで経過観察中、肺がん術後の方は対象外です。

受診件数

／月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成27年度	10	5	0	8	7	6	5	7	7	7	62
平成28年度	13	22	9	12	14	2	4	2	3	5	86
平成29年度	13	8	4	3	10	6	3	2	6	10	65

【大腸がん検診】

- ◇検査項目：便の潜血反応検査
- ◇当院の大腸がん検診対象の方
 - ・鹿児島市「いきいき受診券・大腸がん検診」対象の方
 - ・40歳以上の方

受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成27年度	2	4	12	7	8	3	5	2	7	3	7	4	59
平成28年度	1	3	5	3	4	2	2	3	3	2	0	3	31
平成29年度	2	10	6	2	1	3	2	3	3	1	1	6	40

【前立腺がん検診】

- ◇検査項目：PSA(特異抗原)検査(血液検査)
- ◇当院の前立腺がん検診対象の方
 - ・鹿児島市「いきいき受診券・前立腺がん検診」対象の方
 - ・50歳、55歳、60歳、70歳になる男性

受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成27年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
平成28年度	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
平成29年度	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

- 8) 病院指定
 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師研修事業 研修施設認定
 認定期間：2017年4月1日～2022年3月31日

2. 脳卒中 記載事項なし

3. 急性心筋梗塞 該当事項なし

4. 糖尿病

4月1日	第1回糖尿病医療学研究会 IN 鹿児島	2名参加
4月23日	鹿児島糖尿病メディカルスタッフ連携セミナー	3名参加
6月10日	第22回鹿児島糖尿病スタッフセミナー「インスリン療法と食事管理」発表	200名聴講 管理栄養士1名派遣
6月15日	1型糖尿病の家族の会さくらんぼの会(今給黎総合病院 講義室) 「やりたいことと1型糖尿病患者の血糖コントロールとのバランス」	60名聴講
11月16日	鹿児島市医師会主催 糖尿病予防講演会「健康食は糖尿病食」講師	150名聴講 管理栄養士1名派遣
8月26日・27日	第48回小児1型糖尿病サマーキャンプ	小児科医師1名派遣

5. 精神疾患 該当事項なし

6. 救急医療

1) 洋上救急出動簿 平成28年度は出動要請なし

2) 離島緊急医療活動一覧

搬送日	市町村名	症 状
4月2日	奄美市	環椎骨折
5月4日	奄美市	腰椎破裂骨折
5月15日	西之表市	頸椎脱臼骨折
5月22日	奄美市	第6頸椎破裂骨折
7月7日	奄美市	第11胸椎椎体骨折
7月12日	屋久島町	胸椎破裂骨折
9月24日	奄美市	第6・7頸椎脱臼骨折
11月28日	奄美市	骨盤骨折
12月7日	奄美市	頸椎化膿性脊椎炎
12月25日	屋久島町	左示指末節骨開放骨折
12月29日	西之表市	右外傷性血気胸・胸腔に達する開放創合併
1月19日	奄美市	第1腰椎破裂骨折
2月6日	奄美市	腰椎化膿性脊椎炎

3) 鹿児島市医師会休日当番医輪番担当及び夜間急病センターの全夜間輪番オンコール担当を次の様に担当し、診療活動を行った。

【休日当番医輪番】

4月2日	眼科	5月5日	皮膚科・泌尿器科
7月2日	内科・外科・産婦人科	8月15日	眼科
9月18日	整形外科	10月8日	内科・外科・産婦人科
10月15日	皮膚科・泌尿器科	1月2日	内科・外科・産婦人科
2月4日	皮膚科	2月18日	眼科

【全夜間輪番在宅医】

- ・オンコール
 眼科 延14日 皮膚科・泌尿器科 延9日 整形外科 延5日 産婦人科 延13日
- ・バックアップ
 整形外科 延41日

4) 鹿児島市高規格救急車指示病院としての活動

4月17日～28日	鹿児島市消防局	救急救命士の就業前病院実習	2名
5月2日～5月18日	鹿児島市消防局	救急救命士の就業前病院実習	2名
6月8日・9日	鹿児島市消防局	救急救命士 病院実習	2名
11月6日～13日	鹿児島市消防局	救急救命士 病院研修(再教育)	1名
11月27日～12月4日	鹿児島市消防局	救急救命士 病院研修(再教育)	1名
1月15日～22日	鹿児島市消防局	救急救命士 病院研修(再教育)	1名
1月22日～2月2日	救急救命九州研修所	救急救命士研修課程 臨床実習	3名
2月19日～2月26日	鹿児島市消防局	救急救命士の病院研修(再教育)	1名
2月19日～3月2日	鹿児島市消防局	救急救命士の就業前病院実習	1名
2月22日	鹿児島市消防局	病院実習	1名
2月23日	鹿児島市消防局	病院実習	1名
3月6日～19日	鹿児島市消防局	救急救命士の就業前病院実習	1名

5) 鹿児島市高規格救急車指示病院としての活動

※救急救命処置に対する医師の具体的な指示状況21件

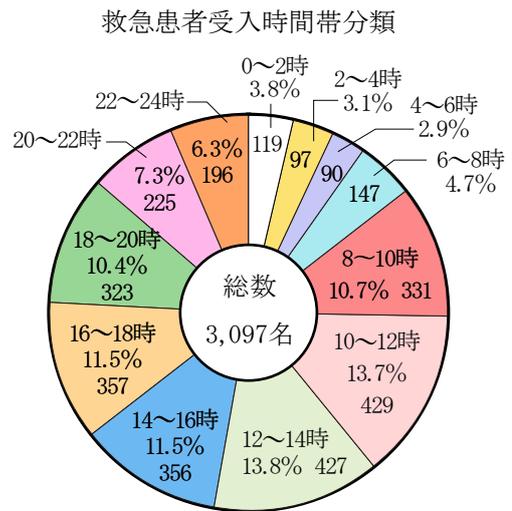
日付	救急隊	年齢	性別	指示医師	指示要請
10月12日	上町	80	女	新村	あり
11月3日	吉野	39	男	川畑	あり
12月19日	上町	57	男	内村	あり
12月27日	上町	89	女	上村	あり
12月8日	吉野	96	女	林	あり
1月10日	吉野	68	男	西山	あり
1月26日	伊敷	84	女	下舞	あり
1月29日	吉野	85	女	貞村	あり
1月6日	吉野	74	女	上村	あり
2月27日	南林寺	73	女	小田	あり
4月8日	吉野	54	女	野口	あり
5月11日	上町	90	女	南	あり
5月1日	吉田	81	男	甲斐	あり
5月21日	吉田	83	男	亀之原	あり
6月22日	吉野	89	女	今給黎和幸	あり
7月10日	吉野	86	男	下舞	あり
7月9日	伊敷	95	男	黒島	あり
8月24日	吉野	74	男	里村	あり
8月27日	吉野	82	男	黒島	あり
8月8日	伊敷	78	女	志岐	あり
9月11日	西本署	81	女	緑川	あり

6) 年度別救急車受入台数(患者数)

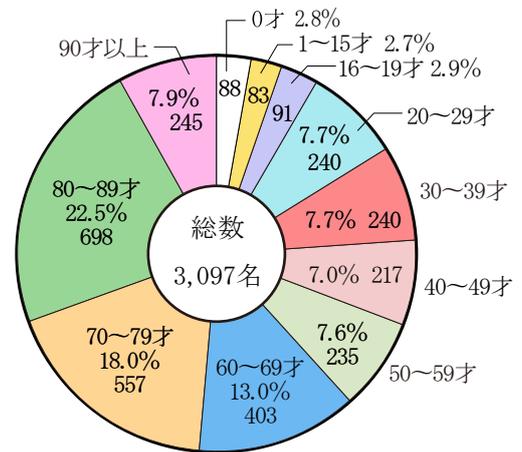
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
4 月	214 (220)	199 (202)	221 (224)	219 (223)	218 (221)
5 月	228 (235)	213 (217)	219 (226)	205 (211)	238 (240)
6 月	208 (213)	206 (209)	210 (215)	206 (206)	218 (220)
7 月	247 (251)	225 (229)	209 (215)	208 (212)	286 (289)
8 月	249 (253)	212 (216)	259 (264)	251 (253)	270 (276)
9 月	197 (201)	224 (226)	205 (213)	224 (226)	233 (239)
10 月	230 (233)	202 (205)	248 (252)	211 (211)	232 (239)
11 月	224 (226)	222 (224)	213 (215)	235 (237)	268 (270)
12 月	218 (223)	227 (232)	249 (253)	291 (293)	279 (282)
1 月	201 (208)	244 (243)	243 (248)	259 (259)	286 (295)
2 月	212 (221)	204 (209)	228 (232)	208 (209)	256 (259)
3 月	209 (217)	227 (230)	251 (257)	214 (214)	263 (267)
合計	2,637 (2,701)	2,605 (2,642)	2,755 (2,814)	2,731 (2,754)	3,047 (3,097)
月平均	219.8 (225.1)	217.1 (220.2)	229.6 (234.5)	227.7 (229.5)	253.9 (258.0)
日平均	7.2 (7.4)	7.1 (7.2)	7.5 (7.7)	7.5 (7.5)	8.3 (8.5)
ドクターカー (再掲)	-	20	41	57	53
ドクターヘリ (再掲)	-	51	21	53	34

7) 平成 29 年度

救急患者受入時間帯・年齢別分類



救急患者年齢別分類



8) 県消防、防災ヘリコプターの積極的活用に係る医師搭乗システム移動病院として輪番を担当した。

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 4月1日・2日・3日 | 5月23日・24日・26日・27日・28日 |
| 6月21日 | 8月11日・12日・13日・14日・15日・16日 |
| 10月11日・13日・14日・15日・16日・17日 | 12月6日・8日・9日・10日・11日・12日 |
| 1月31日 | 2月2日・3日・4日・12日・13日 |

7. 災害時における医療

1) 災害救護訓練等への参加

- | | | |
|------------|---|-------------------|
| 5月10日 | 平成29年度乙種防火管理講習 | 看護師8名参加 |
| 6月20日・21日 | 平成29年度第1回乙種防火管理新規講習 | 看護師2名参加 |
| 6月27日・28日 | 平成29年度第1回防火・防災管理新規講習
第2回乙種防火管理新規講習同時開催 | 看護師2名参加 |
| 9月7日 | 平成29年度多数傷病者事故対応訓練における電話連絡訓練 | 参加 |
| 11月10日 | 自衛消防隊消火器競技会 七ツ島講演 | 調理師1名・事務1名参加 |
| 11月25日・26日 | 鹿児島県DMAT養成研修 | 医師1名・看護師1名・事務2名参加 |
| 12月6日 | 鹿児島県医師会第1回災害医療講習会 | 栄養士3名参加 |
| 2月3日 | 鹿児島原子量防災訓練 | 放射線技師2名参加 |
| 12月6日 | 鹿児島県医師会 第1回災害医療講習会 | 1名参加 |

8. へき地医療記載事項なし

9. 周産期医療

NICU 受入（鹿児島市立病院） 73 件
（その他の病院） 8 件

10. 小児（救急）医療

1) 平成29年度小児科救急車一覧表

月日	年齢	性別	症状	担当医師	入院・外来
4月25日	4	女	急性肺炎	堀之内兼一	外来
5月30日	11	女	アナフィラキシーショック	堀之内兼一	入院
6月15日	2	男	熱性痙攣	玉田泉	入院
6月28日	13	女	線維筋痛症	堀之内兼一	入院
9月16日	9	女	虫垂炎	上野さやか	外来
9月21日	9	男	偏頭痛	堀之内兼一	入院
2月3日	1	女	熱性痙攣	堀之内兼一	外来

2) 学校検診関係・会議・研修会等への参加、講師派遣

9月11日	先天性代謝異常等検査連絡協議会 委員 (精密検査の受け入れ、年1回協議会)	小児科医1名派遣
8月25日～27日	ターナー症候群家族会「MIRAIの会」 指導医(年2回)	小児科医1名派遣
8月25日～27日	第48回小児糖尿病サマーキャンプ 栄養管理指導	栄養管理士1名参加
	鹿児島市学校腎臓・糖尿検診	小児科医1名派遣
	鹿児島県小児慢性特定疾患対策協議会委員(年12回審査会、年1回委員会)	小児科医1名派遣

11. 地域医療支援病院活動報告

医師・看護師・保健師・栄養士・検査技師による、地域の医療従事者・地域住民の方を対象に、健康増進への普及を図った。

月日	演題	講師	参加者数
4月7日	地域医療漢方セミナー 「チーム医療の中で漢方を活かす」	愛知厚生連 知多厚生病院 副院長 丹村敏則	69名 (外部1名)
4月11日	院内勉強会 「薬剤起因性消化管傷害の発症ゼロを目指して」	当院 消化器内科 部長 吉永英希	67名
4月26日	第5回定期多施設合同カンファレンス 「患者・家族からの激しいクレームにどう対応していますか？」	鹿児島市内10病院の医師・看護師・薬剤師・栄養士・ ケアマネ・MSWなど	30名 (外部26名)
5月24日	個人情報保護推進委員会 スマホ、ケータイ安全教室	NTTドコモスマホケータイ安全教室 インストラクター 西口奈来	115名
6月14日	がん免疫療法診療連携カンファレンス 「当院における免疫チェックポイント阻害剤の使用経験について」 「肺がん免疫チェックポイント阻害薬～何をどう使う？～」	当院 呼吸器内科 医長 新村昌弘 当院 呼吸器外科 科長 今給黎尚幸 神戸市立医療センター中央市民病院 呼吸器内科 藤本大智	134名 (外部22名)
6月25日	1型糖尿病の家族の会 さくらんぼの会 「やりたいことと1型糖尿病患者の血糖コントロールとのバランス」	陣内病院 薬剤部 主任 吉田陽	31名 (外部21名)
6月28日	がん・緩和ケア研修会 「困難事例から考える対人援助論」	鹿児島大学医歯学総合研究科 腫瘍学講座 的場康徳	104名 (外部17名)
7月14日 ・15日	院内感染研修会 「当院の環境調査結果と医療施設の環境清掃の重要性」	花王プロフェッショナルサービス(株) 学術情報グループ感染認定看護師 古賀暁子	計531名

7月26日	院内感染研修会 「細菌性肺炎から学ぶ抗菌薬の使い方」	当院 呼吸器内科 部長 岩川純	169名
10月13日	がん・緩和ケア研修会 「今、在宅医療でできる事～緩和も小児も難病も～」	五反田内科クリニック 院長 五反田満幸	92名 (外部30名)
10月19日	静脈血栓塞栓症セミナー ～がんと静脈血栓塞栓症～ 「急性肺血栓塞栓症の抗凝固療法別血栓体積量の急性期変化についての検討」 「これだけは知っておきたい静脈血栓塞栓症の知識～Canser の話題を中心に～」	薩南病院 循環器内科 医長 伊集院駿 大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科学 学部内講師 畑泰司	111名 (外部17名)
11月15日	「EGFR-TKI 皮膚障害に対するケアの実践」 「肺がん治療における分子標的薬の必要性、副作用管理の必要性について」 「Rash マネジメントにおける看護師の役割」	当院 呼吸器内科 岩川純 熊本中央病院 化学療法認定看護師 野中由美子	64名 (外部15名)
11月16日	骨粗鬆症地域連携の会～DXA検査による骨粗鬆症の連携～ 「顎骨壊死を防ぐための医科・歯科連携～顎骨壊死ポジションペーパー2016を踏まえて」 「骨粗鬆症の治療と研究の最前線 HR-p QCTによる骨微細構造解析」	当院 歯科口腔外科 部長 吉田雅司 当院 整形外科 部長 松永俊二 長崎大学 整形外科 助教 千葉恒	75名 (外部27名)
11月21日 12月1日・ 5日・14日・ 19日・21日	院内感染研修会 「インフルエンザの知識を深め実践につなげよう」	当院 感染対策チーム	計935名
11月24日	消化器がん治療カンファレンス 「当院における大腸癌治療の現状」 「今後の大腸癌治療戦略について」	当院 外科 部長 濱之上雅博 大阪労災病院 外科 部長 長谷川順一	69名 (外部4名)
11月30日	放射線安全管理研修会 「放射線障害防止法の改正について」	(株)千代田テクノル 営業統括本部 遠藤正志	28名
12月8日	医療安全研修会 「安全を守るためのコミュニケーション～メンタルモデルを意識しよう！～」	東京海上日動メディカルサービス (株) メディカルリスクマネジメント室 玉利英子	計901名
12月18日	鹿児島外傷セミナー 「(救急) 外傷に対するマイクロ・形成学的処置のノウハウ」 「骨盤外傷治療のピットフォール」	鹿児島市立病院 整形外科 堀川良治 米盛病院 外傷センター 上野宜功	62名 (外部35名)
12月27日	第6回定期多施設合同カンファレンス 「支援を拒否した高齢独居の方へのアプローチ」	鹿児島市内6病院の医師・看護師・保健師・薬剤師・臨床心理士・理学療法士・SMWなど	20名 (外部14名)
1月12日 3月2日・8日	ハラスメント研修会 「～metooと言われない為に～」	(株)HAL ビジネス 講師 春田尚子	計128名

12. 平成29年度クオリティインディケーター(入院・救急・手術・紹介に関する指標)

H29	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H30.1月	2月	3月	合計	平均
平均在院日数(日)														
調整後	16.5	16.5	15.6	15.7	15.4	15.6	15.6	15.4	14.6	17.3	17.1	16.1		16.0
未調整	16.8	16.7	16.2	16.2	15.7	15.6	14.9	15.2	14.8	17.8	17.4	16.3		16.1
3ヶ月平均	16.7	16.6	16.2	15.9	15.6	15.6	15.5	15.5	15.2	15.7	16.2	16.8		16.0
入院・退院患者(人)／病床稼働率(%)														
入院患者数(人)	633	750	695	789	755	712	780	747	766	744	670	752	8,793	733
退院患者数(人)	674	673	750	743	769	753	751	738	845	644	674	797	8,811	734
稼働率(%)	81.1	85.3	86.6	88.7	86.0	84.5	82.0	83.5	85.4	88.6	93.0	90.2		86.2
医療・看護必要度(%)														
重症患者割合	32.6	31.0	31.2	31.8	30.4	29.2	29.0	29.0	31.3	30.9	29.8	27.8		30.3
在宅復帰率(%)														
自宅等復帰割合	92.8	91.7	92.1	92.1	92.6	93.9	92.6	94.7	93.3	91.3	89.4	91.3		92.3
外来患者数(件)														(1日平均)
今給黎総合病院	4,370	4,534	4,773	4,597	4,981	4,567	4,841	4,534	4,548	4,653	4,400	4,546	55,344	204
昭和会クリニック	7,688	8,459	8,555	8,209	8,767	7,898	8,213	8,305	8,372	7,883	7,343	8,112	97,804	364
救急科(受入)実績														
救急車台数(台)	218	238	220	286	270	233	232	268	279	286	256	263	3,049	254
搬送者数(人)	221	240	222	289	276	239	239	270	282	295	259	267	3,099	258
入院	115	142	130	164	133	150	148	167	182	167	142	139	1,779	148
外来	106	98	92	125	143	89	91	103	100	128	117	128	1,320	110
入院率	52.0%	59.2%	58.6%	56.7%	48.2%	62.8%	61.9%	61.9%	64.5%	56.6%	54.8%	52.1%		57.4%
ドクターヘリ搬送(件)	3	8	0	3	2	3	3	2	2	2	4	1	33	3
ドクターカー搬送(件)	5	2	4	4	4	4	5	12	3	5	1	6	55	5
紹介患者	45 (43)	45 (45)	43 (41)	48 (47)	54 (48)	52 (50)	45 (44)	44 (42)	55 (54)	70 (69)	41 (38)	52 (50)	594 (571)	50 (48)
交通事故患者	38 (9)	33 (13)	28 (5)	40 (19)	32 (8)	32 (18)	28 (13)	41 (14)	25 (10)	33 (10)	31 (9)	34 (10)	395 (138)	33 (12)
外傷患者	59 (31)	71 (37)	53 (31)	74 (36)	63 (29)	61 (35)	53 (28)	61 (40)	66 (34)	63 (34)	66 (35)	67 (24)	757 (394)	63 (33)
急病患者	79 (32)	91 (47)	98 (53)	127 (62)	127 (48)	94 (47)	113 (63)	124 (71)	136 (84)	129 (54)	121 (60)	114 (55)	1,353 (676)	113 (56)
CPA(心肺停止)件数	2	5	1	3	5	5	4	2	4	7	3	4	45	4
t-PA(超急性期脳卒中)件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
手術件数(件)														
手術件数	329	356	366	386	398	373	382	392	381	346	348	406	4,463	372
初診・紹介・逆紹介患者数／紹介・逆紹介率														
初診患者数(人)	393	483	495	528	517	490	480	415	416	425	407	437	5,486	457
紹介患者数(人)	287	317	315	305	285	330	343	278	297	306	314	316	3,693	308
逆紹介患者数(人)	456	468	522	459	449	448	483	432	492	443	466	542	5,660	472
紹介率	73.0%	65.6%	63.6%	57.8%	55.1%	67.3%	71.5%	67.0%	71.4%	72.0%	77.1%	72.3%		67.8%
逆紹介率	116.0%	96.9%	105.5%	86.9%	86.8%	91.4%	100.6%	104.1%	118.3%	104.2%	114.5%	124.0%		104.1%
がん登録数														
責任症例数(件)	42	42	50	48	58	40	76	47	44	集計中	集計中	集計中	447	49.7
周産期医療														
新生児入院(人)	13	21	11	17	19	21	24	15	17	18	17	16	209	17.4
もじよか号出動件数(件)	4	12	4	9	6	8	11	8	7	11	12	8	100	8.3

今給黎総合病院における施設基準に基づく手術実施件数等について

※手術の施設基準に基づき、平成 29 年(2017 年)の 1 年間に実施した手術名、手術件数は次のとおりです。

手術区分	手術名	手術件数
区分 1	頭蓋内腫瘍摘出手術等	7 件
区分 1	黄斑下手術等	104 件
区分 1	鼓室形成手術等	3 件
区分 1	肺悪性腫瘍手術等	98 件
区分 2	靭帯断裂形成手術等	9 件
区分 2	水頭症手術等	27 件
区分 2	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0 件
区分 2	尿道形成手術等	1 件
区分 2	角膜移植術	0 件
区分 2	肝切除術等	18 件
区分 2	子宮付属器悪性腫瘍手術等	3 件
区分 3	上顎骨形成術等	16 件
区分 3	上顎骨悪性腫瘍手術等	1 件
区分 3	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	0 件
区分 3	母指化手術等	6 件
区分 3	内反足手術等	0 件
区分 3	食道切除再建術等	3 件
区分 4	胸腔鏡下及び腹腔鏡下手術等	263 件
その他の区分	人工関節置換術	42 件
その他の区分	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	10 件

入院患者に関する年度別実績

※計算方法・・・地域医療支援病院による

	H27 年度	H28 年度	H29 年度
平均在院日数(日)	16.0	16.4	15.9
病床利用率(%)	81.6	84.1	86.2

年度別手術症例数

	H27 年度	H28 年度	H29 年度
手術症例数(件)	4,197	4,257	4,463

年度別紹介率

	H27 年度(地域支援)	H28 年度(地域支援)	H29 年度(地域支援)
紹介率(%)	67.6	68.7	67.3

年度別逆紹介率

	H27 年度(地域支援)	H28 年度(地域支援)	H29 年度(地域支援)
逆紹介率(%)	116.8	113.8	103.2

13. 初期臨床研修病院実績

初期(卒後)臨床研修病院として、次の通り研修医を受け入れ、指導教育を行った。

基幹型研修医 H29年4月～H30年3月 5名
(救急科、整形外科、眼科、泌尿器科、小児科、産婦人科、皮膚科、耳鼻咽喉科、放射線科、脳神経外科、麻酔科、形成外科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科)

協力型研修医 H29年4月～5月 1名(麻酔科、眼科)
H29年8月～12月 1名(皮膚科、形成外科、神経内科、耳鼻咽喉科)
H29年8月～平成30年1月 1名(救急科、形成外科、産婦人科、小児科、眼科)
H29年10月～12月 1名(救急科、皮膚科、呼吸器外科)
H30年3月 1名(神経内科)

初期臨床研修関連事業

日付	事業名称	参加者	場所	主催
6月13日	「平成29年度第1回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	2名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
7月4日	「平成29年度第1回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会本会議」	1名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
7月14日	「平成29年度第1回臨床研修病院合同説明会」(佐保研修医が発表)	8名	鹿児島大学医学部	県初期臨床研修連絡協議会
8月17日	「鹿児島県臨床研修病院見学ツアー事業」(Bコース)	—	県内11病院	県初期臨床研修連絡協議会
8月18日	「平成29年度第2回臨床研修病院合同説明会」	7名	サンプラザ天文館	県初期臨床研修連絡協議会
11月12日	「平成29年度臨床研修指導医講習会」(佐藤医長修了)	1名	全日本病院協会	全日本病院協会
11月28日	「平成29年度第2回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	4名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
12月20日	「平成29年度第2回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会本会議」	1名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
1月13日	「第16回鹿児島県臨床研修医合同研修会」	7名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
3月4日	「レジナビフェア2018 in 福岡」	8名	マリンメッセ	民間医局

(その他)

平成31年度プログラム(臨床研修プログラム昭和会)：平成30年度からの変更点なし

(研修歯科医)

鹿児島大学病院歯科医師臨床研修プログラム研修協力施設として、次の通り研修歯科医を受け入れ、指導教育を行った。

- ・6月5日～2月12日週1回(毎週火曜日)、大学病院歯科医療(A)・大学病院歯科医療(B)地域歯科医療プログラムの研修歯科医を1名ずつ、計25回

(医学部医学科病院見学者)

次の通り、医学部医学科4～6年 病院見学者25名(鹿児島大学8名、県外大学17名[内、鹿児島出身者7名])を受け入れた。

5月1日	弘前大学医学部医学科 5年生	1名	8月8～10日	長崎大学医学部医学科 5年生	1名
5月2日	昭和大学医学部医学科 6年生	1名	9月7日	京都府立医科大学医学部医学科 6年生	1名
6月16日	鹿児島大学医学部医学科 6年生	1名	12月19日	広島大学医学部医学科 5年生	1名
6月23日	東京大学大学院医学系研究科・医学部 6年生	1名	12月27日	広島大学医学部医学科 5年生	1名
6月27日	鹿児島大学医学部医学科 6年生	1名	2月21日	鹿児島大学医学部医学科 4年生	2名
7月4日	京都府立医科大学医学部医学科 6年生	1名	2月21日	高知大学医学部医学科 4年生	1名
7月11日	九州大学医学部医学科 5年生	1名	3月5日	福岡大学医学部医学科 5年生	1名
8月2日	鹿児島大学医学部医学科 5年生	2名	3月12日	信州大学医学部医学科 5年生	1名
8月2日	宮崎大学医学部医学科 5年生	1名	3月22～23日	長崎大学医学部医学科 5年生	1名
8月3～4日	福岡大学医学部医学科 6年生	1名	3月27～28日	産業医科大学医学部医学科 6年生	1名
8月8日	鹿児島大学医学部医学科 5年生	2名	3月30日	久留米大学医学部医学科 5年生	1名

14. 各学校より実習病院の指定を受け、次の通り実習生を受け入れ、医学、看護、理学・作業・言語聴覚療法、放射線、事務等に関する実習指導を行った。

【医師】

鹿児島大学医学部医学科 5 年学外臨床実習ポリクリ 耳鼻咽喉科	第 1・第 2 火曜日	各 1～3 名
鹿児島大学医学部医学科 5 年学外臨床実習ポリクリ 外科	第 1 水・金曜日／第 2 火・木曜日	各 1～2 名
鹿児島大学医学部医学科 5 年学外臨床実習ポリクリ 呼吸器内科	第 1 水曜日	1 名
鹿児島大学医学部医学科 5 年学外臨床実習ポリクリ 呼吸器外科	第 1 水曜日・第 2 火・木曜日	各 1 名
鹿児島大学医学科 4 年次見学実習シャドウイング 呼吸器内科	5 月 26 日／6 月 23 日／7 月 7 日・21 日	(各 1 名の 4 名)
鹿児島大学医学科 4 年次見学実習シャドウイング 神経内科	4 月 14 日／4 月 28 日／6 月 9 日／7 月 7 日・21 日	(各 1 名の 5 名)
鹿児島大学医学科 4 年次見学実習シャドウイング 脳神経外科	5 月 26 日／6 月 9 日・30 日／7 月 7 日	(各 1 名の 4 名)
鹿児島大学医学科 4 年次見学実習シャドウイング 呼吸器外科	4 月 21 日／5 月 12 日／6 月 23 日／7 月 21 日	(各 1 名の 5 名)
東京大学医学部医学科 6 年エレクトィブ・クラークシップ 病理診断科	6 月 19 日～23 日	1 名
鹿児島大学医学科 3 年次 自主研究 病理診断科	8 月 21 日	1 名
鹿児島大学医学部医学科 3 年次見学自習 シャドウイング 呼吸器内科	10 月 27 日／11 月 17 日／12 月 8 日	(各 1 名の 3 名)
鹿児島大学医学部医学科 3 年次見学自習 シャドウイング 呼吸器外科	10 月 27 日／11 月 10 日／12 月 8 日	(各 1 名の 3 名)
鹿児島大学医学部医学科 3 年次見学自習 シャドウイング 脳神経外科	11 月 10 日／12 月 1 日	(各 1 名の 2 名)
鹿児島大学医学部医学科 3 年次見学自習 シャドウイング 神経内科	10 月 27 日／11 月 10 日・24 日	(各 1 名の 3 名)

【看護部】

久木田学園看護専門学校	1 年生 29 名・2 年生 29 名・3 年生	241 名
神村学園専修学校	1 年生 36 名・2 年生 58 名・3 年生	75 名
神村学園高等部	2 年生 12 名・4 年生 25 名・5 年生	20 名
医療法人協会立看護専門学校	1 年生 35 名・2 年生 35 名・3 年生	30 名
鹿児島看護専門学校	2 年生 20 名・3 年生	15 名
鹿児島医療技術専門学校 看護学科	3 年生	18 名
鹿児島中央看護専門学校(通信)		96 名
タラ看護専門学校	3 年生	65 名
龍桜高等学校	専門課程	57 名

【リハビリテーション部】

5 月 8 日～7 月 7 日	沖縄リハビリテーション福祉学院 長期臨床実習(作業療法)	1 名
5 月 8 日～7 月 14 日	鹿児島医療技術専門学校 臨床実習Ⅳ(理学療法)	1 名
5 月 8 日～7 月 15 日	鹿児島医療福祉専門学校 長期臨床実習(理学療法)	2 名
5 月 22 日～7 月 15 日	鹿児島医療技術専門学校 臨床実習Ⅱ(言語聴覚療法)	1 名
6 月 26 日～8 月 19 日	神村学園専修学校 臨床実習(理学療法)	1 名
7 月 10 日～15 日	鹿児島医療福祉専門学校 施設見学実習(理学療法)	3 名
7 月 17 日～8 月 5 日	熊本保健科学大学 評価実習(言語聴覚療法)	1 名
7 月 18 日～9 月 8 日	鹿児島大学 総合臨床実習Ⅲ(理学療法)	1 名

7月24日～8月19日	沖縄リハビリテーション福祉学院 長期臨床実習(言語聴覚療法)	1名
7月24日～28日	鹿児島医療技術専門学校 臨床実習Ⅱ(理学療法)	1名
7月24日～29日	鹿児島医療福祉専門学校 検査測定実習(理学療法)	3名
8月7日～10月13日	鹿児島医療技術専門学校 臨床長期実習(作業療法)	1名
8月21日～9月8日	福岡リハビリテーション専門学校 評価実習(理学療法)	1名
9月4日～6日	神村学園専修学校 見学実習(作業療法)	1名
2月12日～23日	鹿児島医療技術専門学校 臨床実習Ⅱ(理学療法)	2名

【中央放射線部】

6月5日～7月28日	鹿児島医療技術専門学校診療放射線学科4年	2名
9月4日～29日	鹿児島医療技術専門学校診療放射線学科4年	2名
10月2日～27日	鹿児島医療技術専門学校診療放射線学科3年	2名

【臨床工学部】

7月3日～15日	九州保健福祉大学保健科学部臨床工学科4年次生 臨床実習	1名
----------	-----------------------------	----

【薬剤部】

5月8日～7月23日	九州保健福祉大学薬学部5年 長期実務実習	1名
9月4日～11月19日	九州保健福祉大学薬学部5年 長期実務実習	1名
9月4日～11月19日	第一薬科大学薬学部5年 長期実務実習	1名

【栄養管理部】

8月17日～8月31日	鹿児島県立短期大学 生活科学科 食物栄養専攻2年 臨地栄養学学習(校外実習)	2名
11月7日	鹿児島県立東高校2年(職場体験学習)	4名
2月16日	鹿児島私立樟南高校2年(職場体験学習)	4名

【在宅医療部】

4月17日～9月22日	久木田学園看護専門学校3年	8名
6月12日～12月15日	神村学園高等部看護学科専門課程3年	17名
7月26日～8月22日	鹿児島中央看護専門学校2年課程(通信制)看護科	15名
1月15日～3月16日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校3年	8名

【事務部】

5月10日	吉田南中学校3年 職場体験	1名
6月12日～6月23日	鹿児島キャリアデザイン専門学校 医療情報管理学科3年	2名
11月9日	鹿児島東高校3年 病院実習	1名

15. 視察・研修・見学(社会人の個人、団体、および学生)の受入

【看護部】

4月12日	公益社団法人いちょうの樹鹿児島看護専門学校 教員研修(2西病棟)	1名
4月18日・25日/5月2日・9日	医療法人 平和会 ひさまつクリニック 教員研修(NICU)	各日1名
6月29日	公益社団法人いちょうの樹鹿児島看護専門学校 教員研修(3南病棟)	1名
10月25日	公益社団法人 鹿児島県看護協会 職場復帰支援	1名
11月7日～9日	鹿児島県立鹿児島東高等学校	4名
11月6日～13日/11月27日～12月4日/1月15日～22日/2月19日～26日	鹿児島市消防局 救急救命士再教育	計4名
1月22日～2月2日	一般社団法人 救急振興財団 救急救命士九州研修所 救急救命士研修(外来)	3名
2月9日/2月23日/3月5日～9日・23日	地方独立行政法人 長崎市立病院機構 職員研修	計9名

2月14日～15日	樟南高等学校 普通科 未来創造コース (3北・3南病棟)	4名
【病理部】		
6月7日～12日	今村総合病院 病理診断科技師 技術指導	2名
【中央放射線部】		
11月8日	東高校インターシップ研修	4名
7月～毎月第一火曜日	大海クリニック 実習	2名
2月15日	樟南高校インターシップ研修	4名
2月16日	鈴鹿医療科学大学診療放射線学科3年 施設見学	1名
【薬剤部】		
4月7日	福岡大学6年	1名
4月28日	同志社女子大学6年	1名
5月19日	武庫川女子大学6年	1名
7月20日	城西大学6年	1名
7月28日	岐阜薬科大学卒業生	1名
8月2日	鹿児島玉龍高等学校2年	2名
8月2日	鹿児島実業高等学校1年	1名
8月3日	加治木高等学校1年	3名
	長田中学校2年 職場体験	2名
【栄養管理部】		
9月12日～19日	児童養護施設 大村報徳学園 職場体験	1名
11月10日	鹿児島県立東高校	
12月8日・9日・15日・16日	授産施設ワークステージつばさ 職場体験 (洗浄業務)	4名
2月16日	鹿児島私立樟南高校 職場体験	4名
3月7日	医療法人 青仁会池田病院 電子カルテシステム見学	1名
【事務部】		
4月18日	鹿屋池田病院 システム見学	8名
4月20日	医療法人明輝会ほいくえんよしよし 病児保育室見学	3名
7月18日～28日	かわもと相良消化器内科 医療ソーシャルワーカー研修	1名
2月2日	球磨郡公立多良木病院企業団 視察研修	20名

16. 文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動

【看護部】		
4月10日	おごじょプロジェクト「2016 LOVE」子宮の日啓発活動	2名派遣
6月25日	第33回さくらんぼの会	5名派遣
8月23日～9月3日／10月25日～11月4日	日本放送協会政策局 NHK大河ドラマ撮影におけるボランティア	延べ24名派遣
9月2日	平成29年度「まちの保健室（第38回看護展）」	1名派遣
3月4日	鹿児島マラソン2016 救護班	3名派遣
【リハビリテーション部】		
5月13日	つながる思い in かごしま～がんとともに生きる～ トークショー	1名派遣
【中央放射線部】		
5月13日	第12回つながる思い in かごしま	1名派遣
10月2日	鹿児島市役所ピンクリボンツリー設置	1名派遣
10月22日	ピンクリボン in かごしま	5名派遣

【褥瘡管理課】

4月29日 オストメイト患者会（こだま会） 2名参加

【栄養管理部】

4月9日 第21回歩いて学ぶ糖尿病ウォークラリー in 鹿児島 2名参加
 5月13日 つながる想い in かごしま 1名参加
 11月19日 第34回市民健康まつり 栄養相談 2名参加

【在宅医療部】

在宅医療部の死亡患者様への初七日訪問（グリーフケア） 4名派遣

17. 医学・看護学校等の学業教諭として、大学・高校・専門学校等へ講師を定期的に派遣した。

【医師】

鹿児島大学小児科 非常勤講師	小児科 玉田泉
5月10日～6月14日 鳳凰高等学校看護学科専門課程1年	緩和医療科 松添大助
9月～10月 鳳凰高等学校看護学科専門課程	循環器内科 大場一郎
5月19日・29日 鹿児島県消防学校 講師	救急科 西山淳
1月5日・6日 鹿児島大学医学部3年「内分泌系構造と機能」	神経内科 長堂竜維
2月14日・19日 鹿児島県消防学校 講師	救急科 西山淳

久木田学園看護専門学校 非常勤講師一覧表

	授業科目	時間数	講師氏名
病態学Ⅰ	骨格系・筋系	15	松永俊二
病態学Ⅱ	呼吸器系	20	岩川純
	血液・造血器系	10	小濱浩介
病態学Ⅲ	消化器系	10	吉永英希
	腎泌尿器系	10	米澤智一
	女性生殖器系	10	加藤明彦
	内分泌系・免疫系	8	生野博久
病態学Ⅳ	脳神経系	10	長堂竜維
	眼系	7	高橋範雅
	耳鼻咽喉系	8	昇卓夫
小児疾病論		30	堀之内兼一
周産期及び新生児の生理と異常		30	加藤明彦
保健医療論		15	昇卓夫

【看護部】

久木田学園看護専門学校 講師	橋口恒夫・芝こずえ・河原尚美・近藤ひとみ・立石桂子
5月1日～7月31日 鹿児島医療福祉専門学校 助産学科 非常勤講師	榮多陽子
7月11日 鹿児島県立錦江湾高等学校	
「リアルしごとびと一高校生と働く大人の対話の時間」	橋口恒夫
8月26日 鹿児島医療福祉専門学校「新生児蘇生法講習会」 講師	有村こずえ
11月9日～22日 久木田学園看護専門学校 非常勤講師	椎木眞美子
11月15日 久木田学園看護専門学校 非常勤講師	赤坂美保
11月16日 久木田学園看護専門学校 非常勤講師	尾之上稲子
11月22日 久木田学園看護専門学校 非常勤講師	芝こずえ
12月1日 久木田学園看護専門学校 非常勤講師	村崎まこと
2月9日～3月16日 伊佐市医師会立准看護学校（5回）非常勤講師委託	野間愛子

【褥瘡管理課】

11月9日・22日 久木田学園看護専門学校 ストーマ造設患者の看護「周術期にある人の看護」 椎木眞美子

【中央放射線部】

12月19日／1月16日・23日 鹿児島医療技術専門学校 診療画像技術学 浮田啓一郎

18. 主な公的会議・研修会への参加、講師派遣

【医師】

5月25日	救急隊員症例検討会 講師	1名派遣
8月11日	長崎県長与町長与ニュータウン老人会白寿会「ヒトは死んだらどこへ行くのか〜ピンピンころりもいいけれど」	1名派遣
3月16日	抗凝固療法セミナー in 与論 「高齢者心房細動における抗凝固療法〜思いもよらないピットフォール〜」	1名派遣
1月26日	鹿児島大学病院 「5年生を対象とした将来のキャリア形成についての意見交換会」	1名参加

【看護部】

4月12日／5月26日／6月22日／12月26日／2月20日	看護の日・週刊行事実行委員会	1名参加
4月22日	助産師職能委員会	1名参加
4月28日	推薦委員会	1名参加
5月12日	「看護の日」記念式典	1名参加
5月15日	平成29年度鹿児島県看護協会通常総会 議事進行打ち合わせ	1名参加
5月19日	第10回フレキシブルパス勉強会(中級編)	2名参加
5月20日	平成29年度鹿児島県看護協会 通常総会及び職能合同集会	1名参加
5月26日	第11回役員会ならびに評議員会	2名参加
5月26日	鹿児島看護管理研究会	1名参加
6月4日	診療報酬検討委員会	1名参加
6月10日	平成29年度鹿児島地区集会	2名参加
6月23日	第2回役員会ならびに評議員会	1名参加
6月29日	平成29年度鹿児島県重症心身障害児(者)関連施設連絡協議会	4名参加
7月7日	平成29年度第1回子どもすこやか安心ねっと事業調整会議	1名参加
7月13日	医療法人玉昌会 高田病院「眼科機器取り扱いについて」講師	1名派遣
7月16日	日本救急撮影技師認定機構「平成29年度救急撮影講習会(鹿児島)」講師	1名派遣
7月19日	鹿児島県看護連盟鹿児島第2支部会	2名参加
7月28日	第3回役員会ならびに評議員会	1名参加
8月5日	第44回鹿児島県減菌業研究会	1名参加
8月10日／9月7日・28日／10月26日	コルテースアロマセラピースクール 「マタニティーアロマセラピー講座」講師	1名派遣
8月25日	第4回役員会ならびに評議員会	1名参加
9月12日	平成29年度第1回医療・介護合同会議	2名参加
9月13日	鹿児島県看護連盟鹿児島第2支部会	1名参加
9月16日	平成29年度鹿児島市青少年団体リーダー国内研修	1名参加
9月22日	第5回役員会ならびに評議員	1名参加
10月14日	医療法人協会立看護専門学校 戴帽式	1名参加
10月17日	公益社団法人鹿児島県看護協会「平成29年度鹿児島地区再就業セミナー」講師	1名派遣
10月27日	第6回役員会並びに評議員会	1名参加
11月8日	鹿児島県看護連盟鹿児島第2支部会	1名参加
11月10日	第74回九州消化器内視鏡技師研究会	1名参加
11月12日	全国病児保育協議会鹿児島県支部第17回理事会・第11回総会・担当者会議	2名参加
11月24日	第7回役員会ならびに評議員会	1名参加
12月1日	タラ看護専門学校 平成29年度「灯火の儀」	1名参加
12月6日	広域災害救急医療情報システム(EMIS)入力説明会	1名参加
1月10日	鹿児島県看護連盟鹿児島第2支部会	1名参加
1月15日	日本看護協会「訪問看護出向事業ガイドラインに関する意見交換会」講師	1名派遣
1月17日	平成29年度実習指導者会議	4名参加
1月26日	第8回役員会ならびに評議員会	1名参加
2月3日	鹿児島県看護協会「平成29年度助産師合同研修会」講師	1名派遣

2月3日	鹿児島県看護協会 会員施設代表者会議	1名派遣
2月17日	羽月保育園保護者の会 研修会 講師	1名派遣
2月16日	十島村看取りマニュアル検討会	2名参加
2月17日	第2回看護管理者交流会	1名参加
2月23日	第9回役員会ならびに評議員会	1名参加
3月1日	平成29年度退院支援ルール第2回「医療・介護合同会議」	3名参加
3月7日	第9回看看護連携会議	1名参加
3月7日	平成29年度第3回鹿児島市北部地区多職種連携会議	2名参加
3月14日	鹿児島県看護連盟鹿児島第2支部会	1名参加
3月16日	第17回鹿児島地区地域連携Net Works 情報交換会	4名参加
3月23日	第10回役員会ならびに評議員会	1名参加

【中央放射線部】

5月14日	日放診療放射線技師基礎技術講習会 MRI 検査 講師	1名派遣
5月20日／2月24日	鹿児島MRI研究会 MRI 検査 講師	1名派遣
8月10日／11月24日	肺がん均てん化研修会	4名参加
8月26日	かごしま Gyro Meeting MRI 検査 講師	1名派遣
9月15日／1月12日	乳がん検診従事者研修会	4名参加
9月29日	第41回大隅地域研修会 CT 検査 講師	1名派遣
12月2日	宮崎MRIセミナー MRI 検査 講師	1名派遣
1月21日	第5回MRI講習会 MRI 検査 講師	1名派遣

【医療安全管理課】

5月25日／7月27日／8月26日／10月26日／1月27日	鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議	1名参加
5月26日	第11回役員会ならびに評議員会	1名参加
6月10日	平成29年度鹿児島地区集会	1名参加
9月22日	第5回役員会ならびに評議員会	1名参加
11月24日	第7回役員会ならびに評議員会	1名参加
1月26日	第8回役員会ならびに評議員会	1名参加
2月23日	第9回役員会ならびに評議員会	1名参加

【緩和医療課】

3月7日	第9回看看護連携会議	1名参加
------	------------	------

【感染管理課】

5月13日／7月15日／11月11日	日本感染管理ベストプラクティス Saizen 研究会 アドバイザー	1名派遣
7月30日	鹿児島県看護協会鹿児島地区研修「感染対策」講師	1名派遣
6月15日	社会福祉法人 厚生会 介護老人福祉施設睦園 園内研修 講師	1名派遣
8月19日	鹿児島市感染症講演会	1名参加
12月16日	第36回九州ブロックエイズ拠点病院研修	1名参加
2月16日	鹿児島県医師会医療関連感染対策研修会	1名参加

【褥瘡管理課】

8月21日	鹿児島市立病院主催 平成29年度第1回看看護連携会議 「皮膚・排泄ケア領域の看護をつなぐために」	2名参加
9月10日	なちゅは鹿児島 看護・介護職のための褥瘡予防セミナー 「スキン-ケアと褥瘡予防ケア」 講師	1名派遣
9月29日	鹿児島県看護協会 認定看護師交流研修会 「特定行為研修修了後の活動の実際とこれからの展望」 講師	1名派遣
10月21日	第3回オストメイト研修講座 「ストーマケアの基本と実技」 実技演習指導	2名派遣

11月18日	アルケア 鹿児島ストーマケアセミナー「ストーマ装具の選択と実際」	講師	1名派遣
11月11日	第7回オストミーサポートセンターセミナー in 鹿児島 「在院日数の変化から考える、装具選択」	講師	1名派遣
1月20日	第1回鹿児島看護師特定行為研修会 「看護師特定行為(創傷モデル)の実際と今後の活動」	講師	1名派遣

【在宅医療部】

2月3日	「在宅医療連携について」訪問看護人材活用試行事業実施結果	講師	1名派遣
------	------------------------------	----	------

【薬剤部】

4月19日／7月19日／10月18日／1月7日	薬薬連携会議		4名参加
5月17日／8月16日／11月17日／2月21日	がん化学療法薬薬連携研修会		20名参加

【栄養管理部】

4月22日	第8回チーム医療を考える会		1名参加
6月17日	第13回びくるすの会研修会		3名参加
7月2日	がん専門管理栄養士セミナー		1名参加
7月13日	新調理法(クック&チル・真空調理法)		1名参加
7月15日・16日	第25回西日本肥満研究会		2名参加
7月15日・16日	第5回肥満症治療講習会		2名参加
7月19日	新調理法(クック&チル・真空調理法)		1名参加
9月3日	栄養情報提供研修会実践講座		3名参加
9月6日	食品のもつ機能性を生かした嚥下・介護職		2名参加
9月9日	新調理法(クック&チル・真空調理法)		3名参加
9月20日	平成29年度給食施設従事者研修会(管理栄養士・栄養士)		1名参加
9月20日	平成29年度給食施設従事者研修会 「災害時に備えた取り組みについて～事例紹介～」発表		1名派遣
9月21日	感染対策セミナー 施設の現状及び実践		2名参加
9月21日・22日	日本調理器 厨房システム視察研修		3名参加
9月27日	食品・衛生セミナー		2名参加
9月28日	平成29年度給食施設従事者研修会(調理実習者)		2名参加
10月9日	鹿児島県栄養士会第2回集会		3名参加
10月18日	ガススチームコンベクション体験調理セミナー		3名参加
10月21日	第13回鹿児島摂食嚥下リハビリテーション研究会		1名参加
10月21日	鹿児島摂食嚥下リハビリテーション研究会 理事会		1名参加
11月11日	鹿児島県栄養士会生涯学習研修会 栄養補給方法		1名参加
11月16日	糖尿病予防講演会		2名参加
12月10日	第3回鹿児島1型糖尿病セミナー		1名参加
12月10日	平成29年度鹿児島県栄養士会第2回研修会		3名参加
2月22日・23日	HCJ2018 厨房設備機器展		1名参加

【事務部】

6月3日	平成29年度第1回鹿児島診療情報管理研究セミナー		1名参加
7月8日	鹿児島診療情報管理講習会 鹿児島キャリアデザイン専門学校		1名派遣
8月17日	南九州地区洋上救急支援協議会 平成29年度通常総会		1名参加
8月26日	平成29年度第1回鹿児島県がん診療拠点病院事業四部門合同研修会		
8月26日・27日	平成29年度第1回院内がん登録研究会		1名参加
10月26日	院内がん登録データ集計、分析研修 国立がん研究センター		1名参加
10月28日	平成29年度第2回院内がん登録研修会		1名参加
12月2日・3日	平成29年度第3回院内がん登録研修会		1名参加
12月14日	グローバルヘルス主催 病院ダッシュボードX研修会		1名参加
1月27日	平成29年度第4回院内がん登録研修会		1名参加

2月3日	平成29年度第2回鹿児島診療情報管理研究セミナー	1名参加
2月17日	平成29年度第3回鹿児島診療情報管理研究セミナー	1名参加
2月24日	平成29年度第2回鹿児島県がん診療拠点病院事業四部門合同研修会	1名参加
2月24日	平成29年度第2回鹿児島県がん診療連携拠点病院事業四部門合同研修会 「当院の院内がん登録の現状」 講師	1名派遣
3月17日	鹿児島診療情報管理講習会 鹿児島キャリアデザイン専門学校	1名参加

19. 入院患者不在者投票

7月9日執行	肝付町長選挙	1名実施
9月17日執行	屋久島町議会議員選挙	1名実施
平成29年度執行第48回衆議院議員総選挙及び第24回最高裁判所裁判官国民審査		41名実施
2月4日執行	指宿市長選挙および市議会議員選挙	1名実施

20. 施設の公開利用

8月5日	鹿児島診療情報管理研究会 北薩・Aブロック会	20名
9月2日	対人援助・スピリチュアルケア研修会 A(基礎編)	25名
11月25日	鹿児島診療情報管理研究会 北薩・Aブロック会	17名
12月27日	緩和ケア他施設合同カンファレンス開催	6施設 20名
2月17日	対人援助・スピリチュアルケア研修会 A1(入門編)	8名
3月10日	対人援助・スピリチュアルケア研修会 A1(入門編)	8名
3月24日	対人援助・スピリチュアルケア研修会 A1(入門編)	8名

患者図書室「すまいる」

平成25年4月開設。分かりやすい医療の本を中心に約820冊を所蔵。利用サービスは図書の閲覧・貸出、インターネットの利用、パンフレット・チラシの提供、映像の視聴。
利用時間は月～金曜日の10:00～12:00・13:00～16:00（土・日・祝日を除く）。
29年度延べ利用者数2,596人、1日平均利用者数10.6人、図書貸出数934冊。
ボランティアを中心に運営。患者さま、職員に限らずどなたでも利用可能。

21. その他の活動報告

4月1日～翌年3月31日	鹿児島大学医学部臨床教授委託 (昇卓夫・松永俊二・西澤輝彦・白濱浩・濱之上雅博・米田敏・長堂竜維・川島寿史)	
6月12日	鹿児島県赤十字血液センター献血 リニアックセンター前	25名
12月14日	産科退院患者による「おぎゃー献金」	16,136円
11月7日	鹿児島県赤十字血液センター献血	19名
12月22日	NHK 歳末たすけあい募金	65,158円

22. 表彰

11月2日	平成29年度県民表彰 暮らし・環境部門	病理診断科 佐藤榮一
3月20日	鹿児島市医師会 小児腎臓検診の長年貢献	小児科 銚之原兼一

23. 寄付

12月11日	患者様より100万円の寄付を受ける
--------	-------------------